# 荻窪倉兼遺跡
# 荻窪倉兼Ⅱ遺跡

荻窪地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．荻窪倉兼遺跡出土遺物

2．荻窪倉兼遺跡調査区全景（南より望む）

3．荻窪倉兼Ⅱ遺跡出土遺物

4．荻窪倉兼Ⅱ遺跡調査区全景（南より望む）

# 序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

この度本書で報告する荻窪倉兼遺跡及び荻窪倉兼Ⅱ遺跡の発掘調査は、平成13年度に引き続き荻窪地区開発整備事業に伴って実施されたものです。調査の結果、特に平安時代の集落を形成していたと考えられる住居跡などが多数検出され、前橋市北東部、赤城山南麓地域の歴史を紐解く上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査実施にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の方々に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成15年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

# 例　　言

1．本報告書は、荻窪地区開発整備事業に伴う荻窪倉兼遺跡（おぎくぼくらかねいせき）及び荻窪倉兼Ⅱ遺跡（おぎくぼくらかねにいせき）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査主体は、両遺跡とも前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．本調査は、両遺跡とも前橋市　市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長　阿部明雄との間で発掘調査委託契約を締結し実施した。
調査の要項は以下のとおりである。
調査場所　　荻窪倉兼遺跡：前橋市荻窪町７３１
　　荻窪倉兼Ⅱ遺跡：前橋市荻窪町７３１他
発掘・整理担当者
荻窪倉兼遺跡：小峰　篤・横澤　真一（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）
荻窪倉兼Ⅱ遺跡：平野　岳志・横澤　真一・小林　和美
　　（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）
発掘調査・整理期間
荻窪倉兼遺跡：平成13年９月12日～平成14年３月20日
荻窪倉兼Ⅱ遺跡：平成14年５月10日～平成15年３月20日
4．本書の原稿執筆・編集は、荻窪倉兼遺跡については小峰・横澤が行った。整理作業をはじめ図版等の作成には、阿部シゲ子、神澤とし江、桐谷秀子、高橋　孜、原田要三、秋元恵利子、大沢敏子、浅野艶子、田口桂子の協力があった。荻窪倉兼Ⅱ遺跡については平野・小林が行った。整理作業をはじめ図版等の作成には、阿部シゲ子、神澤とし江、桐谷秀子、奈良岩雄、高橋　孜、原田要三、秋元恵利子、大沢敏子、浅野艶子、橋本　茂、井上和久、臼田ふ志江の協力があった。
5．本発掘調査で、出土した遺物は当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫で管理されている。
6．発掘調査にかかわった方々は、次のとおりである。（順不同・敬称略）
荻窪倉兼遺跡：阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・奈良岩雄・高橋　孜・原田要三・秋元恵利子・大沢敏子・浅野艶子・橋本　茂・市根井　勇・大沢俊夫・井上和久・大嶋洋平
荻窪倉兼Ⅱ遺跡：阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・奈良岩雄・高橋　孜・原田要三・秋元恵利子・大沢敏子・浅野艶子・橋本　茂・井上和久・臼田ふ志江

# 凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図には、国土地理院発行の１／2.5万地形図（前橋・大胡・渋川・鼻毛石）を使用した。
3．遺跡の略称は、以下のとおりである。
荻窪倉兼遺跡：13Ｄ19
荻窪倉兼Ⅱ遺跡：14Ｄ19
4．検出した各遺構の略記号は、次のとおりとした。
Ｈ…奈良・平安時代の竪穴住居跡、Ｂ…掘立柱建物跡、Ｄ…土坑、Ｐ…ピット、Ｗ…溝跡
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりとした。
遺構　住居跡、掘立柱建物跡、土坑…１／60、調査区全体図…１／200、１／400
　竈断面図…１／30
遺物　土器…１／３、１／４、１／６　鉄器・石製品…１／１、１／２、１／３
6．図版中で使用したスクリーントーンは次のとおりである。
遺構平面図・断面図　　構築面…
遺物実測図　　施釉範囲…　　須恵器断面…　　墨書…、
7．表中の数値の中で、（　　）は現存値を、［　　］は復元値を表す。

# 目　　次

頁
序……i
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の立地と周辺環境
1　遺跡の立地……1
2　歴史的環境……1
Ⅲ　発掘調査の方針と経過
1　調査方針……5
2　調査経過……5
Ⅳ　層　序……8
Ⅴ　荻窪倉兼遺跡
1　遺構概要……11
2　考　　察……22
Ⅵ　荻窪倉兼Ⅱ遺跡
1　遺構概要……53
2　考　　察……61

# 図　　版

口絵　1．荻窪倉兼遺跡出土遺物
2．荻窪倉兼遺跡調査区全景（南より望む）
3．荻窪倉兼Ⅱ遺跡出土遺物
4．荻窪倉兼Ⅱ遺跡調査区全景（南より望む）

【荻窪倉兼遺跡】
ＰＬ．1　荻窪倉兼遺跡調査区全景、Ｈ－１～５号住居跡全景
ＰＬ．2　Ｈ－６～12号住居跡全景、Ｈ－９号住居跡出土遺物
ＰＬ．3　Ｈ－13～18号住居跡全景、Ｈ－13号住居跡出土遺物
ＰＬ．4　Ｈ－19～23号住居跡全景、Ｈ－19号住居跡竈全景、Ｈ－20号住居跡出土遺物
ＰＬ．5　Ｈ－24～27号住居跡全景、Ｈ－26・27号住居跡竈全景、Ｈ－25・26号住居跡出土遺物
ＰＬ．6　Ｈ－28・29号住居跡全景、Ｈ－29号住居跡竈全景、Ｂ－１～３・５号掘立柱建物跡全景
ＰＬ．7　Ｂ－６～12号掘立柱建物跡全景、作業風景、現地見学会風景
ＰＬ．8　Ｈ－１・２・５号住居跡出土遺物
ＰＬ．9　Ｈ－６・９～12号住居跡出土遺物
ＰＬ．10　Ｈ－13～16号住居跡出土遺物
ＰＬ．11　Ｈ－19・20・23・25号住居跡出土遺物
ＰＬ．12　Ｈ－26・27・29号住居跡出土遺物
ＰＬ．13　鉄製品

【荻窪倉兼Ⅱ遺跡】
ＰＬ．14　荻窪倉兼Ⅱ遺跡Ｂ区、Ｈ－30・31号住居跡
ＰＬ．15　Ｈ－32・34・35・36号住居跡

ＰＬ．16　Ｈ－38･40～44号住居跡
ＰＬ．17　Ｈ－46･47号住居跡
ＰＬ．18　Ｈ－48～50･52号住居跡、Ｗ－３溝跡
ＰＬ．19　荻窪倉兼Ⅱ遺跡Ａ区、Ｈ－53･54号住居跡
ＰＬ．20　Ｈ－56･57･62･64号住居跡
ＰＬ．21　Ｂ－15～18号掘立柱建物跡、Ｂ－16号掘立柱建物跡･Ｗ－２溝跡重複状態
ＰＬ．22　Ｂ－19･20号掘立柱建物跡、Ｈ－67号住居跡、荻窪倉兼Ⅱ遺跡Ｂ区
ＰＬ．23　Ｈ－30～42号住居跡出土の土器
ＰＬ．24　Ｈ－43～50号住居跡出土の土器
ＰＬ．25　Ｈ－50～64号住居跡出土の土器
ＰＬ．26　Ｈ－64～67号住居跡･Ｐ－１号ピット出土の土器、墨書土器
ＰＬ．27　鉄製品、石器･石製品

# 挿　　図

Ｆｉｇ．１　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡位置図及び周辺遺跡図……2
Ｆｉｇ．２　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡調査区設定図……7
Ｆｉｇ．３　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡基本土層……8
【荻窪倉兼遺跡】
Ｆｉｇ．４　荻窪倉兼遺跡全体図……10
Ｆｉｇ．５　Ｈ－１・２・３・４号住居跡……29
Ｆｉｇ．６　Ｈ－５・６・７号住居跡……30
Ｆｉｇ．７　Ｈ－８・９・10・11号住居跡……31
Ｆｉｇ．８　Ｈ－12・13号住居跡……32
Ｆｉｇ．９　Ｈ－14・15・16号住居跡……33
Ｆｉｇ．10　Ｈ－17・18・19号住居跡……34
Ｆｉｇ．11　Ｈ－20・21・22・23号住居跡……35
Ｆｉｇ．12　Ｈ－24・25号住居跡……36
Ｆｉｇ．13　Ｈ－26・27号住居跡……37
Ｆｉｇ．14　Ｈ－28・29号住居跡……38
Ｆｉｇ．15　Ｂ－１・２・12号掘立柱建物跡……39
Ｆｉｇ．16　Ｂ－３・４号掘立柱建物跡……40
Ｆｉｇ．17　Ｂ－５号掘立柱建物跡……41
Ｆｉｇ．18　Ｂ－６・７号掘立柱建物跡……42
Ｆｉｇ．19　Ｂ－８・９・10・11号掘立柱建物跡……43
Ｆｉｇ．20　Ｈ－１～３・５・６・９・10号住居跡出土遺物……44
Ｆｉｇ．21　Ｈ－11～15号住居跡出土遺物……45
Ｆｉｇ．22　Ｈ－15～17・19・20・23号住居跡出土遺物……46
Ｆｉｇ．23　Ｈ－23～26号住居跡出土遺物……47
Ｆｉｇ．24　Ｈ－26～29号住居跡出土遺物……48
Ｆｉｇ．25　Ｈ－６・７・11・15・21・22・25・26号住居跡出土遺物……49

【荻窪倉兼Ⅱ遺跡】
Ｆｉｇ．26　荻窪倉兼Ⅱ遺跡全体図……52
Ｆｉｇ．27　Ｈ－30・31号住居跡……69

Ｆｉｇ．28　Ｈ－32・33号住居跡……70
Ｆｉｇ．29　Ｈ－34・35・66号住居跡……71
Ｆｉｇ．30　Ｈ－36・40号住居跡……72
Ｆｉｇ．31　Ｈ－38・65号住居跡……73
Ｆｉｇ．32　Ｈ－39・43号住居跡……74
Ｆｉｇ．33　Ｈ－41・42号住居跡……75
Ｆｉｇ．34　Ｈ－44・46号住居跡……76
Ｆｉｇ．35　Ｈ－47・48号住居跡……77
Ｆｉｇ．36　Ｈ－49・50号住居跡……78
Ｆｉｇ．37　Ｈ－51・52・55号住居跡……79
Ｆｉｇ．38　Ｈ－53・54号住居跡……80
Ｆｉｇ．39　Ｈ－56・57号住居跡……81
Ｆｉｇ．40　Ｈ－58・59・62号住居跡……82
Ｆｉｇ．41　Ｈ－60・61・63号住居跡……83
Ｆｉｇ．42　Ｈ－64・67号住居跡……84
Ｆｉｇ．43　Ｂ－13・14号掘立柱建物跡……85
Ｆｉｇ．44　Ｂ－15号掘立柱建物跡……86
Ｆｉｇ．45　Ｂ－16・18号掘立柱建物跡……87
Ｆｉｇ．46　Ｂ－17・19号掘立柱建物跡……88
Ｆｉｇ．47　Ｂ－20・21号掘立柱建物跡……89
Ｆｉｇ．48　Ｈ－30～32・34～36・38号住居跡出土遺物……90
Ｆｉｇ．49　Ｈ－40・42～44・46・47号住居跡出土遺物……91
Ｆｉｇ．50　Ｈ－48・50・52～54・56～58・61号住居跡出土遺物……92
Ｆｉｇ．51　Ｈ－62・64・67号住居跡・Ｐ－１号ピット出土遺物……93
Ｆｉｇ．52　Ｈ－31・33・34・38・39号住居跡出土遺物……94
Ｆｉｇ．53　Ｈ－42・44・46・48・54号住居跡出土遺物……95
Ｆｉｇ．54　Ｈ－57・58・62・64号住居跡出土遺物……96

# 表

【荻窪倉兼遺跡】

Ｔａｂ．１　周辺遺跡一覧表……3
Ｔａｂ．２　掘立柱建物跡一覧表……21
Ｔａｂ．３　荻窪倉兼遺跡土器観察表……25
Ｔａｂ．４　荻窪倉兼遺跡鉄製品観察表……28
Ｔａｂ．５　荻窪倉兼遺跡石製品観察表……28

【荻窪倉兼Ⅱ遺跡】

Ｔａｂ．６　掘立柱建物跡一覧表……60
Ｔａｂ．７　荻窪倉兼Ⅱ遺跡土器観察表……64
Ｔａｂ．８　荻窪倉兼Ⅱ遺跡石器・石製品・鉄製品観察表……68

# Ⅰ　調査に至る経緯

荻窪地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成13年度から実施されている。本書の荻窪倉兼遺跡、荻窪倉兼Ⅱ遺跡は当該開発区域内において、ため池及び新設道路が建設されるのに先立ち発掘調査が行われた。

まず始めに荻窪倉兼遺跡であるが、これは平成13年度に実施した荻窪鰯塚遺跡及び荻窪東爪遺跡の発掘調査と並行して、ため池建設予定地において試掘調査を実施した結果、相当数の遺構が確認された為、先述の二遺跡調査終了後、引き続いて本調査に着手したものである。調査期間等の事情から平成13年度の調査面積は、約2,000㎡にとどまった。その後、調査依頼者との間で協議・調整を図り、残る部分については平成14年度調査ということで了解を得、平成13年度は終了している。

続いて荻窪倉兼Ⅱ遺跡であるが、平成14年４月３日付けで前橋市長より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛に提出された。これを受け、市教委は内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）で受諾する旨の回答を行った。その後、平成14年４月25日付けで調査団と依頼者との間において発掘調査に関する協定書を締結し、さらにこれを経て５月２日に発掘調査委託契約を締結した。現地での調査は５月14日より開始した。

なお、遺跡名称「荻窪倉兼遺跡」・「荻窪倉兼Ⅱ遺跡」の『倉兼』は旧地籍の小字名を採用した。また、ローマ数字の『Ⅱ』は前年度調査済みの荻窪倉兼遺跡と区別するため付したものである。

# Ⅱ　遺跡の立地と周辺環境

## １．遺跡の立地

平成13年度から荻窪地区開発整備事業に伴って発掘調査が実施されている荻窪倉兼遺跡、荻窪倉兼Ⅱ遺跡は、前橋市の北東部に位置する。前橋市は、地形や地質などの観点から、赤城火山斜面、洪積台地（前橋台地）、沖積低地（広瀬川低地帯）、現利根川氾濫原の４つに区分されるが、市北東部は赤城火山斜面にあたる。平均勾配が二度内外の緩斜面である。山麓を源とする中小の河川が幾つも南流しそれによって形成された谷地部には水田が広がる。尾根に当たる部分では集落が古くから形成されている。本遺跡地周辺でも水田や畑作地、桑畑などが展開されている。なお、遺跡地はかつて牧草地であった。

荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡が所在する前橋市荻窪町は、東側で勢多郡大胡町と接している。また、本遺跡地のすぐ西に市営荻窪清掃工場、南には前橋水道局施設荻窪配水場が隣接する。遺跡の東方約800mのところを寺沢川が南流しており、南方約5.5kmのところで広瀬川に合流している。また、遺跡の北約1.5kmでは群馬用水が、南約1.5kmには大正用水がそれぞれ東流している。

両遺跡とも赤城火山斜面の台地上に立地し、発掘調査において古くは縄文時代の土器片などが出土していることから、この地が古くから人々の生活に適した居住地域であったことがうかがえる。

## ２．歴史的環境

荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡の立地する赤城山南斜面は、旧石器時代から中近世にかけての多くの遺跡が調査され「遺跡の宝庫」と呼ばれている。

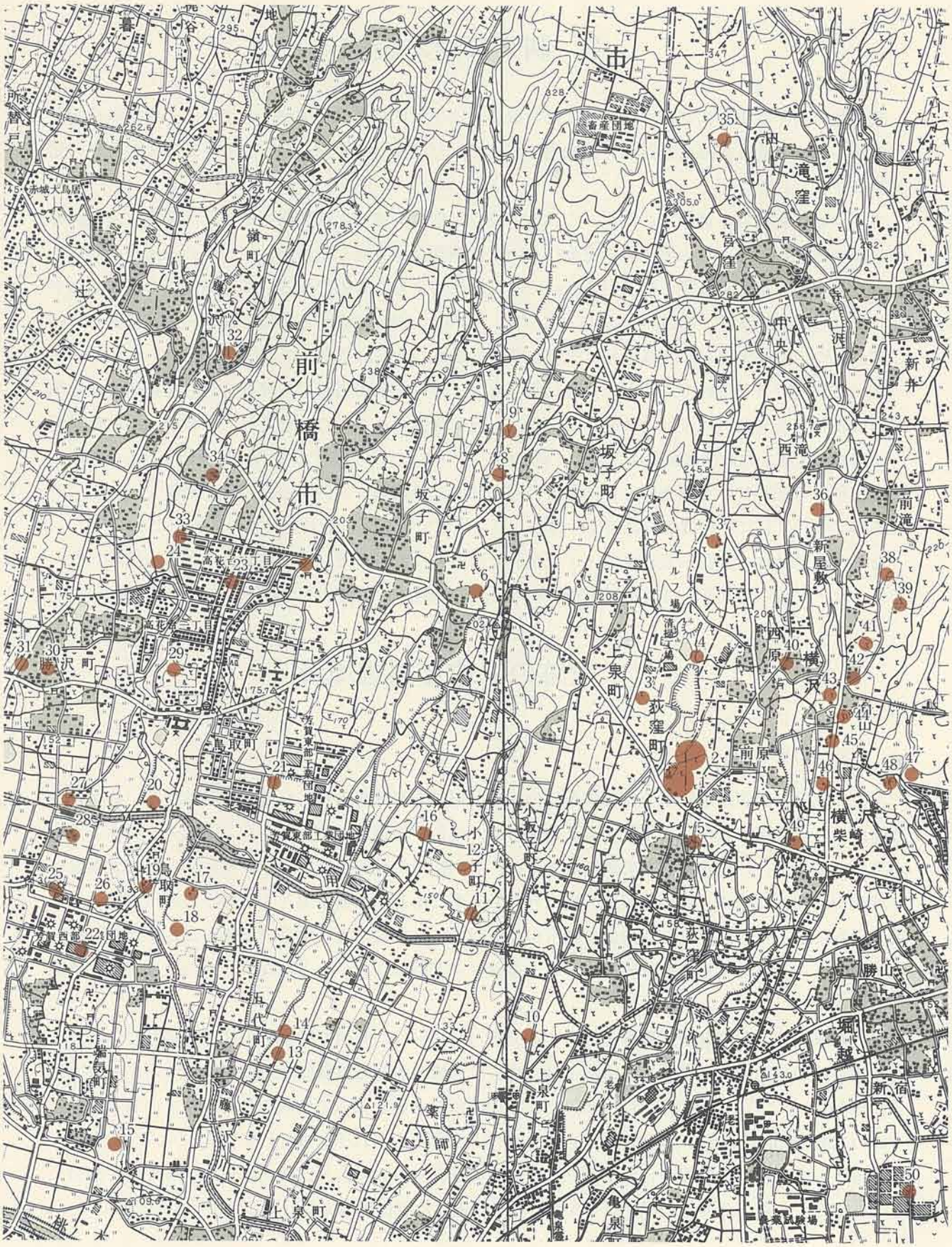



Fig. 1　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡位置図及び周辺遺跡図

Ｔａｂ．１　周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 遺跡の主な時代・概要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 荻窪倉兼遺跡 | 前橋市荻窪町 | 集落 | 奈良～平安時代の竪穴住居跡 29 軒・掘立柱建物跡 12 棟他 |
| 2 | 荻窪倉兼Ⅱ遺跡 | 前橋市荻窪町 | 集落 | 奈良～平安時代の竪穴住居跡 36 軒・掘立柱建物跡 10 棟他 |
| 3 | 荻窪鰯塚遺跡 | 前橋市荻窪町 | 集落 | 奈良～平安時代の竪穴住居跡 10 軒・掘立柱建物跡 10 棟他 |
| 4 | 荻窪東爪遺跡 | 前橋市荻窪町 | 集落？ | 縄文時代前期の竪穴住居跡 2 軒 |
| 5 | ほつこし塚古墳 | 前橋市荻窪町 | 墳墓 | 7 世紀代の円墳 |
| 6 | 川白田遺跡 | 前橋市小坂子町 | 集落 | 縄文時代前期の竪穴住居跡 22 軒・土坑 338 基他 |
| 7 | 小坂子城跡 | 前橋市小坂子町 | 城郭 | 中世の城郭 |
| 8 | 小坂子要害城跡 | 前橋市小坂子町 | 城郭 | 中世の城郭 |
| 9 | 小坂子油田遺跡 | 前橋市小坂子町 | 墳墓他 | 7 世紀代の円墳 3 基 |
| 10 | 新田塚古墳 | 前橋市上泉町 | 墳墓 | 7 世紀代の円墳，径 30 m，高さ 4.5 m |
| 11 | 桧峯古墳 | 前橋市上泉町 | 墳墓 | |
| 12 | 桧峯遺跡 | 前橋市上泉町・五代町 | 集落 | 古墳時代後期から奈良～平安時代の竪穴住居跡 76 軒他，第 62 号住居跡からは奈良三彩小壺が出土 |
| 13 | 五代江戸屋敷遺跡 | 前橋市五代町 | 集落 | 古墳時代後期から奈良～平安時代の竪穴住居跡 54 軒他 |
| 14 | 五代伊勢宮遺跡 | 前橋市五代町 | 集落 | 縄文時代中期の竪穴住居跡 6 軒他，古墳時代後期以降の竪穴住居跡 10 軒他 |
| 15 | 大日塚古墳 | 前橋市五代町 | 墳墓 | 7 世紀前半の円墳，出土品多数 |
| 16 | 五代桧峯遺跡 | 前橋市五代町 | 集落 | 古墳時代後期の竪穴住居跡 2 軒 |
| 17 | 鳥取東原遺跡 | 前橋市鳥取町 | 墓地他 | 近世の埋葬施設 1 基，土坑 6 基 |
| 18 | 鳥取福蔵寺遺跡 | 前橋市鳥取町 | 集落他 | 縄文時代前期から奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡 41 軒，9 世紀中頃の鍛冶精錬遺構 |
| 19 | 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡 | 前橋市鳥取町 | 集落 | 奈良～平安時代の竪穴住居跡 28 軒，旧石器時代の細石器出土 |
| 20 | 芳賀北原遺跡 | 前橋市鳥取町 | 集落 | 古墳時代後期から奈良～平安時代の竪穴住居跡 10 軒 |
| 21 | 芳賀東部団地遺跡 | 前橋市鳥取町・小坂子町・五代町 | 集落他 | 縄文時代の竪穴住居跡 60 軒他，古墳時代から奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡 495 軒・製鉄遺構 5 基，古墳 4 基 |
| 22 | 芳賀西部団地遺跡 | 前橋市鳥取町・小神明町・五代町 | 墳墓他 | 縄文時代前期の竪穴住居跡 7 軒，古墳時代後期の円墳 28 基・方墳 1 基（初期群集墳） |
| 23 | 芳賀北部団地遺跡 | 前橋市勝沢町・小坂子町・嶺町 | 集落他 | 奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡 234 軒・掘立柱建物跡 7 棟・製鉄遺構 3 基 |
| 24 | 芳賀北曲輪遺跡 | 前橋市勝沢町 | 集落他 | 縄文時代の竪穴住居跡 25 軒，7 世紀代の円墳 6 基 |
| 25 | 西田遺跡 | 前橋市鳥取町 | 墳墓他 | 古墳時代中期の竪穴住居跡 4 軒，6 世紀中頃の古墳 5 基 |
| 26 | 倉本遺跡 | 前橋市鳥取町 | 集落他 | 弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡 2 軒 |
| 27 | 小神明遺跡群 | 前橋市勝沢町 | 集落他 | 縄文時代から奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡 9 軒 |
| 28 | 九料遺跡 | 前橋市勝沢町 | 集落 | 古墳時代後期の竪穴住居跡 34 軒他 |
| 29 | 勝沢城跡 | 前橋市勝沢町 | 城郭 | 中世の城郭 |
| 30 | 芳賀村第 49 号墳 | 前橋市勝沢町 | 墳墓 | 円墳，径 18 m，高さ 3.3 m |
| 31 | オブ塚古墳 | 前橋市勝沢町 | 墳墓 | 6 世紀後半の前方後円墳 |
| 32 | 嶺城跡 | 前橋市嶺町 | 城郭 | 中世の城郭 |
| 33 | 桂正田稲荷塚古墳 | 前橋市嶺町 | 墳墓 | 7 世紀後半の方墳 |
| 34 | 東公田古墳 | 前橋市嶺町 | 墳墓 | 7 世紀後半の円墳 |

35. 西天神遺跡　36. 横沢新屋敷遺跡　37. 芳山遺跡　38. 宇持遺跡　39. 堀越丁二本松遺跡　40. 横沢城跡　41. 横沢向田遺跡
42. 大胡町第 36 号墳　43. 大胡町第 38 号墳　44. 横沢向山遺跡　45. 大胡町第 39 号墳　46. 大胡町第 40 号墳　47. 堀越甲真木遺跡
48. 茂木二本松遺跡　49. 横沢柴崎遺跡　50. 足軽町遺跡

荻窪町は桂萱地区に属するが、これは前橋市編入前の桂萱村である。ここは昭和10年の県下古墳一斉調査のおりには、79基の古墳が確認されている。これは、赤城山南麓では荒砥村、粕川村に次いでの多さとなっている。しかし、このときの調査は荒砥村のように一年の日数と同じ数にしてしまったり、芳賀村のように後の調査で記載漏れの古墳が30基以上調査されたりしていることがあるので、桂萱村に関しても、古墳築造当時の実数を反映しているとは言い難く、今後記載漏れの古墳が発見される可能性は否定できない。

赤城山南麓では、昭和40年代から50年代にかけて開発に伴う発掘調査が相次いだ。その中でも芳賀団地遺跡群は、調査総面積40万㎡を超え、多くの成果が得られた。芳賀東部工業団地（20）は、縄文時代の竪穴住居跡60軒（前期48・中期３・後期５・不明４）、古墳４基、古墳時代から奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡495軒、掘立柱建物跡195棟、製鉄遺構５基が検出された。芳賀西部団地遺跡（21）では、縄文時代前期の竪穴住居跡７軒、５世紀後半から６世紀初頭にかけての初期群集墳32基が調査された。芳賀北部工業団地遺跡（22）は、縄文時代前期・中期の竪穴住居跡、奈良～平安時代の竪穴住居跡234軒、製鉄遺構３基、中世の勝沢城の一部などが確認された。

本遺跡の南西約1.2kmほどに、檜峯遺跡（11）が立地する。この遺跡は、古墳時代後期から奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡75軒が検出されたが、中でも注目すべきは奈良三彩小壺を出土した第62号住居跡である。この住居跡からは他にも、匙状鉄製品や「宅」と墨書された土師器などが出土している。檜峯遺跡から西方約1.5kmのところには、鳥取福蔵寺Ⅰ・Ⅱ遺跡（17・18）がある。縄文時代前期から奈良平安時代にかけての竪穴住居跡70軒以上、９世紀中頃の鍛冶精錬遺構などが確認された。そのなかで、特筆すべきは約１万3000年前に堆積した浅間黄色軽石層（Ａｓ－ＹＰ）直下の関東ローム層より確認された細石刃文化石器群である。器種も細石核・細石刃・彫刻刀型石器・削器・掻器など多岐に及んでいる。他にも、縄文時代前期黒浜式に属する竪穴住居跡が検出された川白田遺跡（５）、７世紀代の円墳で主体部は横穴式石室が想定される新田塚古墳（９）、中世の城郭である小坂子城跡（６）など、数多くの遺跡が付近には点在する。

以上のように、荻窪倉兼・倉兼Ⅱ遺跡の所在する赤城山南麓は、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良～平安時代、中・近世と弥生時代以外の全時代で人々の生活・労働・葬祭などの痕跡をうかがい知ることができる。

# Ⅲ　発掘調査の方針と経過

## 1．調査方針

発掘調査を実施した荻窪倉兼及び荻窪倉兼Ⅱの両遺跡については、平成13年度中に行った試掘調査結果を基にしている。事情により試掘調査が出来なかった部分については、平成14年度に実施し遺構の有無を確認した上で調査に至っている。なお、試掘調査結果では、現地表面から概ね50乃至60cm程重機で掘り下げたところで、主に奈良・平安時代の竪穴住居跡を多数検出した。時折、縄文時代の土器片が出現するも、その他の時代の遺構については、確認できなかった。

調査区全域には、遺構測量のため原則として４ｍ間隔グリッドを設定し、このグリッドを最小単位とした。各グリッドの呼称方法は、南北方向をＹ軸とし北から南にＹ１、Ｙ２、Ｙ３・・・と付番する。また、東西方向をＸ軸とし西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３・・・と付番し、それぞれ北西での交点をそのグリッド名とした。

なお、二遺跡の基準点公共座標は次のとおりである。記載した数値は、旧日本測地系に基づくものであり、［　］で並記した数値が世界測地系によるものである。

【荻窪倉兼遺跡】基準点（Ｘ34、Ｙ94）
第Ⅸ系　+46924.000［+47278.7814］(Ｘ)　　－62864.000［－63155.9331］(Ｙ)
緯度　36°25′15″.2720［36°25′26″.5529］　経度　139°07′55″.9921［139°07′44″.4723］
【荻窪倉兼Ⅱ遺跡】基準点（Ｘ82、Ｙ180）
第Ⅸ系　+46580.000［+46934.8095］(Ｘ)　　－62672.000［－62963.9564］(Ｙ)
緯度　36°25′04″.1556［36°25′15″.4386］　経度　139°08′03″.8004［139°07′52″.2795］
である。

調査方法は、表土掘削・遺構確認・グリッド杭打ち・遺構掘下げ・遺構精査・遺構測量・遺構全景写真撮影の順で行った。遺構の図面作成にあたっては、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１／20の縮尺、住居跡の竈部分は１／10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をとりながら収納した。遺物包含層の出土品は、グリッド単位で収納し、特に重要と思われる遺物は、分布図・遺物台帳へ記載し収納した。

## 2．調査経過

荻窪地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成13年度より実施している。荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡発掘調査は、当該開発事業区域内でのため池建設工事及び道路新設工事に伴って行ったものである。両遺跡の調査年度が13年度と14年度に分かれているため調査経過については、それぞれの遺跡ごとに記述する。

【荻窪倉兼遺跡】
平成13年度中に本遺跡の調査に先だって開発予定地内において試掘調査を実施した。掘削したすべ

てのトレンチから竪穴住居跡などの遺構が明瞭に検出された。この調査結果を受けて、本開発予定地の本発掘調査について、調査依頼者である前橋市長（荻窪地区整備推進室）と協議を行った。その後、平成13年８月30日付けで前橋市教育委員会宛に調査依頼が提出された。これに対し、前橋市教育委員会では、既に実施中の荻窪鰯塚遺跡及び荻窪東爪遺跡の調査終了後引き続き、前橋市埋蔵文化財発掘調査団で実施する旨の回答を行った。

９月12日から重機による表土の掘削を開始した。掘削は、現地調査期間などを考慮して約2,000㎡にとどめ、９月19日に終了した。作業員を投入しての本格的な調査を開始したのは９月２６日からである。検出した遺構は、住居跡29軒、掘立柱建物跡12棟であった。

住居跡等の遺構掘り下げは、他の遺構と重複しないものが多かったため比較的効率よく進められた。10月下旬まではほぼ遺構掘り下げに集中した。10月23日から出土遺物の分布図作成を開始し、遺構の精査を行った。掘り上がったものから順次遺構全景写真を撮影し、平板による遺構測量に移った。天候にも恵まれたことも手伝って、作業は順調に進み11月30日をもって各遺構の精査と測量図面作成、遺構写真撮影を終えた。残る調査区全景写真撮影に向けて、準備を行った。調査区全景写真の撮影は、12月５日に22m高所作業車を使用し実施した。その後、12月19日まで現地プレハブ内において、出土遺物の洗浄や、洗浄済の出土遺物への注記作業を行い、12月20日、現地プレハブから整理作業室のある文化財保護課まで引っ越しをした。

整理作業は、翌年の平成14年１月７日から開始し、３月20日をもって本遺跡に関する全ての作業を終了するに至った。

【荻窪倉兼Ⅱ遺跡】

本調査は、依頼課である荻窪地区整備推進室との間で協議・調整を図り、平成14年５月２日付けで発掘調査委託契約を締結し、その開始に至った。

調査対象地は、ため池建設のために削り取られる部分である。荻窪配水場の東側に位置する建設予定地の南端部から、調査を始めることとなった。５月15日に0.7立米バケットのパワーショベルを１台投入し、表土除去を開始した。荻窪配水場西側もため池建設予定地であった。しかし、この時点では旧豚舎の基礎部分が未撤去であったため、他の部分の調査を進めながら撤去工事完了を待つこととした。また、ここは豚舎建設に伴って２m以上も深く掘り込まれており、遺構が削平されている可能性が大きかった。そこで、撤去工事完了の時点で試掘調査をして遺構の遺存状況を調べ、その結果で本発掘調査の範囲を決定することとした。

同月21日には現場事務所を開設し、発掘作業員を投入しての本格的な調査が始まった。しかし、ため池建設予定地の中央部分には家畜の糞尿だまりがあり、かなり深く掘り込まれていた。そのため、この部分は調査しないこととした。そして、このカクラン部分から北側をA区、南側をB区と称して表土除去を進めた。また、豚舎が撤去されている西側の部分をC区と称した。

表土除去は、５月29日までに完了した。これと期を同じくして、豚舎基礎部分の撤去工事も完了した。そこで、翌30日にC区の試掘調査を行って遺構の状況を調べた。しかし、予想通り豚舎が建っていた所は、遺構がなく遺物も皆無であった。かろうじて、C区南端部分で住居跡を検出できたが表土の堆積はほとんどなく、住居跡の上部は削平を受けていて遺存度は芳しくなかった。その上、調査期間との兼ね合いもあり、検出された住居跡周辺部のみを本調査することとした。

各調査区の遺構確認作業が６月３日に完了したので、翌日から遺構の掘下げを開始した。また、同月６日から１週間かけてグリッドの方眼杭およびBM杭を打設し、遺構の測量作業も本格化した。７

月は連日の猛暑に見舞われたが、作業員の方々のがんばりをもって調査を進めることができた。18日には遺構の掘下げ作業に一応の目処がつき、調査区の全体測量及び住居跡の平面測量を開始した。この作業は翌８月24日まで続いた。

８月23日には、遺構の精査が完了した。これに続いて、同月30日には高所作業車を使って、調査区全景写真を撮影した。その翌週には、発掘現場事務所で出土した土器片の洗浄作業及び土器片への注記作業を行った。作業完了後、９月４日に発掘現場事務所を閉じ、文化財保護課内に整理作業事務所を開設した。そして、平成15年３月まで出土遺物の整理作業と調査報告書の作成を行った。

Fig. 2　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡調査区設定図

# Ⅳ 層　　序

前橋市は、地形及び地質の特徴から区分すると大きく４つに区分することができる。第１に市北東部の赤城火山斜面、第２に市南西部のいわゆる前橋台地と呼ばれる洪積台地、第３に赤城火山斜面と前橋台地の両地域に挟まれ地溝状を成す広瀬川低地帯、そして第４が現利根川氾濫原である。

今回調査した荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡は、市北東部で前橋市の東に位置する大胡町と接する区域にあり、先にあげた４地域の中では赤城火山斜面に属する。この赤城火山斜面は、平均勾配が２度内外という緩斜面で、地質は主として成層火砕岩類で、これを関東ローム層が覆っている。両遺跡地とも南へ緩やかに傾斜しており、また、すぐ東側が谷地状になるため、ごく僅かであるが下っている。

基本土層は、荻窪倉兼遺跡調査区北壁のほぼ中央で確認した。基本土層図は以下のとおりである。

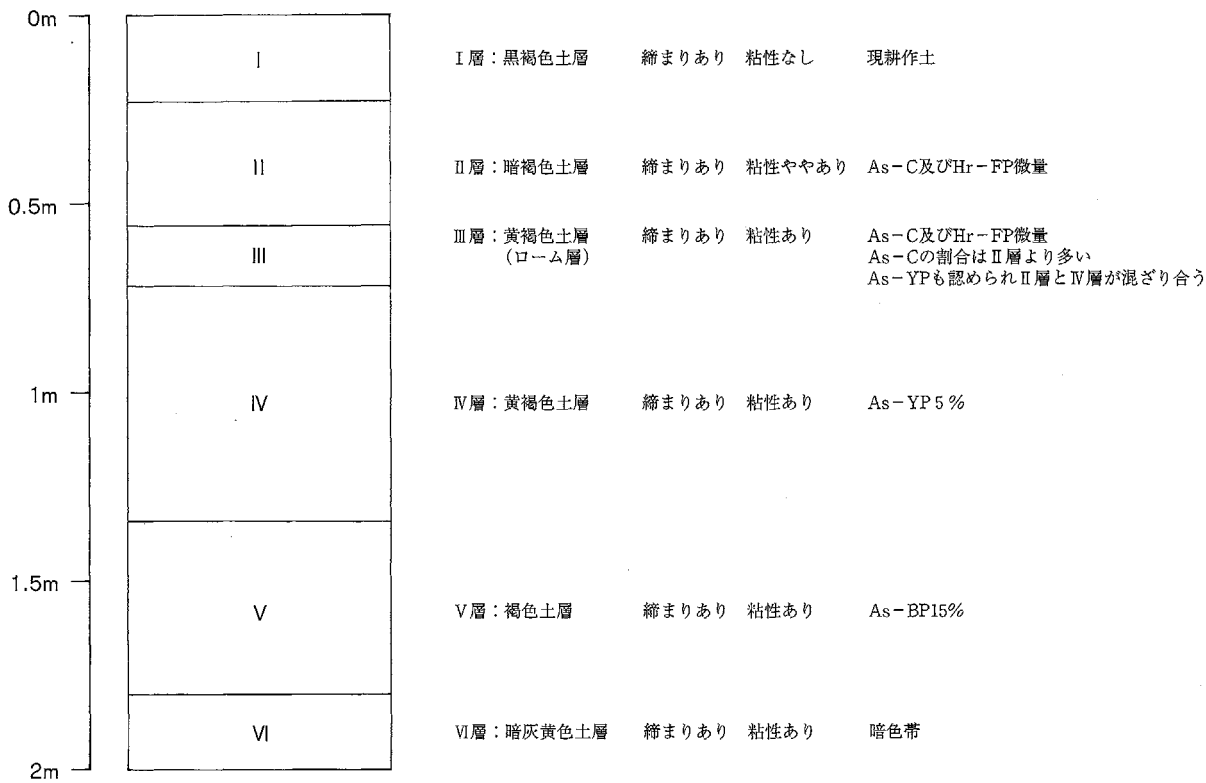



Fig. 3　荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡基本土層

# 荻窪倉兼遺跡

Fig.4　荻窪倉兼遺跡全体図

## 1　遺構概要

本遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡が29軒、掘立柱建物跡が12棟である。

調査地は牧草地で、緩やかに傾斜する赤城山南麓に位置する。地表面から遺構確認面まで比較的浅いことから、遺構上部が削平されてしまっているものと思われたが、特に調査区中央部で検出した住居跡が浅いのを除けば、遺構の残存状況は良好といえる。

検出された遺構は、出土遺物などから奈良時代（８世紀初頭）から平安時代（10世紀末）にかけての集落跡と考えられ、この間継続的にこの地で人々の生活が営まれていたことがわかる。また、遺構は確認できなかったが、縄文土器片も出土している。

### (1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Ｆｉｇ．５・20　ＰＬ．１・８）

◎位置　Ｘ74～75、Ｙ196～197グリッド　◎面積　14.15㎡　◎長軸方位　Ｎ－５°－Ｅ　◎形状　長軸3.78ｍ、短軸3.07ｍ、壁高24～42㎝を測る。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。袖部及び天井部を構成していた石材が検出された。　◎遺物　総数1,178点。出土遺物のほとんどが土師器片である。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は９世紀初頭のものと考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Ｆｉｇ．５・20　ＰＬ．１・８）

◎位置　Ｘ73～74、Ｙ197グリッド　◎面積　2.68㎡　◎長軸方位　Ｎ－84°－Ｗ　◎形状　長軸2.60ｍ、短軸0.78ｍ、壁高23～30㎝を測る。　◎遺物　土師器片が主である。箆磨きされた黒色椀が出土している。　◎備考　調査区南壁で検出されたため部分的な検出状況である。また、Ｈ－３号住居跡と重複関係にある。本遺構の方が新しく時期的には出土遺物などから９世紀後半になるものと考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Ｆｉｇ．５・20　ＰＬ．１）

◎位置　Ｘ73～74、Ｙ197グリッド　◎面積　3.89㎡　◎長軸方位　Ｎ－83°－Ｗ　◎形状　長軸4.20ｍ、短軸0.73ｍ、壁高71～78㎝を測る。　◎遺物　土師器片が主で、器種は坏が多い。　◎備考　調査区南壁で検出されたため部分的な検出状況である。Ｈ－２号住居跡と重複関係にあり、本遺構が先行する。床面は基本的にローム土を貼って形成されている。出土遺物などから本住居跡は８世紀前半のものと考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Ｆｉｇ．５　ＰＬ．１）

◎位置　Ｘ71～72、Ｙ197グリッド　◎面積　2.90㎡　◎長軸方位　Ｎ－87°－Ｗ　◎形状　長軸3.66ｍ、短軸0.71ｍ、壁高34～47㎝を測る。　◎遺物　総数34点。土師器片が主である。　◎備考　調査区南壁で検出されたため部分的な検出状況である。床面は基本的にローム土を貼って形成される。また、住居東壁付近で一部不明瞭になるが、幅20㎝程の周溝を検出した。出土遺物などから、本住居跡は９世紀初頭のものと考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Ｆｉｇ．６・20　ＰＬ．１・８）

◎位置　X69～71、Y195～196グリッド　◎面積　16.98㎡　◎長軸方位　N－4°－W　◎形状　長軸4.40m、短軸3.80m、壁高5～43cmを測る。　◎竈　東壁の南寄りに設置される。竈左袖部分の粘土は黒色である。焚き口付近は通気性を考慮して掘り込まれている。　◎遺物　総数282点。土師器片が最も多く、次いで須恵器片、本住居跡では鉄製品も5点出土している。器種では坏が多い。目を引く遺物としては横瓶が完全な形ではないが出土している。　◎備考　本遺構は、南側約半分については後世の削平を受けたと思われ、南壁の残存状態は良いところで10cm程しかなく、立ち上がりも明瞭ではない。それに対して北側半分は、幅約15cm程の周溝が認められるなど残存状況は良好である。床面はローム土に軽石を含んだ黒褐色土が混ざり斑模様を呈す。H－6号住居と南西隅で僅かに重複しており、新旧関係では本遺構の方が先行するものと思われる。出土遺物などから本住居跡は8世紀末から9世紀初頭のものと考えられる。

H－6号住居跡（Fig．6・20・25　PL．2・9）
◎位置　X69～70、Y196～197グリッド　◎面積　8.06㎡　◎長軸方位　N－19°－E　◎形状　長軸2.94m、短軸2.45m、壁高19～27cmを測る。　◎竈　東壁の南寄りに設置される。検出状況は調査区南壁に接しているため約半分程度。壁面に竈を構成していたと考えられる焼けた石材が出土している。また、竈左袖部分に少量ながら粘土が検出された。　◎遺物　総数66点。坏などの土師器片が中心で、鉄製品も9点出土している。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀中頃のものと考えられる。

H－7号住居跡（Fig．6・25　PL．2）
◎位置　X69～70、Y194～195グリッド　◎面積　10.59㎡　◎長軸方位　N－8°－W　◎形状　長軸3.56m、短軸3.00m、壁高48～57cmを測る。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。竈の壁面には焼土ブロックが良好に残るが、竈を形成する粘土は周辺に僅かに分布する程度である。
◎遺物　総数408点。土師器片が主体である。　◎備考　西壁から北壁半分にかけて周溝らしきものが回る。出土遺物などから本住居跡は9世紀初頭のものと考えられる。

H－8号住居跡（Fig．7　PL．2）
◎位置　X68～69、Y193～194グリッド　◎面積　2.47㎡　◎長軸方位　N－5°－E　◎形状　長軸4.48m、短軸0.65m、壁高9～32cmを測る。　◎竈　東壁のほぼ中央に焦土の分布が多くみられる事、また床面もその付近が堅く締まっている事から竈のあった部分と思われる。　◎遺物　土師器片が20点出土した。　◎備考　本住居跡は、調査区西壁に接しており、その一部しか検出できなかった。

H－9号住居跡（Fig．7・20　PL．2・9）
◎位置　X72～73、Y192～193グリッド　◎面積　9.47㎡　◎長軸方位　N－20°－E　◎形状　長軸3.57m、短軸2.75m、壁高17～29cmを測る。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。左袖部は少ないながらも粘土が残るが、右袖部はH－10号住居との切りあいで壊され確認できない。
◎遺物　総数359点。土師器片が主体である。甕、坏、椀などが出土。墨書土器片も1点検出された。
◎備考　H－10号住居跡と南東隅で重複している。新旧関係では本遺構の方が先行する。出土遺物などから本住居跡は9世紀初頭のものと考えられる。

H－10号住居跡（Ｆｉｇ．７・20　ＰＬ．２・９）
◎位置　X72～73、Y193～194グリッド　◎面積　8.09㎡　◎長軸方位　N－80°－W　◎形状　長軸2.95m、短軸2.63m、壁高6～16cmを測る。壁は床面から約15cm程しかなく南壁に至っては10cmをきる。床面は若干の凹凸があるがほぼ平均すると平らで堅く締まる。　◎竈　東壁の南端に設置される。竈内に、支脚に使用されたと思われる石材が検出された。しかし、袖部分など竈の大半は壊されており確認できず、その痕跡としては竈前面に黒色粘土粒が僅かに分布する程度であった。　◎遺物　総数162点。土師器片が主体である。羽釜の土器片が検出された。　◎備考　H－９号住居跡と北西隅で重複している。新旧関係では本遺構の方が新しい。出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

H－11号住居跡（Ｆｉｇ．７・21・25　ＰＬ．２・９）
◎位置　X74～75、Y193～194グリッド　◎面積　11.20㎡　◎長軸方位　N－74°－W　◎形状　長軸3.60m、短軸3.20m、壁高7～18cmを測る。周辺の住居跡と同様に遺構の上部を削平されており壁は床面から15cm程しかなく立ち上がりもはっきりしない。床面は平均して堅く締まる。　◎竈　東壁の南端に設置される。残存状況は悪く、竈の底面にロームと黒褐色土が混ざり合い、その中に焼土が分布する程度である。　◎遺物　総数140点。黒色土器や灰釉高台皿などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀後半から末にかけてのものと考えられる。

H－12号住居跡（Ｆｉｇ．８・21　ＰＬ．２・９）
◎位置　X76～77、Y192～193グリッド　◎面積　12.57㎡　◎長軸方位　N－75°－W　◎形状　長軸3.32m、短軸3.29m、壁高6～19cmを測る。　◎竈　東壁のほぼ南端に設置される。竈内は底面に焼土が分布し赤味を増し、炭化物も確認できた。左袖部には竈成形時に使用したと思われる石材が検出されている。その他にも数点石材が確認されており、竈の壁を補強するのに用いたものと考えられる。◎遺物　総数160点。椀、羽釜、灰釉高台皿などが出土。　◎備考　本遺構はＢ－５号掘立柱建物跡と重複する。住居跡内に検出した掘立柱建物跡の柱穴が床面を構成する土で覆われていることから、新旧関係ではＢ－５号掘立柱建物跡が先行するものと考えられる。出土遺物などから本住居跡は10世紀後半から末にかけてのものと考えられる。

H－13号住居跡（Ｆｉｇ．８・21　ＰＬ．３・10）
◎位置　X79～80、Y193～195グリッド　◎面積　25.91㎡　◎長軸方位　N－5°－E　◎形状　長軸5.50m、短軸4.90m、壁高48～72cmを測る。遺構の検出状況は本遺跡中で最も良好である。壁の残存は良くほぼ直角に立ち上がる。床面も多少の凹凸はあるが堅く良く締まり平坦である。床面を構成する土は、ロームと軽石混じりの黒褐色土である。　◎竈　東壁のほぼ中央に設置される。左袖部分より右袖部分に黒色粘土が良好に残る。竈壁面には、補強として使用されたと思われる石材を検出している。底面は焼土、炭化物ともに多く分布し赤味を増す。竈の天井部も検出し、煙道が確認できた。
◎遺物　総数1,081点。土師器坏、須恵器坏、甕、長胴甕などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀初頭のものと考えられる。

H－14号住居跡（Ｆｉｇ．９・21　ＰＬ．３・10）
◎位置　X73～74、Y191～192グリッド　◎面積　12.38㎡　◎長軸方位　N－7°－E　◎形状　長

軸3.70m、短軸3.15m、壁高20～46cmを測る。壁は残存状況の良い箇所で約45cm程度あり、ほぼ直立する。北壁は本遺構より時期的に新しい溝に切られており判別不能である。床面はロームと軽石を含む黒褐、暗褐色土で構成される。　◎竈　東壁中央からやや南寄りに設置される。両袖部分には粘土が比較的良好に残る。底面は焼土が全体に分布し赤味を増し、炭化物粒も多く見られる。煙道部分は攪乱で破壊されており確認できない。　◎遺物　総数37点。土師器坏が出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀初頭のものと考えられる。

Ｈ－15号住居跡（Ｆｉｇ．９・21・22・25　ＰＬ．３・10）
◎位置　Ｘ72、Ｙ191～192グリッド　◎面積　7.03㎡　◎長軸方位　Ｎ－20°－Ｅ　◎形状　長軸2.95m、短軸2.60m、壁高6～15cmを測る。壁の残存状態は非常に悪く、締まりもあまりない。床面は基本的に堅く締まり、特に竈前面では非常に堅い。また、ロームと軽石を含んだ黒褐色土で構成される。　◎竈　東壁の南端に設置される。袖部は両側とも破壊されており確認できない。底面には焼土がやや左側に偏って分布し、赤味を増す。また、竈の手前50cm程の範囲まで焼土粒が分布する。　◎遺物　総数31点。壺型のミニチュア土器が１点検出された。砥石も１点出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

Ｈ－16号住居跡（Ｆｉｇ．９・22　ＰＬ．３・10）
◎位置　Ｘ69～70、Ｙ191～192グリッド　◎面積　9.67㎡　◎長軸方位　Ｎ－84°－Ｅ　◎形状　長軸3.25m、短軸2.66m、壁高14～29cmを測る。壁は多少堅さがあるが、残存状態は良好とは言えない。床面は堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色、暗褐色土で構成される。　◎竈　東壁のほぼ南端に設置される。竈の大半は後世の溝により破壊されており、残った底面に焼土が分布しやや赤味を増す程度である。　◎遺物　総数133点。土師器坏、須恵器蓋などが出土。　◎備考　本遺構は北西隅でＨ－17号住居跡と重複関係にある。新旧関係では本遺構の方が新しい。出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Ｆｉｇ．10・22　ＰＬ．３）
◎位置　Ｘ69～70、Ｙ190～191グリッド　◎面積　11.49㎡　◎長軸方位　Ｎ－５°－Ｅ　◎形状　長軸3.70m、短軸2.88m、壁高3～18cmを測る。壁の残存状況は悪く、南壁においては後世の溝により破壊されている。北壁には幅20cm程の周溝が巡る。床面は堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　竈は重複関係にあるＨ－16号住居跡により壊されており明確な場所は不明であるが、焼土粒や炭化物等分布状況から、東壁の中央からやや南寄りに設置されていたと思われる。　◎遺物　総数58点。羽釜片が出土。　◎備考　本遺構は南東隅でＨ－16号住居跡と重複関係にあり、新旧関係では本遺構の方が先行する。出土遺物などから本住居跡は10世紀初頭から前半にかけてのものと考えられる。

Ｈ－18号住居跡（Ｆｉｇ．10　ＰＬ．３）
◎位置　Ｘ69～70、Ｙ189～190グリッド　◎面積　10.13㎡　◎長軸方位　Ｎ－20°－Ｅ　◎形状　長軸3.55m、短軸2.63m、壁高2～14cmを測る。壁の残存状況は悪い。床面は堅く良く締まっておりロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　大半が破壊されているが東壁のほぼ南端に設置されていたものと思われる。底面に焼土が分布し、やや赤味を増すのが確認できた程度である。

◎遺物　総数173点。土師器片が主体である。　◎備考　本遺構はＨ－19号住居跡と北壁部分で重複関係にある。新旧関係では本遺構の方が新しい。出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

Ｈ－19号住居跡（Ｆｉｇ．10・22　ＰＬ．４・11）
◎位置　Ｘ69～70、Ｙ188～189グリッド　◎面積　14.27㎡　◎長軸方位　Ｎ－70°－Ｅ　◎形状　長軸4.40ｍ、短軸3.34ｍ、壁高40～72㎝を測る。壁は良好に残っており、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅く締まりロームと軽石を含む黒褐色土により構成される。床一面に焼土粒、場所によっては焼土塊が分布する。炭化物も僅かであるが分布する。　◎竈　東壁のほぼ中央に設置される。残存状態は良好で、右袖部分からは長胴甕が逆さの状態で検出された。左袖部分にも嘗て同様な土器が立てられていたと思われる丸い窪みが確認できた。天井部の粘土も良好な状態で検出された。竈底面及び内壁には焼土ブロックが付着し赤味を増す。竈の手前は非常に堅く締まり焼土塊や粘土ブロックが多く見られる。　◎遺物　総数338点。土師器片が主体で、長胴甕などが出土している。　◎備考　本遺構はＨ－18号住居跡と南壁部分で重複関係にあり、新旧関係では本遺構の方が先行する。出土遺物などから本住居跡は８世紀初頭のものと考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Ｆｉｇ．11・22　ＰＬ．４・11）
◎位置　Ｘ72～73、Ｙ189～190グリッド　◎面積　12.44㎡　◎長軸方位　Ｎ－10°－Ｅ　◎形状　長軸3.85ｍ、短軸3.55ｍ、壁高8～36㎝を測る。壁の残存状況は北側では比較的良好であるが、南に下がるにつれて悪くなり10㎝を下回るところもある。床面は基本的に堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。北壁から西壁にかけては幅約15㎝の周溝が巡る。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。竈は大半が破壊されて右袖付近に焼土粒が分布する程度で、両袖部分に粘土の痕跡が伺えるのみである。　◎遺物　総数274点。羽釜、灰釉高台椀、坏などが出土。
◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀後半から末にかけてのものと考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Ｆｉｇ．11・25　ＰＬ．４）
◎位置　Ｘ73、Ｙ190～191グリッド　◎面積　8.91㎡　◎長軸方位　Ｎ－15°－Ｅ　◎形状　長軸3.10ｍ、短軸2.50ｍ、壁高7～25㎝を測る。壁の残存状況は悪く、南に下がるにつれてその傾向が顕著である。床面は基本的に堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　東壁の南端付近に設置される。竈の大半は桑の根などにより破壊され、左袖や壁に安山岩が僅かに検出できたのみである。焼土粒の範囲は竈底面と両壁の一部に限定される。　◎遺物　総数108点。土師器片が中心である。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Ｆｉｇ．11・25　ＰＬ．４）
◎位置　Ｘ74～75、Ｙ189～190グリッド　◎面積　8.58㎡　◎長軸方位　Ｎ－28°－Ｅ　◎形状　長軸2.47ｍ、短軸2.37ｍ、壁高4～21㎝を測る。壁の残存状況は全体的に悪く北から南に下がるにつれてその傾向が顕著である。床面は堅さはあるものの締まりが弱い。ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。竈内の中央には支脚に使用したと思われる石材が検出された。底面の一部に少量の焼土が分布する。左袖部に若干粘土が残りその痕跡を伺える程度で、残存状況は良好ではない。　◎遺物　総数54点。土師器片が中心である。

◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀中葉のものと考えられる。

H－23号住居跡（Ｆｉｇ．11・22・23　ＰＬ．４・11）
◎位置　X77～78、Y188～189グリッド　◎面積　12.12㎡　◎長軸方位　N－6°－E　◎形状　長軸3.75m、短軸2.82m、壁高6～19cmを測る。壁の残存状況は悪い。南側は特に柔らかく判然としない。床面は基本的に堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。竈内の両壁、底面には焼土が良好に付着する。炭化物も多く分布する。　◎遺物　総数117点。土師器坏、土釜、高台皿などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀後半から末にかけてのものと考えられる。

H－24号住居跡（Ｆｉｇ．12　ＰＬ．５）
◎位置　X78～79、Y188～189グリッド　◎面積　12.61㎡　◎長軸方位　N－14°－E　◎形状　長軸3.80m、短軸3.10m、壁高28～49cmを測る。壁は南側が他と比較して若干不明瞭であることを除けば基本的には堅緻な作りである。床面は堅く締まり、ロームと軽石を含む暗褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　東壁中央からやや南寄りに設置される。袖部分は両側とも確認できないが、内壁については焼けて赤味を増すところがあり粘土の壁と思われる。　◎遺物　総数135点。坏、長胴甕、蓋などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀前半のものと考えられる。

H－25号住居跡（Ｆｉｇ．12・23・25　ＰＬ．５・11）
◎位置　X79～80、Y188～189グリッド　◎面積　12.10㎡　◎長軸方位　N－65°－W　◎形状　長軸4.05m、短軸3.05m、壁高25～45cmを測る。壁は高さはあるものの、堅緻さは見受けられない。特に南壁が悪く全体として柔らかい。床面は基本的に堅く締まるが、所々で締まりの弱い箇所がある。また、床面はロームと軽石を含む暗褐色土で構成される。　◎竈　東壁のほぼ中央に設置される。竈内面の両壁及び底面はよく焼けており焼土が分布する。左壁に１個体、右壁に２個体の石材が検出された。いずれの石材も焼けていることから竈壁面に使用されたものと思われる。　◎遺物　総数541点。「コ」字状の口縁部を持つ甕が数点出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀末から９世紀初頭にかけてのものと考えられる。

H－26号住居跡（Ｆｉｇ．13・23・24・25　　ＰＬ．５・12）
◎位置　X77～78、Y187～188グリッド　◎面積　12.80㎡　◎長軸方位　N－12°－E　◎形状　長軸4.25m、短軸2.72m、壁高13～25cmを測る。壁は全体的に明瞭さが欠ける。床面は基本的に堅く締まる。ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。本遺跡で検出された住居跡の中では、最も良好に石組みの竈が検出された。竈の内壁は石材で構成され、10点の石材が確認された。輝石安山岩がほとんどで、１点だけ凝灰岩である。竈底面は焼土が多く残り赤味を増し、炭化物も多い。　◎遺物　総数417点。椀、甕、羽釜などが出土。墨書土器も１点検出している。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は10世紀初頭から前半にかけてのものと考えられる。

H－27号住居跡（Ｆｉｇ．13・24　ＰＬ．５・12）
◎位置　X71～72、Y187～188グリッド　◎面積　17.02㎡　◎長軸方位　N－21°－W　◎形状　長

軸4.40m、短軸3.58m、壁高43～59cmを測る。壁の残存状況は全体的に良好であるが、床面から25cm程度までが特に良好である。床面は堅くよく締まり堅緻である。ロームと軽石を含む黒褐色土、暗褐色土で構成される。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。両袖部とも比較的良好に残っており、黒色粘土を使用し構築されている。両内壁とも良く焼けている。また、煙道部分も検出され、急勾配で立ち上がる。　◎遺物　総数133点。坏、蓋などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀初頭のものと考えられる。

Ｈ－28号住居跡（Ｆｉｇ．14・24　ＰＬ．６）
◎位置　Ｘ69～70、Ｙ187～188グリッド　◎面積　11.10㎡　◎長軸方位　Ｎ－３°－Ｗ　◎形状　長軸4.05m、短軸2.53m、壁高21～63cmを測る。壁の残存状況は良くほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土で構成される。床面全面に僅かながら焼土粒が分布する。
◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。袖部の残存状況は良い。ただし、左袖部では手前約５cm、右袖部では手前約10cmの範囲で土に締まりが無いことから、そこまでが袖部になると思われる。竈底面は奥行きが広く、煙道にかけて鋭角に立ち上がる。　◎遺物　総数753点。土師器片が主体で、坏などが出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀前半のものと考えられる。

Ｈ－29号住居跡（Ｆｉｇ．14・24　ＰＬ．６・12）
◎位置　Ｘ74～75、Ｙ185グリッド　◎面積　8.61㎡　◎長軸方位　Ｎ－87°－Ｅ　◎形状　長軸3.25m、短軸2.30m、壁高32～60cmを測る。壁の残存状況は比較的良好であるが、南壁については上部を後世の攪乱により削平される。床面は堅く締まり、ロームと軽石を含む黒褐色土が混ざり合い構成される。ごく僅かであるが焼土粒が全体的に分布する。　◎竈　東壁の中央からやや南寄りに設置される。残存状況も良好で、両袖とも明瞭に検出された。左袖は壁から約45cm、右袖は壁から約30cm張り出し、黄灰色及び灰色の粘土により構築される。また、竈内壁及び天井部も同一な粘土を使用されたと思われる。　◎遺物　総数242点。土師器片が主体で、坏、長胴甕等が出土。　◎備考　出土遺物などから本住居跡は８世紀前半のものと考えられる。

### (2)　掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．15　ＰＬ．６）
◎位置　Ｘ76～78、Ｙ197グリッド　◎面積　7.82㎡　◎長軸方位　Ｎ－88°－Ｅ　◎形状　東西方向に４つの柱穴が確認できたのみで、その他は調査区外であるため明確な形状は不明である。長軸7.7m。（３間）　◎柱間寸法　2.4m
◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 83 | 54 | 38 |
| Ｐ２ | 71 | 68 | 55 |
| Ｐ３ | 70 | 69 | 47 |
| Ｐ４ | 86 | 57 | 44 |

B－2号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．15　ＰＬ．6）

◎位置　X77～78、Y196～197グリッド　◎面積　22.23㎡　◎長軸方位　N－7°－W　◎形状　建物を構成する南辺の柱穴は調査区外になると思われ、明確なことは定かではないが概ね南北に長い長方形を呈すると考えられる。長軸4.6m（現状は2間）　短軸4.5m（2間）　◎柱間寸法　2.3m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 58 | 53 | 57 | P 5 | 63 | 57 | 38 |
| P 2 | 59 | 47 | 31 | P 6 | 59 | 58 | 47 |
| P 3 | 48 | 47 | 44 | P 7 | 60 | 59 | 60 |
| P 4 | 61 | 53 | 29 | | | | |

B－3号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．16　ＰＬ．6）

◎位置　X70～72、Y194～195グリッド　◎面積　17.11㎡　◎長軸方位　N－83°－E　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸4.1m（2間）　短軸4.0m（2間）　◎柱間寸法　2.0m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 55 | 51 | 59 | P 5 | 48 | 46 | 42 |
| P 2 | 60 | 53 | 35 | P 6 | 59 | 55 | 31 |
| P 3 | 55 | 43 | 71 | P 7 | 82 | 53 | 32 |
| P 4 | 51 | 43 | 36 | P 8 | 75 | 65 | 57 |

B－4号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．16）

◎位置　X70～71、Y194～195グリッド　◎面積　13.70㎡　◎長軸方位　N－5°－W◎形状　やや南北方向に延びる長方形を呈す。長軸4.0m（2間）　短軸3.5m（2間）　◎柱間寸法　1.8m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 50 | 43 | 56 | P 5 | 50 | 46 | 23 |
| P 2 | 50 | 40 | 19 | P 6 | 46 | 40 | 29 |
| P 3 | 107 | 97 | 23 | P 7 | 50 | 48 | 56 |
| P 4 | 96 | 55 | 34 | P 8 | 50 | 46 | 55 |

B－5号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．17　ＰＬ．6）

◎位置　X76～77、Y193～195グリッド　◎面積　24.72㎡　◎長軸方位　N－11°－E　◎形状　南北方向に延びる長方形を呈す。長軸6.0m（3間）　短軸4.2m（2間）　◎柱間寸法　2.0m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 57 | 56 | 23 | P 6 | 72 | 68 | 34 |
| P 2 | 99 | 77 | 21 | P 7 | 68 | 67 | 33 |
| P 3 | 77 | 70 | 16 | P 8 | 44 | 42 | 15 |
| P 4 | 46 | 42 | 16 | P 9 | 53 | 48 | 45 |
| P 5 | 58 | 47 | 35 | | | | |

B－6号掘立柱建物跡（Fｉｇ．18　ＰＬ．7）

◎位置　X76～77、Y191～193グリッド　◎面積　21.33㎡　◎長軸方位　N－12°－E　◎形状　南北方向に延びる長方形を呈す。長軸5.2m（3間）　短軸4.0m（2間）　◎柱間寸法　1.8m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 53 | 51 | 30 | P 6 | 61 | 58 | 38 |
| P 2 | 56 | 53 | 25 | P 7 | 56 | 47 | 25 |
| P 3 | 43 | 40 | 28 | P 8 | 44 | 43 | 34 |
| P 4 | 54 | 50 | 26 | P 9 | 48 | 46 | 42 |
| P 5 | 55 | 48 | 19 | P10 | 54 | 51 | 34 |

B－7号掘立柱建物跡（Fｉｇ．18　ＰＬ．7）

◎位置　X77～78、Y193～195グリッド　◎面積　18.41㎡　◎長軸方位　N－15°－E　◎形状　南北方向に延びる長方形を呈すものと思われる。長軸5.5m（3間）　短軸4.2m（現状2間）

◎柱間寸法　1.9m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 84 | 61 | 54 | P 5 | 54 | 51 | 54 |
| P 2 | 43 | 40 | 40 | P 6 | 54 | 52 | 49 |
| P 3 | 40 | 40 | 23 | P 7 | 46 | 43 | 24 |
| P 4 | 54 | 48 | 26 | | | | |

B－8号掘立柱建物跡（Fｉｇ．19　ＰＬ．7）

◎位置　X78、Y191～192グリッド　◎面積　8.26㎡　◎長軸方位　N－1°－W　◎形状　遺構の大半が調査区外のため、建物の西辺のみの検出で明確な形状は不明である。長軸4.4m（2間）　◎柱間寸法　2.2m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| P 1 | 58 | 55 | 25 |
| P 2 | 79 | 62 | 26 |
| P 3 | 51 | 46 | 32 |

B－9号掘立柱建物跡（Fig. 19　PL. 7）

◎位置　X78～79、Y191～192グリッド　◎面積　3.20㎡　◎長軸方位　N－13°－E　◎形状　遺構の大半が調査区外のため、建物の西辺のみの検出で明確な形状は不明である。長軸3.8m（2間）

◎柱間寸法　1.9m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| P 1 | 50 | 48 | 31 |
| P 2 | 61 | 51 | 30 |
| P 3 | 62 | 58 | 31 |

B－10号掘立柱建物跡（Fig. 19　PL. 7）

◎位置　X72～73、Y186～187グリッド　◎面積　17.16㎡　◎長軸方位　N－1°－E　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸4.3m（2間）　短軸4.1m（2間）　◎柱間寸法　2.2m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 58 | 53 | 24 | P 5 | 49 | 49 | 28 |
| P 2 | 56 | 54 | 57 | P 6 | 113 | 66 | 57 |
| P 3 | 50 | 49 | 32 | P 7 | 148 | 59 | 27 |
| P 4 | 60 | 51 | 32 | P 8 | 57 | 48 | 26 |

B－11号掘立柱建物跡（Fig. 19　PL. 7）

◎位置　X69～70、Y184グリッド　◎面積　4.12㎡　◎長軸方位　N－78°－W　◎形状　遺構の大半が調査区外で、建物の南辺と思われる柱穴が検出されたのみである。明確な形状は不明である。長軸2.7m（2間）　◎柱間寸法　1.4m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| P 1 | 50 | 49 | 28 |
| P 2 | 52 | 49 | 29 |
| P 3 | 61 | 57 | 49 |

B－12号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．15　ＰＬ．７）

◎位置　X77～78、Y196～197グリッド　◎面積　21.22㎡　◎長軸方位　N－6°－W　◎形状　南北方向に延びる長方形を呈すものと思われる。長軸4.0m（現状２間）　短軸3.7m（２間）　◎柱間寸法　1.7m

◎柱穴

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P 1 | 72 | 61 | 58 | P 5 | 78 | 72 | 39 |
| P 2 | 57 | 57 | 59 | P 6 | 55 | 52 | 38 |
| P 3 | 53 | 53 | 56 | P 7 | 74 | 66 | 17 |
| P 4 | 99 | 53 | 45 | | | | |

Tab. 2　掘立柱建物跡一覧表

| 遺構名 | 主軸方向<br>棟方向 | 長軸(m)×短軸(m)<br>(　間)×(　間) | 柱間 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| B－1 | N－88°－E<br>E－W | 7.7　×　－<br>(3間) | 等間 | 側柱 |
| B－2 | N－7°－W<br>S－N | 4.6　×　4.5<br>(2間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－3 | N－83°－E<br>E－W | 4.1　×　4.0<br>(2間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－4 | N－5°－W<br>S－N | 4.0　×　3.5<br>(2間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－5 | N－11°－E<br>S－N | 6.0　×　4.2<br>(3間)　(2間) | 等間 | 総柱か |
| B－6 | N－12°－E<br>S－N | 5.2　×　4.0<br>(3間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－7 | N－15°－E<br>S－N | 5.5　×　4.2<br>(3間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－8 | N－1°－W<br>S－N | 4.4　×　－<br>(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－9 | N－13°－E<br>S－N | 3.8　×　－<br>(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－10 | N－1°－E<br>S－N | 4.3　×　4.1<br>(2間)　(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－11 | N－78°－W<br>E－W | 2.7　×　－<br>(2間) | 等間 | 側柱 |
| B－12 | N－6°－W<br>S－N | 4.0　×　3.7<br>(2間)　(2間) | 等間 | 側柱 |

## (3)　グリッド等出土遺物

奈良・平安時代の土器片（土師器、須恵器）、陶器片を中心に少数であるが縄文土器片を含め、総数985点の遺物が出土した。

## 2　考　　察

平成13年度の発掘調査の結果、８世紀初頭から10世紀末にかけての集落跡、遺構の内訳では住居跡29軒、掘立柱建物跡12棟が検出できた。検出した遺構は、調査区中央部にやや集中するが全体的に住居跡が広がっているのがわかる。平成13年度は、本遺跡の他にも発掘調査を実施した遺跡が２遺跡あるが、その内の荻窪鰯塚遺跡においてもほぼ同様な時期の集落跡が検出されている。位置は本遺跡の北西にあたる。両遺跡とも、赤城山南麓の赤城火山斜面上にあり、周囲に目をやると両遺跡を含む一帯が他よりやや高い台地上になっていることも分かる。このことから、荻窪鰯塚遺跡、荻窪倉兼遺跡をあわせて大きな集落が形成されていたのではないかと推測できる。

遺構の残存状況は全体的には比較的良好であったと言える。ただし、本調査地が元来どのような地形であったかは定かではないが、調査区中央部に位置する住居跡は、他と比較してやや壁の残りが悪く、浅いものが多いので表層の削平があったと推定できる。

◎竪穴住居跡

本遺跡で検出された住居跡は29軒で、調査区壁際での部分発掘となった遺構を除き、すべての住居跡で竈跡が確認できた。住居跡の形状は、長方形のものが最も多く、正方形に近いものも見られた。特に不整形であると思われる遺構は本遺跡では見られなかった。住居跡の規模については、本遺跡の中だけで見ると時代の新しい遺構の方が古い遺構に比べてやや小さかった。10世紀中頃のものと思われる遺構はその傾向が強かった。以下では時代の古い順に述べてみたい。

本遺跡で最も古い時期に属するのが８世紀初頭の住居跡である。検出数は４軒（Ｈ－13・14・19・27号住居跡）であった。規模は長軸3.7～5.5m、短軸3.1～4.9mと本遺跡の中では大きい。竈も、Ｈ－14号住居跡を除いて、煙道まで良好な状態で検出された。設置位置は東壁中央のものが２軒、中央からやや南寄りのものが２軒である。特にＨ－13号住居跡では、竈壁面を補強する目的で使用されたと思われる石材が確認された。このような特徴は、Ｈ－13号住居跡だけでなく本遺跡また、荻窪鰯塚遺跡の住居跡でも見られる。さらに、Ｈ－19号住居跡では、右袖部に長胴の甕と思われる土器が逆さに立った状態で検出された。こうした使用されなくなった土器を再利用して竈を構成する手法もやはり荻窪鰯塚遺跡で見られる。土器の変化をさぐる上で重要な資料である。８世紀代の住居跡に目をやると先述の４軒の他に、８世紀前半の所産と考えられる住居跡が４軒（Ｈ－３・24・28・29号住居跡）、また８世紀末頃の住居跡と思われるものが２軒（Ｈ－５・25号住居跡）検出されている。遺構の分布状況は、前者は調査区南壁に接して部分だけが検出されたＨ－３号住居跡を除いて、残りは調査区北側半分に集中している。後者については調査区南西隅に１軒と、調査区東壁中央より北寄りに１軒である。調査区全体を見ると10軒の住居跡の内７軒が調査区北半分のエリアに集まっていることが分かる。また、これは８世紀代の住居跡について言えることであるが、いずれも床面がしっかりしており、遺構確認面からの掘り込みも深い。それ故、その他の時代の新しい住居跡より残存状況が良好であったものと思われる。

続いて９世紀代であるが、この時期の遺構が本遺跡では最も少なかった。内訳は９世紀初頭のものが４軒（Ｈ－１・４・７・９号住居跡）、９世紀後半に属するものが１軒（Ｈ－２号住居跡）のみである。ただし、竈跡まで確認できた遺構は、９世紀初頭の住居跡３軒（Ｈ－１・７・９号住居跡）だけである。竈跡は３軒とも東壁の中央からやや南寄りに設置されていた。Ｈ－１号住居跡では、竈を構成していたと思われる石材が検出された。両袖部と、甞てその上に載っていたと考えられる横長の

ものが竈前面に落ちた形で確認された。遺構の残存状況は８世紀代のものと比べると、Ｈ－４号住居跡で床面に周溝が廻るなど、床面については基本的に堅緻なものであるが、壁にいたっては締まりが落ちておりやや悪いと言わざるを得ない。これは、住居作りの際の堀込みが浅かったのではないだろうか。８世紀前半のＨ－３号住居跡、９世紀後半のＨ－２号住居跡が重複関係にあり、まさにこの状況であった。なお、出土遺物は多くはないが土師器片を中心に出土しており、Ｈ－２号住居跡では黒色の椀、Ｈ－９号住居跡では文字の判別はつかないが墨書土器が出土している。

最後に10世紀代の住居跡であるが、10世紀は初頭から前半、半ば、後半から末にかけてと、それぞれの時期の遺構が検出されている。内訳は、10世紀前半の住居跡が２軒（Ｈ－17・26号住居跡）、10世紀半ばの住居跡が７軒（Ｈ－６・10・15・16・18・21・22号住居跡）、そして10世紀後半から末にかけての住居跡が４軒（Ｈ－11・12・20・23号住居跡）である。本遺跡の住居跡の検出数が29軒であるので、約４割に当たる。遺構の分布状況を見ると調査区の中央部に集中している。特に10世紀半ばの住居跡は遺構間の距離も少なくその傾向が顕著であった。10世紀代の住居跡の特徴は、いずれの住居跡も竈の設置場所が南東隅に移行している点が第一に上げられる。さらに、遺構の残存状況はかなり悪いといえる。中には床面が辛うじて確認できた程度のものもあった。遺構の規模も８世紀代のものと比べると小規模となっており、特に10世紀の半ばとなると長軸、短軸とも３ｍを切るほどであった。住居跡の壁部分の残りが悪いのは、本遺跡地本来の地形が中央部が高い丘状になっていて、後世の掘削を受けた為かと当初考えたが、浅い住居跡の隣に深い住居跡も検出されていることから、元々10世紀の住居跡は比較的浅かったとも思われる。出土遺物も多くなく、灰釉高台皿や羽釜片、土釜片が主体であった。

◎掘立柱建物跡

本遺跡地で検出された掘立柱建物跡は１２棟であったが、柱穴がすべて検出できた遺構はＢ－３・４・５・６・10号掘立柱建物跡のみである。以下では３つのグループに分類して述べてみたい。

第１はＢ－５・６号掘立柱建物跡である。本遺跡で検出した掘立柱建物跡の中で最も明確で、特徴も際だっている。この２棟の建物はＮ－12°－Ｅの主軸を持ち、軒を揃える形で並立している。Ｂ－６号掘立柱建物跡は２間×３間等間の側柱建物であった。これに対し、Ｂ－５号掘立柱建物跡は、一部撹乱を受けて柱穴が検出できなかった箇所があるため２間×３間の形状はＢ－６号掘立柱建物跡と同一であるが、総柱建物となるか側柱建物となるか明確な判断はできなかった。いずれにしても、このようにほぼ同規模の建物を並立させていること、建物の作りがよく似ていること、また建物同士の間隔などから、同時存在していたことが考えられ東側に開く重要な建物であった可能性が強い。遺構の時期については、灰釉高台皿などの出土遺物から10世紀後半から末にかけての遺構と考えられるＨ－12号住居跡とＢ－５号掘立柱建物跡が重複関係にあり、精査の結果Ｂ－５号掘立柱建物跡の方が先行することが分かった。建物の棟方向を本遺跡で検出した他の遺構と比較しても、10世紀代の住居跡と似ていることが分かる。また、調査区全体で見ると10世紀代の集落を構成する遺構が、調査区中央部に分布している点などを考慮すると、本遺構についても10世紀代の所産である可能性が強い。次の時期には１棟に減じて、Ｂ－７号掘立柱建物跡が建てられたのであろう。

第２は、Ｂ－２・12号掘立柱建物跡、Ｂ－３・４号掘立柱建物跡に見られるように同一の場所に建て替えを試みたと考えられる事案で分類してみた。Ｂ－２・12号掘立柱建物跡についてはほとんど位置を変えることなく、かつ建物の規模もほぼ同程度のものと思われる。ここでは掘立柱建物跡として

組んだ柱穴以外にそれとなりうる穴が見当たらないことから、同一の規模、場所で建て替えが行われた。それに対しＢ－３・４号掘立柱建物跡では、その位置や建物の軸線に変化が見られることから、時期的に異なる時点での建て替えが考えられる。これら４棟の所在していた時期であるが、Ｂ－４号掘立柱建物跡がＨ－５号住居跡と重複関係にあり新旧では本遺構の方が新しいことなどから、９世紀前半以降の所産であることは明確である。また、このように建て替えが行われていたこととすれば、この地にある程度継続して人々が生活していたことが窺える。建物として集落内で必要不可欠のものであった可能性が強く、平面形が方形に近いこと、10世紀の竪穴住居群のはずれに位置することなどから総柱建物の倉庫である可能性がある。

最後に、Ｂ－10号掘立柱建物跡であるが、形状はほぼ正方形で２間×２間等間の側柱建物である。本遺構も柱穴が集中して開いている部分が確認できることから、先述した４棟のように若干の手直しがされていた可能性がある。本遺構も出土遺物は無いが、柱穴が小さく浅いこと、柱筋が通らない部分があることなどを考慮すると、近世的な掘立柱建物であることも考慮する必要がある。

平成13年度に調査した荻窪東爪、荻窪鰯塚、荻窪倉兼の３遺跡ともに台地上に位置するため集落跡しか検出できなかった。しかし、周辺の谷筋に沿って水田も開けていたことであろう。また、集落のとぎれる台地上では畑も存在していたと思われるが検出はされていない。今後こうした部分にも調査の手が入り、より詳細なこの地の古代が解明されることを願い結びとしたい。

Ｔａｂ．３　荻窪倉兼遺跡土器観察表

| 番号 | 出土位置 | 器形 | 大きさ | | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存 | 器形の特徴・成形・調整技法 | 備考 | Fig |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 口径 | 器高 | | | | | | | |
| 1 | H－1 | 坏 | 12.0 | 3.9 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | 完形 | 底部は平底傾向が強い。体部は直線的に外傾し口縁部が僅かに直立する。外面横方向に篦調整、内面横撫で、指頭調整痕あり。全体的に器肉が厚く内側が緩やかなボール状を呈す。 | | 20 |
| 2 | H－1 | 椀 | 12.4 | 5.1 | 細粒 | 良好 | 灰白 | 7／8 | 轆轤成形。底部は回転糸切り後篦調整。高台は口径の約半分の底径を持ち緩く「ハ」字状に開く。外面は僅かに内湾気味に立ち上がり、一部自然釉が確認できる。内面撫で調整。 | | 20 |
| 3 | H－1 | 甕 | [21.3] | － | 細粒 | 良好 | 橙 | 口縁部 | 外面横方向に篦削り後、篦調整が見られる。内面横撫で調整。口縁部は基本的に「コ」字状を呈すもののあまり明瞭ではない。横撫で調整される。 | | 20 |
| 4 | H－2 | 椀 | 12.4 | 5.2 | 中粒 | 良好 | 赤橙 | 3／4 | 轆轤成形。底部回転糸切り後、撫で調整。外面は篦削り、口縁部のみ篦磨きされる。下位は横撫で。内面は全面黒色処理されており、全体的に篦磨きされる。体部中位まで内湾し、上位から口縁部にかけて外反し開く。高台は雑な作りで僅かに外傾する。 | 黒色土器 | 20 |
| 5 | H－3 | 坏 | [13.2] | (3.0) | 細粒 | 良好 | 灰褐 | 1／4 | 丸底を呈し口縁部先端がやや強く内湾する。外面篦削り、内面撫で調整。指頭調整痕あり。 | | 20 |
| 6 | H－5 | 蓋 | [14.6] | － | 細粒 | 良好 | 灰 | 1／4 | 轆轤成形。器高は低く平たい形状。内面撫で調整。 | | 20 |
| 7 | H－5 | 坏 | 12.5 | 2.9 | 細粒 | 良好 | 灰褐 | 2／3 | 平底で外面は直立気味に立ち上がり、篦削り。口縁部、内面ともに横撫で調整。 | | 20 |
| 8 | H－5 | 坏 | [12.5] | 3.8 | 細粒 | 良好 | 灰白 | 3／4 | 轆轤成形。底部は平底で篦調整される。体部下位から中位にかけては内湾気味に立ち上がり、口縁部にかけて僅かに外傾し開く。内面撫で調整。 | | 20 |
| 9 | H－5 | 坏 | 12.6 | 4.6 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ほぼ完形 | 轆轤成形。平底を呈す。外面は直線的に外傾気味に立ち上がる。内面は撫で調整。 | | 20 |
| 10 | H－5 | 坏 | [14.0] | 4.1 | 細粒 | 良好 | 灰白 | 1／3 | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。体部はほぼ直線的に外傾し開く。やや器肉は厚い。内面横撫で調整。底部内側がやや盛り上がる傾向にある。 | | 20 |
| 11 | H－5 | 横瓶 | － | － | 細粒 | 良好 | 灰 | 1／5 | 外面は叩き調整。自然釉が所々で確認できる。内面は撫で調整されるが、やや凸凹している。 | | 20 |
| 12 | H－6 | 坏 | 13.7 | 4.0 | 中粒 | 良好 | 灰白 | 1／2 | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。平底を呈す。体部中位までは外傾し口縁部にかけて、より外傾の度合いを増す。内面は撫で調整。 | | 20 |
| 13 | H－9 | 甕 | 20.5 | (22.5) | 細粒 | 良好 | 赤 | 1／3 | 肩部に最大径を持つ。体部は右斜め方向に篦削り後撫で調整される。肩部には棒状のもので付けたと思われる縦方向の筋が多数見られる。口縁部は基本的に「コ」字状を呈するが、やや崩れる。内面は撫で調整される。 | | 20 |
| 14 | H－9 | 坏 | [13.8] | － | 細粒 | 良好 | 灰白 | 1／4 | 轆轤成形。口縁部がかなり歪む。内面に一部墨書が確認できるが文字の判別はつかない。内面は横撫で調整。 | 墨書土器 | 20 |
| 15 | H－9 | 椀 | 13.9 | － | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | 1／2 | 轆轤成形。底部欠損。体部緩く内湾気味に立ち上がり口縁先端が外反し開く。内面横撫で調整。器肉はやや薄い。 | | 20 |
| 16 | H－10 | 羽釜 | [20.0] | (13.5) | 中粒 | 良好 | 明赤褐 | 1／8 | 外面篦削り後撫で調整。内面撫で調整。鍔部は断面逆三角形を呈す。口縁部は僅かに内傾するがほぼ直立する。 | | 20 |
| 17 | H－11 | 椀 | 10.7 | 4.6 | 細粒 | 良好 | にぶい黄橙 | 1／2 | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台は外反し開く。体部内湾気味に立ち上がり、内面は黒色処理を施され全面に篦磨きされる。 | 黒色土器 | 21 |
| 18 | H－11 | 灰釉高台皿 | 12.3 | 2.1 | 細粒 | 良好 | 灰白 | 3／4 | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台は低く断面四角形で直立する。口縁部の内外を刷毛塗りで施釉される。 | | 21 |
| 19 | H－12 | 灰釉高台皿 | [12.4] | 2.6 | 細粒 | 良好 | 灰白 | 1／3 | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台は低く断面逆三角形で直立する。施釉方法はどぶ付けで、施釉範囲は口縁部のみである。 | | 21 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | H－１２ | 椀 | [11.2] | 4.1 | 粗粒 | 良好 | にぶい橙 | １／２ | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台の作りは雑で、緩く「ハ」字状を呈し断面四角形である。体部は下位から中位にかけて内湾し、口縁部にかけては緩く外反する。口縁部横撫で、内面撫で調整。 | | 21 |
| 21 | H－１２ | 羽釜 | [21.7] | (9.4) | 中粒 | 良好 | 明赤褐 | 口縁部 1/3 | 体部篦削り後撫で調整。口縁部は短くほぼ直立し、内面は横撫で。鍔部は断面逆三角形を呈す。 | | 21 |
| 22 | H－１３ | 坏 | [14.2] | 4.1 | 中粒 | 良好 | 灰 | 口縁部 3/4 | 轆轤成形。底部回転糸切り後周辺部のみ篦調整。体部は緩く内湾気味に立ち上がる。内面撫で調整。器全体が楕円形に歪む。 | | 21 |
| 23 | H－１３ | 坏 | 13.0 | 3.6 | 細粒 | 良好 | 橙 | ほぼ完形 | 丸底を呈し体部篦削り、内面は撫で調整。指頭調整痕有り。口縁部は「C」字状に強く内湾し、横撫で調整される。 | | 21 |
| 24 | H－１３ | 坏 | 13.3 | 4.1 | 細粒 | 良好 | 灰白 | ４／５ | 轆轤成形。底部回転篦切り後篦調整。体部は直線的に外傾し開く。内面撫で調整。 | | 21 |
| 25 | H－１３ | 坏 | [15.6] | 4.2 | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | １／３ | 底部は平底傾向が強いが僅かに丸みを帯びる。外面篦削り。内面は口縁部横撫で調整、指頭調整痕有り。 | | 21 |
| 26 | H－１３ | 坏 | [12.0] | (2.4) | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | １／３ | 丸底を呈す。外面篦削り、内面は横撫で調整、指頭調整痕有り。口縁部はやや強く内湾し横撫で調整される。 | | 21 |
| 27 | H－１３ | 甕 | [24.0] | (21.1) | 中粒 | 良好 | 赤 | １／３ | 体部中位に最大径を持つ。体部は右斜め方向に篦削り後撫で調整される。口縁部は横撫で調整され指頭調整痕が多く見られる。また、弱く「く」字状に外傾し開く。内面撫で調整。 | | 21 |
| 28 | H－１３ | 長胴甕 | [23.4] | (16.5) | 中粒 | 良好 | にぶい褐 | １／６ | 口縁部に最大径を持つ。体部は丸みを帯びずほぼ直線的で縦方向に篦削りされる。口縁部は外傾し先端はやや外反し開く。内面撫で調整。 | | 21 |
| 29 | H－１４ | 坏 | 11.2 | 3.7 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ３／４ | 丸底を呈す。外面は篦削りで、底部全面に煤が付着する。口縁先端部のみ横撫で調整。内面横撫で調整。体部は内湾し立ち上がり口縁先端が内側に折り込まれる。 | | 21 |
| 30 | H－１５ | ﾐﾆﾁｭｱ土器 | － | － | 細粒 | 良好 | 灰黄褐 | １／２ | 篦削り後、篦調整。 | 壺か？ | 21 |
| 32 | H－１５ | 羽釜 | [21.5] | (8.5) | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | 口縁部 1/3 | 体部篦調整。口縁部は僅かに内傾するがほぼ直立する。鍔部は断面逆三角形を呈す。内面は撫で調整。 | | 22 |
| 33 | H－１６ | 坏 | 14.2 | 3.8 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ３／４ | 緩やかな丸底を呈す。外面篦削り、篦調整。内面撫で調整、指頭調整痕有り。口縁部は内湾気味に開き横撫でされる。 | | 22 |
| 34 | H－１６ | 蓋 | [16.0] | － | 中粒 | 良好 | 灰 | １／３ | 轆轤成形。外面篦調整、内面撫で調整。内側にかえり有り。 | | 22 |
| 35 | H－１６ | 蓋 | 16.0 | 2.6 | 細粒 | 良好 | 灰 | １／２ | 轆轤成形。外面篦調整、内面撫で調整。 | | 22 |
| 36 | H－１７ | 羽釜 | [20.0] | (10.5) | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | 口縁部 1/4 | 外面横方向に篦調整、横撫で調整有り。内面撫で調整。鍔部は断面逆三角形を呈し、口縁部は短く内傾し立ち上がる。 | | 22 |
| 37 | H－１９ | 長胴甕 | 22.7 | (29.2) | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | ４／５ | 口縁部に最大径を持つ。体部中位に丸みを帯びる。底部は欠損するが非常に小さいものと思われる。外面は全体的に縦方向に篦削りされる。内面撫で調整。口縁部は強く外反し水平に開き横撫で調整される。 | | 22 |
| 38 | H－１９ | 長胴甕 | 20.0 | － | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | １／５ | 体部右斜め方向に篦削り。あまり膨らみを持たず最大径は口縁部にある。口縁部は強く外反し開き、横撫でされる。内面も同様。 | | 22 |
| 39 | H－１９ | 坏 | 11.4 | 3.5 | 細粒 | 良好 | 橙 | ５／６ | 丸底を呈し篦調整。口縁部は強く内湾し「C」字状を成し横撫でされる。内面撫で調整。 | | 22 |
| 40 | H－２０ | 坏 | 10.2 | 3.5 | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | ほぼ完形 | 轆轤成形。底部は平底で底径は小さい。外面篦調整で口縁部のみ横撫でされる。左斜め方向に刻線が多数有り。内面横撫で調整。 | | 22 |
| 41 | H－２０ | 羽釜 | [22.4] | (14.7) | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | 口縁部 1/4 | 外面篦調整。口縁部は横撫でされ短く直立し口縁先端は外反する。鍔部断面三角形を呈し撫で調整される。内面は撫で調整。 | | 22 |
| 42 | H－２０ | 灰釉高台椀 | [13.6] | 6.4 | 細粒 | 良好 | 灰白 | １／４ | 轆轤成形。底部回転糸切り後未調整。高台は僅かに「ハ」字状を呈し断面四角形。施釉が見られ方法はどぶ付けである。 | | 22 |
| 43 | H－２３ | 坏 | 10.4 | 3.2 | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | ３／４ | 轆轤成形。底部回転糸切り未調整。内、外面とも撫で調整。 | | 22 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44 | H－２３ | 高台皿 | [11.3] | (2.9) | 中粒 | 良好 | 明褐灰 | １／３ | 轆轤成形。高台はやや厚手で「ハ」字状に開く。内、外面とも撫で調整。 | | 22 |
| 45 | H－２３ | 土釜 | [22.4] | (14.1) | 中粒 | 良好 | 橙 | １／５ | 体部縦方向に篦削り。口縁部短く外反し横撫でされる。全体的に器肉が厚手である。 | | 23 |
| 46 | H－２３ | 土釜 | [21.4] | (11.8) | 細粒 | 良好 | にぶい黄橙 | １／５ | 体部横方向に篦削りを施し縦方向に撫で調整される。口縁部は内外面とも横撫でされやや外反気味に立ち上がり開く。また、他の部位と比較して器肉は厚い。 | | 23 |
| 47 | H－２４ | 坏 | [13.4] | 3.5 | 細粒 | 良好 | 灰 | ２／３ | 轆轤成形。底部回転糸切り後未調整。内、外面とも撫で調整。 | | 23 |
| 48 | H－２４ | 長胴甕 | [22.6] | － | 細粒 | 良好 | 橙 | 口縁部 1/2 | 体部右斜め方向に篦削り。口縁部は横撫でされ強く外反し水平に近い形で開く。最大径は口縁部先端にある。内面は横方向に篦削り、口縁部は横撫でされる。 | | 23 |
| 49 | H－２４ | 蓋 | [9.8] | － | 細粒 | 良好 | 灰 | １／２ | 轆轤成形。内、外面とも篦調整。かえり有り。 | | 23 |
| 50 | H－２５ | 甕 | [27.2] | － | 細粒 | 良好 | 灰 | 口縁部 1/3 | 肩部の器肉は厚い。内面に青海波紋が見られる。 | | 23 |
| 51 | H－２５ | 甕 | 19.6 | － | 細粒 | 良好 | 橙 | １／６ | 体部上位に最大径を持つ。外面は篦削りされる。内面撫で調整、指頭調整痕有り。口縁部は明瞭に「コ」字状を成し横撫で調整される。 | | 23 |
| 52 | H－２５ | 甕 | 19.2 | (17.5) | 細粒 | 良好 | 橙 | １／５ | 体部上位に最大径を持つ。外面は横方向に篦削りされた後撫で調整される。内面撫で調整、指頭調整痕有り。口縁部は弱い「コ」字状を呈し横撫で調整される。 | | 23 |
| 53 | H－２６ | 椀 | 13.8 | 4.3 | 細粒 | 良好 | 灰白 | ３／４ | 轆轤成形。底部回転糸切り後未調整。高台は低く断面四角形。体部の外面及び内面底部に墨書が確認できる。どちらも同一の文字で「吉」と判別できる。 | 墨書土器 | 23 |
| 54 | H－２６ | 椀 | [13.8] | 5.0 | 細粒 | 良好 | 灰白 | １／３ | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台は低く断面四角形。体部は緩やかに内湾気味に立ち上がり口縁部は弱く外反し開く。 | | 23 |
| 55 | H－２６ | 甕 | 22.2 | 25.7 | 中粒 | 良好 | にぶい橙 | ４／５ | 体部上位に最大径を持つ。底径は非常に小さい。体部上位は横方向、中位から下位にかけては縦方向に篦削りされる。口縁部は非常に明瞭に「コ」字状を呈し、器肉も厚手である。内面撫で調整。 | | 23 |
| 56 | H－２６ | 羽釜 | [22.8] | (22.5) | 中粒 | 良好 | 灰白 | １／４ | 体部は縦方向に篦削りされ、所々に指頭調整痕有り。口縁部は横撫でされ短く、僅かに内傾する。内面にも多数指頭調整痕有り。鍔部は断面三角形で横撫で調整される。 | | 24 |
| 57 | H－２６ | 椀 | [14.4] | 5.2 | 中粒 | 良好 | 灰白 | １／４ | 轆轤成形。高台は低く断面四角形を呈す。体部下位で丸みを帯び上位から口縁部にかけて僅かに外反し開く。 | | 24 |
| 58 | H－２６ | 椀 | [13.6] | 5.3 | 細粒 | 良好 | 灰白 | ２／５ | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。体部下位で丸みを帯びる他は口縁部までほぼ直線的に開く。高台は低く直立する。 | | 24 |
| 59 | H－２７ | 坏 | 14.6 | 4.7 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ２／３ | 丸底を呈し外面は全体的に篦削りされる。口縁部は横撫で調整され、内湾傾向が強いが「C」字状までには至らない。内面撫で調整及び指頭調整痕有り。 | | 24 |
| 60 | H－２７ | 坏 | 13.4 | 3.7 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ３／４ | 丸底を呈し外面は全体的に篦削りされる。口縁部は横撫で調整され、内湾傾向が強いが「C」字状までには至らない。内面は撫で調整及び指頭調整痕有り。 | | 24 |
| 61 | H－２７ | 坏 | [12.5] | 3.2 | 細粒 | 良好 | 明赤褐 | １／２ | 底部は僅かに丸みを帯びる程度で平底傾向が伺える。外面篦削りで、口縁部は内湾気味に立ち上がり横撫で調整される。内面は横撫で調整、指頭調整痕有り。 | | 24 |
| 62 | H－２７ | 蓋 | [18.4] | － | 細粒 | 良好 | 灰白 | １／６ | 轆轤成形。器高が高くドーム状の形状を成す。かえり有り。 | | 24 |
| 63 | H－２８ | 坏 | [16.4] | 3.0 | 細粒 | 良好 | 橙 | １／６ | 丸底を呈し、口縁部は外反し開く。外面篦削り、口縁部横撫で調整。内面撫で調整。 | | 24 |
| 64 | H－２９ | 坏 | 17.6 | 4.6 | 中粒 | 良好 | 橙 | ２／３ | 丸底を呈す。外面篦削り、口縁部は横撫でされる。内面横撫で調整、指頭調整痕有り。 | | 24 |
| 65 | H－２９ | 坏 | 11.6 | 3.1 | 細粒 | 良好 | 橙 | ２／３ | 丸底を呈す。外面篦削り、口縁部は横撫で調整され強く内湾し「C」字状を成す。内面撫で調整、指頭調整痕有り。 | | 24 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 66 | H－２９ | 坏 | [12.8] | 3.4 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | １／３ | 丸底を呈す。外面篦削り。口縁部は強く横撫でされほぼ直立する。内面撫で調整、指頭調整痕有り。 | | 24 |
| 67 | H－２９ | 長胴甕 | [25.0] | － | 中粒 | 良好 | にぶい黄橙 | １／６ | 口縁部に最大径を持つ。体部は篦削りされ、丸みを帯びずほぼ直線的である。口縁部は強く外反し水平に開き横撫で調整される。内面撫で調整。 | | 24 |
| 68 | 表採 | 椀 | [15.6] | 6.1 | 細粒 | 良好 | にぶい橙 | ２／３ | 轆轤成形。底部回転糸切り後篦調整。高台は「ハ」字状の傾向が見られる。体部は内湾気味に立ち上がり口縁部は緩く外反し開く。口縁部及び内面全体に篦磨きが施される。 | | 24 |

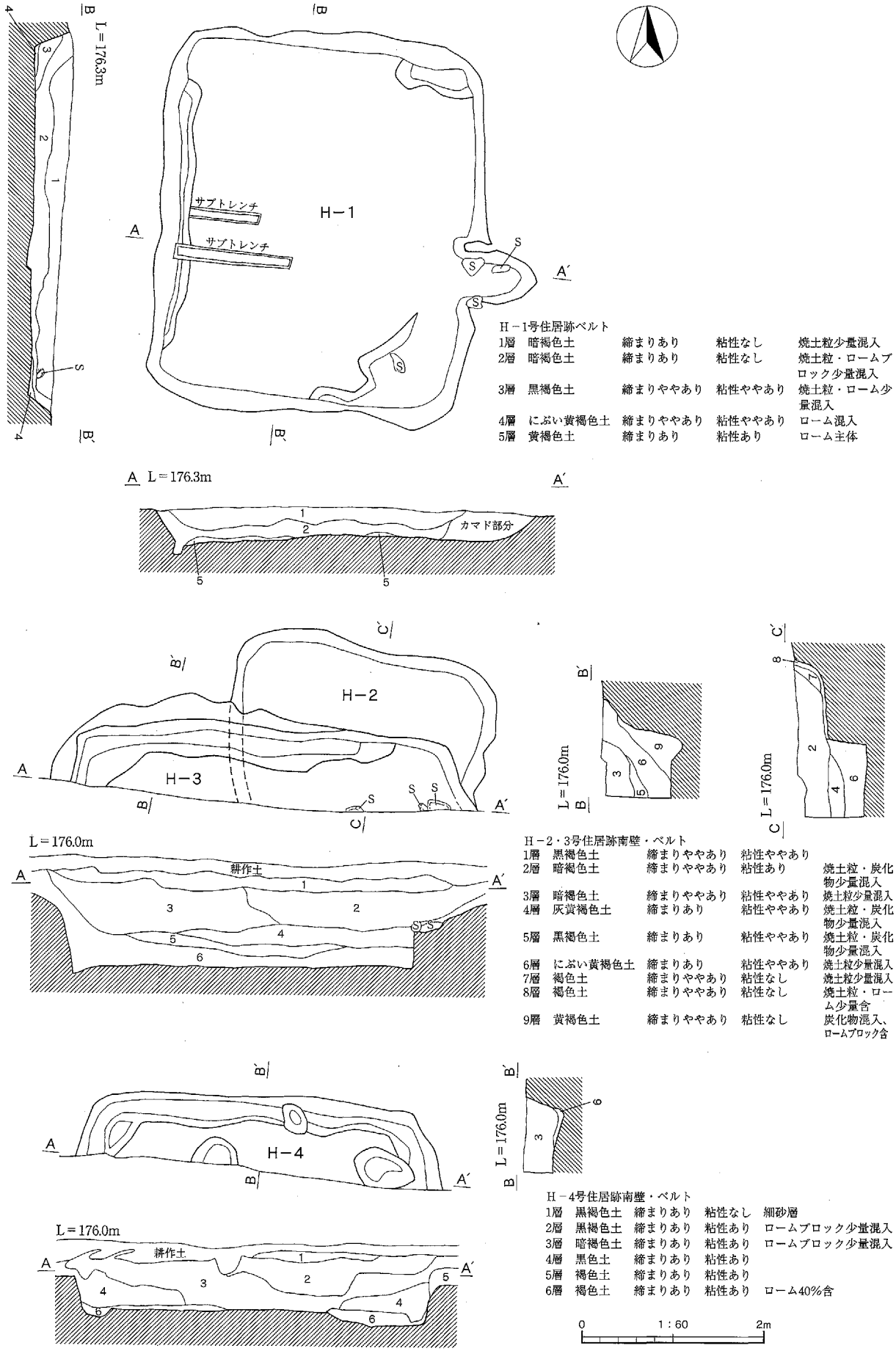
注）表の記載は、以下の基準で行った。
① 胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名を記載した。
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
③ 色調は、土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帖』に拠った。
④ 大きさの単位は㎝であり、現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

## Ｔａｂ．４　荻窪倉兼遺跡鉄製品観察表

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 長さ（㎝） | 幅（㎝） | 厚さ（㎝） | 重さ（ｇ） | 備考 | Fig. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－6 | 刀子 | 14.7 | 1.2 | 0.4 | 18.2 | | 25 |
| 2 | H－7 | 刀子 | 9.3 | 1 | 0.5 | 11.2 | | 25 |
| 3 | H－１１ | 紡錘車 | 4.9 | 5.3 | 0.4 | 24.2 | | 25 |
| 4 | H－２１ | 鎌 | 18.2 | 4.3 | 0.5 | 98.0 | | 25 |
| 5 | H－２１ | 刀子 | 10.9 | 3.1 | 0.4 | 32.0 | | 25 |
| 6 | H－２１ | 刀子 | 15.8 | 1.3 | 0.4 | 27.6 | | 25 |
| 7 | H－２２ | 刀子 | 6.3 | 1.4 | 0.5 | 10.2 | | 25 |
| 8 | H－２５ | 刀子 | 18.7 | 1.9 | 0.4 | 38.0 | | 25 |

## Ｔａｂ．５　荻窪倉兼遺跡石製品観察表

| 番号 | 出土位置 | 種類 | 長さ（㎝） | 幅（㎝） | 厚さ（㎝） | 重さ（ｇ） | 石材 | 特徴 | 備考 | Fig. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | H－１５ | 砥石 | 5.8 | 3.5 | 3.5 | 75 | 流紋岩 | ４面使用 | | 25 |
| 69 | H－２５ | 砥石 | 12.0 | 6.8 | 4.5 | 300 | 流紋岩 | ２面使用 | | 25 |




H－1号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・ロームブロック少量混入 |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ローム少量混入 |
| 4層 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | ローム混入 |
| 5層 | 黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム主体 |

H－2・3号住居跡南壁・ベルト

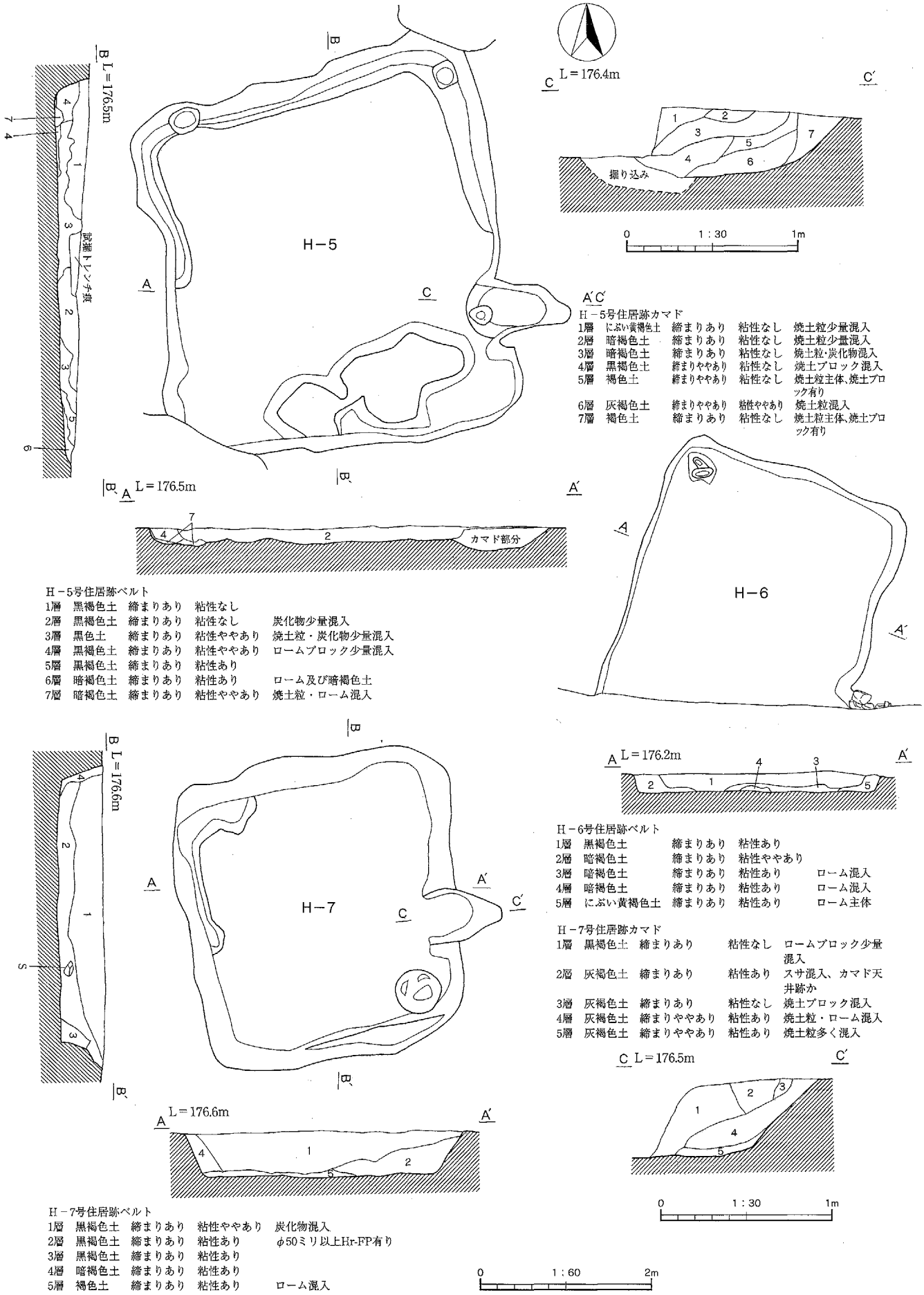
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒・炭化物少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入 |
| 4層 | 灰黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物少量混入 |
| 5層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物少量混入 |
| 6層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入 |
| 7層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 8層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒・ローム少量含 |
| 9層 | 黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 炭化物混入、ロームブロック含 |

H－4号住居跡南壁・ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 細砂層 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 4層 | 黒色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 5層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 6層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム40%含 |

0　1：60　2m

Fig. 5　H－1・2・3・4号住居跡




H−5号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・炭化物混入 |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土ブロック混入 |
| 5層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒主体、焼土ブロック有り |
| 6層 | 灰褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒混入 |
| 7層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒主体、焼土ブロック有り |

H−5号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 炭化物少量混入 |
| 3層 | 黒色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物少量混入 |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ロームブロック少量混入 |
| 5層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 6層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム及び暗褐色土 |
| 7層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ローム混入 |

H−6号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |
| 5層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム主体 |

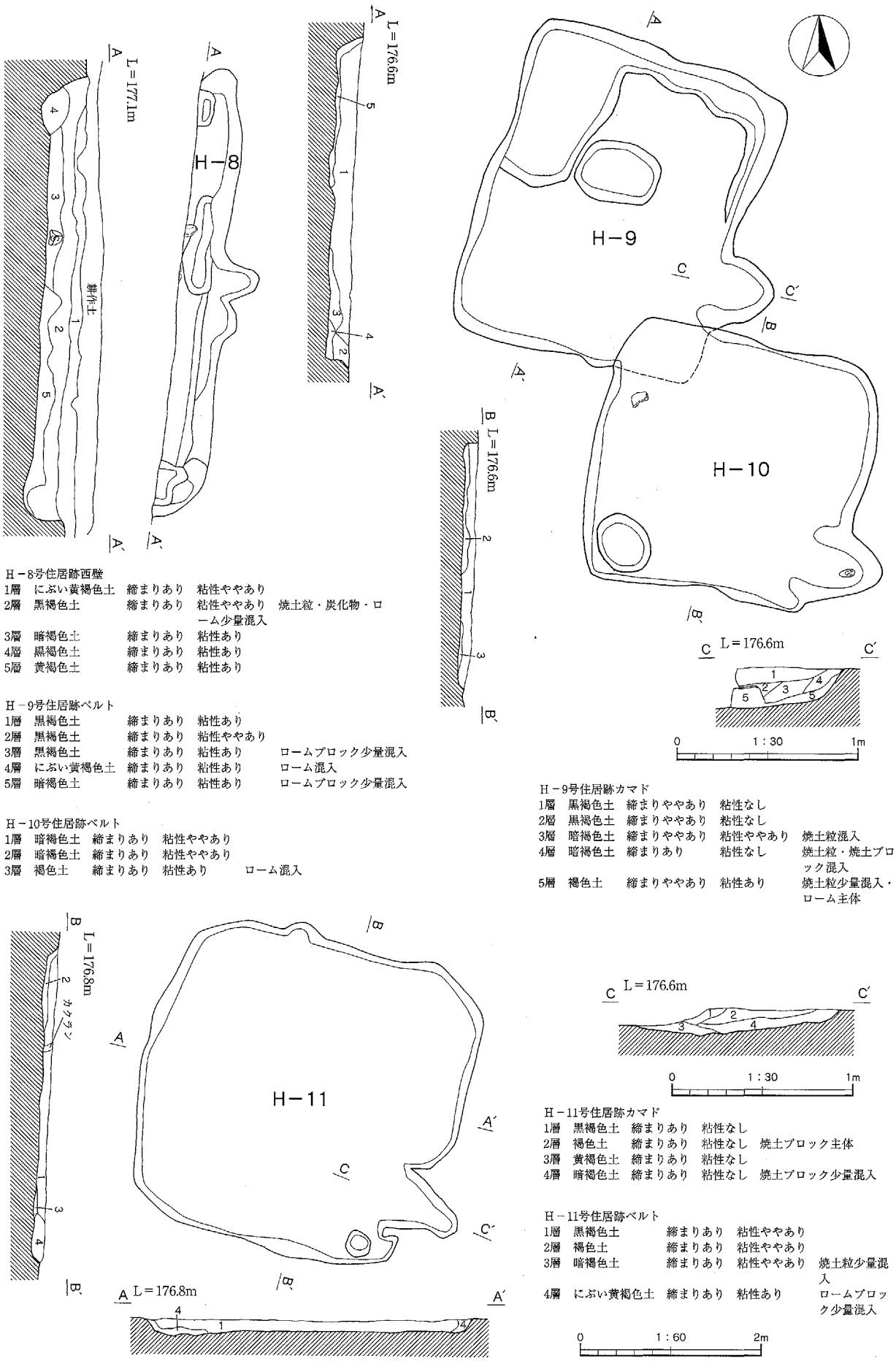
H−7号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ロームブロック少量混入 |
| 2層 | 灰褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | スサ混入、カマド天井跡か |
| 3層 | 灰褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土ブロック混入 |
| 4層 | 灰褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒・ローム混入 |
| 5層 | 灰褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒多く混入 |

H−7号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 炭化物混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | φ50ミリ以上Hr-FP有り |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 5層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |

Fig. 6　H−5・6・7号住居跡




H－8号住居跡西壁

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物・ローム少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 5層 | 黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |

H－9号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 4層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |

H－10号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |

H－9号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・焼土ブロック混入 |
| 5層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒少量混入・ローム主体 |

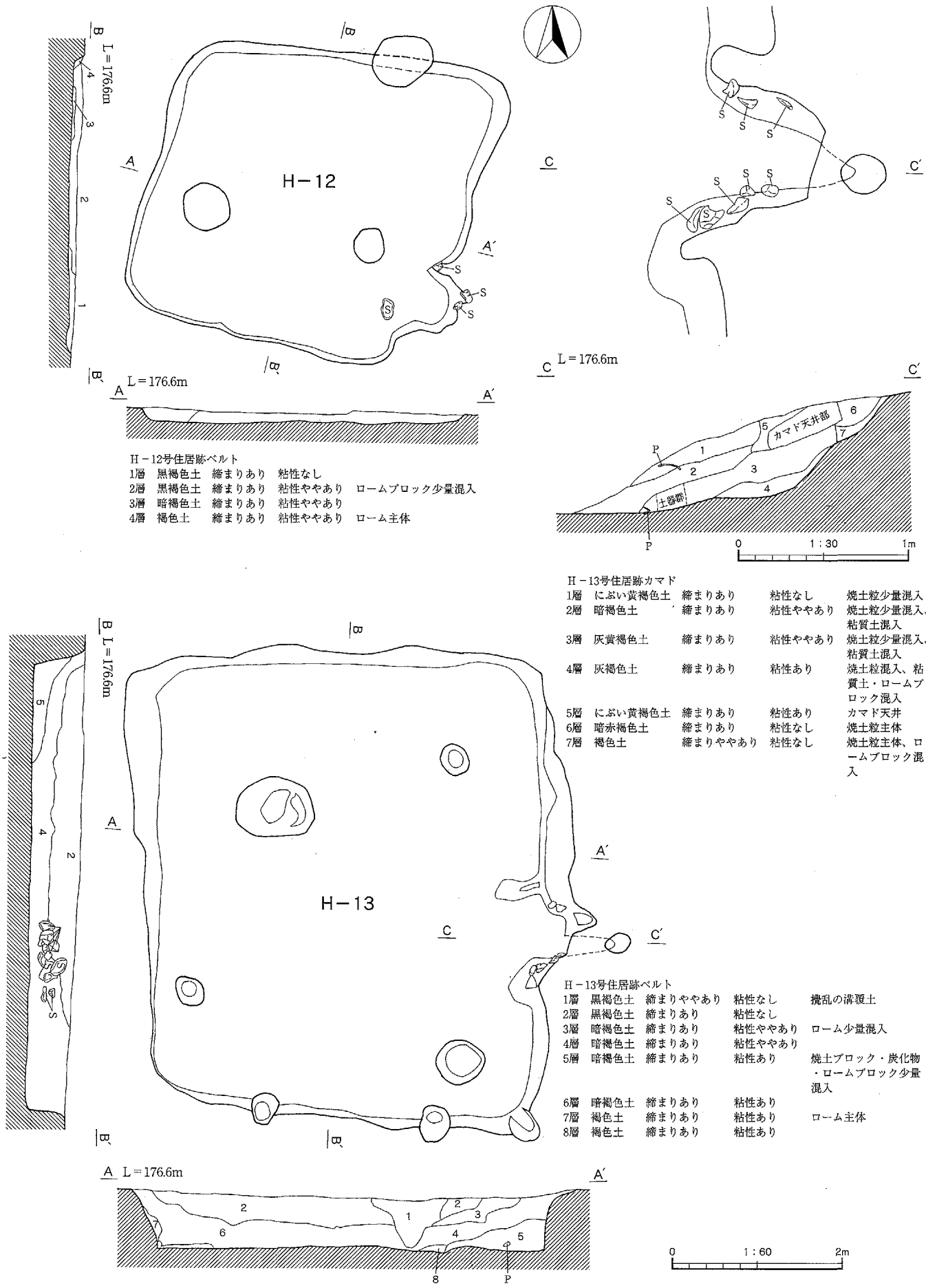
H－11号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | |
| 2層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土ブロック主体 |
| 3層 | 黄褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土ブロック少量混入 |

H－11号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入 |
| 4層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |

Fig. 7　H－8・9・10・11号住居跡




H－12号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ロームブロック少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 4層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ローム主体 |

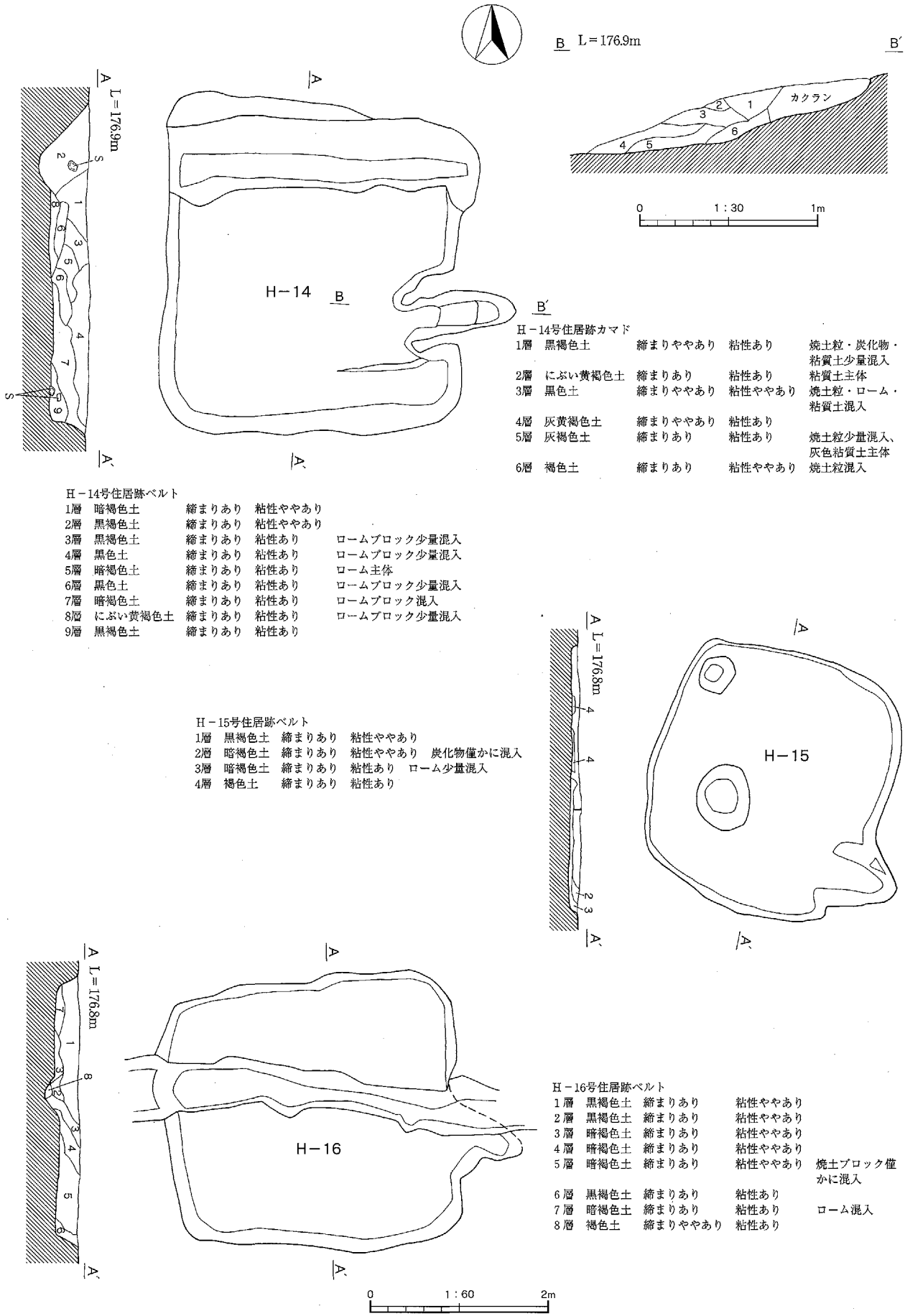
H－13号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入、粘質土混入 |
| 3層 | 灰黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入、粘質土混入 |
| 4層 | 灰褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒混入、粘質土・ロームブロック混入 |
| 5層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | カマド天井 |
| 6層 | 暗赤褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒主体 |
| 7層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒主体、ロームブロック混入 |

H－13号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 攪乱の溝覆土 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ローム少量混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量混入 |
| 6層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 7層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム主体 |
| 8層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |

Fig. 8　H－12・13号住居跡




H－14号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒・炭化物・粘質土少量混入 |
| 2層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 粘質土主体 |
| 3層 | 黒色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ローム・粘質土混入 |
| 4層 | 灰黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 5層 | 灰褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒少量混入、灰色粘質土主体 |
| 6層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒混入 |

H－14号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 4層 | 黒色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム主体 |
| 6層 | 黒色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 7層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック混入 |
| 8層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック少量混入 |
| 9層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |

H－15号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 炭化物僅かに混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム少量混入 |
| 4層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |

H－16号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土ブロック僅かに混入 |
| 6層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 7層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム混入 |
| 8層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |

Fig. 9 H－14・15・16号住居跡

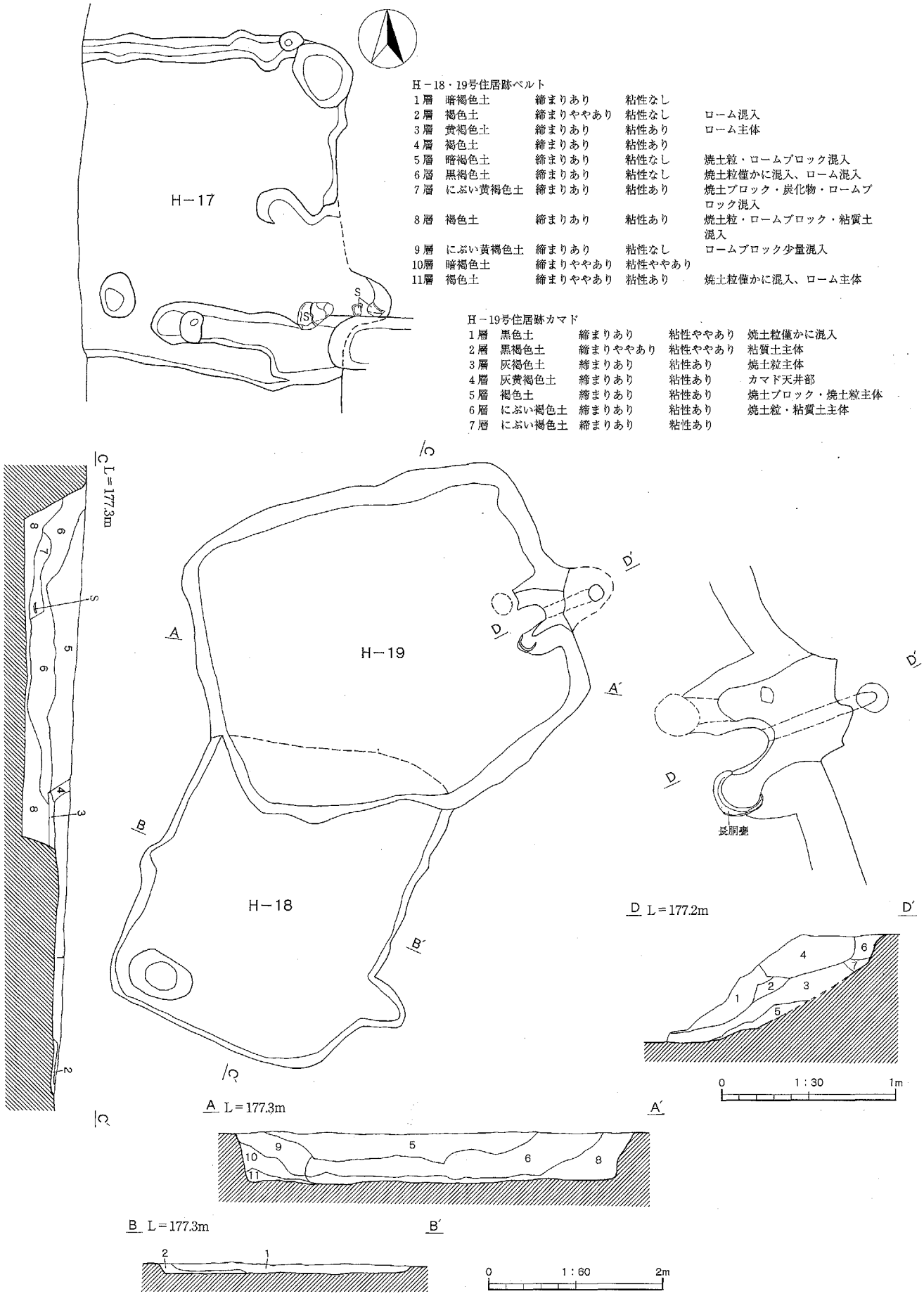
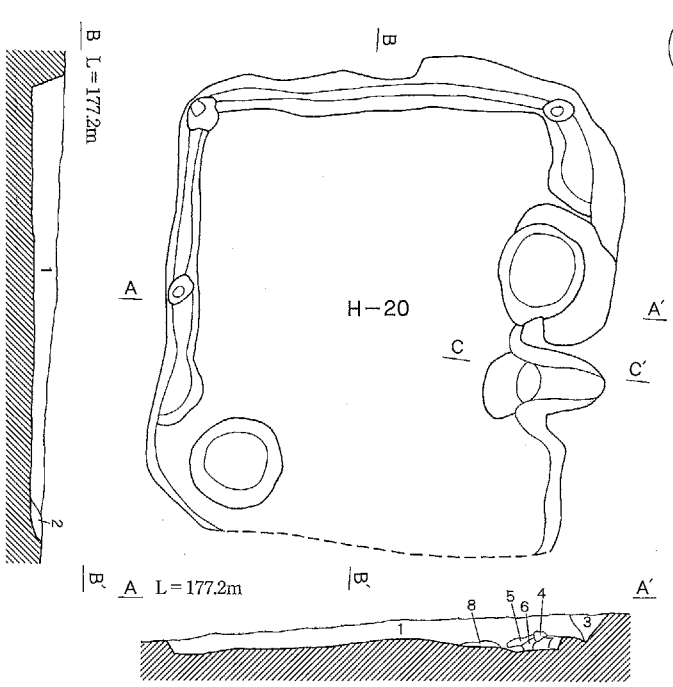
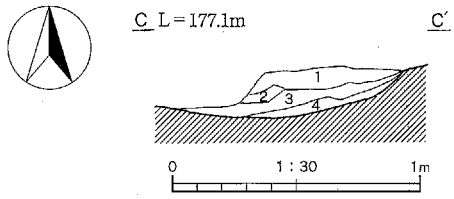



Fig. 10 H－17・18・19号住居跡



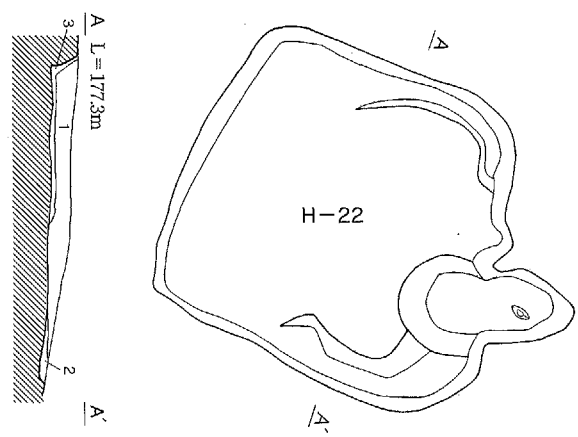



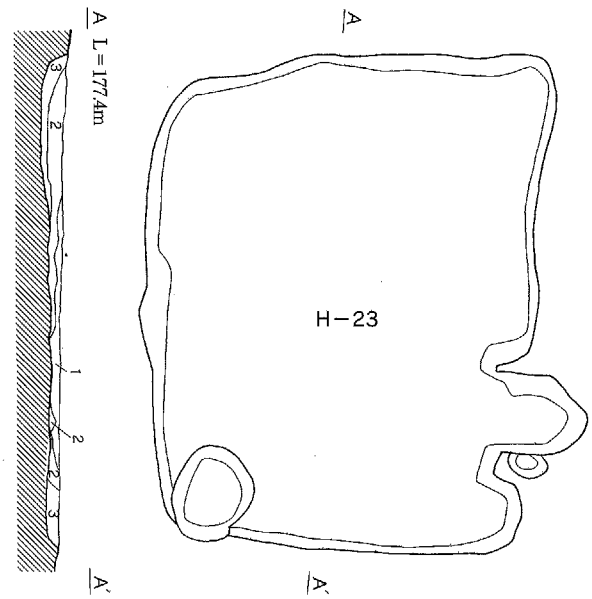

H－20号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入、粘質土主体 |
| 2層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入、粘質土主体 |
| 3層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒混入 |
| 4層 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | ローム主体 |

H－20号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 4層 | 明赤褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒主体 |
| 5層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒少量混入 |
| 6層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒少量混入 |
| 7層 | 灰黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒僅かに混入、粘質土主体 |
| 8層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム |



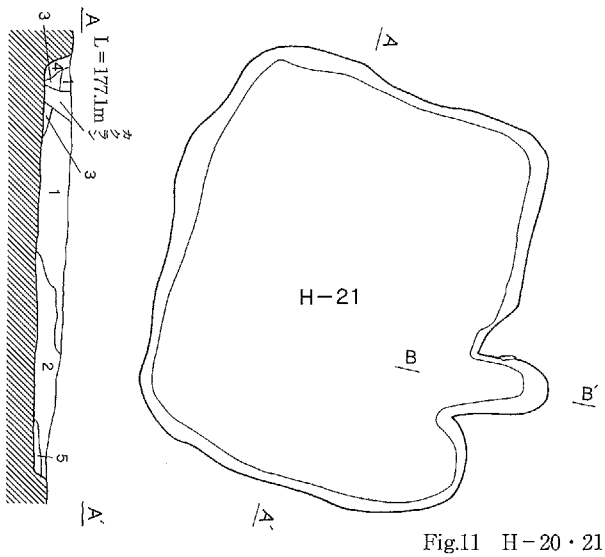



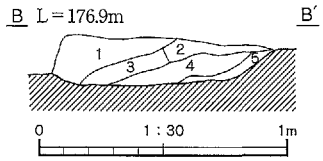

H－22号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 炭化物混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ローム混入 |

H－23号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・ロームブロック混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 炭化物・ロームブロック混入 |
| 3層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ロームブロック混入 |




H－21号住居跡カマド

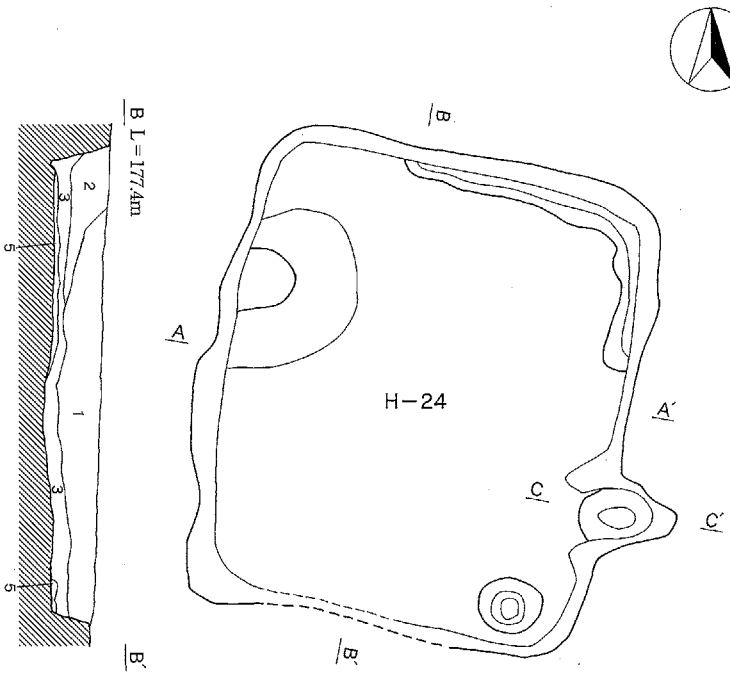
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・炭化物僅かに混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土ブロック混入 |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒僅かに混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒主体 |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ローム少量混入 |

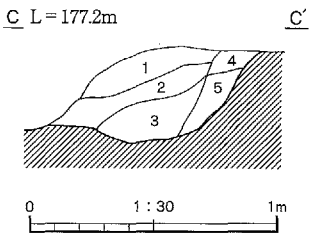
H－21号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | ロームブロック僅かに混入 |
| 5層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |

0　1：60　2m

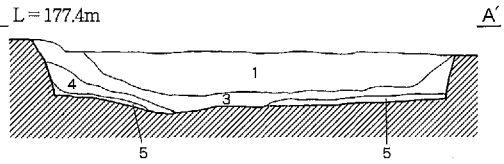
Fig.11　H－20・21・22・23号住居跡



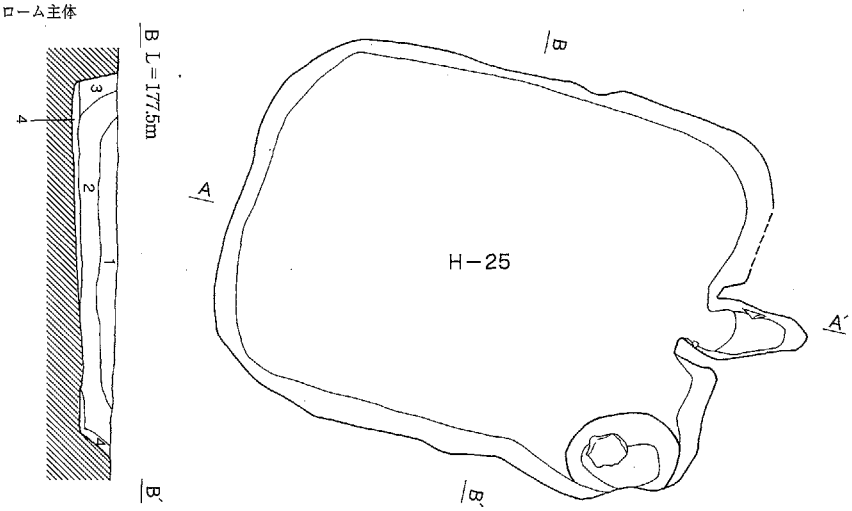

H−24号住居跡カマド

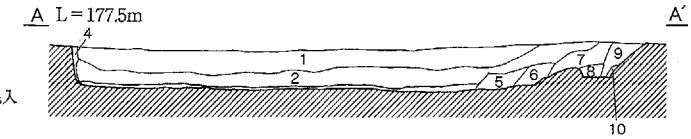
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒僅かに混入、粘質土含 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入、粘質土含 |
| 3層 | 灰褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土ブロック・炭化物混入、粘質土主体 |
| 4層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒主体、粘質土含 |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒主体、焼土ブロック混入 |




H−24号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ロームブロック僅かに混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ロームブロック混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ローム混入 |
| 5層 | 黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | ローム主体 |




H−25号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土ブロック・粘質土混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 4層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 貼床面 |
| 5層 | 灰黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒・炭化物僅かに混入、粘質土含 |
| 6層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒僅かに混入、粘質土含 |
| 7層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 粘質土含 |
| 8層 | 暗赤褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒主体、焼土ブロック混入 |
| 9層 | 暗赤褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒主体、炭化物混入 |
| 10層 | 暗赤褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒主体 |

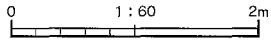
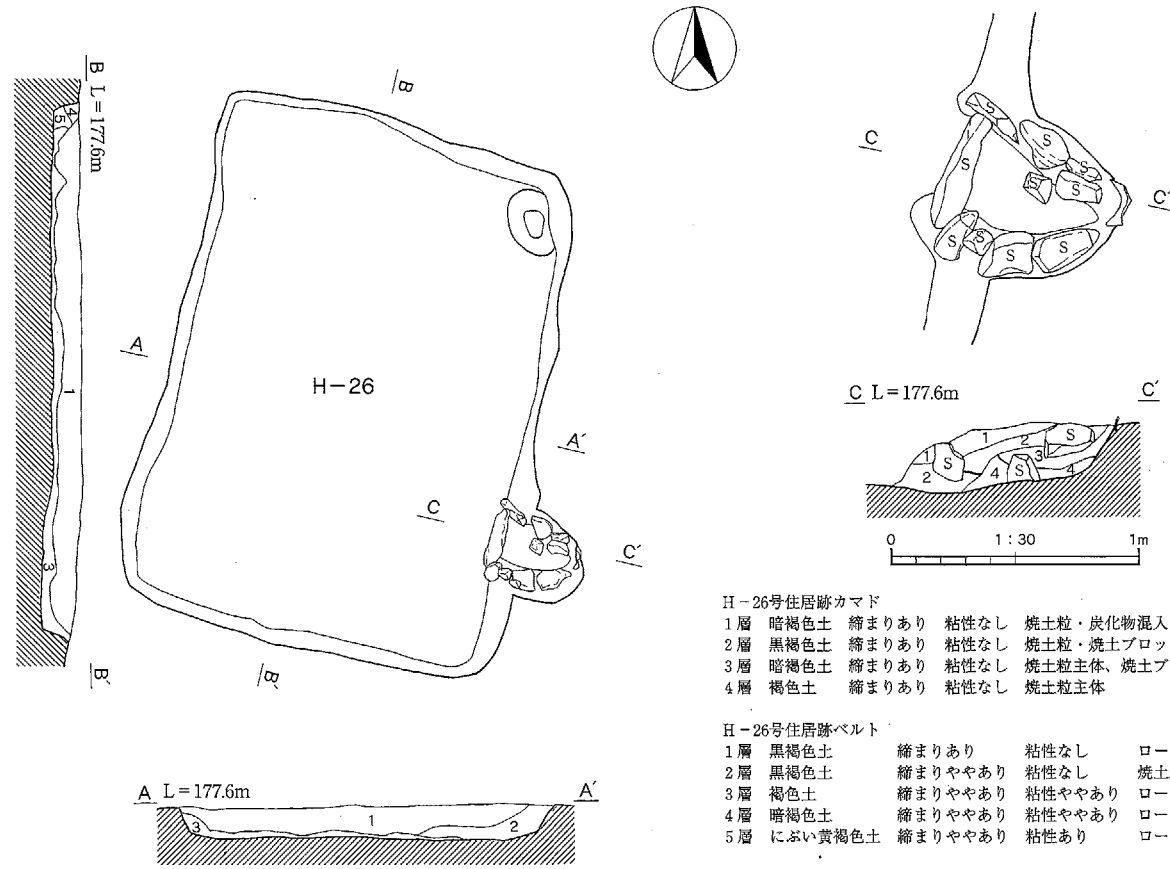



Fig.12　H−24・25号住居跡

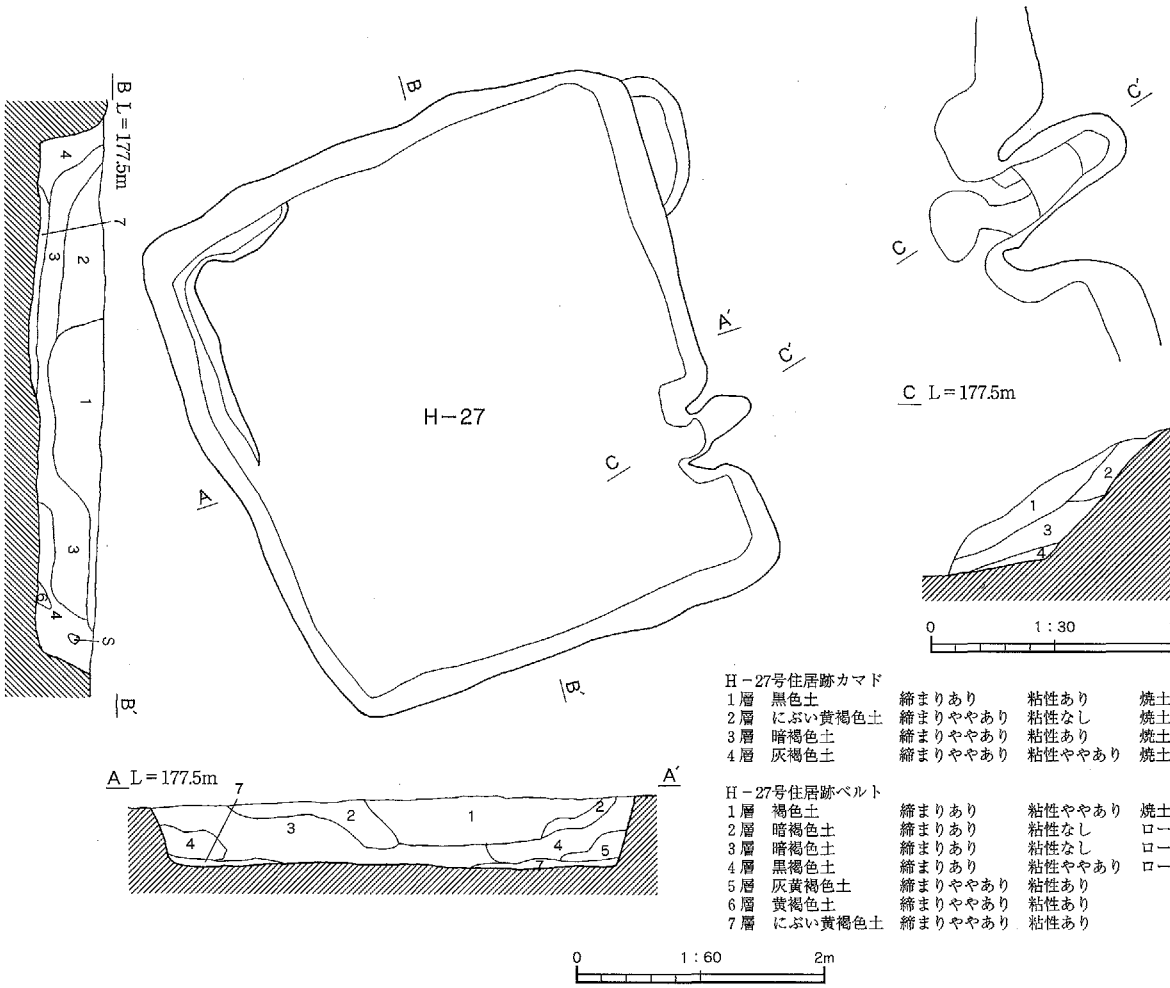



H－26号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・炭化物混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒・焼土ブロック・炭化物混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒主体、焼土ブロック混入 |
| 4層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒主体 |

H－26号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ロームブロック混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒・炭化物僅かに混入 |
| 3層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | ローム混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | ローム混入 |
| 5層 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | ローム主体 |



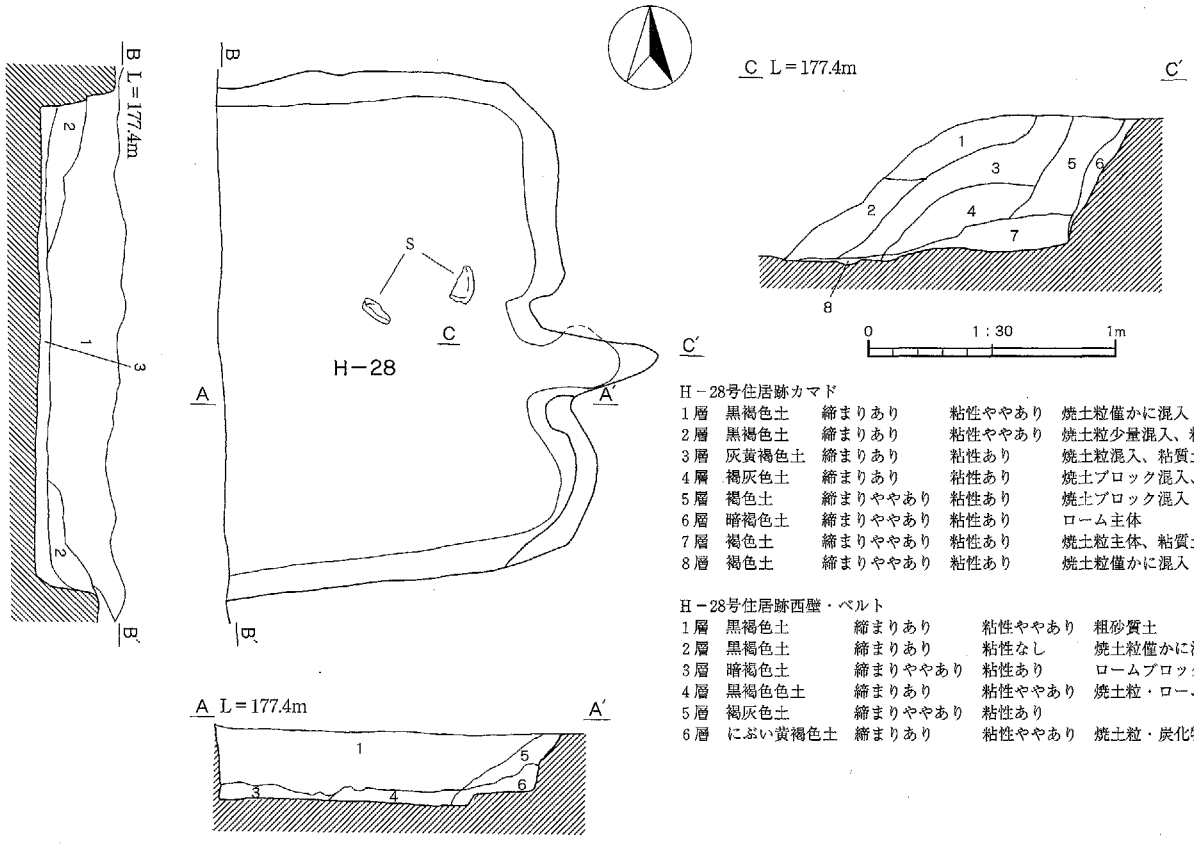

H－27号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | 焼土粒・炭化物僅かに混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒主体 |
| 4層 | 灰褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒・焼土ブロック・ローム混入 |

H－27号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ロームブロック混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ロームブロック少量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | ロームブロック少量混入 |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | ロームブロック少量混入 |
| 5層 | 灰黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 6層 | 黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 7層 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |

Fig.13　H－26・27号住居跡

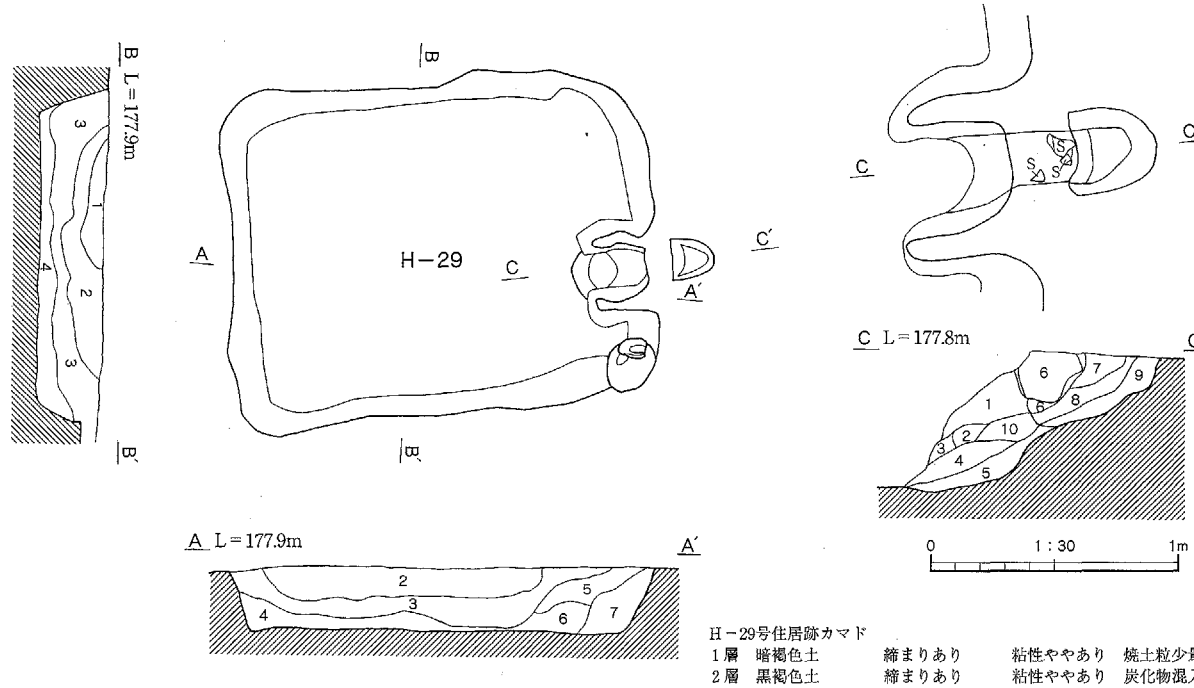



H－28号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒僅かに混入 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入、粘質土含 |
| 3層 | 灰黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒混入、粘質土含 |
| 4層 | 褐灰色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土ブロック混入、粘質土含 |
| 5層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土ブロック混入 |
| 6層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | ローム主体 |
| 7層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒主体、粘質土含 |
| 8層 | 褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | 焼土粒僅かに混入 |

H－28号住居跡西壁・ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 粗砂質土 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性なし | 焼土粒僅かに混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性あり | ロームブロック混入 |
| 4層 | 黒褐色色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・ロームブロック混入 |
| 5層 | 褐灰色土 | 締まりややあり | 粘性あり | |
| 6層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物混入 |




H－29号住居跡ベルト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ローム含 |
| 5層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土ブロック僅かに混入 |
| 6層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | ロームブロック僅かに混入 |
| 7層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土ブロック・ロームブロック混入、粘質土含 |

H－29号住居跡カマド

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒少量混入、粘質土含 |
| 2層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 炭化物混入 |
| 3層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性なし | |
| 4層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒・炭化物・ローム混入 |
| 5層 | 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土ブロック・炭化物・ローム混入 |
| 6層 | にぶい黄褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | カマド天井部 |
| 7層 | 黒褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒主体 |
| 8層 | 暗赤褐色土 | 締まりあり | 粘性あり | 焼土粒主体、焼土ブロック混入 |
| 9層 | 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性ややあり | 焼土粒・焼土ブロック混入、粘質土含 |
| 10層 | 暗褐色土 | 締まりあり | 粘性ややあり | 焼土粒混入 |

0　1：60　2m

Fig.14　H－28・29号住居跡

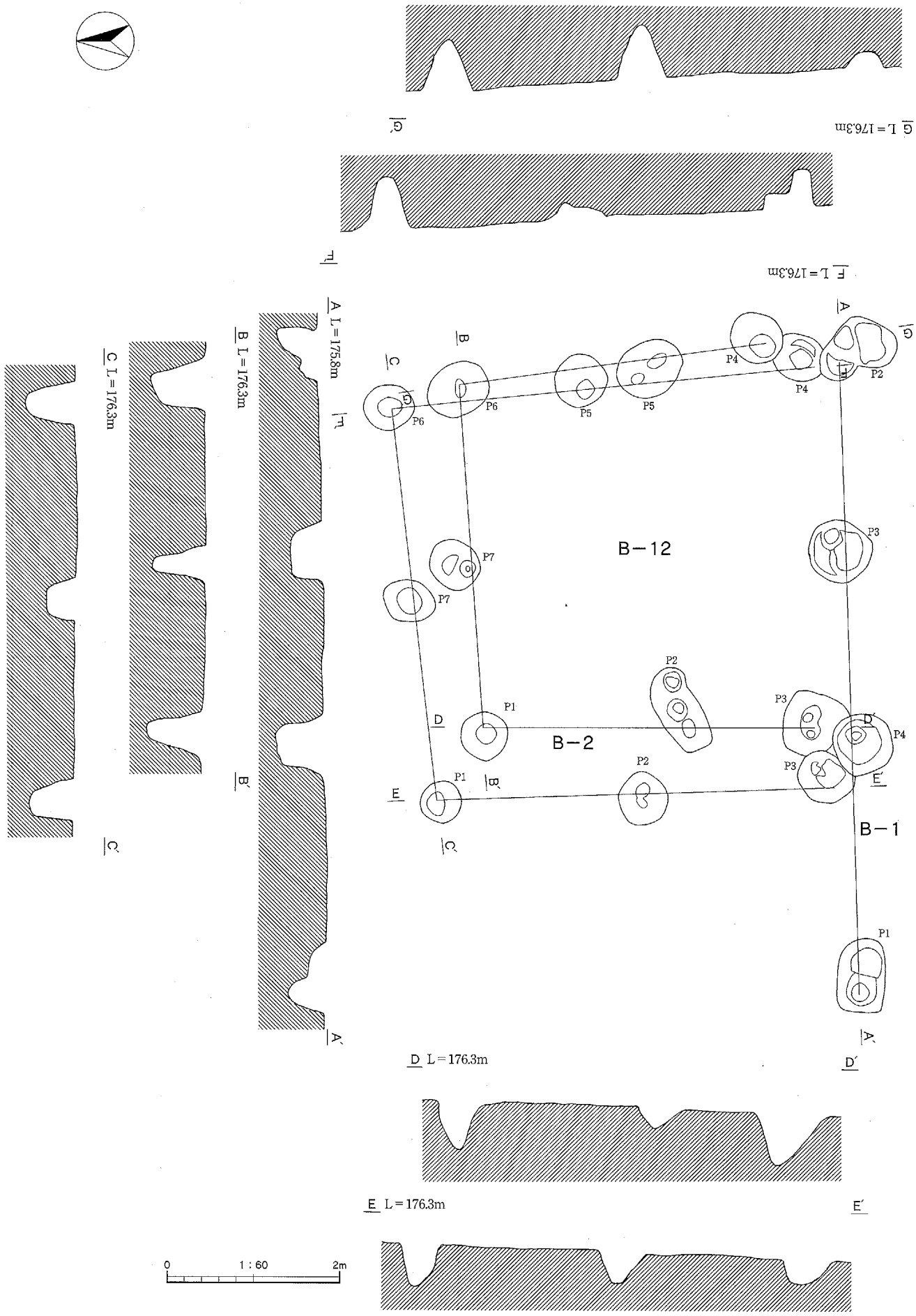



Fig.15　B－1・2・12号掘立柱建物跡

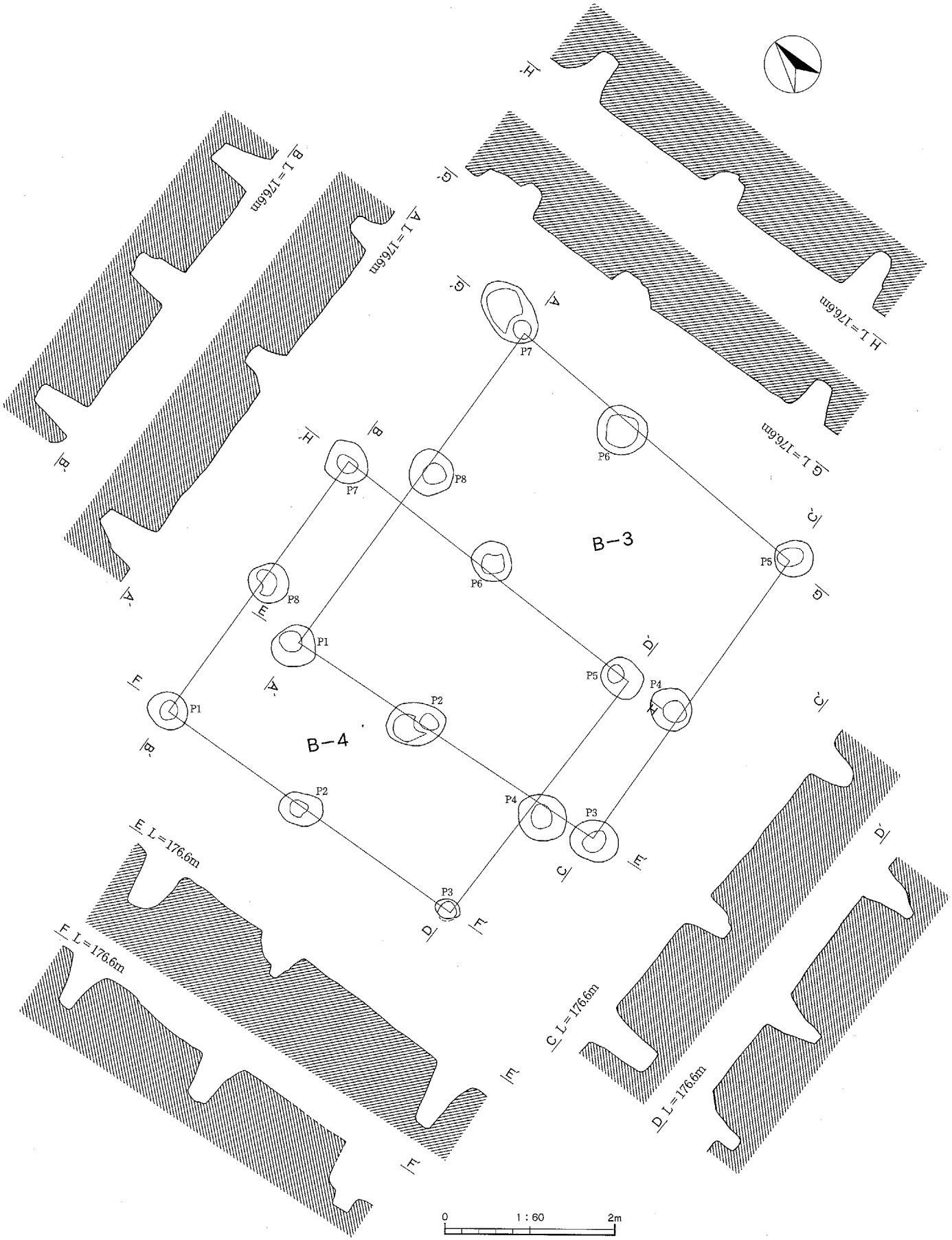



Fig.16　B－3・4号掘立柱建物跡

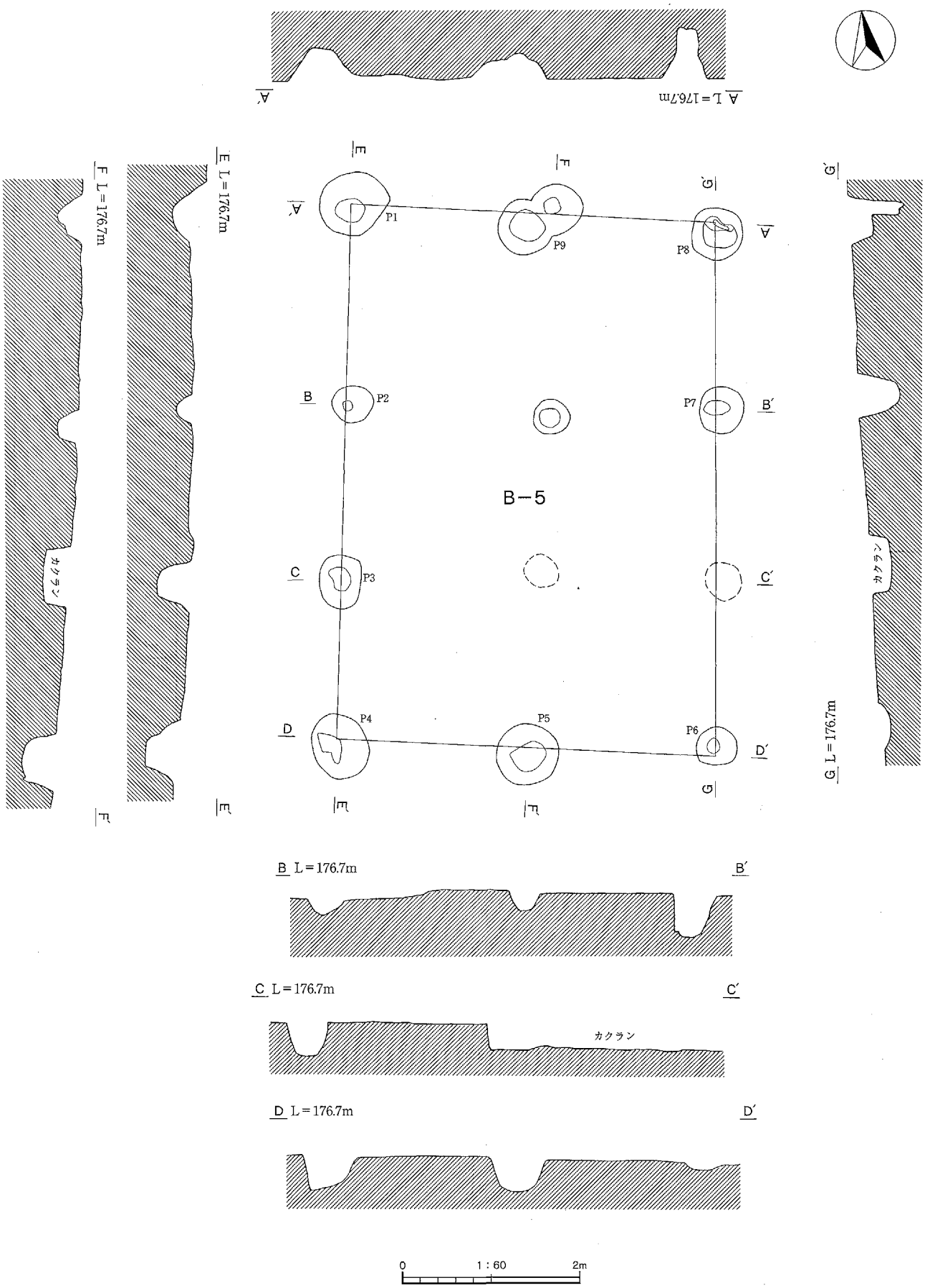



Fig.17　B－5号掘立柱建物跡

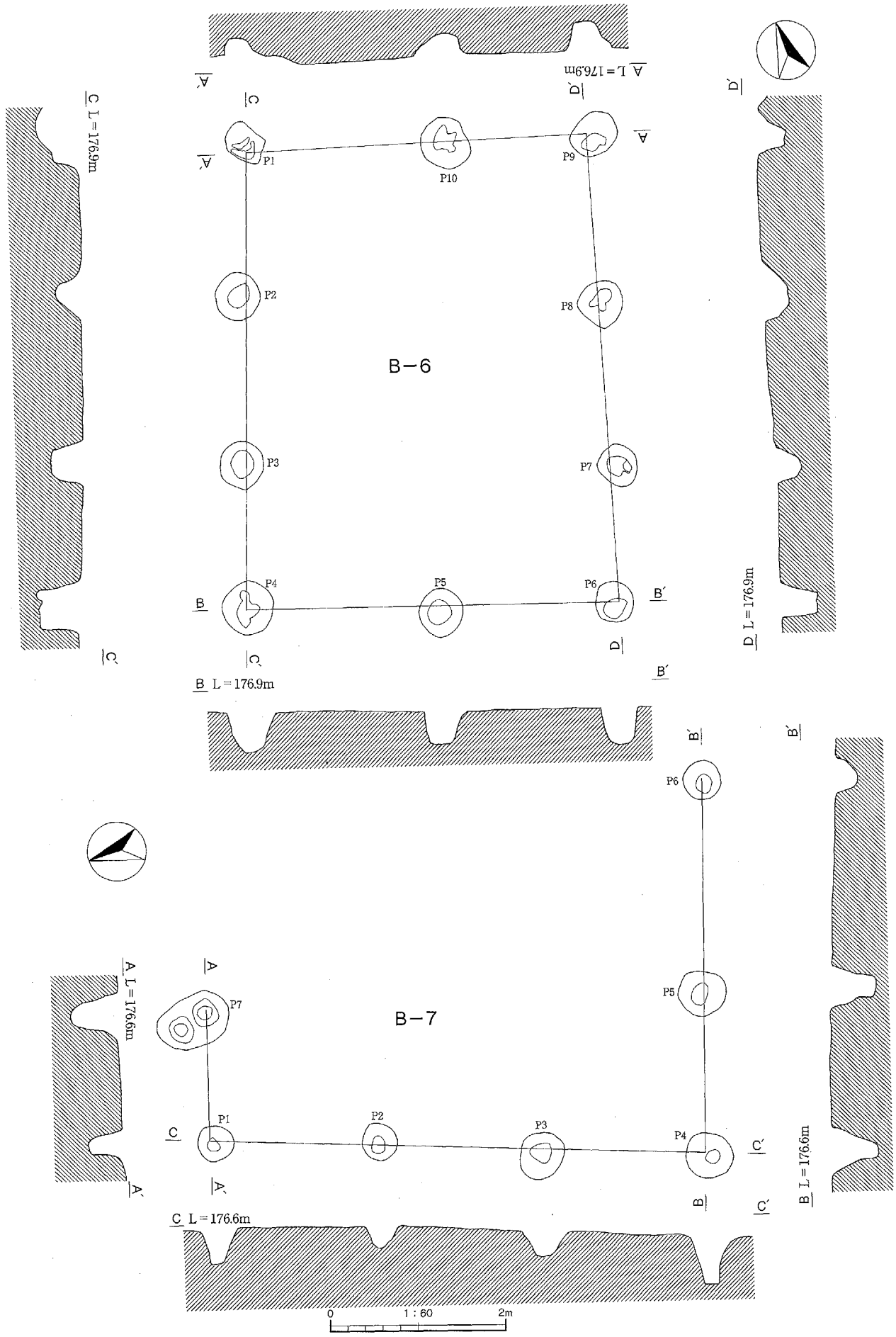



Fig.18　B−6・7号掘立柱建物跡

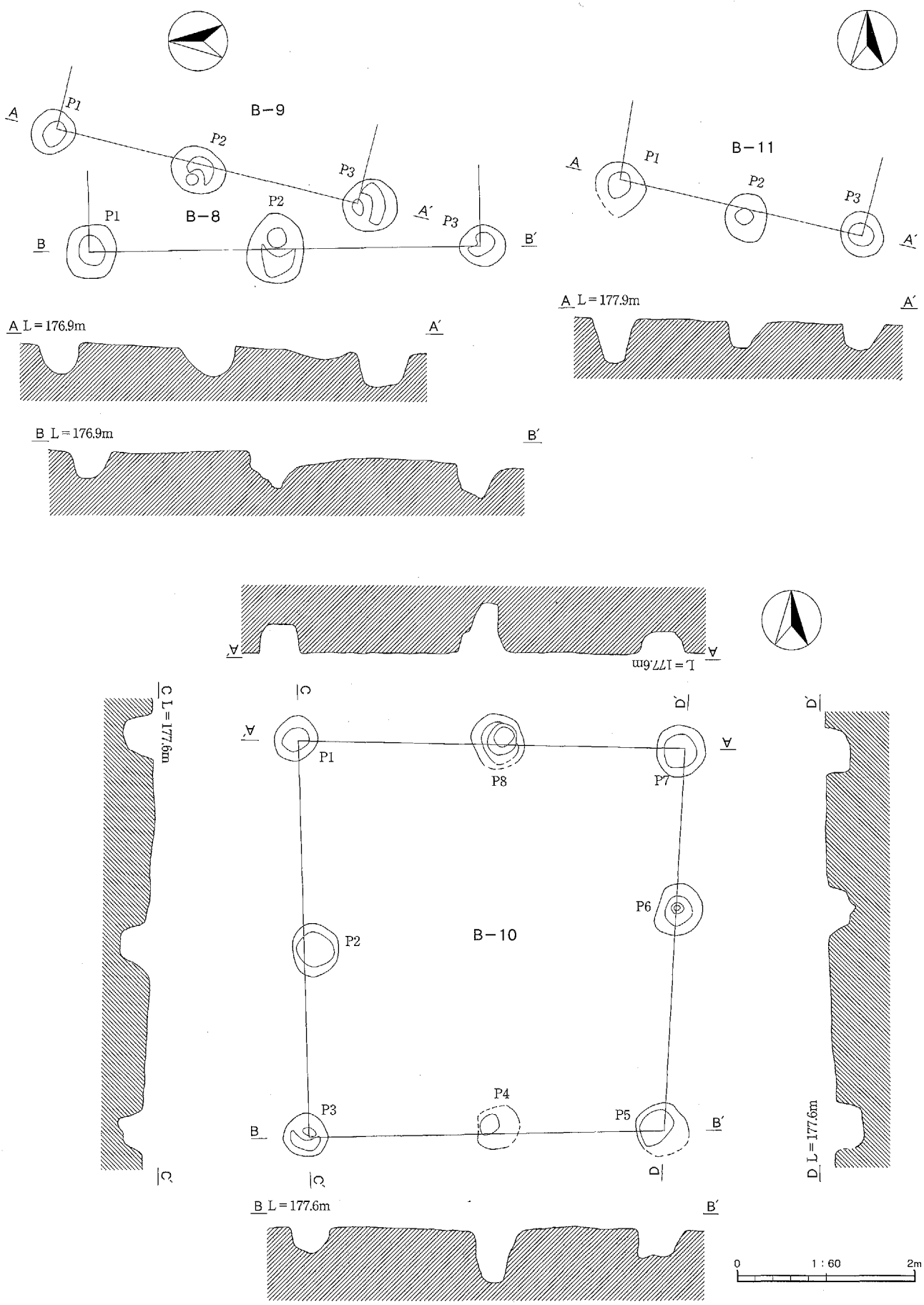



Fig.19　B−8・9・10・11号掘立柱建物跡

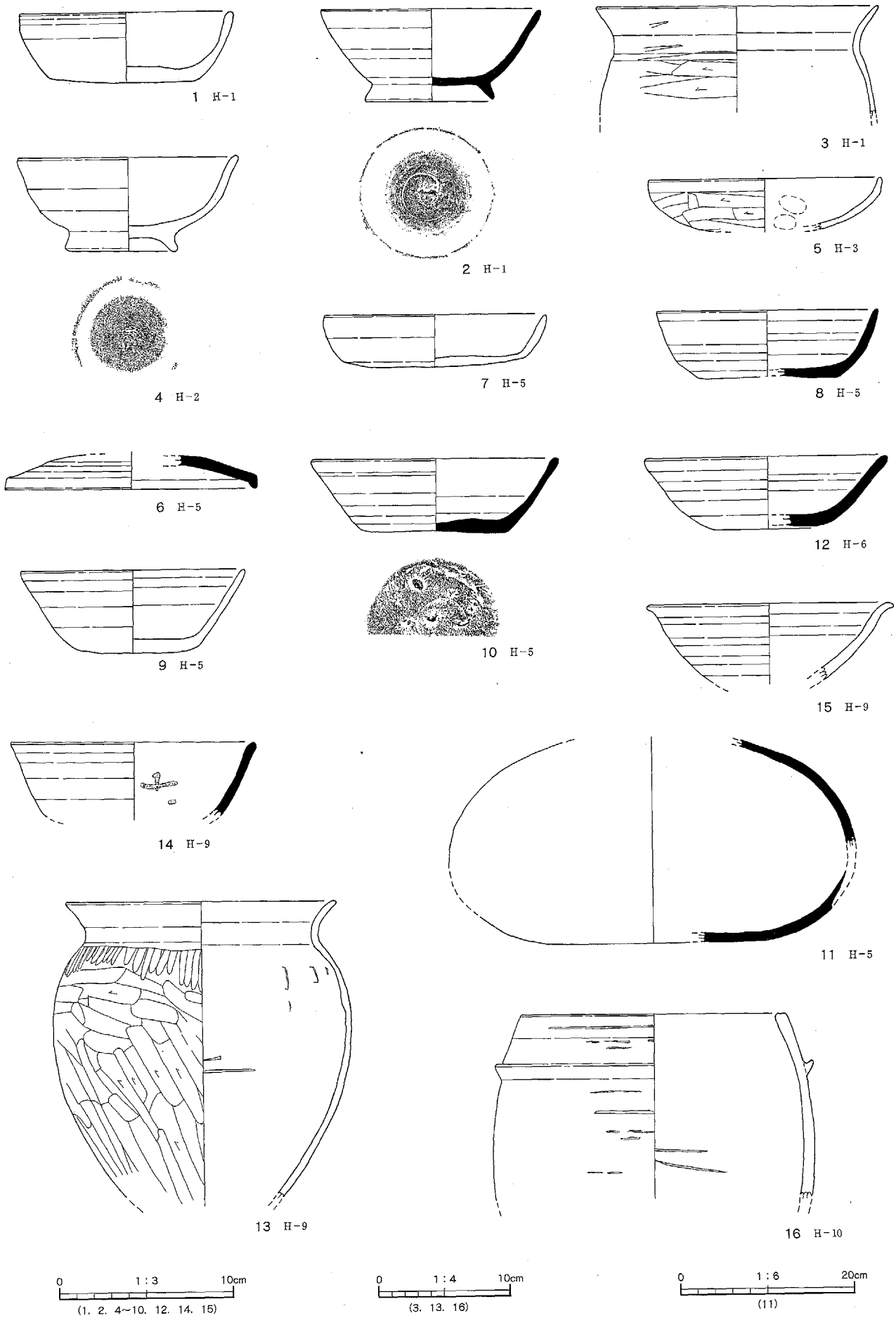



Fig.20 H－1～3・5・6・9・10号住居跡出土遺物

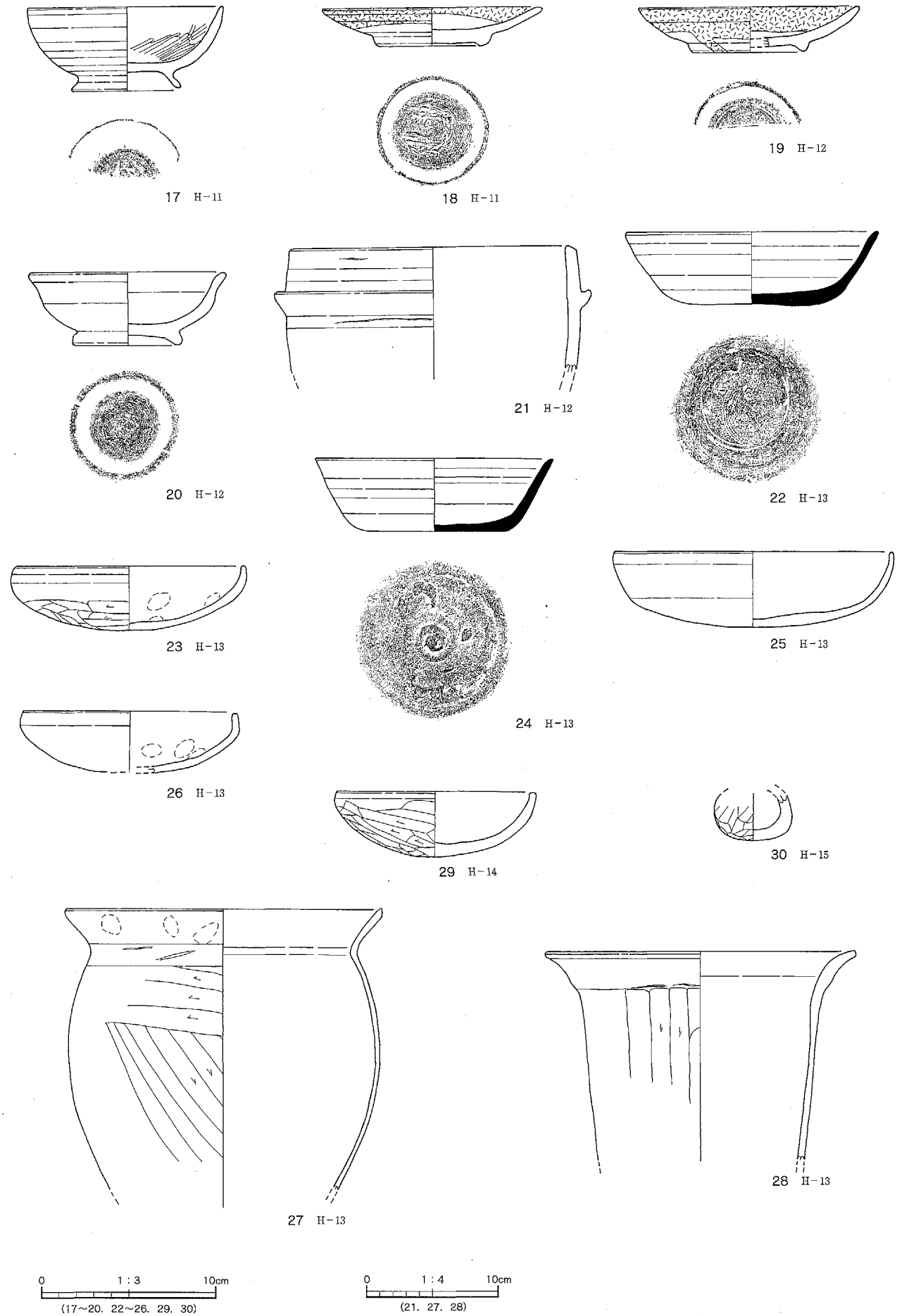



Fig.21 H－11～15号住居跡出土遺物

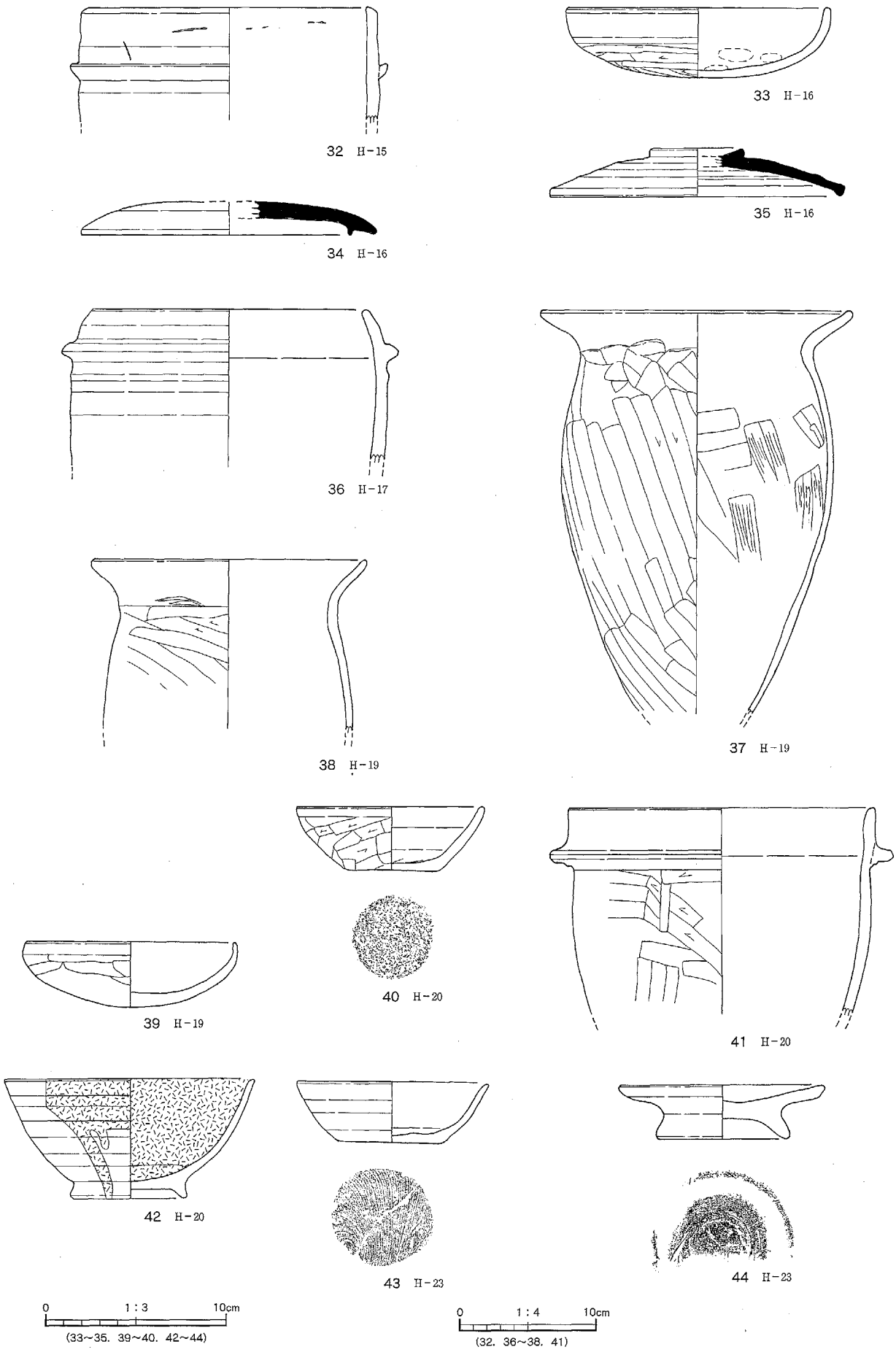



Fig.22　H－15～17・19・20・23号住居跡出土遺物

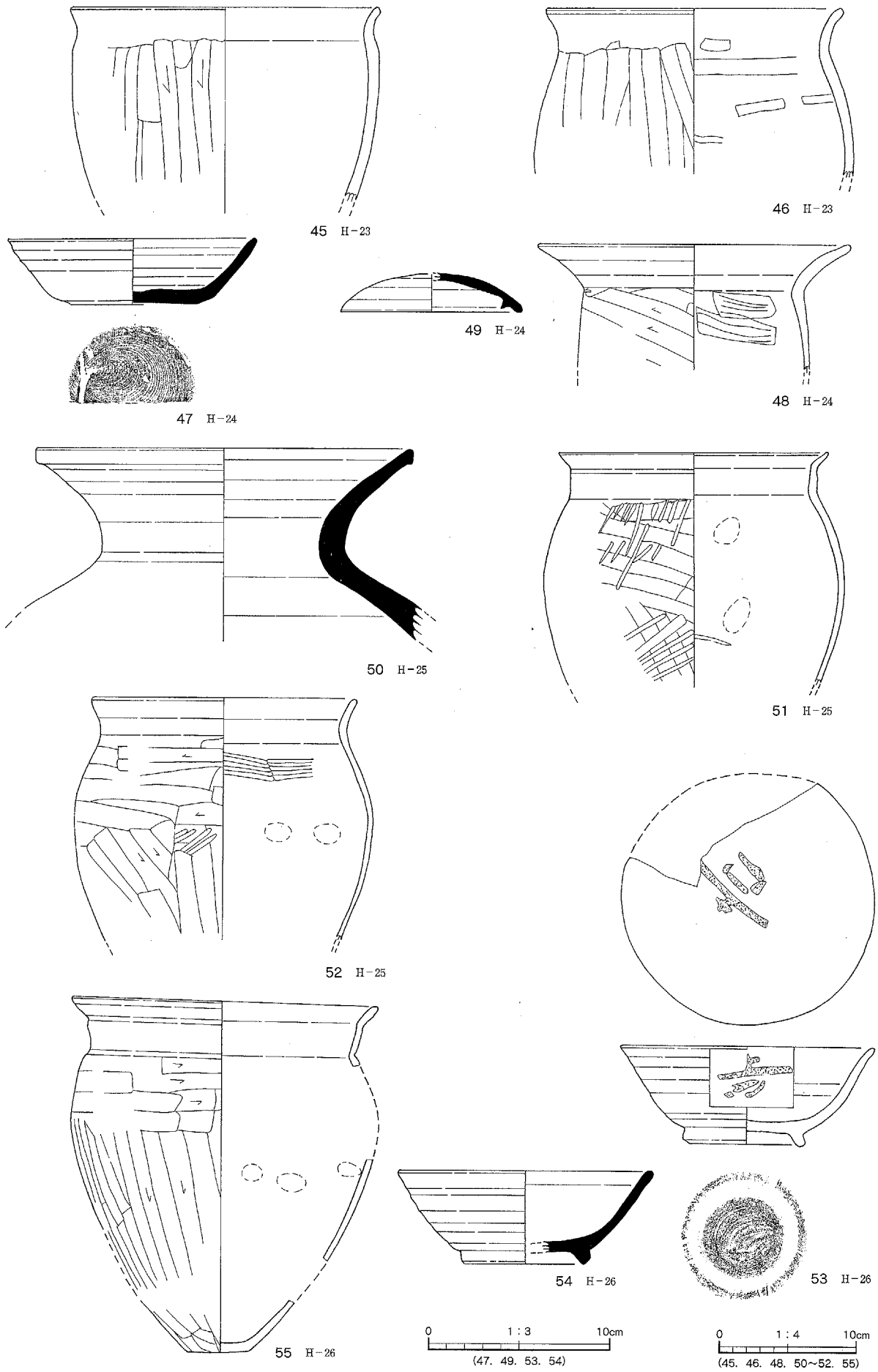
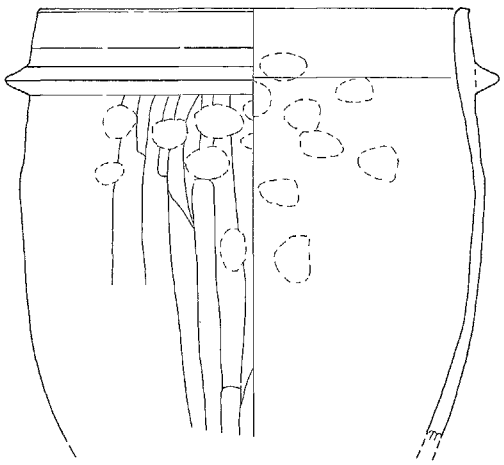
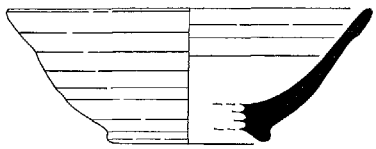


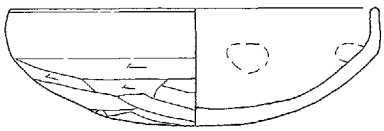

Fig.23 H－23～26号住居跡出土遺物



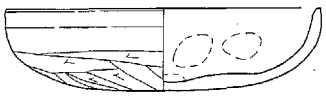
56 H-26



57 H-26

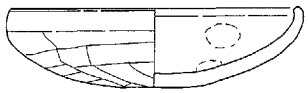


59 H-27

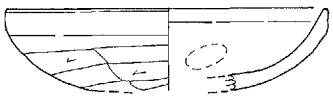


61 H-27

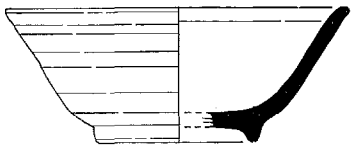
63 H-28



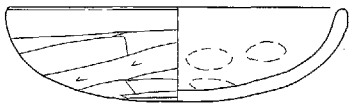
65 H-29



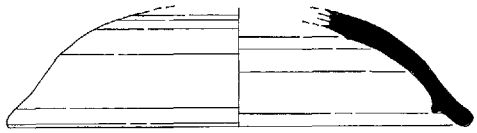
66 H-29



58 H-26

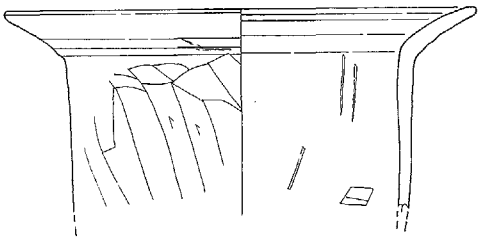


60 H-27

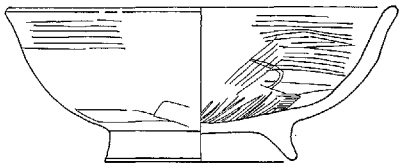


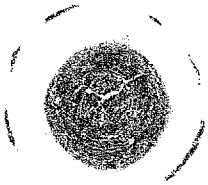
62 H-27

64 H-29



67 H-29





68 表 採

0 1:3 10cm
(57~66. 68)

0 1:4 10cm
(56. 67)

Fig.24 H－26～29号住居跡出土遺物

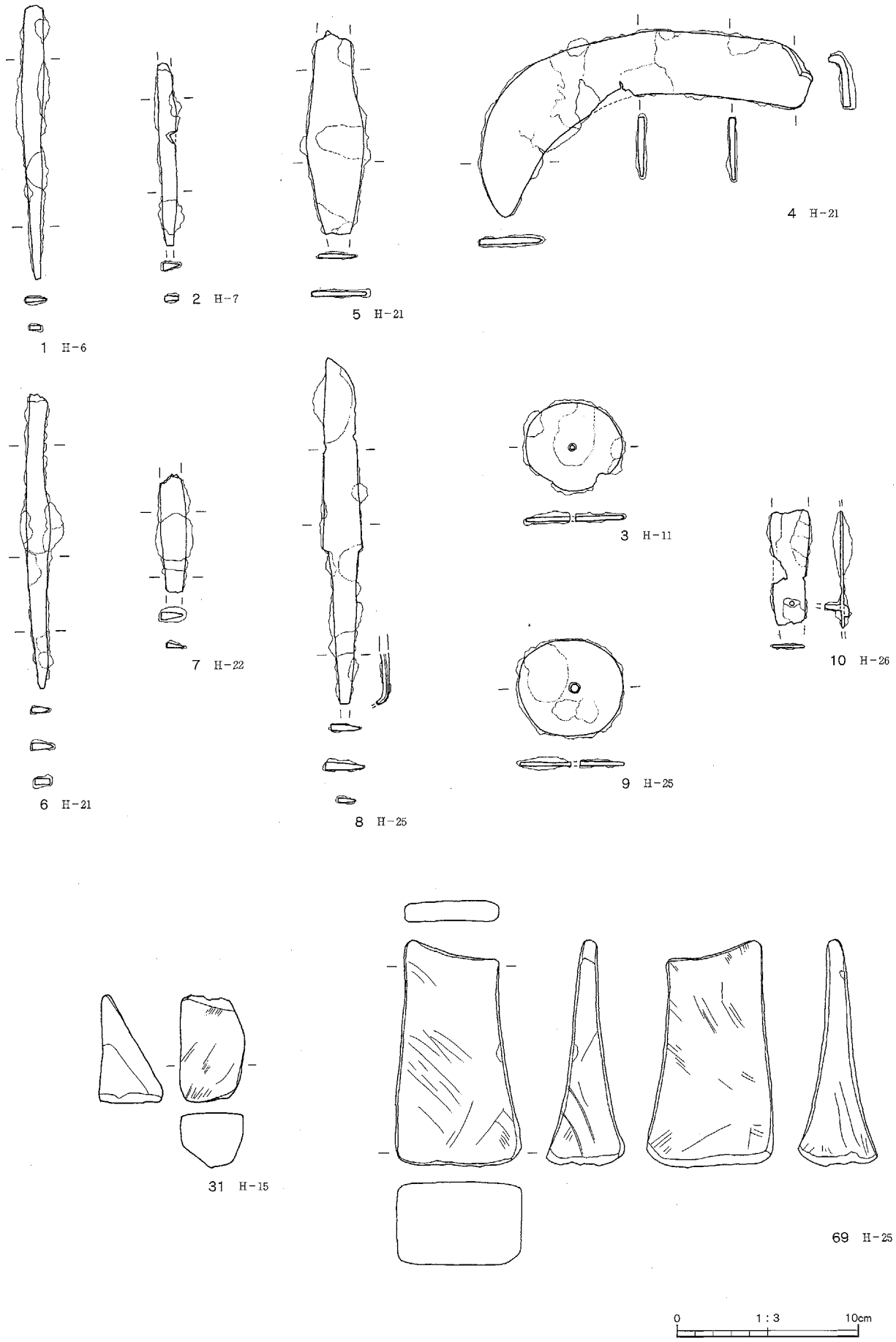
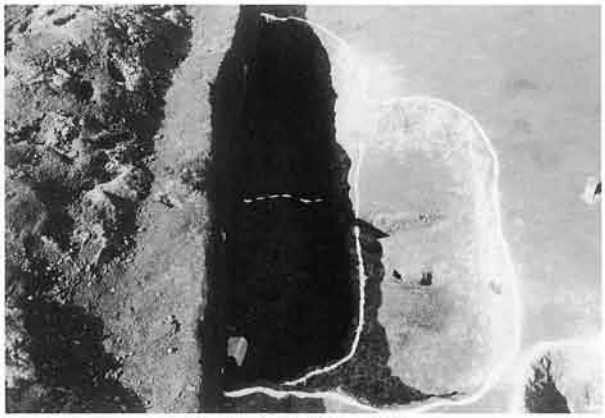


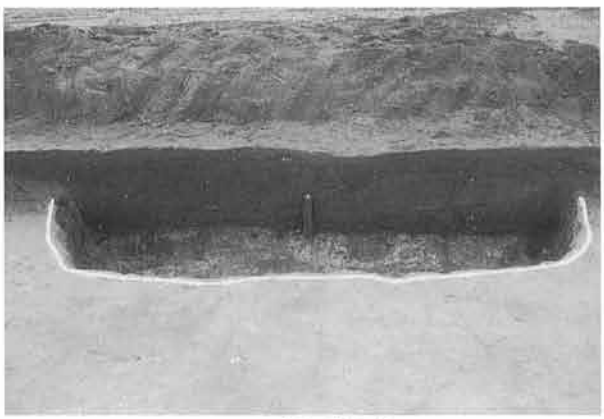

Fig.25　H－6・7・11・15・21・22・25・26号住居跡出土遺物

荻窪倉兼遺跡調査区全景（南から）

H－1　全景（西から）

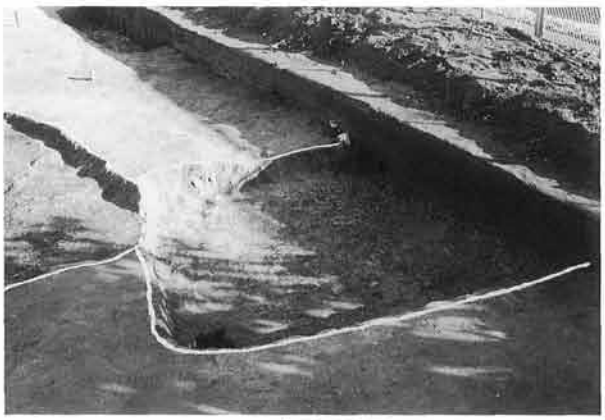


H－2・3　全景（東から）



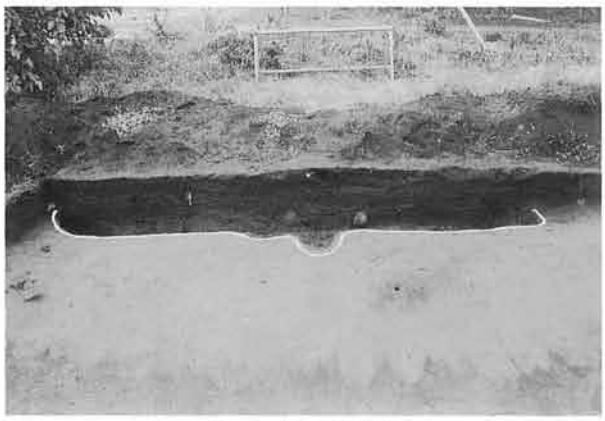
H－4　全景（北から）

H－5　全景（西から）



H－6　全景（西から）

H－7　全景（西から）

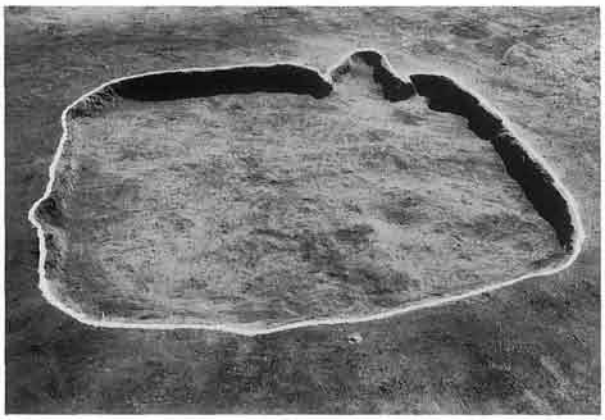


H－8　全景（東から）

H－9　全景（西から）

H－9　出土遺物

H－10　全景（西から）

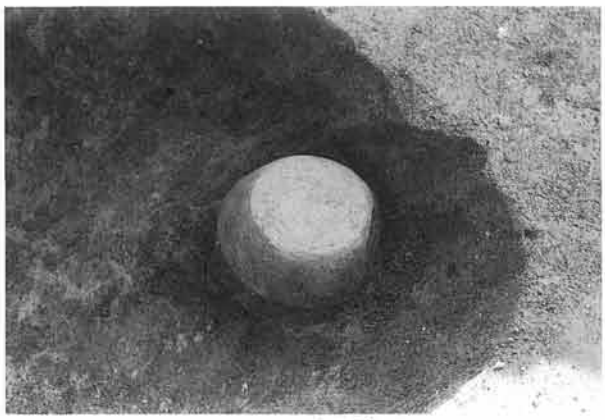


H－11　全景（西から）

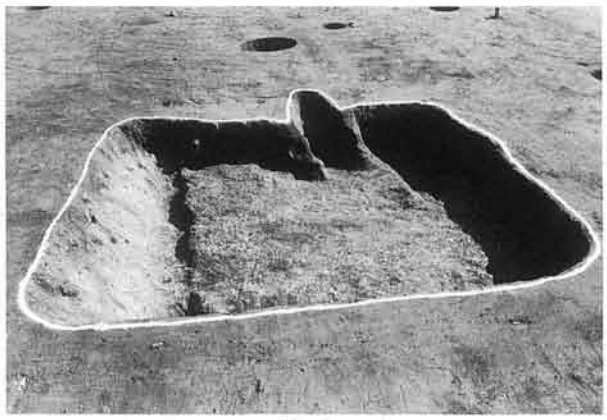
H－12　全景（西から）

H－13　全景（西から）

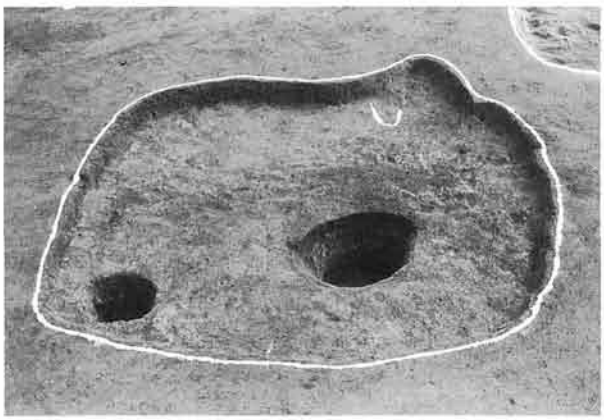
H－13　カマド周辺出土遺物



H－13　出土遺物



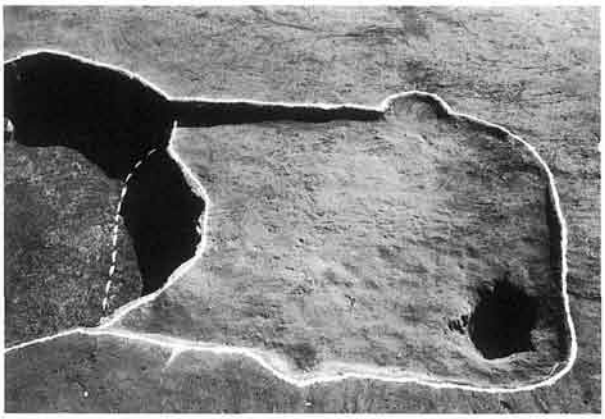
H－14　全景（西から）



H－15　全景（西から）

H－16　全景（西から）

H－17　全景（西から）

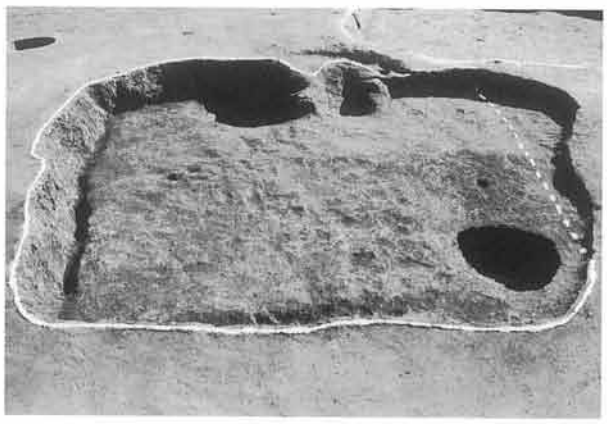


H－18　全景（西から）

H－19　全景（西から）

H－19　カマド全景（西から）

H－19　カマド支柱となる土器



H－20　全景（西から）

H－20　カマド出土遺物

H－21　全景（西から）

H－22　全景（西から）

H－23　全景（西から）

H－24　全景（西から）

H－25　全景（西から）

H－25　カマド出土遺物

H－26　全景（西から）

H－26　カマド出土遺物

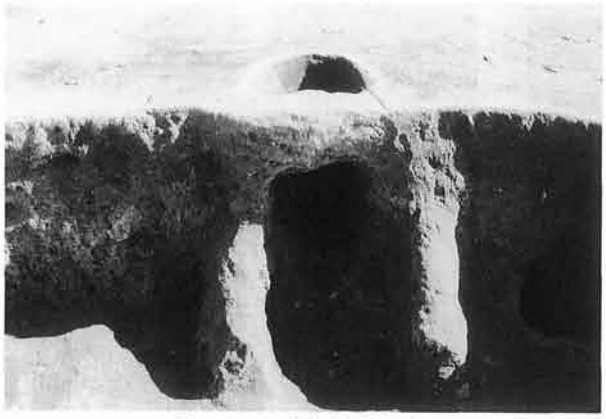
H－26　カマド全景（西から）

H－27　全景（西から）

H－27　カマド全景（西から）

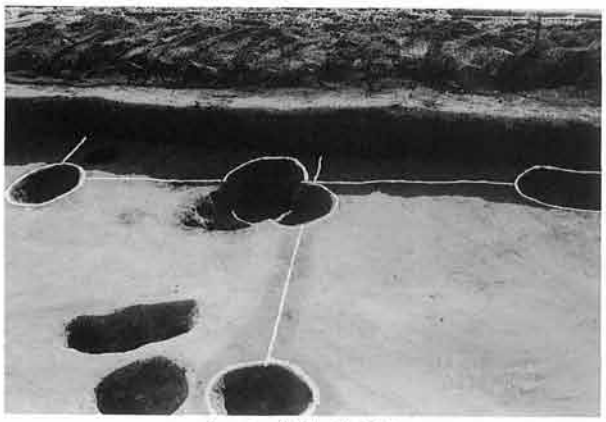
H－28　全景（東から）

H－29　全景（西から）

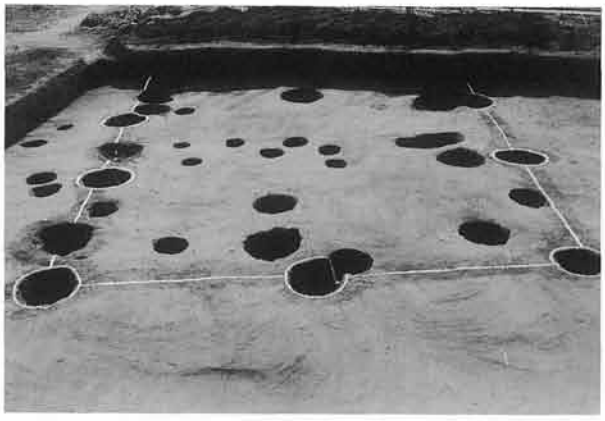


H－29　カマド全景（西から）

H－29　カマド内遺物出土状況

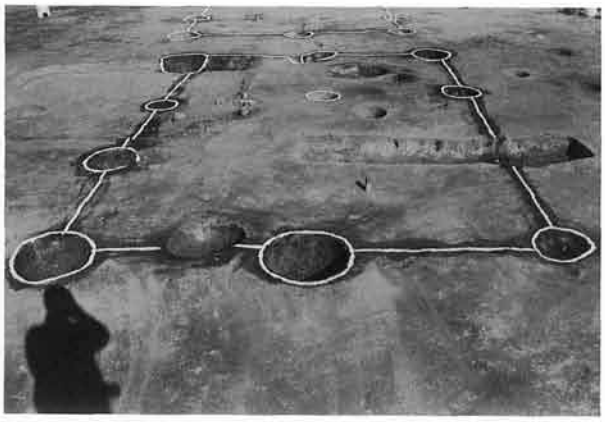


B－1　全景（北から）

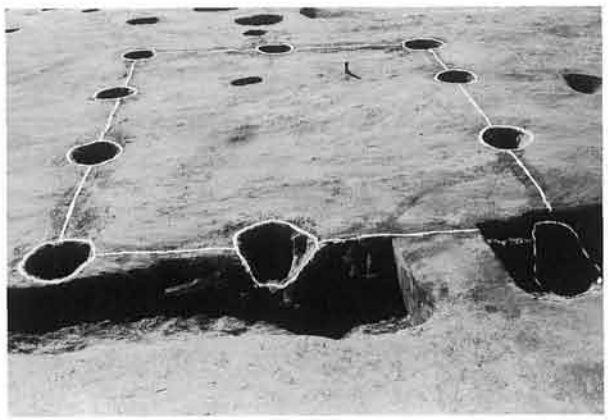


B－2　全景（北から）

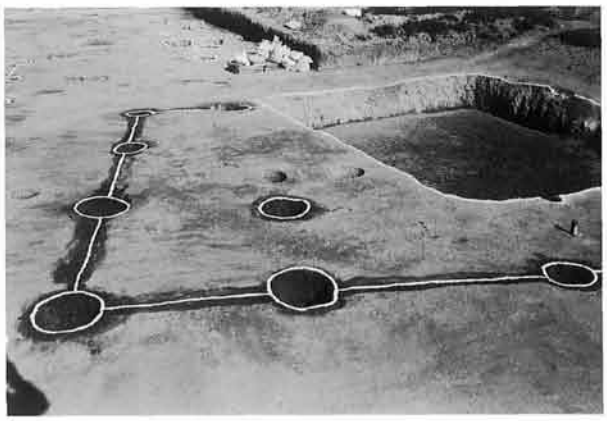
B－3　全景（東から）



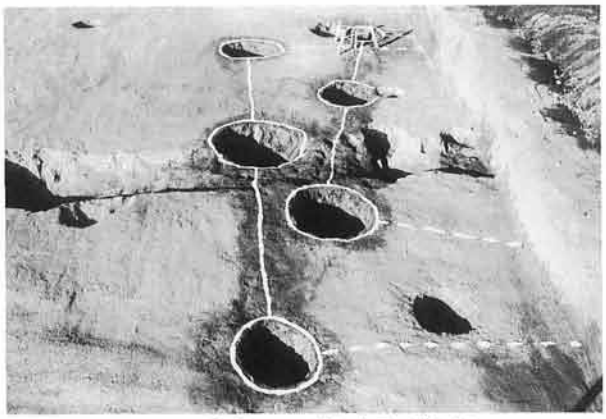
B－5　全景（南から）



B－6　全景（北から）



B－7　全景（南から）

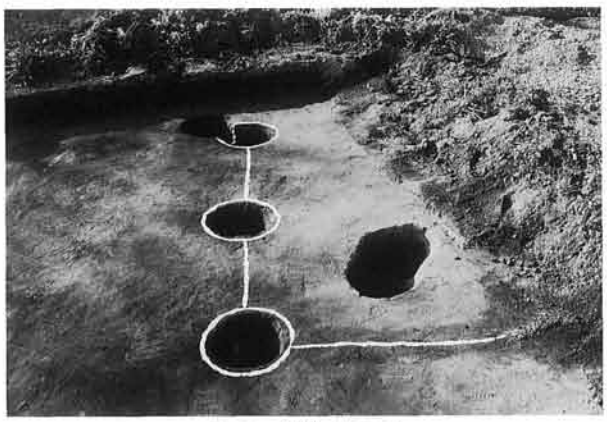


B－8（手前）、9（奥）全景（南から）

現地見学会風景

B－10　全景（西から）

作　業　風　景



B－11　全景（東から）

B－12　全景（北から）

PL.8

1
H-1

2
H-1

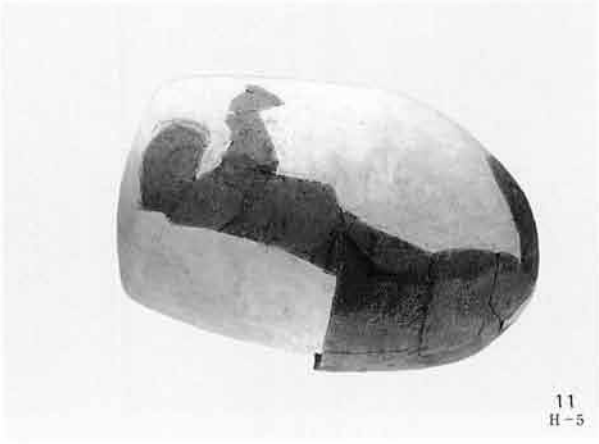
4
H-2

6
H-5

7
H-5

8
H-5

9
H-5



11
H-5

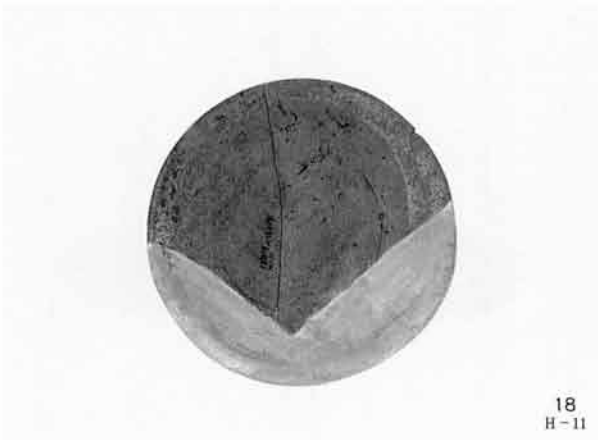
12
H－6

13
H－9

14
H－9

15
H－9

16
H－10



18
H－11

20
H－12

22
H－13

23
H－13

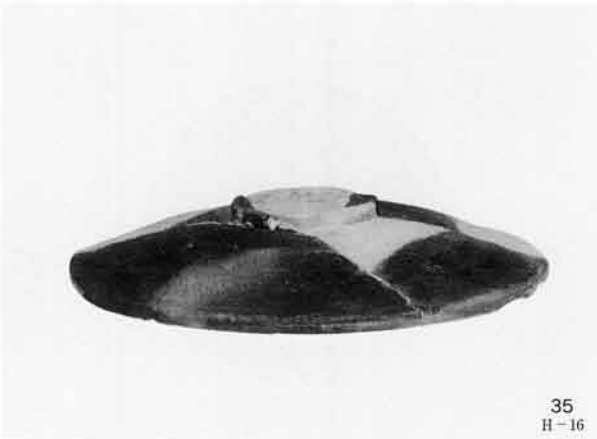
24
H－13

27
H－13

29
H－14

30
H－15

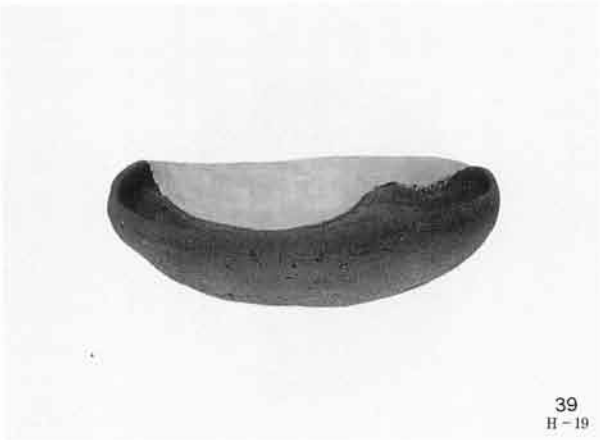
33
H－16



35
H－16

37
H－19

38
H－19



39
H－19

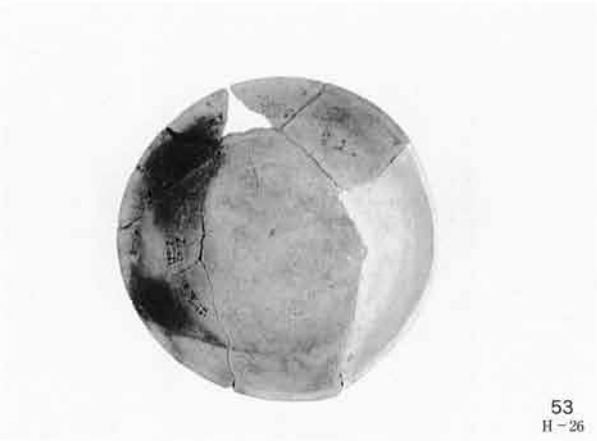
40
H－20

41
H－20

43
H－23

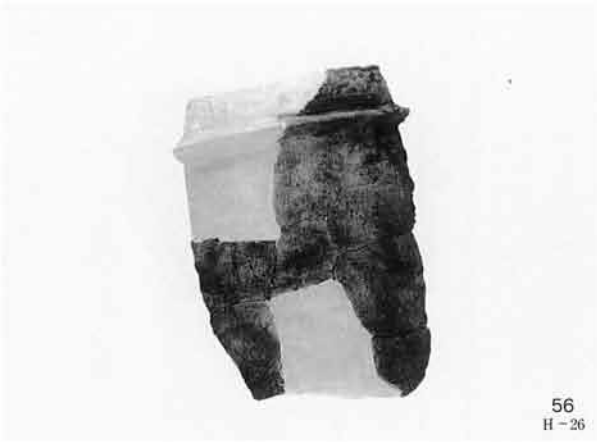
51
H－25

53
H－26



53
H－26

55
H－26



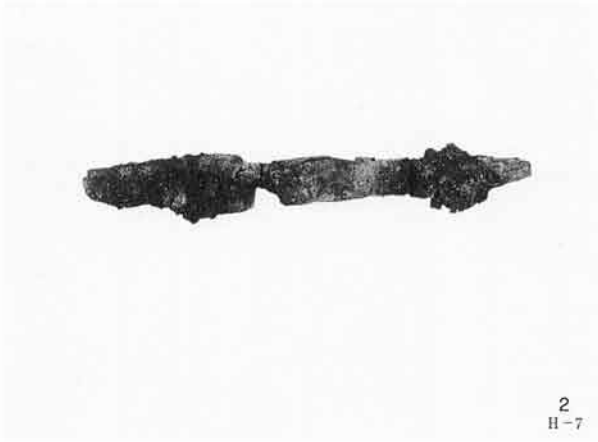
56
H－26

58
H－26

59
H－27

65
H－29

1
H-6



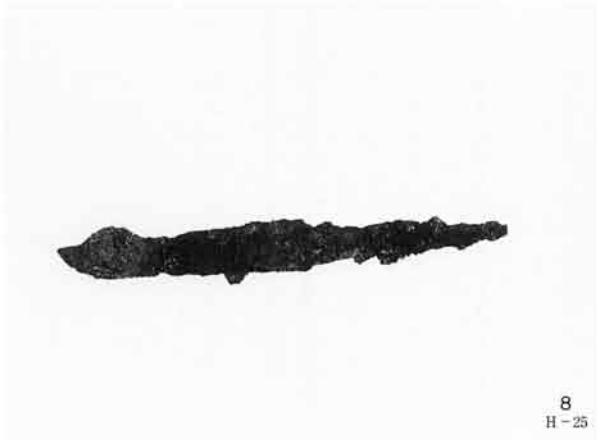
2
H-7

3
H-11

4
H-21

5
H-21

6
H-21



8
H-25

9
H-25

# 荻窪倉兼Ⅱ遺跡

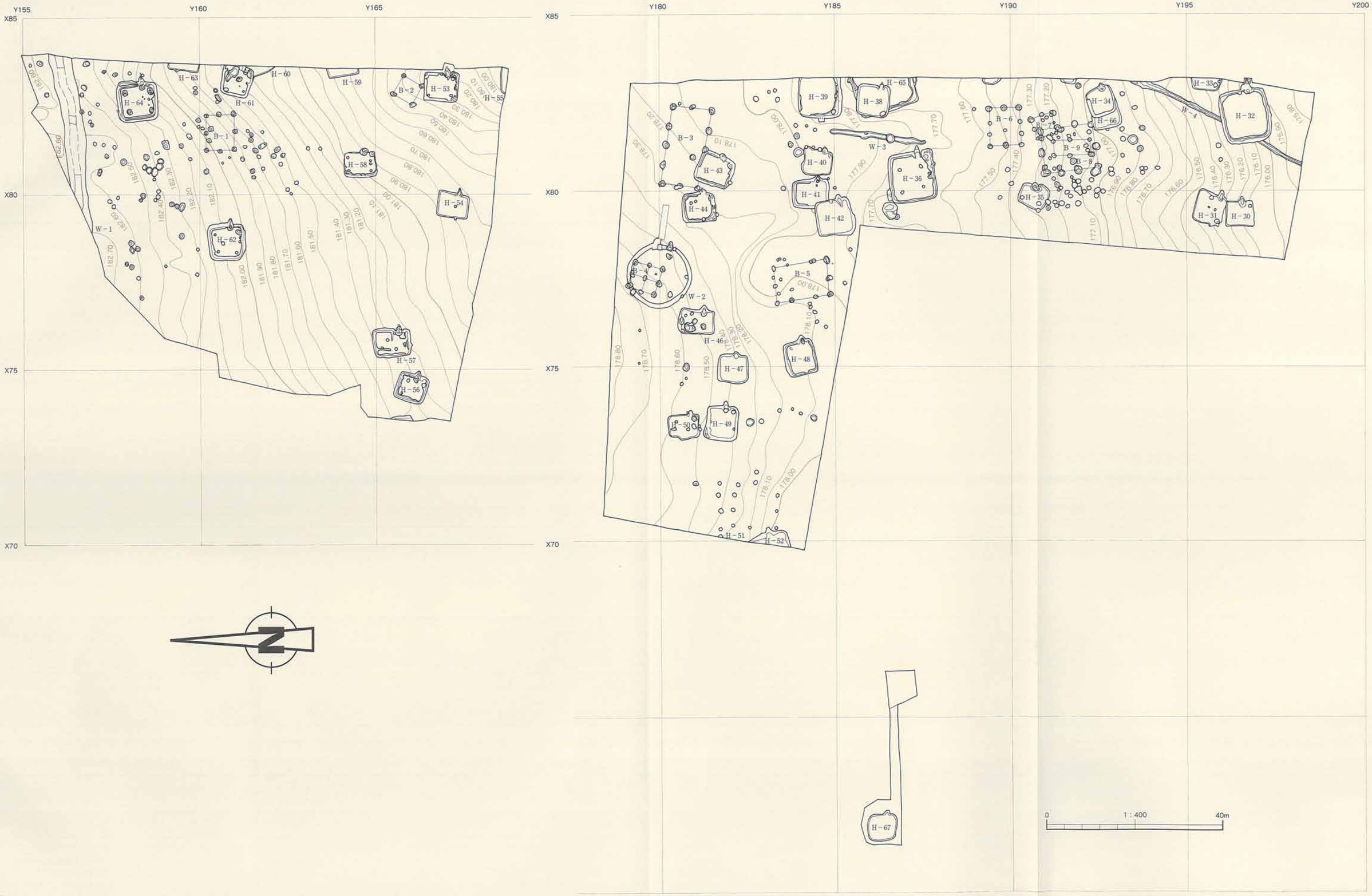



Fig.26　荻窪倉兼Ⅱ遺跡全体図

## 1　遺構概要

本遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡36軒、掘立柱建物跡９棟である。

調査値は、赤城山南麓の舌状台地上に位置する畑作地であった。特に北側に位置するＡ区では桑が植えられており、遺構の上面が削平されていたものが多かった。また、Ａ区と南側のＢ区との境は、養豚業に伴う糞尿溜りとして掘り込まれており、遺構の残存はなかった。Ｃ区については、表土は削平されて２～３cmしか残っていない上に、豚舎の建設に伴って２ｍ以上掘り込まれていたため、筋掘りを入れて遺構の残存状況を確認した。その結果、最南部の筋掘りでＨ－67号住居跡を検出することができた。しかし、他の筋掘りでは遺構・遺物ともに確認することができなかったため、Ｈ－67号住居跡周辺部のみの調査となった。

### (1)　竪穴住居跡

Ｈ－30号住居跡（Ｆｉｇ．27，ＰＬ．16）

◎位置　Ｘ78～79、Ｙ196グリッド　◎面積　９㎡　◎長軸方位　Ｎ－０°　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.2m　短軸2.81m　壁高25.4cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数161点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀前半の所産と考えられる。

Ｈ－31号住居跡（Ｆｉｇ．27，ＰＬ．16）

◎位置　Ｘ79～80、Ｙ195～196グリッド　◎面積　12.2㎡　◎長軸方位　Ｎ－79°－Ｗ　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸3.62m　短軸3.37m　壁高20.25cm。　◎竈　東壁の南端に近い位置に設置。　◎遺物　総数174点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は10世紀後半の所産と考えられる。

Ｈ－32号住居跡（Ｆｉｇ．28，ＰＬ．17）

◎位置　Ｘ81～83、Ｙ195～197グリッド　◎面積　33.72㎡　◎長軸方位　Ｎ－80°－Ｅ　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸６ｍ　短軸5.62m　壁高81cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　Ｗ－４号溝状遺構を斬る。　◎遺物　総数2875点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀中頃の所産と考えられる。

Ｈ－33号住居跡（Ｆｉｇ．28）

◎位置　Ｘ82～83、Ｙ195～196グリッド　◎面積　4.67㎡（部分発掘）　◎長軸方位　Ｎ－２°－Ｗ　◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸3.41m　短軸1.37m　壁高32.88cm。　◎遺物　総数264点。　◎備考　東側は調査区外のため調査できず。

Ｈ－34号住居跡（Ｆｉｇ．29，ＰＬ．17）

◎位置　Ｘ82～83、Ｙ192～193グリッド　◎面積　10.33㎡　◎長軸方位　Ｎ－70°－Ｅ　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸3.28m　短軸3.15m　壁高50.6cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　Ｈ－66号住居跡を斬る。　◎遺物　総数53点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀前半の所産と考えられる。

H－35号住居跡（Ｆｉｇ．29，ＰＬ．17）
◎位置　X79～80、Y190～191グリッド　◎面積　9.08㎡　◎長軸方位　N－29°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.3m　短軸2.75m　壁高22.6cm。　◎竈　東壁北寄りに設置。
◎重複関係　D－2号土坑、P－2号ピットに斬られる。　◎遺物　総数41点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は9世紀中頃から後半の所産と考えられる。

H－36号住居跡（Ｆｉｇ．30，ＰＬ．17）
◎位置　X79～81、Y186～187グリッド　◎面積　29.23㎡　◎長軸方位　N－82°－E　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸5.6m　短軸5.22m　壁高52cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　D－3号土坑を斬る。　◎遺物　総数164点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は8世紀前半の所産と考えられる。

H－38号住居跡（Ｆｉｇ．31，ＰＬ．18）
◎位置　X82～83、Y185～186グリッド　◎面積　13.31㎡　◎長軸方位　N－6°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.77m　短軸3.53m　壁高54.5cm。　◎竈　東壁の南端に近い位置に設置。　◎重複関係　H－65号住居跡の北西隅で北壁・西壁の一部を斬る。本住居の壁は、H－65号住居跡の埋没土を利用して構築。　◎遺物　総数204点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は9世紀末から10世紀初頭の所産と考えられる。

H－39号住居跡（Ｆｉｇ．32）
◎位置　X82～83、Y183～185グリッド　◎面積　22.37㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－2°－W　◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸4.97m　短軸4.5m　壁高79.5cm。　◎遺物　総数387点。　◎備考　東側は調査区外のため調査できず。

H－40号住居跡（Ｆｉｇ．30，ＰＬ．18）
◎位置　X80～81、Y184グリッド　◎面積　9.77㎡　◎長軸方位　N－8°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.3m　短軸2.96m　壁高16cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数33点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は9世紀後半の所産と考えられる。

H－41号住居跡（Ｆｉｇ．33，ＰＬ．18）
◎位置　X79～80、Y183～184グリッド　◎面積　14.28㎡　◎長軸方位　N－1°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸4.2m　短軸3.4m　壁高44.88cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　9世紀中頃の所産と考えられるH－42号住居跡に南西隅を斬られる。　◎遺物　総数111点。

H－42号住居跡（Ｆｉｇ．33，ＰＬ．18）
◎位置　X78～79、Y184～185グリッド　◎面積　17.63㎡　◎長軸方位　N－7°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸4.3m　短軸4.1m　壁高28cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　H－41号住居跡の南西隅を斬る。　◎遺物　総数284点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は9世紀中頃の所産と考えられる。

H－43号住居跡（Ｆｉｇ．32，ＰＬ．18）
◎位置　X80～81、Y181～182グリッド　◎面積　15.01㎡　◎長軸方位　N－20°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸4.17m　短軸3.6m　壁高47.5cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　B－15号掘建柱建物跡を斬り、P－5号ピットに斬られる。　◎遺物　総数238点。
◎備考　出土遺物などから、本住居跡は10世紀代の所産と考えられる。

H－44号住居跡（Ｆｉｇ．34，ＰＬ．18）
◎位置　X79～80、Y180～181グリッド　◎面積　13.42㎡　◎長軸方位　N－5°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.89m　短軸3.45m　壁高44.6cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　P－6号ピットに斬られる。　◎遺物　総数143点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は9世紀末の所産と考えられる。

H－46号住居跡（Ｆｉｇ．34，ＰＬ．19）
◎位置　X75～76、Y180～181グリッド　◎面積　10.69㎡　◎長軸方位　N－3°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸4.02m　短軸2.66m　壁高24.6cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎遺物　総数668点。　◎備考　床下土坑$D_1$、$D_2$、$D_3$を有する。出土遺物などから、本住居跡は10世紀後半の所産と考えられる。

H－47号住居跡（Ｆｉｇ．35，ＰＬ．19）
◎位置　X74～75、Y181～182グリッド　◎面積　11.46㎡　◎長軸方位　N－2°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.42m　短軸3.35m　壁高36.83cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎遺物　総数187点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は10世紀前半の所産と考えられる。

H－48号住居跡（Ｆｉｇ．35，ＰＬ．20）
◎位置　X74～75、Y183～184グリッド　◎面積　14.18㎡　◎長軸方位　N－78°－E　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸3.96m　短軸3.58m　壁高52.5cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎遺物　総数148点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は8世紀前半の所産と考えられる。

H－49号住居跡（Ｆｉｇ．36，ＰＬ．20）
◎位置　X72～73、Y181～182グリッド　◎面積　14.29㎡　◎長軸方位　N－85°－W　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸3.97m　短軸3.6m　壁高48.67cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎遺物　総数106点。

H－50号住居跡（Ｆｉｇ．36，ＰＬ．20）
◎位置　X72～73、Y180～181グリッド　◎面積　9.61㎡　◎長軸方位　N－3°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.42m　短軸2.81m　壁高19cm。　◎竈　東壁の南端に近い位置に設置。　◎遺物　総数135点。　◎出土遺物などから、本住居跡は10世紀後半の所産と考えられる。

H－51号住居跡（Ｆｉｇ．37）
◎位置　X70、Y181グリッド　◎備考　本住居跡は竈の東端部のみの検出である。西側部分に居住

区域が想定できるが、調査区外のため調査できず。

H－52号住居跡（Ｆｉｇ．37，ＰＬ．20）
◎位置　X69～70、Y182～183グリッド　◎面積　5.58㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－19°－W　◎形状　本遺構は調査区西端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸4.57m　短軸1.22m　壁高62.2cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数51点。　◎備考　北西側は調査区外のため、調査できず。出土遺物などから、本住居跡は８世紀前半の所産と考えられる。

H－53号住居跡（Ｆｉｇ．38，ＰＬ．14）
◎位置　X82～83、Y166～167グリッド　◎面積　12.58㎡　◎長軸方位　N－3°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.87m　短軸3.25m　壁高36.8m。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎重複関係　B－14号掘立柱建物跡を斬る。　◎遺物　総数190点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は９世紀前半の所産と考えられる。

H－54号住居跡（Ｆｉｇ．38，ＰＬ．14）
◎位置　X79～80、Y166～167グリッド　◎面積　10.15㎡　◎長軸方位　N－7°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.56m　短軸2.85m　壁高23.6cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数178点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は10世紀中頃の所産と考えられる。

H－55号住居跡（Ｆｉｇ．37）
◎位置　X82～83、Y168グリッド　◎面積　2.12㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－88°－E　◎形状　本遺構は調査区南東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸3.03m　短軸0.7m　壁高23.7cm。　◎遺物　総数34点。　◎備考　南東側は調査区外のため、調査できず。

H－５６号住居跡（Ｆｉｇ．39，ＰＬ．15）
◎位置　X73～74、Y165～166グリッド　◎面積　11.62㎡　◎長軸方位　N－16°－E　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.52m　短軸3.3m　壁高46.2cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数187点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀後半の所産と考えられる。

H－57号住居跡（Ｆｉｇ．39，ＰＬ．15）
◎位置　X75～76、Y164～166グリッド　◎面積　14.04㎡　◎長軸方位　N－5°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸4.32m　短軸3.25m　壁高48.14cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数136点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀前半の所産と考えられる。

H－58号住居跡（Ｆｉｇ．40，ＰＬ．）
◎位置　X80～81、Y164～165グリッド　◎面積　10.27㎡　◎長軸方位　N－0°　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.68m　短軸2.79m　壁高14.8cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数74点。　◎備考　上部が削平されていて、遺存度が低い。

H－59号住居跡（Ｆｉｇ．40）
◎位置　X83、Y163～164グリッド　◎面積　2.88㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－8°－W
◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸3.6m　短軸0.8m　壁高29.5cm。
◎遺物　総数９点。　◎備考　東側は調査区外のため、調査できず。

H－60号住居跡（Ｆｉｇ．41）
◎位置　X83、Y161～162グリッド　◎面積　2.67㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－20°－W
◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸2.67m　短軸１m　壁高9.13cm。
◎重複関係　８世紀末から９世紀初頭の所産と考えられるH－61号住居跡を斬る。H－61の埋没土を利用して、床面を構築。　◎遺物　総数110点。　◎備考　東側は調査区外のため、調査できず。

H－61号住居跡（Ｆｉｇ．41）
◎位置　X82～83、Y160～161グリッド　◎面積　11.9㎡（推定値）　◎長軸方位　N－76°－W
◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸3.5m　短軸3.4m　壁高53.83cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。
◎重複関係　H－60号住居跡に南東隅の上部を斬られる。　◎遺物　総数122点。　◎備考　東側は調査区外のため、調査できず。出土遺物などから、本住居跡は８世紀末から９世紀初頭の所産と考えられる。

H－62号住居跡（Ｆｉｇ．40，ＰＬ．15）
◎位置　X78～79、Y160～161グリッド　◎面積　18.02㎡　◎長軸方位　N－85°－E　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸4.27m　短軸4.22m　壁高57.3cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数102点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀後半の所産と考えられる。

H－63号住居跡（Ｆｉｇ．41）
◎位置　X83、Y159～160グリッド　◎面積　3.18㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－10°－E
◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘の為、その形状は不明。長軸3.53m　短軸0.9m　壁高48.5cm。　◎遺物　総数40点。　◎備考　東側は調査区外のため、調査できず。

H－64号住居跡（Ｆｉｇ．42，ＰＬ．15）
◎位置　X82～83、Y157～158グリッド　◎面積　20.88㎡　◎長軸方位　N－6°－W　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸4.6m　短軸4.54m　壁高85.67cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数808点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は８世紀中頃の所産と考えられる。

H－65号住居跡（Ｆｉｇ．31）
◎位置　X82～83、Y185～187グリッド　◎面積　10.36㎡（部分発掘）
◎長軸方位　N－13°－W　◎形状　本遺構は調査区東端での部分発掘である為、その形状は不明。長軸3.3m　短軸3.14m　壁高69cm。　◎重複関係　９世紀末から10世紀初頭の所産と考えられるH－38号住居跡に住居北西部分を斬られる。　◎遺物　総数68点。　◎備考　東側は調査区外のため、調査できず。東壁は未検出。

H－66号住居跡（Ｆｉｇ．29，ＰＬ．17）
◎位置　X81～82、Y192～193グリッド　◎面積　5.17㎡（部分発掘）　◎長軸方位　N－15°－W　◎形状　本遺構はH－34号住居跡と重複している為、その形状は不明。長軸3.27m　短軸1.58m　壁高31cm。　◎重複関係　8世紀前半の所産と考えられるH－34号住居跡に東側を斬られる。東壁は遺存していない。また、B－20掘立柱建物跡に北壁の一部を斬られる。　◎遺物　総数13点。

H－67号住居跡（Ｆｉｇ．42，ＰＬ．22）
◎位置　X61～62、Y185～186グリッド　◎面積　10.18㎡　◎長軸方位　N－0°　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸3.37m　短軸3.02m　壁高30.5cm。　◎竈　東壁南寄りに設置。　◎遺物　総数77点。　◎備考　出土遺物などから、本住居跡は8世紀後半の所産と考えられる。

(2)　掘立柱建物跡

B－13号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．43）
◎位置　X81～82、Y160～161グリッド　◎面積　12.8㎡　◎長軸方位　N－87°－E　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸4m　短軸3.2m。　◎柱間寸法　1.81m等間。　◎遺物　総数3点。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長径(cm) | 54 | 45 | 50 | 51 | 61 | 55 | 49 | 36 |
| 短径(cm) | 50 | 44 | 46 | 44 | 50 | 54 | 41 | 34 |
| 深さ(cm) | 50 | 22 | 39 | 26 | 17 | 40 | 36 | 43 |

B－14号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．43）
◎位置　X82～83、Y165～166グリッド　◎面積　6㎡　◎長軸方位　N－28°－E　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸2.5m　短軸2.4m。　◎柱間寸法　2.43m等間。　◎重複関係　9世紀前半の所産と考えられるH－53号住居跡に斬られる。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 |
|---|---|---|---|---|
| 長径(cm) | 63 | 73 | 53 | 46 |
| 短径(cm) | 47 | 56 | 44 | 45 |
| 深さ(cm) | 38 | 43 | 37 | 61 |

B－15号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．44，ＰＬ．18・21）
◎位置　X80～82、Y180～181グリッド　◎面積　39.16㎡　◎長軸方位　N－81°－W　◎形状　東西に延びる長方形を呈す。長軸8.9m　短軸4.4m。　◎柱間寸法　2.2m等間。　◎重複関係　10世紀代の所産と考えられるH－43号住居跡に斬られる。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長径(cm) | 75 | 60 | 60 | 72 | 72 | 76 | 77 | 75 |
| 短径(cm) | 60 | 51 | 53 | 54 | 70 | 60 | 50 | 70 |
| 深さ(cm) | 61 | 61 | 48 | 38 | 48 | 39 | 46 | 46 |

| 柱穴番号 | P9 | P10 | P11 |
|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 75 | 90 | 93 |
| 短 径(cm) | 60 | 75 | 60 |
| 深 さ(cm) | 48 | 48 | 48 |

B－16号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．45，ＰＬ．21）

位置　X76～78、Y179～180グリッド　◎面積　9.6㎡　◎長軸方位　N－19°－E　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸3.2m　短軸３m。　◎柱間寸法　1.56m等間。　◎重複関係　W－２号溝状遺構とD－４号土坑を斬る。　◎遺物　総数７点。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 85 | 60 | 66 | 72 | 62 | 56 | 60 | 70 | 53 |
| 短 径(cm) | 63 | 50 | 63 | 63 | 58 | 53 | 50 | 47 | 48 |
| 深 さ(cm) | 64 | 82 | 58 | 70 | 46 | 46 | 54 | 86 | 28 |

B－17号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．46，ＰＬ．21）

位置　X76～78、Y183～184グリッド　◎面積　24.4㎡　◎長軸方位　N－９°－W　◎形状　南北に延びる長方形を呈す。長軸6.1m　短軸４m。

◎柱間寸法　P2－P3柱間およびP7－P8柱間は2.69m、他の柱間は1.85mの等間。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 53 | 63 | 56 | 72 | 75 | 82 | 75 | 21 | 62 | 49 |
| 短 径(cm) | 50 | 57 | 45 | 55 | 51 | 70 | 36 | 20 | 42 | 44 |
| 深 さ(cm) | 22 | 46 | 24 | 34 | 32 | 20 | 30 | 14 | 20 | 12 |

B－18号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．45，ＰＬ．21）

◎位置　X81～82、Y189～190グリッド　◎面積　14.7㎡　◎長軸方位　N－86°－E　◎形状　東西にやや延びる長方形を呈す。長軸4.2m　短軸3.5m。　◎柱間寸法　1.53m等間。　◎遺物　総数56点。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 55 | 65 | 55 | 50 | 44 | 66 | 67 | 70 | 40 | 43 |
| 短 径(cm) | 50 | 60 | 47 | 50 | 40 | 60 | 60 | 58 | 38 | 41 |
| 深 さ(cm) | 38 | 38 | 38 | 22 | 34 | 36 | 30 | 40 | 16 | 28 |

B－19号掘立柱建物跡（Ｆｉｇ．46，ＰＬ．22）

◎位置　X81～82、Y190～191グリッド　◎面積　5.52㎡　◎長軸方位　N－18°－W　◎形状　ほぼ正方形を呈す。長軸2.4m　短軸2.3m。　◎柱間寸法　1.18m等間。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 38 | 78 | 40 | 30 | 30 | 52 | 72 | 46 |
| 短 径(cm) | 35 | 41 | 38 | 24 | 29 | 41 | 61 | 37 |
| 深 さ(cm) | 44 | 15 | 52 | 21 | 72 | 54 | 66 | 25 |

B－20号掘立柱建物跡（Fｉｇ．47，ＰＬ．22）

◎位置　X80～81、Y190～192グリッド　◎面積　29.5㎡　◎長軸方位　N－8°－W　◎形状　南北にやや延びる長方形を呈す。長軸5.9m　短軸５m。　◎柱間寸法　2.17m等間。　◎重複関係　H－66号住居跡を斬る。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 105 | 78 | 91 | 152 | 93 | 73 | 71 | 110 | 86 | 95 |
| 短 径(cm) | 83 | 69 | 81 | 87 | 80 | 72 | 69 | 63 | 71 | 66 |
| 深 さ(cm) | 54 | 26 | 53 | 24 | 40 | 20 | 39 | 56 | 64 | 52 |

B－21号掘立柱建物跡（Fｉｇ．47）

◎位置　X80～81、Y191～192グリッド　◎面積　6.56㎡　◎長軸方位　N－2°－W　◎形状　長方形を呈す。長軸4.1m　短軸1.6m。　◎柱間寸法　1.92m等間。

| 柱穴番号 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長 径(cm) | 54 | 48 | 73 | 41 | 46 | 45 |
| 短 径(cm) | 43 | 40 | 54 | 40 | 45 | 41 |
| 深 さ(cm) | 40 | 31 | 34 | 23 | 48 | 30 |

Tab. 6　掘立柱建物跡一覧表

| 遺構名 | 主軸方向<br>棟 方 向 | 長軸(m) ×短軸 (m) | 柱　間 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| B－13 | N－87°－E<br>E－W | 4.0 × 3.2 | 等　間 | 側柱建物 |
| B－14 | N－28°－E<br>S－N | 2.5 × 2.4 | 等　間 | 側柱建物 |
| B－15 | N－81°－W<br>E－W | 8.9 × 4.4 | 等　間 | 側柱建物，H－43に斬られる。 |
| B－16 | N－19°－E<br>S－N | 3.2 × 3.0 | 等　間 | 総柱建物，P9に礎石を確認。 |
| B－17 | N－9°－W<br>S－N | 6.1 × 4.0 | 1.85m<br>2.69m | P2－P3間、P7－P8間の柱間が広いが、他の柱間は等間。 |
| B－18 | N－86°－E<br>E－W | 4.2 × 3.5 | 等　間 | 側柱建物 |
| B－19 | N－18°－W<br>S－N | 2.4 × 2.3 | 等　間 | 側柱建物 |
| B－20 | N－8°－W<br>S－N | 5.9 × 5.0 | 等　間 | 側柱建物 |
| B－21 | N－2°－W<br>S－N | 4.1 × 1.6 | 等　間 | 側柱建物 |

## 2 考　察

本年度調査区は、昨年度調査された荻窪配水地場北側の荻窪倉兼遺跡を北・東からＬ字形に囲むように設定した。調査地は赤城山麓から流れ出る河川に挟まれた舌状台地上にあり、南東方向に向かって緩やかに傾斜している。ここは旧来、桑畑等の畑作地であったため、ある程度の削平を受けていた。したがって、遺構の一部には遺存度がよくないものもあった。しかし、大部分の遺構については比較的遺存度が良好であった。

出土遺物を見てみると、土師器片（坏・椀・甕など）が最も多く、次いで須恵器片（坏・椀・甕・甑など）であった。これらの土器片は点数が限られていたものの、中には墨書を残すものもあり、そのバリエーションは豊富である。土器片の他にも、石製品や鉄製品も収納することができた。

調査によって得られた資料から、本遺跡は８世紀前半から10世紀後半にかけての集落跡と考えられる。以下の部分では、荻窪倉兼Ⅱ遺跡の竪穴住居跡・掘立柱建物跡についてみた後、荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡を合わせた集落の全体像をみてみたい。

◎ 竪穴住居跡

本年度、検出した住居跡は36軒である。竪穴は、いずれも長方形若しくは正方形に近い形状を呈し、１辺が3.5～4.0m規模のものが多い。遺構確認面からの壁高は浅いものでは10ｃｍ足らず、深いものでは81ｃｍを測る。住居内に竈を確認できたものは28軒を数え、どの住居も東壁に竈が付設されていた。

本集落の住居跡は、出土した土器等から８世紀前半から10世紀後半に存続したと考えられる。以下、年代を追って考えてみたい。

もっとも古い８世紀代の所産と考えられるのは、Ｈ－30・32・34・36・48・52・57・62・64・67号住居跡である。この年代の住居跡は検出数が最も多く、８世紀末～９世紀初頭と考えられるＨ－61号住居跡も含めると12軒を数える。この内、８世紀前半と推定される住居跡は、Ｈ－30・34・36・48・52・57号住居跡である。これらの住居跡は遺存度が良好で、どの住居でも東壁に付設された竈を確認した。Ｈ－52号住居跡は調査区西際で部分的な検出しかできなかったが壁高が深く竈の遺存度も良好で、火を受けて赤く焼けた粘土が焚口から煙道部分まで確認された。Ｈ－34号住居跡は、Ｈ－66号住居跡の東壁を壊して竪穴が掘られていた。このことから、Ｈ－66号住居跡の存続時期は８世紀初頭以前と考えられる。８世紀中頃と考えられる住居跡は、Ｈ－32・64号住居跡である。中でもＨ－32号住居跡は竪穴の床面積が検出住居中最大で壁高も深く、出土遺物も2875点と最も多い。竈は袖部が粘土で固められていたが、竈周辺の遺構確認面で表面が赤く焼けた石が出土した。この石は、竈壁面の補強に使用したと思われる。Ｈ－64号住居跡は、最深の壁高を測った。竈の遺存度が良好で、袖石・天井石がそのままの状態で検出され、竈の石組みを顕著に残していた。８世紀後半に時代を下ると、Ｈ－56・62・67号住居跡の存続時期と考えられる。Ｈ－67号住居跡は上部を削平されて遺存度が低かったが、Ｈ－56・62号住居跡は良好な遺存度であった。８世紀末から９世紀初頭と考えられるＨ－61号住居は、Ｈ－60号住居に南東隅壁と埋没土を掘り込まれている。しかし、壊されていたのは南東隅の壁上部だけで、石で補強した竈袖部分は良好な遺存度であった。

９世紀代の住居跡はＨ－40・42・44・53号住居跡で、検出数は少なく４軒のみである。９世紀前半と考えられるのは、Ｈ－53住居跡である。この住居では、４本の主柱穴と貯蔵穴が明確に残存していた。また、竈の補強に用いたと思われる石が、竈の埋没土中で確認できた。９世紀中頃と考えられる

H－42号住居は、H－41号住居跡の南西隅を掘り込んでつくられている。H－41号住居跡は出土遺物に乏しく、その存続時期を推定することに至っていない。しかし、H－42号住居跡の存続時期から9世紀後半以降と考えることができる。H－40号住居跡は9世紀後半、H－44号住居跡は9世紀末頃の存続時期を考えることができる。この内、H－44号住居跡では、四方の壁下に周溝を確認することができた。

10世紀代に存続時期を推定できるものはH－31・43・46・47・50・54号住居跡で、9世紀末～10世紀初頭と考えられるH－38号住居跡を含めると7軒である。これらのうち、H－47号住居跡を除く6軒では、竈の埋没土中に竈の壁を補強したとみられる石が確認されている。この時期の竈には石による壁面の補強が一般化していたものと考えられよう。

◎ 掘立柱建物跡

本年度、荻窪倉兼Ⅱ遺跡で検出された掘立柱建物跡は9棟であった。いずれの建物跡も出土遺物が乏しく、遺物から時期を推定するに至らなかった。しかしながら、柱穴の並び方や棟方向等に特徴があった。

まず、8世紀代の住居跡と棟方向が近似するものをみてみたい。荻窪倉兼遺跡のH－13号住居は、8世紀初頭と比定される。この住居に棟方向が近似するのは、B－18号掘立柱建物である。8世紀前半と比定されるH－34号住居とはB－19号掘立柱建物跡の棟方向が近似し、8世紀中頃と比定されるH－32号住居とはB－20・21号掘立柱建物跡の棟方向が近似する。更に、8世紀後半と比定されるH－62号住居跡の棟方向はB－13号掘立柱建物跡の棟方向と近似する。

9世紀中頃と比定されるH－42号住居は、棟方向がB－17号掘立柱建物跡と近似している。棟方向の近似はこの1組だけである。しかしながら、B－14号掘立柱建物は、9世紀前半と比定されるH－53号住居に斬られていることから、B－14号掘立柱建物は、9世紀前半以前と比定される。

10世紀代では、掘立柱建物跡と棟方向が近似する住居跡はない。しかし、10世紀代と比定されるH－43号住居跡は、B－15号掘立柱建物を斬っている。このことから、B－15号掘立柱建物は10世紀よりも古いことが分かる。

時代を追って掘立柱建物跡の分類を試みてきたが、更に建物の種類についても考えてみたい。

検出された掘立柱建物跡は、ほとんどが中柱をもたない側柱建物であった。しかし、B－16号掘立柱建物跡では中柱の柱穴が確認され、この柱穴には礎石と思われる平坦な石が置かれていた。このような総柱建物は倉庫（雑倉）であった可能性が高い。しかしながら、棟方向が近似し共伴するとみられる竪穴住居は、周囲には見あたらなかった。

B－17号掘立柱建物跡は、柱間が等間ではなかった。$P_2$－$P_3$、$P_7$－$P_8$の柱間は他の柱間の約1.5倍長さがあった。この遺構は中柱をもたず側柱建物と考えられるので、広い柱間の部分に扉がつけられた特別な建物であった可能性がある。しかし、柱穴が小さく浅いこと、埋没土が黒色砂質土で表層土に近いことから、時期的に近世以降の建物である可能性が高い。

◎まとめ

平成13・14年度に渡った荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡の調査であったが、この2カ年で検出された住居跡は65軒、掘立柱建物跡は21棟に及んだ。最後に、2つの遺跡を合わせて集落全体を考えてみたい。

まず、時期別にみると、8世紀代の住居はため池造成地の北側から南側まで広い分布をみせる。し

かし、９・10世紀代の住居跡は30軒中28軒が造成地南側にあり、集中傾向が見られる。この南側の部分は、荻窪倉兼遺跡及び荻窪倉兼Ⅱ遺跡Ｂ区である。ここでは、８世紀初頭から10世紀末までの住居が混在していて、時期毎のまとまりを看取できない。したがって、この南側では８～10世紀の約300年間継続的に集落が営まれていたと考えられる。更にここでは、住居と掘立柱建物との関連を窺わせる住居跡が多いことから、集落の中心は遺跡地の南側であった可能性が高い。

住居の規模や掘立柱建物との関連は、更にこのことを裏付けると思われる。北側の８世紀代住居は比較的小振りで、一番大きいＨ－64号住居跡でも床面積21㎡足らずで一辺の長さは4.5mほどである。また、関連を考えられる住居と掘立柱建物は、棟方向の近似したＨ－62号住居跡とＢ－13号掘立柱建物跡である。しかし、南側では床面積25㎡以上、一辺が５mほどの住居がＨ－13・32・36と３軒ある。こうした大型の住居は集落の中心となる人物のものである場合が多い。また、Ｈ－32・36号住居跡はＢ－20号掘立柱建物跡と棟方向が近似していて関連を想定できる。もしかするとＨ－32号または36号住居の人物は、別棟の建物をもつほどの有力者とも考えられよう。こうしたことから、８世紀代では集落の中心が南側にあったことが想定される。同じく10世紀代では、荻窪倉兼遺跡のＨ－26号住居とＢ－５・６号掘立柱建物とが10世紀前半、Ｈ－20・23号住居とＢ－10号掘立柱建物とが10世紀後半から末期の所産として、その関連が言われている。このことから、10世紀代でも集落の中心は南側であった可能性は高い。

更に広く荻窪鰯塚遺跡も含めた本台地上の集落を考えると、北西から南東に延びる台地の西側の開析谷が水田として利用されていて、集落はその台地上に開かれたという状況が分かる。そこで、台地の土地利用について以下のように考える。

1．古墳時代は、水田に近い台地の下段部に集落がつくられる。（農住近接）
2．奈良時代になると北側の高い地区まで、かなり広い範囲に一気に集落が拡大する。（生産力の向上による人口の増加。）
3．平安時代では、限られた範囲に住居が集中する傾向をみせる。（政治的な指導か。）
4．掘立柱建物跡の分布から考えると、本遺跡の南側部分は集落の中心として機能したものとみられる。そして、これは荻窪鰯塚遺跡も含めた郷の広がりをもつかもしれない。
5．掘立柱建物の内、総柱建物は集落の周辺部にある傾向がみられる。
6．この集落は、古墳時代から平安時代まで継続する伝統的な集落とみられる。

本遺跡地の調査は２ヵ年に及んだが調査できた部分は限られており、十分に資料が収集できたとはいえない。特に集落と関係する水田のような生産の場についての資料は、皆無であった。また、本遺跡地調査と同様に荻窪地区開発整備事業に伴って昨年度調査された荻窪鰯塚遺跡や荻窪東爪遺跡についても同様のことが言える。そして、それぞれの遺跡の関連についてはなおさらである。今後、この地域の調査が進んで十分な資料収集がなされ、地域の歴史が解明されることを期待して、結語としたい。

Ｔａｂ．７　荻窪倉兼Ⅱ遺跡土器観察表

| 番号 | 出土位置 | 登録番号 | 器形 | 大きさ(cm) 口径 | 大きさ(cm) 器高 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存 | 器形の特徴・成形・調整技法 | 備考 | Fig. | PL. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－30 | 1 | 坏 | 12.9 | 3.1 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 5/6 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内外面ともに指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 2 | H－30 | 2 | 坏 | 14.8 | 4.6 | 細粒 | 良 | 灰 | ほぼ完形 | 体部は外傾して口縁部に至る。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | | 48 | 23 |
| 3 | H－31 | 1 | 高台付椀 | (13.1) | 6.0 | 細粒 | 良 | 橙 | 2/3 | 体部下位に小さな張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部は僅かに外反する。外面は口縁部篦磨き、体部篦削り。高台は付け高台で周辺部に横撫で調整を施す。内面は黒色処理を施した（内黒）後に篦磨きで仕上げられる。 | | 48 | 23 |
| 4 | H－31 | 3 | 羽釜 | － | － | 細粒 | 良 | 橙 | 破片 | 口縁部から胴部にかけての破片。鍔部は小振りで、鍔部先端は内側を向き、口縁部は内湾して短い。轆轤成形。体部外面下位に篦削りが加わる。 | | － | 23 |
| 5 | H－32 | 1 | 坏 | 13.0 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 5/6 | 底部は丸底で、体部はやや外傾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内外面ともに指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 6 | H－32 | 2 | 坏 | (13.0) | 3.5 | 細粒 | 良 | 灰 | 2/3 | 体部下位に小さい張りをもち、中位から口縁部にかけて直立に近い角度で外傾する。口縁部先端が僅かに外反する。轆轤成形。底部は糸切り後撫で調整。 | | 48 | － |
| 7 | H－32 | 4 | 坏 | 14.4 | 4.6 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 3/4 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内外面ともに指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 8 | H－32 | 5 | 坏 | 14.0 | 4.0 | 細粒 | 良 | 橙 | 1/2 | 底部は丸底で、体部はやや外傾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | － |
| 9 | H－32 | 6 | 坏 | 14.0 | 3.2 | 細粒 | 良 | 橙 | 1/3 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外部篦削り。 | | 48 | － |
| 10 | H－32 | 7 | 坏 | － | (3.3) | 細粒 | 良 | 橙 | 破片 | 底部破片。口縁部が1／12ほど残存する。底部は丸底で、体部は僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は先端のみ内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | － | － |
| 11 | H－32 | 8 | 坏 | (12.2) | (3.9) | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 2/5 | 底部は丸底で、体部は僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で、体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | － |
| 12 | H－32 | 9 | 坏 | 17.0 | 4.1 | 細粒 | 良 | 橙 | 1/3 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | 48 | － |
| 13 | H－32 | 11 | 坏 | 12.5 | 2.9 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 1/2 | 底部は丸底で、体部は僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | － |
| 14 | H－32 | 15 | 甕 | － | (4.6) | 細粒 | 良 | 橙 | 破片 | 頸部・肩部破片。口縁部を僅かに残す。やや崩れた様相の「コ」の字状口縁を有する。成形は口縁部内外面とも横撫で。体部内面撫で、外面横位の篦削り。 | | 48 | － |
| 15 | H－32 | 16 | 甕 | (19.8) | (8.2) | 細粒 | 良 | 淡赤褐 | 破片 | 口縁部破片。「く」の字状口縁。成形は横撫で。僅かに胴部を残し、成形は内面横撫で、外面篦削り。 | | － | 23 |
| 16 | H－34 | 1 | 坏 | 13.2 | 3.4 | 細粒 | 良 | 橙 | 3/4 | 底部は丸底で、体部は僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 17 | H－34 | 3 | 長胴甕 | (19.0) | (26.1) | 細粒 | 良 | にぶい赤褐 | 破片 | 胴部破片。下位から上位に向かって外傾する。成形は内面撫で、外面篦削り。 | | － | 23 |
| 18 | H－35 | 1 | 鉢 | 18.4 | 8.0 | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | 4/5 | 体部下位に小さな張りをもち、中位から外傾して口縁部に至る。轆轤成形で、底部は糸切り後未調整。内面に黒色処理（内黒）を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | 48 | 23 |
| 19 | H－36 | 1 | 坏 | 13.4 | 4.4. | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 4/5 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部先端は強く内湾し「C」字状を呈する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 20 | H－36 | 2 | 坏 | 11.0 | 3.1 | 細粒 | 良 | 橙 | 3/5 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は強く内湾し「C」字状を呈する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | － | 23 |
| 21 | H－36 | 5 | 坏 | 11.0 | 3.0 | 細粒 | 良 | 橙 | 一部欠損 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部先端は強く内湾し「C」字状を呈する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 48 | 23 |
| 22 | H－38 | 1 | 小甕 | 15.0 | 15.1 | 細粒 | 良 | 灰白 | 一部欠損 | 器形に歪んだ感があり、造形は粗雑。口縁部は「く」の字状を呈して内外面ともに横撫でされる。胴部は最大径が肩部にある。器肉は比較的厚手で、内外面とも篦削りが施される。内面は横位、外面上位は横位、中位は縦位である。下位は基本的には縦位だが、部分的に横位に篦削りされる。 | | 48 | 23 |
| 23 | H－38 | 2 | 坏 | 12.0 | 3.8 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 完形 | 底部は器肉がやや厚く、体部下位に小さな張りをもち、中位から外傾して口縁部に至る。口縁部先端は僅かに内湾する。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。口縁の一部に油煙が付着。 | 酸化焼成須恵器（灯明皿か？） | 48 | 23 |
| 24 | H－38 | 3 | 高台付椀 | － | － | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 破片 | 底部破片。轆轤成形。底部糸切り後未調整。高台は付け高台で周辺部に撫で調整を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | － | － |
| 25 | H－38 | 4 | 高台付椀 | － | － | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | 破片 | 底部破片。轆轤成形。底部糸切り後未調整。高台は付け高台で周辺部に撫で調整を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | － | － |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | H－38 | 6 | 甕 | (23.0) | (15.6) | 細粒 | 良 | 浅黄橙 | 破片 | 口縁部から胴部破片。胴部上位に最大径を有する。崩れた感のある「コ」の字状口縁を有する。成形は口縁部内外面とも横撫で。体部内面撫で、外面篦削り。 | | － | 23 |
| 27 | H－40 | 2 | 坏 | (12.8) | 3.9 | 細粒 | 良 | 灰 | 3/5 | 体部下位に張りをもち、外傾して口縁部に至る。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | 墨書土器（文字は「東」と判読できる。） | 49 | 23、26 |
| 28 | H－42 | 1 | 坏 | (12.3) | (3.4) | 細粒 | 良 | にぶい赤褐 | 2/5 | 底部は平底で、外傾して口縁部に至る。口縁部先端は更に外傾して開く。器形に歪んだ感があり、造形は粗雑。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | － | 23 |
| 29 | H－42 | 3 | 坏 | (13.3) | 3.7 | 細粒 | 良 | 灰 | 1/4 | 体部下位に張りをもち、僅かに内湾して口縁部に至る。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | | 49 | － |
| 30 | H－43 | 1 | 長径瓶 | － | － | 細粒 | 良 | 灰 | 破片 | 頸部破片。胴部を僅かに残す。頸部を轆轤成形した後に、胴部に接着。 | | － | 24 |
| 31 | H－43 | 2 | 坏 | (13.0) | 3.5 | 細粒 | 良 | 明赤褐 | 1/2 | 底部は平底に近い丸底で、体部は外傾して口縁部に至る。口縁部先端は直立する。口縁部から体部中位は内外面とも横撫で。体部下位は篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 49 | 24 |
| 32 | H－43 | 4 | 坏 | － | － | 細粒 | 良 | にぶい褐 | 破片 | 体部破片、口縁部を僅かに残す。体部は内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | 墨書土器（文字不明） | 49 | 26 |
| 33 | H－43 | 5 | 皿 | － | － | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | 破片 | 口縁部破片、口縁部を僅かに残す。体部は内湾して口縁部に至る。口縁部先端は外反する。轆轤成形。 | 墨書土器（文字は「朴」と判読できる。）酸化炎焼成刻恵器 | 49 | 26 |
| 34 | H－44 | 1 | 坏 | (12.0) | 3.9 | 細粒 | 良 | 灰白 | 1/3 | 体部中位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は外反する。轆轤成形だが、口縁部の外面には横撫で調整が施される。底部は糸切り後未調整。 | | 49 | 24 |
| 35 | H－44 | 2 | 甕 | (18.5) | (8.7) | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 破片 | 口縁部破片。「コ」の字状口縁をもち、成形は内外面とも横撫で。体部上位を僅かに残し、成形は内面撫で、外面篦磨き。 | | － | 24 |
| 36 | H－46 | 1 | 坏 | 13.2 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 5/6 | 底部は丸底で、体部は内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 49 | 24 |
| 37 | H－46 | 2 | 高台付椀 | (14.8) | 5.7 | 細粒 | 良 | 浅黄橙 | 3/4 | 体部下位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は外反する。轆轤成形。高台は付け高台で周辺部及び底部に横撫で調整を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | 49 | 24 |
| 38 | H－46 | 3 | 甕 | (22.0) | (13.3) | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 破片 | 口縁から胴部にかけての破片。「く」の字状口縁をもち、胴部上位に最大径を有する。成形は口縁部内外面とも横撫で。体部内面撫で、外面篦削り。 | | － | 24 |
| 39 | H－46 | 4 | 羽釜 | － | (11.0) | 細粒 | 良 | 灰褐 | 破片 | 口縁部から鍔部にかけての破片。鍔部は大きめのしっかりとした作りで、下面は水平に延びる。口縁部は内傾して短い。轆轤成形で、鍔部下の胴部は篦削り。 | | － | 24 |
| 40 | H－46 | 5 | 羽釜 | － | (23.2) | 細粒 | 良 | 灰 | 破片 | 口縁部から胴部にかけての破片。鍔部は大きめのしっかりとした作りで、下面は水平に延びる。口縁部は内傾して短い。轆轤成形で、鍔部下からの胴部は横位の篦削り。 | | － | 24 |
| 41 | H－46 | 7 | 甑 | － | (15.2) | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | 破片 | 胴部破片。脚部が開く変換点から下位は欠損のため、穿孔は未確認。、胴部は内湾気味に外傾する。成形は内面撫で、外面縦位の篦削り。 | | 49 | － |
| 42 | H－46 | 14 | 壺 | [12.2] | [25.0] | 細粒 | 良 | 灰白 | 3/5 | 底部から僅かに直立して胴部上位に最大径を有し、そこから頸部まで内湾する。頸部から口縁部までは緩やかに外反する。成形は口縁部から胴部上位横撫で、体部中位斜位篦削り、下位撫で。 | | 49 | 24 |
| 43 | H－46 | 15 | 甑 | － | (25.4) | 細粒 | 良 | 灰白 | 3/5 | 底部欠損のため穿孔は未確認。底部に僅かな「く」の字状の屈曲をもち胴部上位まで緩やかに内湾する。頸部から上位は欠損。肩部に把手の付け根と見られる突起あり。轆轤成形。 | | 49 | 24 |
| 44 | H－47 | 1 | 小甕 | (13.0) | (12.9) | 細粒 | 良 | 褐灰 | 破片 | 口縁部から胴部にかけての破片。胴部上位に最大径を有する。「コ」の字状口縁を呈する。成形は口縁部内外面とも横撫で。体部内面撫で、外面横位の篦削り。 | | － | 24 |
| 45 | H－47 | 3 | 坏 | (13.0) | (3.1) | 細粒 | 良 | 黄灰 | 4/5 | 体部中位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部は外反して水平に開く。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | | － | 24 |
| 46 | H－47 | 4 | 高台付椀 | 17.8 | 7.5 | 中粒 | 良 | にぶい橙 | 7/8 | 体部中位に張りをもって内湾し、口縁部先端は外反する。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。高台は付け高台で周辺部に横撫で調整を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | 49 | 24 |
| 47 | H－47 | 5 | 甕 | 19.2 | 26.4 | 細粒 | 良 | 黒褐 | 4/5 | 胴部上位に張りをもち緩やかに内湾する。頸部は「コ」の字状を呈し、口縁部は外傾する。成形は口縁部内外面とも横撫で、体部内面撫で、外面上位横位、中・下位斜位篦削り。 | | 49 | 24 |
| 48 | H－48 | 1 | 坏 | 12.3 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 1/3 | 底部は丸底で、内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | 24 |
| 49 | H－50 | 1 | 羽釜 | 19.2 | (23.0) | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 4/5 | 底部欠損。胴部上位に張りをもち内湾する。鍔部はやや小振りで、上下両面とも水平面ではない。口縁部は内傾する。成形は鍔部と口縁部は内外面とも横撫で。体部内面は撫で、外面下位は篦削り、中位から上位は撫で。中位に縦方向の篦調整が加わる。 | | 50 | 24 |
| 50 | H－50 | 2 | 高台付椀 | (15.2) | 6.5 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 一部欠損 | 底部から小さな張りをもつ体部中位までは内湾し、そこから口縁部までは外傾する。体部は轆轤成形。高台は付け高台で周辺部と底部に撫で調整を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | 50 | 24 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 51 | H－50 | 5 | 高台付椀 | [16.7] | 5.8 | 細粒 | 良 | 浅黄橙 | 2/5 | 体部下位に小さな張りをもち、そこから口縁部までは外傾する。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。高台は付け高台で周辺部に横撫で調整を施す。内面に黒色処理（内黒）を施す。 | 酸化炎焼成須恵器 | － | 25 |
| 52 | H－50 | 6 | 小甕 | 13.8 | 9.9 | 細粒 | 良 | 灰黄褐 | 4/5 | 体部上位に最大径。口縁部は「く」の字状を呈して外傾する。成形は体部斜位の篦削り、口縁部から肩部までは横撫で。 | | 50 | 25 |
| 53 | H－52 | 1 | 坏 | 13.8 | (3.3) | 細粒 | 良 | 橙 | 2/5 | 底部は丸底で、外面に炭素が付着する。口縁部はやや内湾する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | － | 25 |
| 54 | H－52 | 2 | 坏 | 12.8 | 4.0 | 細粒 | 良 | 橙 | 3/4 | 底部は丸底で、直立して口縁部に至る。口縁部先端は外傾する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は外面横位の篦削り。内面撫で。 | | 50 | 25 |
| 55 | H－53 | 1 | 坏 | 13.0 | 3.1 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | ほぼ完形 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | 25 |
| 56 | H－53 | 2 | 坏 | 13.0 | 3.4 | 細粒 | 良 | 橙 | ほぼ完形 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | 25 |
| 57 | H－53 | 3 | 坏 | 13.0 | 3.2 | 細粒 | 良 | 橙 | ほぼ完形 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | 25 |
| 58 | H－53 | 5 | 甕 | (20.0) | (10.2) | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 破片 | 口縁部破片。「く」の字状口縁を呈する。僅かに胴部を残す。成形は口縁部は内外面とも横撫で。胴部内面は撫で、外面篦削り。 | | － | 25 |
| 59 | H－53 | 6 | 坏 | 12.7 | 3.5 | 細粒 | 良 | 橙 | 7/8 | 底部は丸底で、僅かに内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | － |
| 60 | H－53 | 7 | 坏 | 12.7 | 3.6 | 細粒 | 良 | 灰 | 4/5 | 体部は外反して口縁に至る。轆轤成形であるが器形に歪みがあり、仕上げは粗雑。底部は篦切り。 | | － | 25 |
| 61 | H－54 | 2 | 高台付椀 | 15.0 | 6.4 | 細粒 | 良 | 灰橙 | 4/5 | 体部下位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は小さく外反する。轆轤成形。高台は付け高台で周辺部に横撫で調整を施す。底部の内面に炭素が付着する。 | 酸化炎焼成須恵器 | 50 | 25 |
| 62 | H－54 | 3 | 高台付椀 | 10.6 | 4.4. | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | 3/4 | 底部は平底で、外傾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫でで指圧痕が残り、外面篦削り。高台は付け高台で周辺部に横撫で調整が施される。 | | 50 | － |
| 63 | H－54 | 4 | 高台付椀 | 11.0 | 4.9 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | ほぼ完形 | 体部下位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は外傾して小さく開く。轆轤成形。高台は付け高台で底部及び周辺部に撫で調整が施される。 | 酸化炎焼成須恵器 | 50 | 25 |
| 64 | H－54 | 5 | 坏 | 11.0 | 4.0 | 細粒 | 良 | にぶい黄橙 | ほぼ完形 | 体部下位に張りをもち、体部は外傾して口縁部に至る。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | 酸化炎焼成須恵器 | 50 | 25 |
| 65 | H－54 | 7 | 坏 | (11.0) | 3.0 | 細粒 | 良 | 明褐灰 | 1/3 | 体部は大きく外傾して口縁部に至る。轆轤成形後、横撫で調整。底部は糸切り後未調整。 | 酸化炎焼成須恵器 | 50 | － |
| 66 | H－56 | 1 | 甕 | (20.8) | (11.8) | 細粒 | 良 | 橙 | 破片 | 口縁部破片。「く」の字状口縁を呈する。口縁部先端は波打ち、造形が粗雑である。体部上位の一部を残す。成形は口縁部内外面とも横撫で、体部内面撫で体部上位篦磨き、下位篦削り。 | | － | 25 |
| 67 | H－56 | 2 | 坏 | (12.4) | 3.4 | 細粒 | 極良 | 灰 | 1/5 | 体部は大きく外傾して口縁部に至る。轆轤成形後、横撫で調整。底部は糸切り後未調整。 | | 50 | － |
| 68 | H－57 | 1 | 坏 | 13.0 | 3.4 | 細粒 | 良 | 橙 | 3/4 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部先端は小さく内湾する。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 50 | 25 |
| 69 | H－58 | 1 | 坏 | － | － | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 破片 | 底部破片。外面篦削り、内面撫で。 | 墨書土器（文字は「長」と判読できる。） | 50 | 26 |
| 70 | H－61 | 1 | 坏 | (12.9) | 4.5 | 細粒 | 良 | 灰白 | 1/3 | 体部下位に張りをもち、体部は外傾して口縁部に至る。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | | 50 | 25 |
| 71 | H－62 | 1 | 坏 | 14.4 | 3.6 | 細粒 | 良 | 灰白 | 4/5 | 体部中位に張りをもち、体部は外傾して外傾して口縁部に至る。口縁部先端は小さく外反する。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | | 51 | 25 |
| 72 | H－62 | 2 | 坏 | 13.6 | 3.2 | 細粒 | 良 | 灰 | 5/6 | 体部下位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は僅かに外傾して開く。轆轤成形。底部は糸切り後篦調整。 | | 51 | 25 |
| 73 | H－62 | 3 | 坏 | 14.4 | 4.4. | 細粒 | 良 | 橙 | ほぼ完形 | 底部は僅かに丸みを残す平底で、体部は外傾して口縁部に至る。口縁部先端は僅かに外反する。口縁部は、内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | 51 | 25 |
| 74 | H－62 | 4 | 甕 | 22.5 | (22.7) | 細粒 | 良 | 橙 | 2/5 | 最大径は口縁部先端。胴部上位に張りをもち緩やかに内湾する。頸部は「コ」の字状を呈し、口縁部は外傾する。成形は口縁部内外面とも横撫で、体部内面撫で、外面斜位篦削り。 | | 51 | 25 |
| 75 | H－64 | 1 | 坏 | 12.3 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | ほぼ完形 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 51 | 25 |
| 76 | H－64 | 3 | 坏 | 13.6 | 3.6 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 4/5 | 底部は下位に平坦な面をもつ丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面横位の篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 51 | 26 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | H－64 | 4 | 甕 | [21.5] | (5.5) | 細粒 | 良 | 橙 | 破片 | 口縁部破片。「コ」の字状口縁。成形は横撫で。肩部の一部が残存し、篦削りで仕上げられる。 | | 51 | － |
| 78 | H－64 | 6 | 坏 | 14.4 | 2.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 一部欠損 | 底部は丸底で、体部は内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外部篦削り。体部外面に炭素が付着する。 | | － | 26 |
| 79 | H－64 | 7 | 坏 | 13.4 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 完形 | 底部は丸底で、体部は内湾して口縁部に至る。口縁部先端は強く内湾し、「C」字状を呈する。口縁部は内外面とも横撫で。体部内面撫で、外部横位の篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 51 | 26 |
| 80 | H－64 | 8 | 坏 | 13.8 | 3.5 | 細粒 | 良 | 灰白 | 5/6 | 体部中位に張りをもち、体部は内湾して口縁部に至る。口縁部先端は僅かに外反する。轆轤成形。底部は篦切りで、凹凸がある。 | | 51 | 26 |
| 81 | H－64 | 9 | 坏 | (9.8) | 3.6 | 細粒 | 良 | 灰褐 | 4/6 | 体部中位に張りをもち、内湾して口縁部に至る。口縁部先端は直立する。轆轤成形。底部は糸切り後未調整。 | 酸化炎焼成須恵器 | 51 | － |
| 82 | H－64 | 10 | 高台付椀 | (14.5) | 4.1 | 細粒 | 良 | 灰白 | 2/3 | 体部は緩やかに外傾し、口縁部に至る。轆轤成形。底部に篦調整を施す。高台は付け高台。 | | 51 | 26 |
| 83 | H－64 | 12 | 蓋 | 16.2 | 3.2 | 細粒 | 良 | 灰 | ほぼ完形 | 体部は轆轤成形、天井部に回転篦切り痕を残す。環状ツマミを有し、周辺部篦調整。内面にかえりを有する。 | | 51 | 26 |
| 84 | H－67 | 1 | 坏 | 13.3 | 2.7 | 細粒 | 良 | 橙 | 一部欠損 | 底部は丸底で体部は内湾して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で、外面篦削り。 | | － | 26 |
| 85 | H－67 | 2 | 高台付椀 | 14.5 | 4.7 | 細粒 | 良 | 灰白 | 3/5 | 器形に歪んだ感があり、造形は粗雑。体部下位に張りをもち、外傾して口縁部に至る。口縁部先端は僅かに外反する。轆轤成形。高台は付け高台で周辺部及び底部に撫で調整が施される。 | | － | 26 |
| 86 | H－67 | 4 | 坏 | 13.1 | 3.6 | 細粒 | 良 | 橙 | 2/3 | 底部は丸底で、体部は直立して口縁部に至る。口縁部は内外面とも横撫で。体部は内面撫で外面篦削り。内面に指圧痕が残る。 | | 51 | － |
| 87 | H－67 | 6 | 長頸壺 | 17.9 | (11.4) | 細粒 | 良 | 灰白 | 破片 | 口縁部・頸部・底部欠損。胴部中位に張りをもって外傾し、そこから肩部までは内湾する。肩部に最大径を有し，ここを変換点として最小径の頸部最下位に急激に内湾して連なる。轆轤成形。 | | 51 | 26 |
| 88 | D－1 | 1 | 坏 | 17.4 | 3.4 | 細粒 | 良 | 灰褐 | 1/3 | 底部は丸底で、体部は口縁部まで短く直立する。成形は口縁部内外面とも横撫で。体部内面撫で、外面篦削り。 | | － | － |
| 89 | P－1 | 1 | 灯明皿 | 8.1 | 1.8 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 完形 | 体部は外傾して口縁部に至る。底部は糸切り後、未調整。口縁部２ヵ所に油煙付着部分あり。 | | 51 | 26 |
| 90 | P－1 | 2 | 灯明皿 | 7.8 | 1.6 | 細粒 | 良 | にぶい橙 | 完形 | 体部は外傾して口縁部に至る。底部は糸切り後、未調整。口縁部半分に油煙付着。 | | 51 | 26 |

注）表の記載は、以下の基準で行った。

① 胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名を記載した。

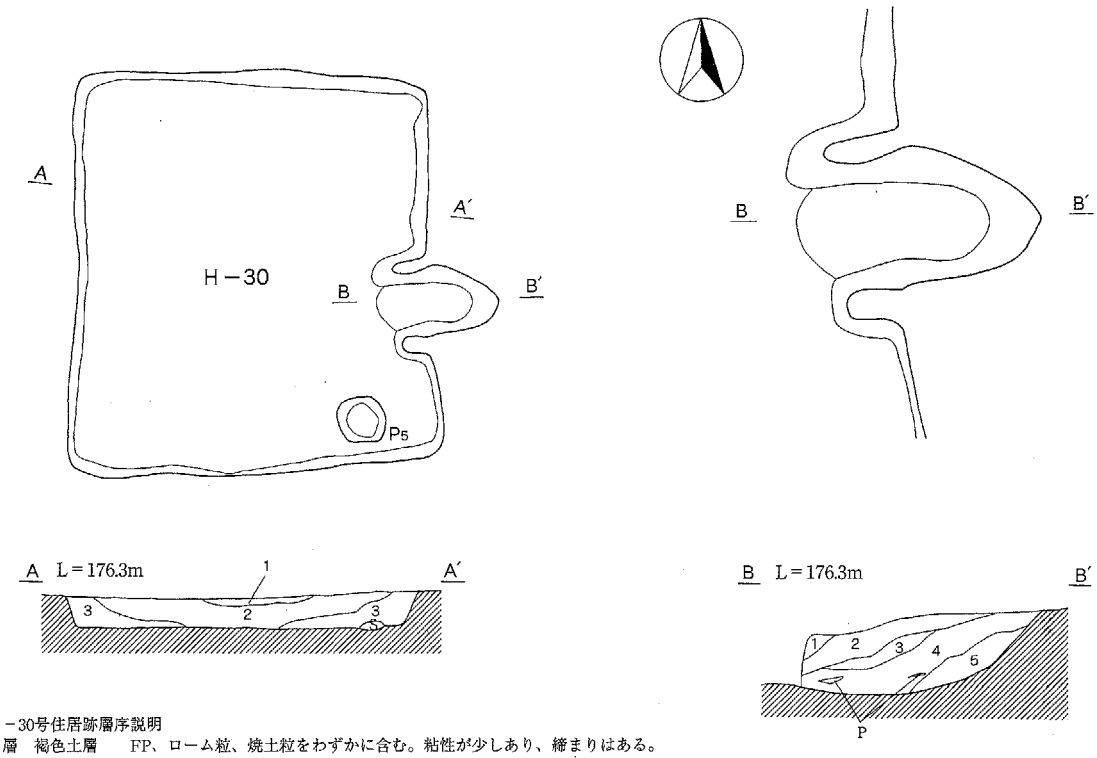
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階で評価した。

③ 色調は、土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帖』に拠った。

④ 大きさの単位はcmであり、現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

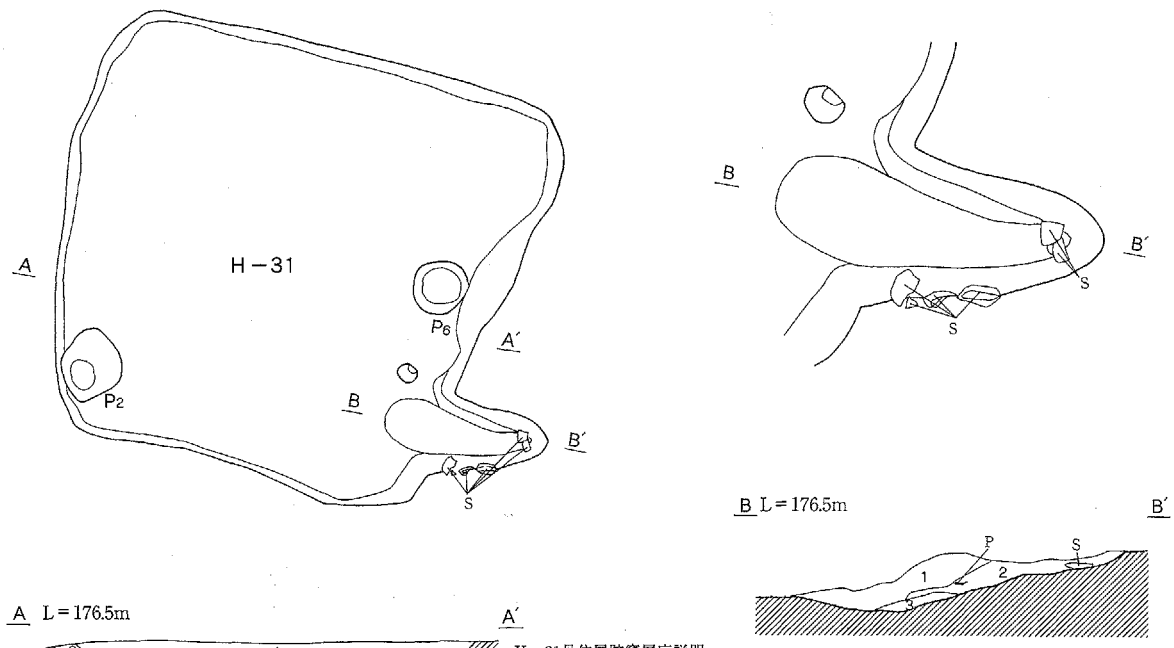
Ｔａｂ．８　荻窪倉兼Ⅱ遺跡石器・石製品・鉄製品観察表

| No. | 遺構名 | 登録番号 | 種　類 | ①最大長 (cm) | ②最大幅 (cm) | ③最大厚 (cm) | ④重　さ (g) | ⑤残　存 | ⑥石　材 | 備　考 | PL. | Fig. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 91 | H | 5 | 鏃 | ① 4.8 | ② 1.4 | ③0.4 | ④7.1 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 52 |
| 92 | H | 3 | 石　棒 | ①15.6 | ② 4.2 | ③3.1 | ④300.0 | ⑤一部欠損 | ⑥結晶片岩 | | 27 | － |
| 93 | H | 1 | 円　礫 | ①15.0 | ②13.1 | ③4.8 | ④1390.0 | ⑤一部欠損 | ⑥輝石安山岩 | | － | 52 |
| 94 | H | 4 | 釘 | ① 4.0 | ② 0.7 | ③0.4 | ④3.5 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 52 |
| 95 | H | 8 | 削　器 | ①12.2 | ② 9.8 | ③1.7 | ④200.0 | ⑤一部欠損 | ⑥黒色頁岩 | | － | 52 |
| 96 | H | 4 | 石　鏃 | ① 4.3 | ② 2.2 | ③0.4 | ④3.5 | ⑤完　形 | ⑥頁　岩 | | 27 | 52 |
| 97 | H | 5 | 敲　石 | ①10.7 | ② 7.0 | ③5.3 | ④580.0 | ⑤完　形 | ⑥粗粒安山岩 | | － | 52 |
| 98 | H | 6 | 的　弾 | ① 6.4 | ② 5.3 | ③4.9 | ④235.0 | ⑤完　形 | ⑥粗粒安山岩 | | － | 52 |
| 99 | H | 4 | 鏃 | ①23.3 | ② 3.8 | ③0.4 | ④110.0 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 53 |
| 100 | H | 5 | 鉄製品 | ① 6.6 | ② 2.1 | ③0.5 | ④12.8 | ⑤一部欠損⑤ | | | 27 | 53 |
| 101 | H | 17 | 石　鏃 | ① 1.8 | ② 1.3 | ③0.3 | ④0.6 | ⑤完　形 | ⑥黒色頁岩 | | 27 | 53 |
| 102 | H | 18 | 鏃 | ①13.3 | ② 3.5 | ③0.4 | ④39.0 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 53 |
| 103 | H | 19 | 釘 | ① 4.8 | ② 0.5 | ③0.5 | ④6.2 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 53 |
| 104 | H | 20 | 釘 | ① 7.6 | ② 0.7 | ③0.6 | ④8.8 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 53 |
| 105 | H | 3 | 砥　石 | ①11.7 | ② 3.8 | ③4.2 | ④260.0 | ⑤完　形 | ⑥流紋岩 | | 27 | 53 |
| 106 | H | 1 | 敲石＋磨石 | ①12.1 | ② 5.2 | ③4.1 | ④420.0 | ⑤完　形 | ⑥粗粒安山岩 | | － | － |
| 107 | H | 9 | 敲　石 | ①11.0 | ② 5.7 | ③4.5 | ④300.0 | ⑤完　形 | | | － | － |
| 108 | H | 10 | 敲石＋磨石 | ①20.0 | ② 7.8 | ③5.6 | ④1340.0 | ⑤完　形 | ⑥粗粒安山岩 | | － | 53 |
| 109 | H | 2 | 削　器 | ① 9.2 | ② 7.2 | ③1.5 | ④115.0 | ⑤一部欠損 | ⑥黒色頁岩 | | － | 54 |
| 110 | H | 2 | 鏃 | ①10.6 | ② 3.4 | ③0.4 | ④35.0 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 54 |
| 111 | H | 6 | 礫　器 | ① 6.6 | ② 7.8 | ③3.7 | ④340.0 | ⑤一部欠損 | ⑥頁　岩 | | 27 | 54 |
| 112 | H | 18 | 敲　石 | ①12.8 | ② 5.0 | ③4.3 | ④490.0 | ⑤完　形 | ⑥粗粒安山岩 | | 27 | 54 |
| 113 | H | 19 | 鏃 | ①14.4 | ② 3.0 | ③0.3 | ④17.2 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 54 |
| 114 | H | 20 | 釘 | ① 5.6 | ② 0.8 | ③0.5 | ④7.3 | ⑤一部欠損 | | | 27 | 54 |




H－30号住居跡層序説明
1層　褐色土層　　FP、ローム粒、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　　ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10～50mm）を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3層　暗褐色土層　ローム粒10%、炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－30号住居跡竈層序説明
1層　褐色土層　　焼土粒10%、FP5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
2層　褐色土層　　ローム粒10%、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　黒褐色土層　炭化物20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4層　褐色土層　　焼土ブロック（φ＝5～20mm）10%、焼土粒20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5層　暗褐色土層　焼土粒5%、ローム粒わずか。粘性が少しあり、締まりは弱い。

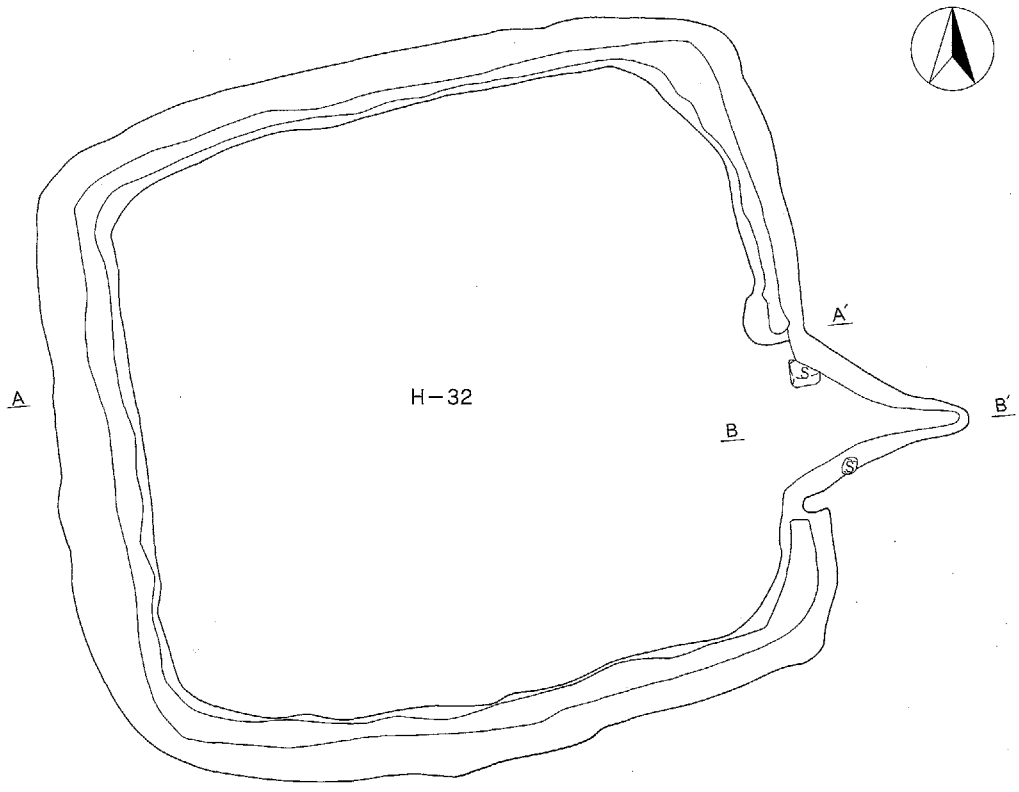


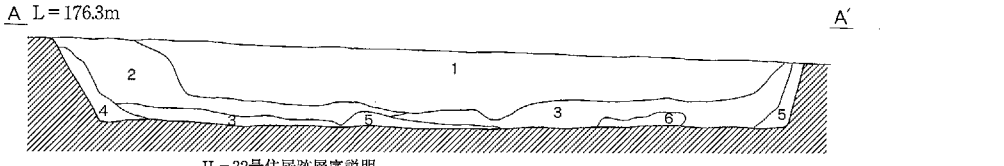

H－31号住居跡竈層序説明
1層　暗褐色土層　焼土粒5%、FP10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　焼土ブロック（φ＝20～30mm）10%、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
3層　明褐色土層　焼土粒30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－31号住居跡層序説明
1層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

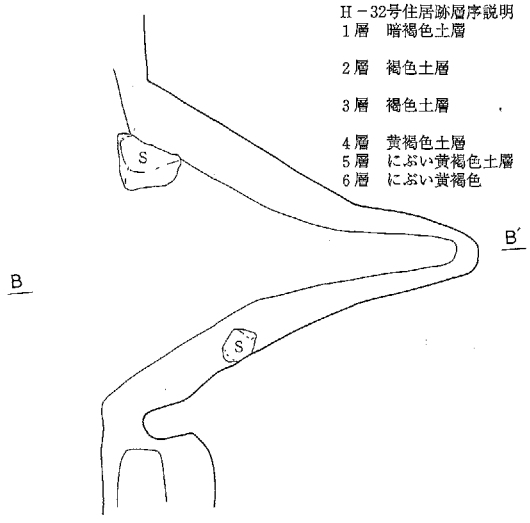
Fig.27　H－30・31号住居跡

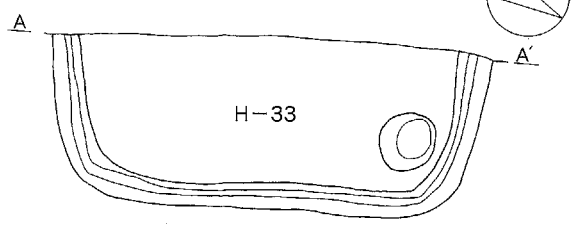


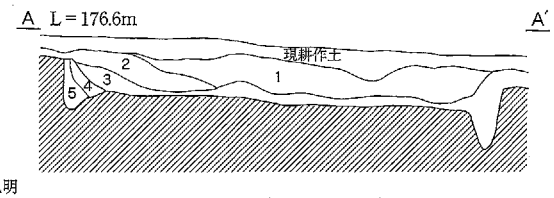



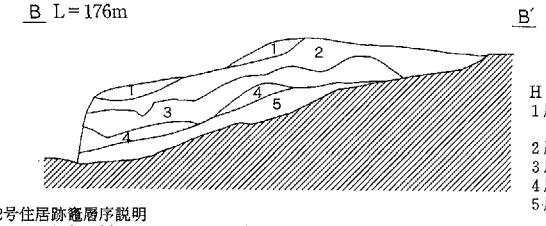

H－32号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒5%、焼土粒5%、ロームブロック（φ＝10～30mm）、焼土ブロック（φ＝10mmほど）わずか、FP大粒（φ＝10～70mm）5%、炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずか、焼土粒5%、ロームブロック（φ＝5～30mm）10%、焼土ブロック（φ＝5～10mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 褐色土層 | FP5%、ローム粒、焼土粒5%、粘土ブロック（φ＝30mmほど）10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 黄褐色土層 | ローム主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 5層 | にぶい黄褐色土層 | ローム粒20%、焼土ブロック（φ＝30mmほど）10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 6層 | にぶい黄褐色 | ロームブロック（φ＝50mm）10%、焼土粒わずかに含む。粘性が強く、締まりはある。 |




H－33号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒20%、焼土ブロック（φ＝10mmほど）わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10mm）含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10mm）含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 褐色土層 | ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 5層 | 黄褐色土層 | ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。 |

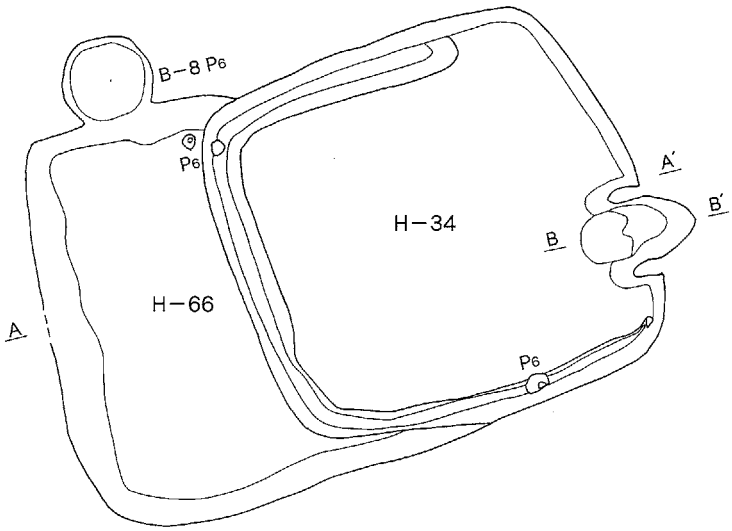
H－32号住居跡竈層序説明

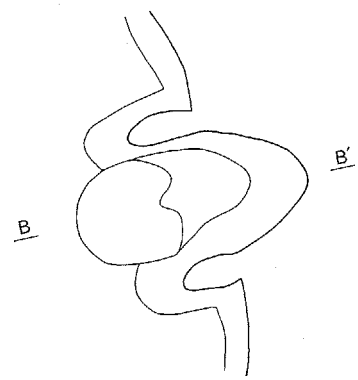
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | にぶい褐色土層 | ローム粒、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、硬く締まる。 |
| 2層 | にぶい褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝5～10mm）5%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。 |
| 3層 | 褐色土層 | ロームブロック（φ＝5～10mm）わずか、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 暗褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝10～30mm）10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 5層 | 暗褐色土層 | 粘性・締まりともある。 |
| 6層 | 黒褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝30mm）5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |

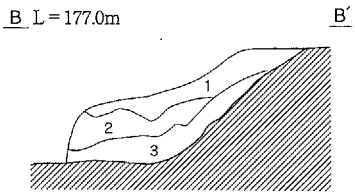
0　1：30　1m

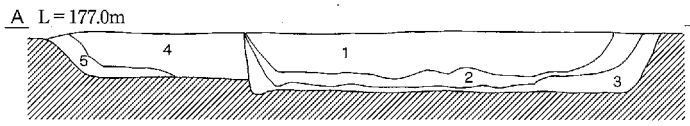
0　1：60　2m

Fig.28　H－32・33号住居跡



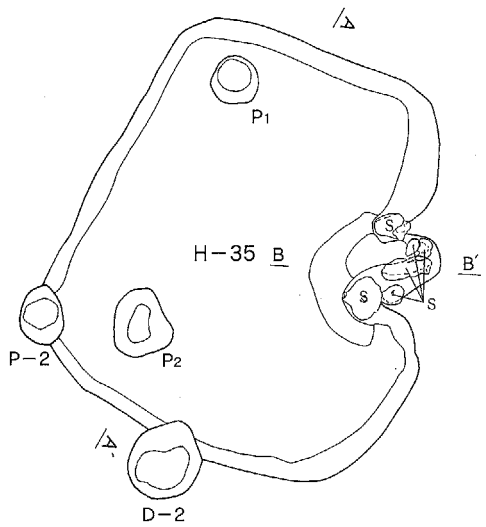



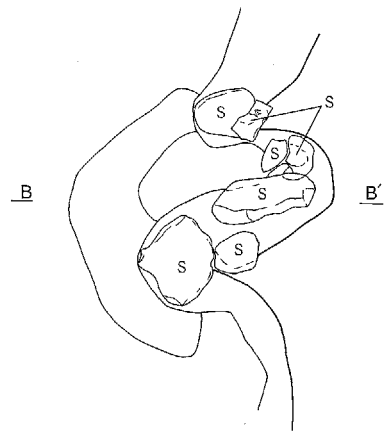

H－34号住居跡層序説明

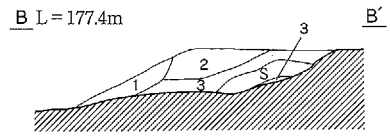
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP10%、ローム粒20%、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | ロームブロック（φ＝10～30mm）10%、灰黄褐色粘土ブロック（φ＝30mmほど）5%、ローム粒20%、FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 褐色土層 | 焼土粒10%、灰黄褐色粘土ブロック（φ＝10mmほど）わずか、ローム粒10%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

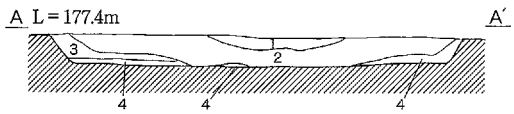
H－34号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10～30mm）5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | FP5%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10～20mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | 灰黄褐色粘土ブロック（φ＝30～50mm）20%、にぶい黄橙色土ブロック（φ＝10～30mm）10%、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 褐色土層 | ロームブロック（φ＝10～30mm）20%、ローム粒20%含む。粘性・締まりともある。 |
| 5層 | 褐色土層 | ローム粒20%、黄褐色ローム土20%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |




H－35号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | FPわずか（φ＝30mmほどの大粒あり）、焼土粒わずか、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 極暗褐色土層 | 焼土粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |

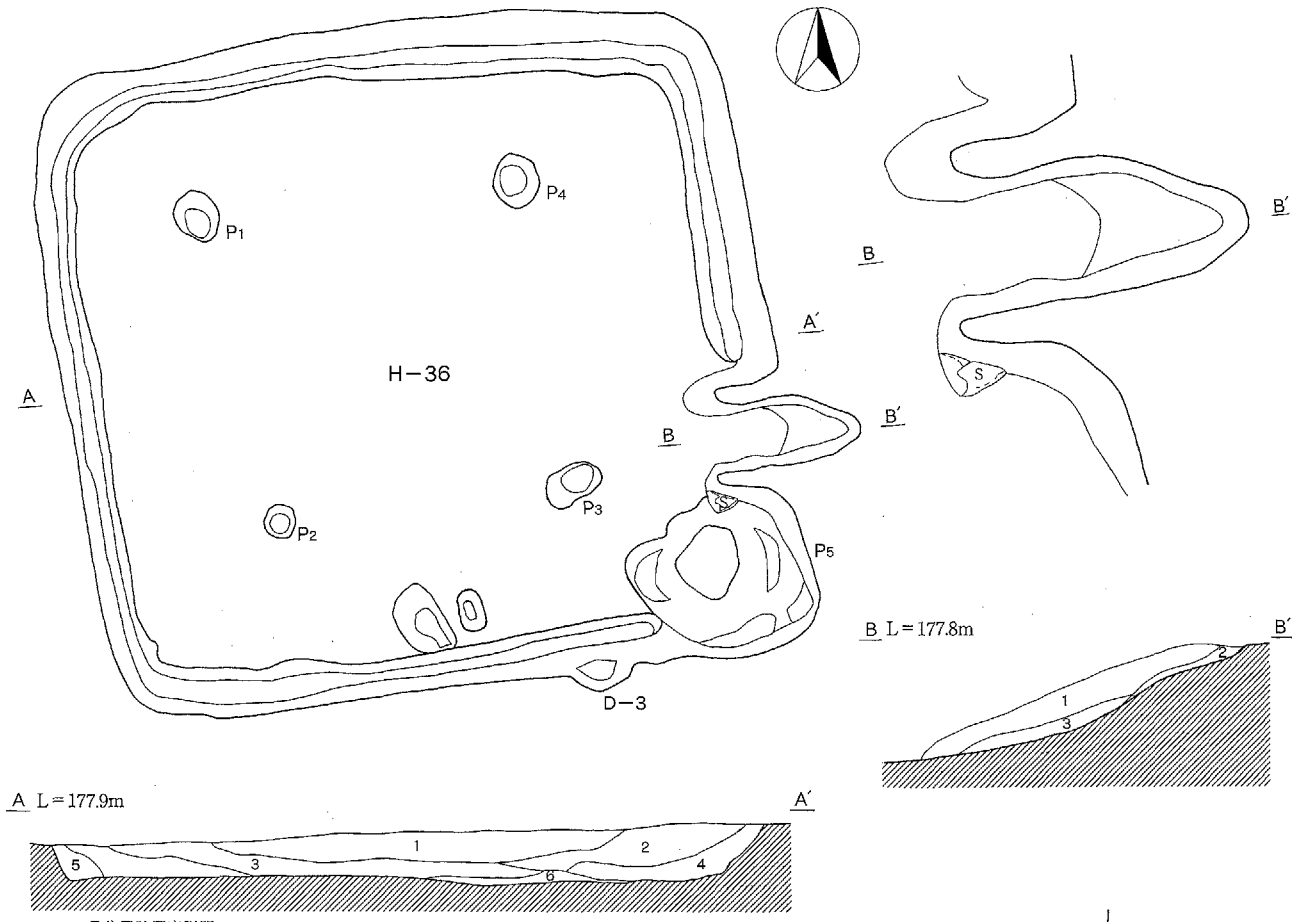
H－35号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | FP5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | FP10%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 黒褐色土層 | FP、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 褐色土層 | ロームブロック（φ＝5～10mm）40%含む。粘性・締まりともある。 |

0　1：60　2m

0　1：30　1m

Fig.29　H－34・35・66号住居跡

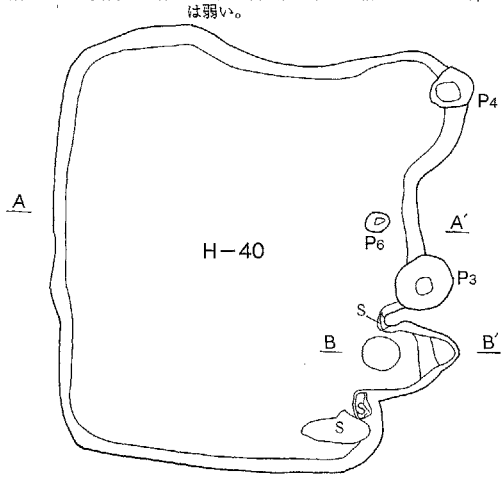


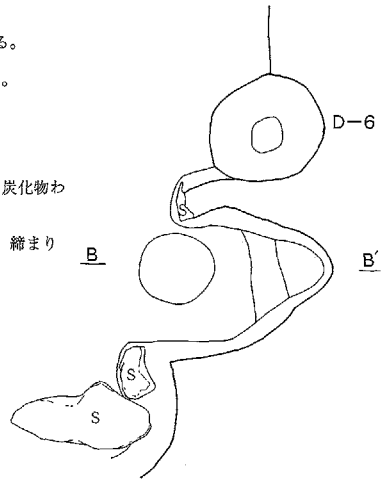

H－36号住居跡層序説明

1層　褐色土層　ロームブロック（φ＝10～20mm）5%、FP10%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。
2層　黒褐色土層　FP20%、ローム粒10%、焼土粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　黒褐色土層　ロームブロック（φ＝10～20mm）5%、FP5%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。
4層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒わずかに含む。粘性・締まりともある。
5層　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝10～20mm）5%、ローム粒10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6層　黄褐色土層　ローム主体層。粘性・締まりともある。

H－36号住居跡竈層序説明

1層　褐色土層　FP10%、焼土ブロック（φ＝5～20mm）10%、粘土ブロックわずか、ローム粒5%、炭化物わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　FPわずか、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3層　にぶい黄褐色土層　FP5%、焼土粒わずか、粘土ブロック（φ＝30mmほど）10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。



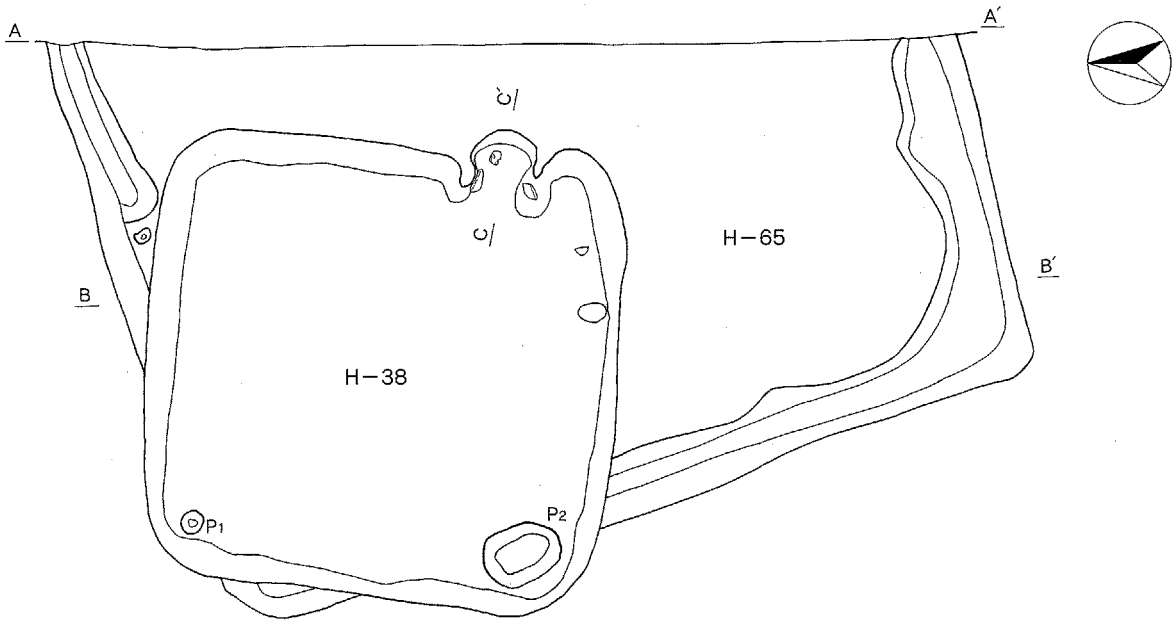

H－40号住居跡層序説明

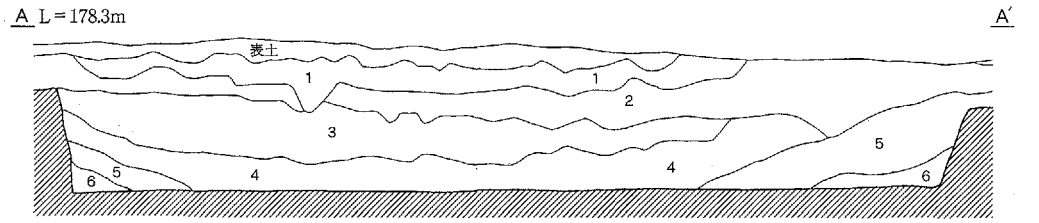
1層　暗褐色土層　FP10%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　ローム粒5%含む。粘性・締まりともある。

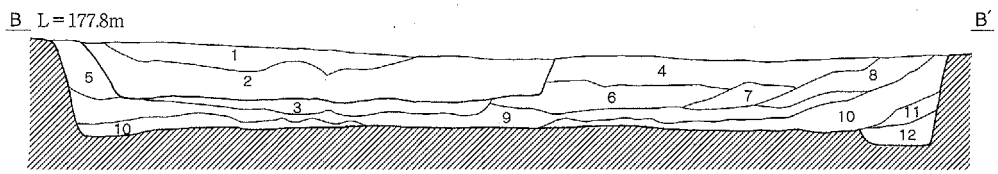
H－40号住居跡竈層序説明

1層　にぶい黄褐色土層　FP10%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　FPわずか、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。
3層　暗褐色土層　焼土ブロック（φ＝5～10mm）5%、ローム粒5%含む。粘性・締まりともある。

Fig.30　H－36・40号住居跡

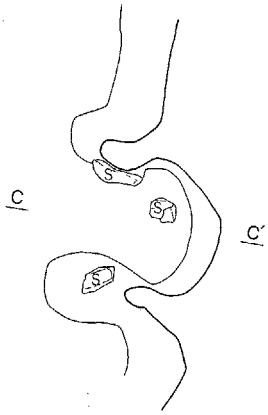


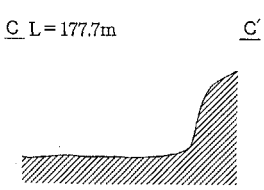




H－65号住居跡層序説明

1層　黒褐色土層　FP5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2層　暗褐色土層　FP10%（φ＝10～30mmの大玉を含む）、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　褐色土層　ロームブロック（φ＝10～50mm）20%、FP5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4層　黒褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）10%、FP（φ＝10～20mmの大玉を含む）5%含む。粘性・締まりともある。
5層　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）5%、FP（φ＝10～20mmの大玉を含む）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6層　黒褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）10%含む。粘性があり、締まりは弱い。



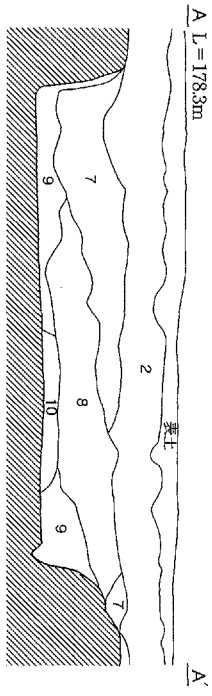

H－38号・H-65号住居跡層序説明

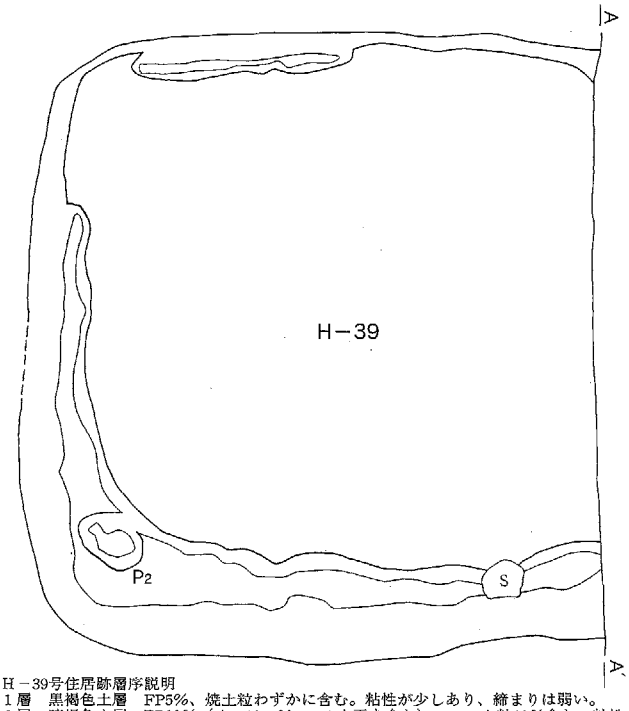
1層　暗褐色土層　FP20%、焼土粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　黒褐色土層　FP10%、ローム粒10%、焼土粒5%、炭化物わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3層　暗褐色土層　FP10%、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝10～20mm）10%、黒褐色土5%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
4層　暗褐色土層　FP20%、ローム粒10%、焼土粒5%、炭化物わずか、にぶい黄褐色土10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒5%、炭化物わずか、ロームブロック（φ＝10mmほど）わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6層　暗褐色土層　FP10%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10～20mm）10%、焼土粒わずか、黒褐色土5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7層　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝10mmほど）10%、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
8層　褐色土層　FPわずか、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝5～10mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
9層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒5%、焼土粒わずか、炭化物わずか、黄褐色土5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
10層　暗褐色土層　ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。
11層　黒褐色土層　8層土30%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
12層　黄褐色土層　ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

0　1：30　1m

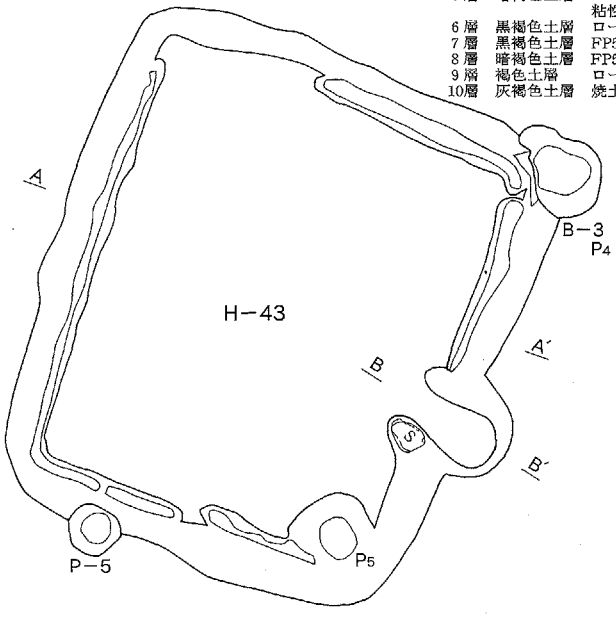
0　1：60　2m

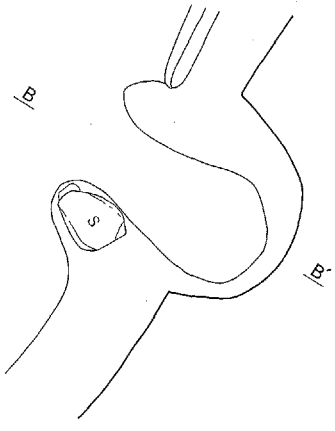
Fig.31　H－38・65号住居跡

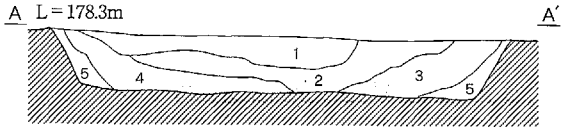


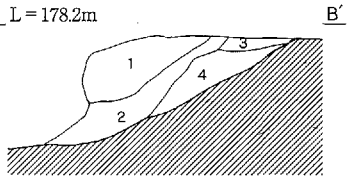



H－39号住居跡層序説明
1層　黒褐色土層　FP5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2層　暗褐色土層　FP10%（φ＝10～30mmの大玉を含む）、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　褐色土層　ロームブロック（φ＝10～50mm）20%、FP5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4層　黒褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）10%、FP（φ＝10～20mmの大玉を含む）5%含む。粘性・締まりともある。
5層　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）5%、FP（φ＝10～20mmの大玉を含む）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6層　黒褐色土層　ロームブロック（φ＝30mmほど）10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7層　黒褐色土層　FP5%、ローム粒5%、焼土粒わずか含む。粘性があり、締まりは弱い。
8層　暗褐色土層　FP5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
9層　褐色土層　ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。
10層　灰褐色土層　焼土粒5%、炭化物5%含む。粘性があり、締まりは弱い。



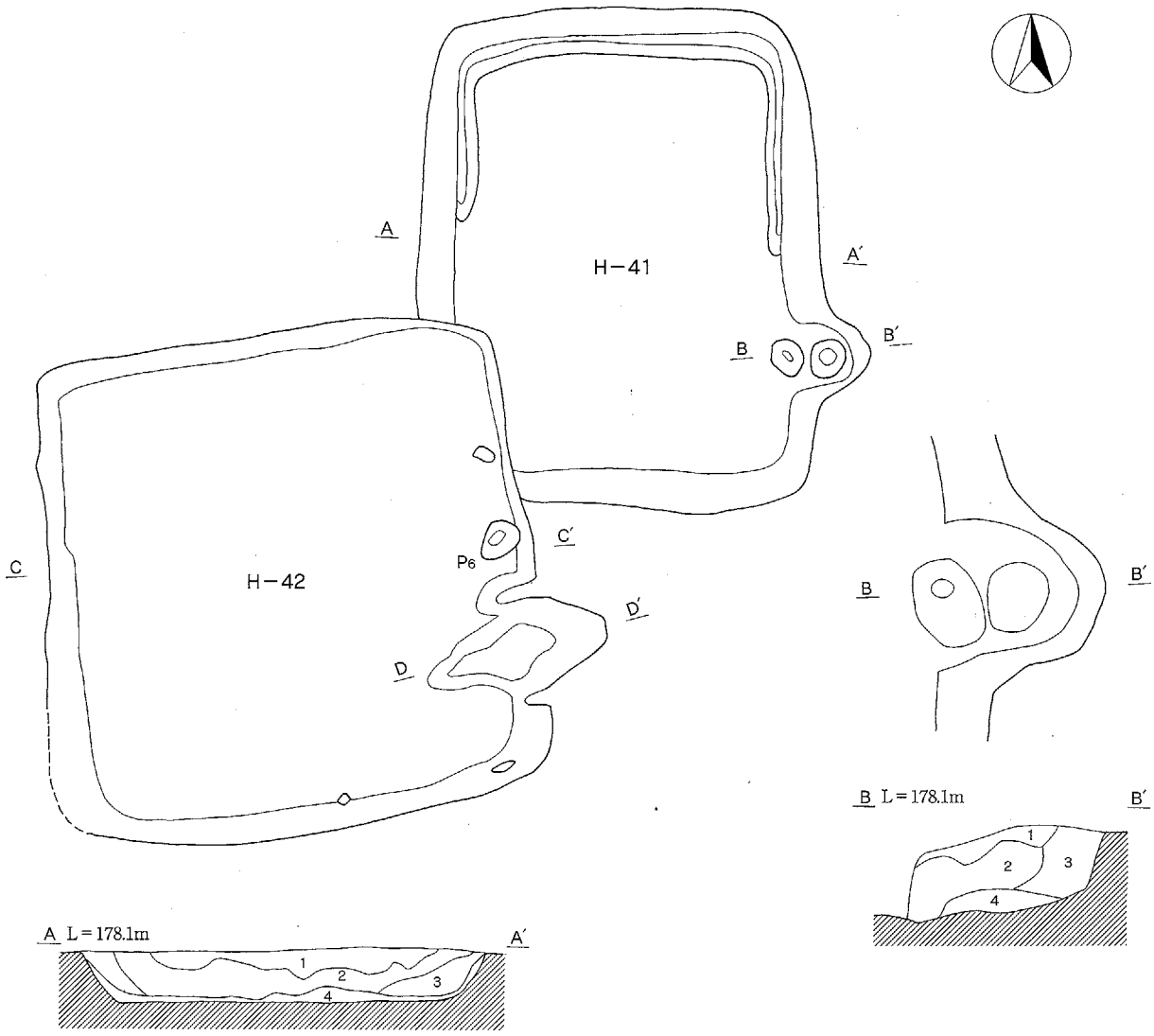

H－43号住居跡層序説明
1層　暗褐色土層　FP20%、ローム粒10%、炭化物わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　褐色土層　FP5%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝10～30mm）5%、炭化物わずか、暗褐色土10%含む。粘性・締まりともある。
3層　暗褐色土層　FPわずか、ローム粒20%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝5～10mm）10%含む。粘性・締まりともある。
5層　褐色土層　ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

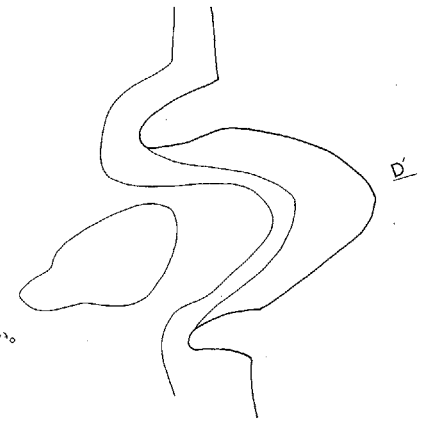
0　1：60　2m

H－43号住居跡竈層序説明
1層　暗褐色土層
2層　暗褐色土層　ロームブロックを含む。粘性がある。
3層　赤褐色粘土ブロック　竈の崩落土と考えられる。
4層　灰黄褐色土層　炭化物、灰を含む。粘性は少しある。

0　1：30　1m

Fig.32　H－39・43号住居跡




H－41号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FPわずか、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | FP10%、ローム粒わずか、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝5～10mm）20%含む。粘性が強く、締まりは弱い。 |

H－41号住居跡竈層序説明

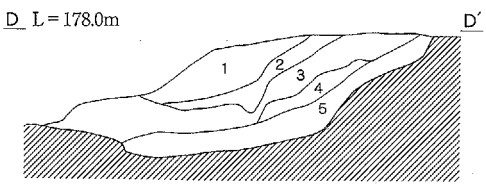
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FP10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 褐色土層 | ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | FP（$\phi$＝10mmほど）5%、ローム粒10%、焼土粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 4層 | にぶい赤褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝20mmほど）10%、焼土粒（$\phi$＝10mmほど）5%、ローム粒10%、焼土粒10%、炭化物わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

H－42号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝10mmほど）5%、FP（$\phi$＝10mm程度の大玉を含む）10%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝5～10mm）5%、焼土粒わずか、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |

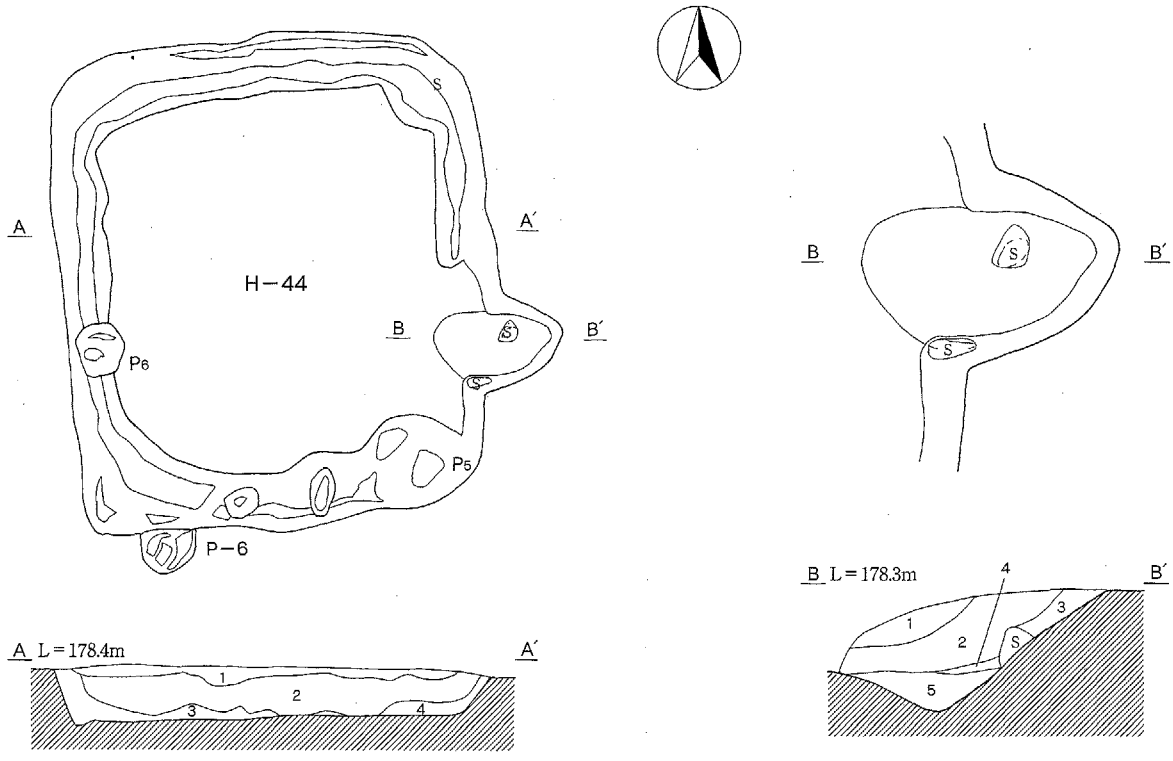
H－42号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FP10%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | 焼土粒わずか、粘土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 褐色土層 | 粘土粒10%、焼土粒5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 褐色土層 | 焼土ブロック（$\phi$＝20mmほど）、粘土ブロック（$\phi$＝20mmほど）5%、ローム粒わずか、焼土粒わずか、粘土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 5層 | 暗褐色土層 | 焼土粒20%、ローム粒10%、粘土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |




0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.33　H－41・42号住居跡

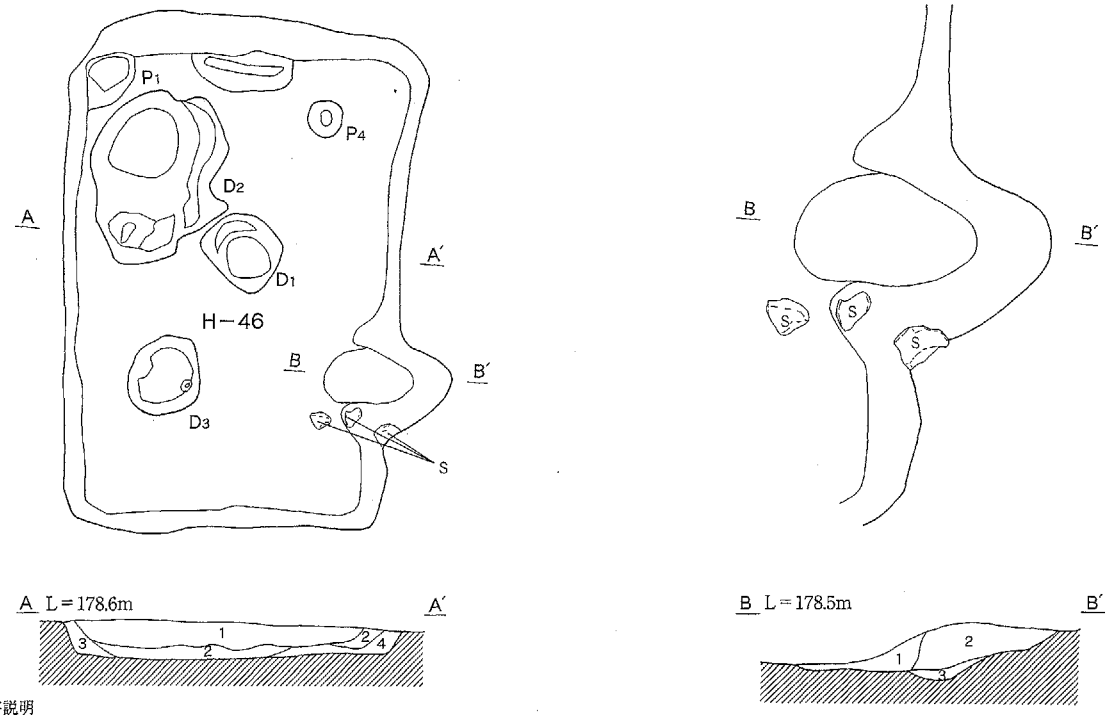



H－44号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | FP20%、FPの極大粒（$\phi$＝10～20mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | にぶい黄褐色土層 | ローム粒含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | にぶい黄褐色土層 | 灰褐色の粘土と3層の泥土層。粘性が少しあり、締まりはある。 |

H－44号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | FP20%、FPの極大粒（$\phi$＝10～20mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 2層 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロックを含む。粘性がある。 |
| 3層 | 赤色焼土ブロック | 2層土を10%含む。 |
| 4層 | 黒褐色土層 | 炭化物、灰を含む。 |
| 5層 | 黒褐色土層 | 炭化物、灰主体層。 |




H－46号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | FP10%、ローム粒10%、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒わずか、焼土粒5%、ロームブロック（$\phi$＝5～20mm）5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 黄褐色土層 | ローム主体層。粘性が少しあり、硬く締まる。 |

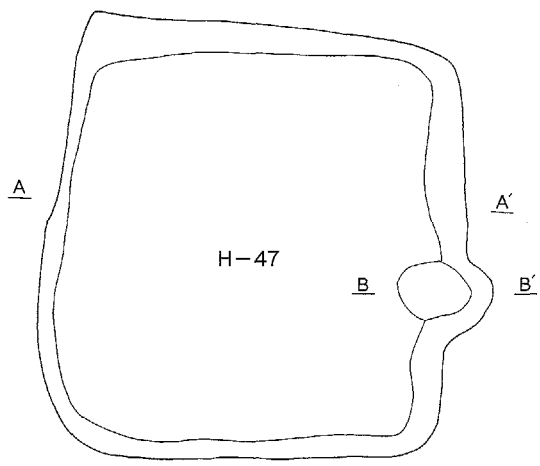
H－46号住居跡竈層序説明

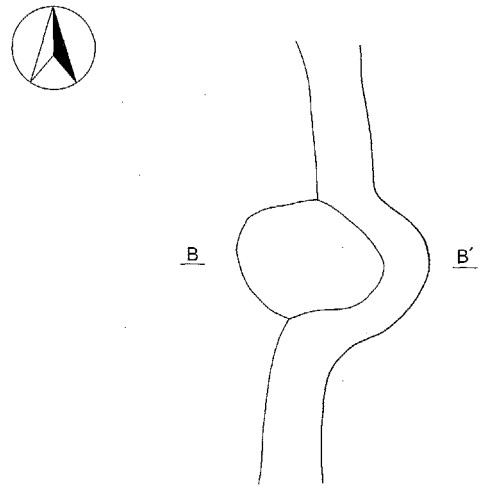
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗赤褐色土層 | 焼土粒10%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | にぶい赤褐色土層 | 焼土粒5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 明赤褐色土層 | 粘性が少しあり、締まりは弱い。 |

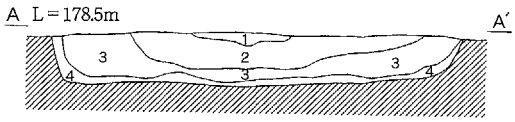
0　1：60　2m

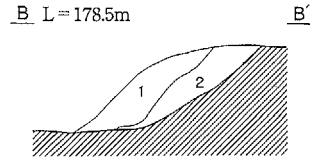
0　1：30　1m

Fig.34　H－44・46号住居跡



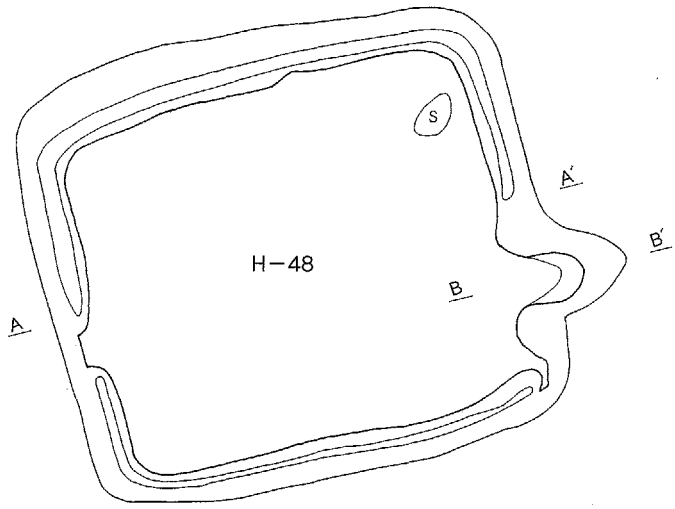



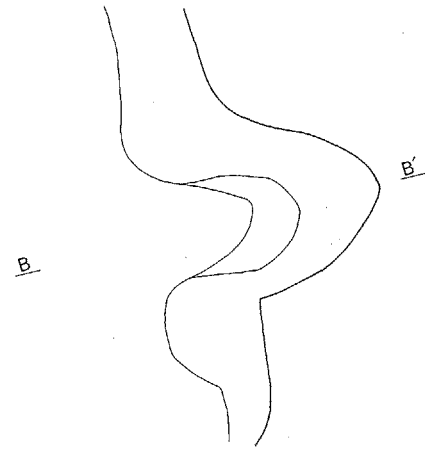

H－47号住居跡層序説明

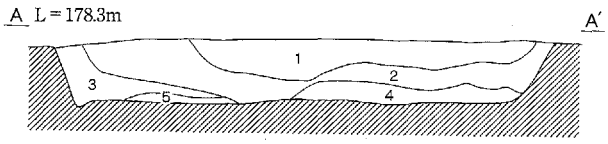
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FP10%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 褐色土層 | FP20%（φ＝10～20mmの大玉は、このうち5%）、黒褐色土30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | FP20%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 褐色土層 | 黄褐色土30%、黒褐色土5%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

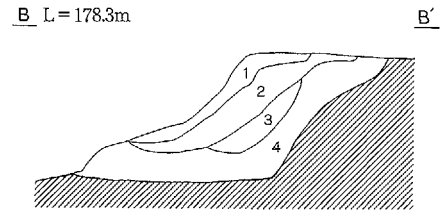
H－47号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 褐色土層 | FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2 | 暗褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずか、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |



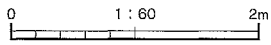




H－48号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | FP10%、ローム粒10%、焼土粒5%、ロームブロック（φ＝5～10mm）10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | FP20%、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 黒褐色土層 | FP5%、ローム粒10%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 褐色土層 | 焼土粒わずかに含む。粘性が強く、締まりは弱い。 |
| 5層 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロック（φ＝5～10mm）20%含む。粘性が強く、締まりは弱い。 |

H－48号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土層 | FP、ローム粒わずか、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 褐色土層 | FP、ローム粒、炭化物わずか、焼土粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 赤褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝10～30mm）20%、粘土ブロック（φ＝30mmほど）5%、ロームブロック（φ＝10mmほど）5%、焼土粒、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | 暗褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝5～10mm）10%、ロームブロック（φ＝5～30mm）10%、焼土粒、ローム粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。 |



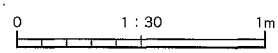
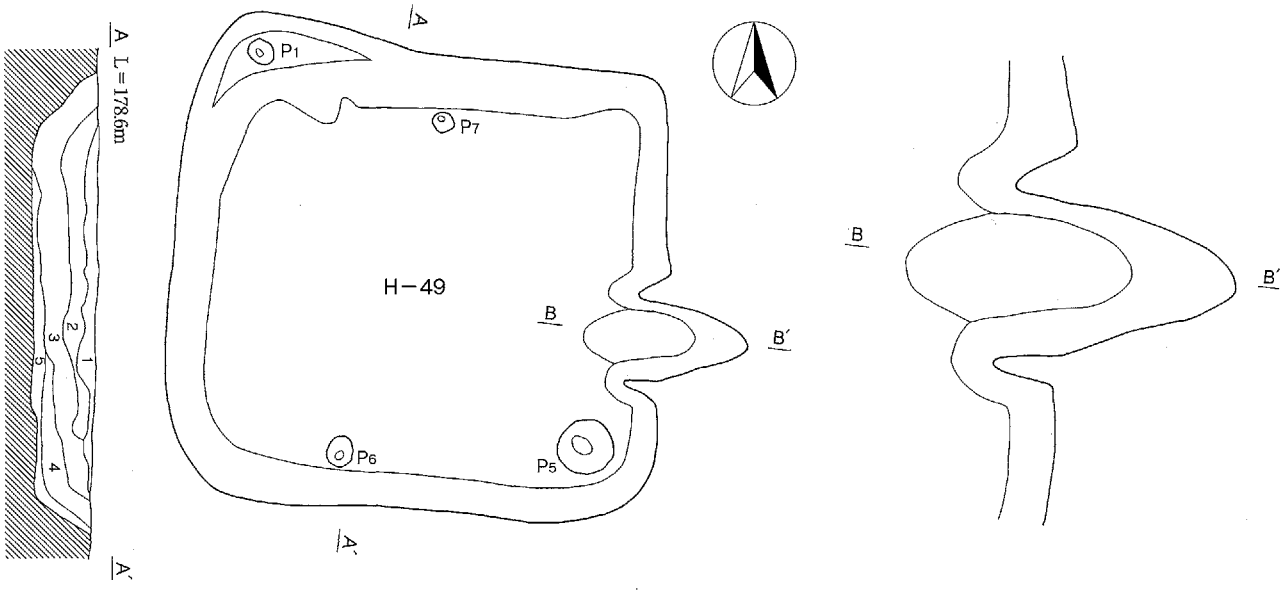
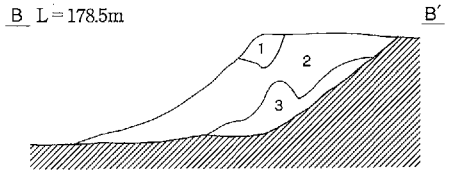




Fig.35　H－47・48号住居跡



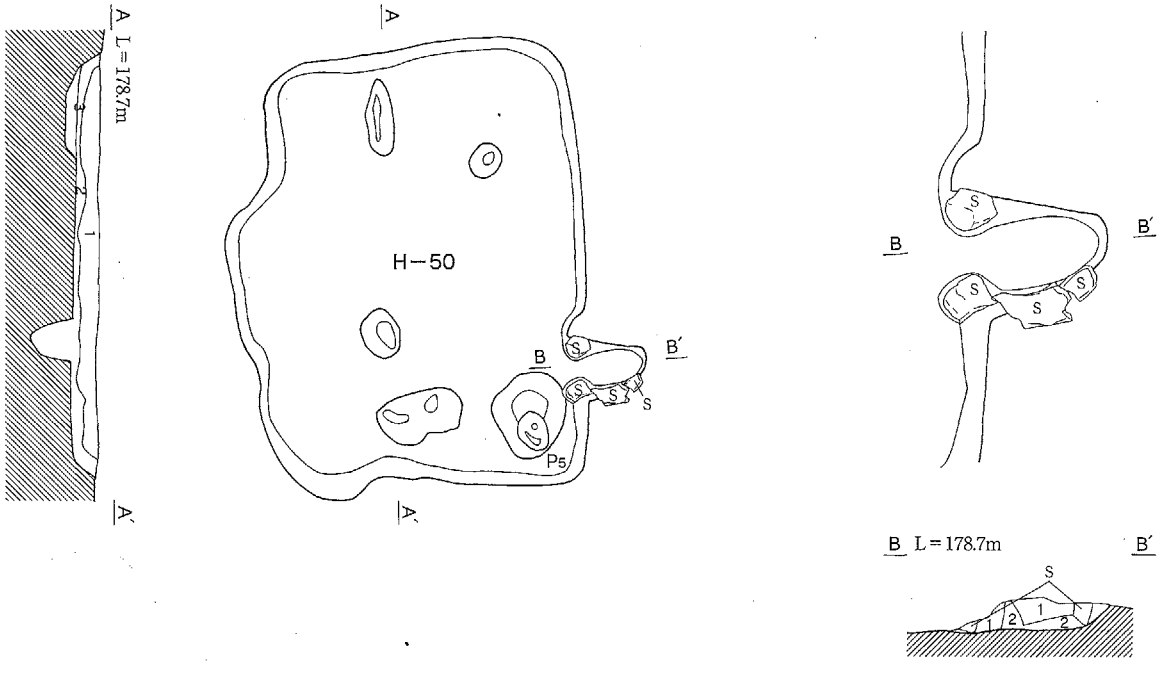

H－49号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FPわずかに含む。粘性がなく、締まりは弱い。 |
| 2層 | 褐色土層 | FP20%、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 褐色土層 | ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 黒褐色土層 | FP10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 5層 | にぶい黄褐色土層 | 明黄褐色土（ローム土）30%含む。粘性が強く、締まりはある。 |




H－49号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | FP、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 赤褐色土層 | 焼土ブロック（$\phi$＝5～10mm）20%、粘土ブロック（$\phi$＝50mm）10%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |




H－50号住居跡層序説明

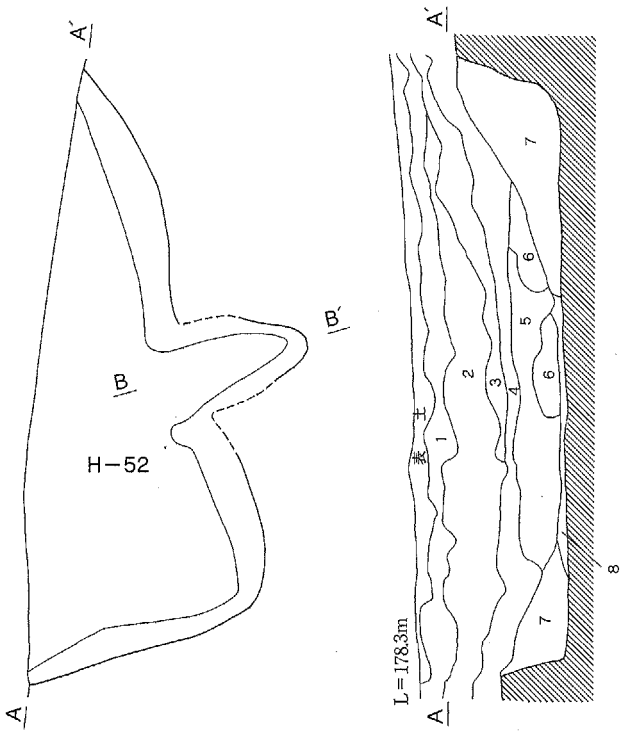
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP20%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | 黄褐色土30%、FP5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 黄褐色土層 | ソフトローム土。粘性・締まりともある。 |

H－50号住居跡竈層序説明

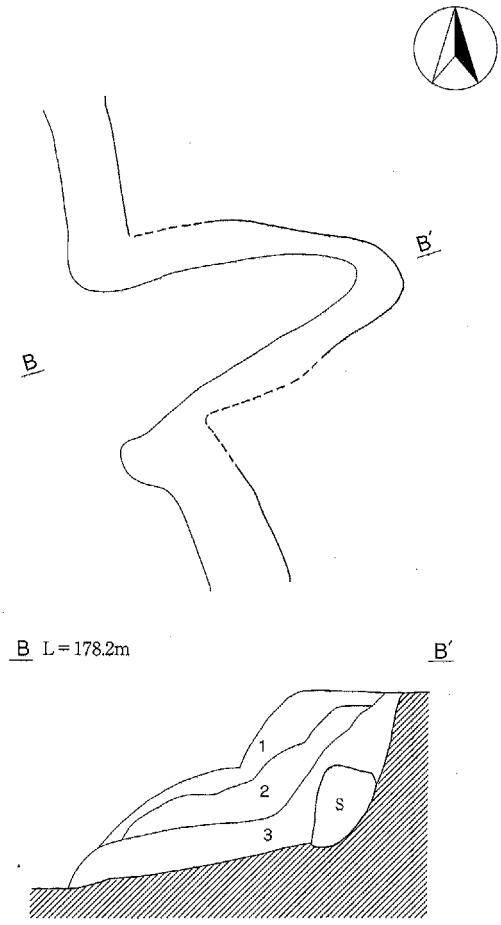
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | 焼土粒5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、硬く締まる。 |
| 2層 | 褐色土層 | 焼土ブロック（$\phi$＝20mmほど）5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

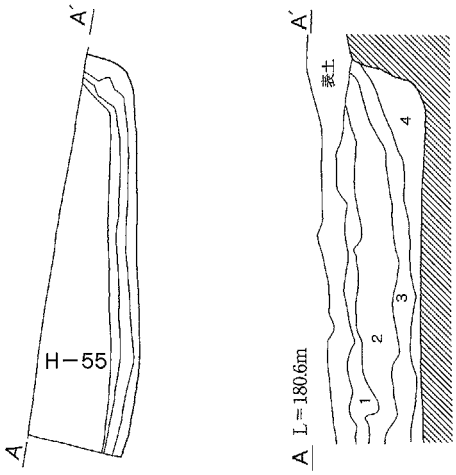
Fig.36　H－49・50号住居跡



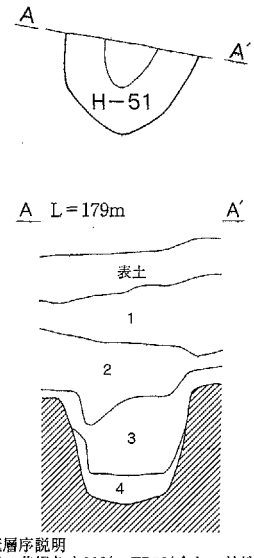

H－52号住居跡層序説明
1層　黒褐色土層　FP20%、ローム粒10%含む。粘性があり、硬く締まる。
2層　黒褐色土層　FP（φ＝20mmほどの大玉あり）20%、ローム粒10%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　暗褐色土層　FP10%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。
4層　暗褐色土層　FP（φ＝20mmほどの大玉あり）5%、焼土粒5%含む。粘性・締まりともある。
5層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒5%、焼土粒10%、炭化物5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
6層　黒褐色土層　FPわずか、ローム粒5%、焼土粒10%、黄褐色土10%含む。粘性・締まりともある。
7層　黒褐色土層　焼土粒5%、黄褐色土5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
8層　暗褐色土層　黄褐色土30%含む。粘性があり、硬く締まる。




H－52号住居跡竈層序説明
1層　黒褐色土層　FPわずか、ローム粒わずか、焼土粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2層　暗褐色土層　FPわずか、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。
3層　黒褐色土層　焼土ブロック（φ＝3～20mm）10%、FPわずか、ロームブロック（φ＝3～10mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。



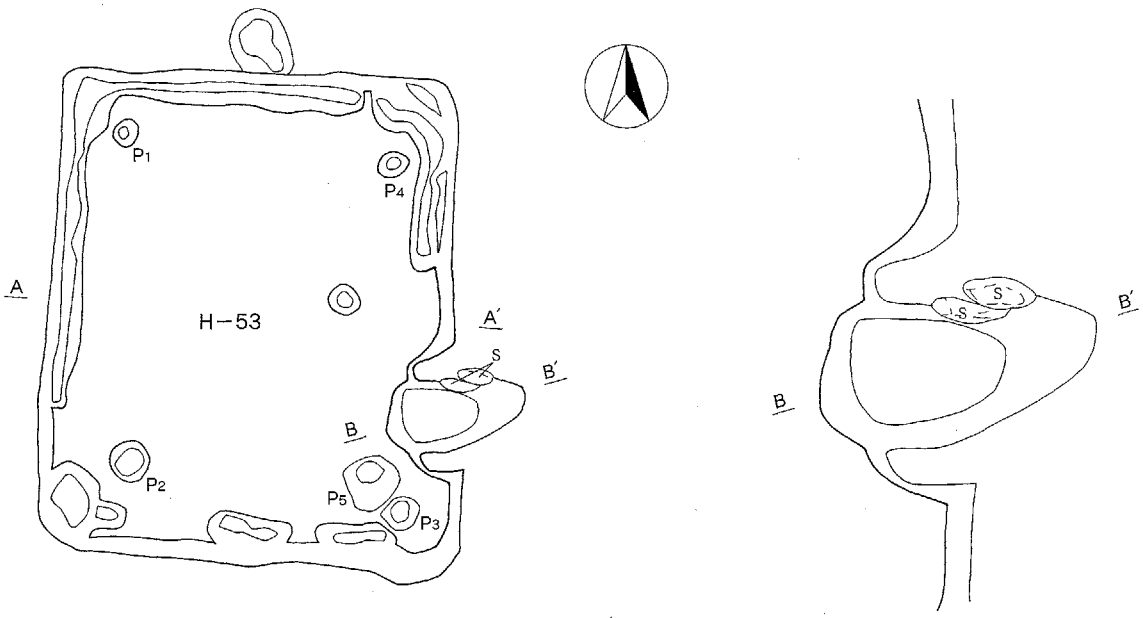

H－55号住居跡層序説明
1層　黒褐色土層　FP10%、ローム粒20%、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。
2層　暗褐色土層　FP（φ＝5～10mm）5%、（φ＝2mm以下）10%、ローム粒10%、焼土粒5%含む。粘性・締まりともある。
3層　黒褐色土層　ローム粒10%、焼土粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4層　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝5～10mm）20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

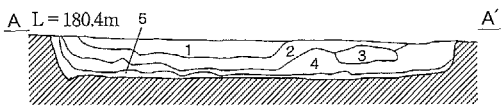


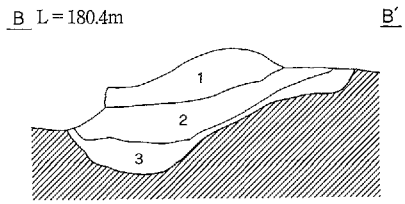

H－51号住居跡竈層序説明
1層　暗褐色土層　黄褐色土30%、FP5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2層　暗褐色土層　ローム粒10%、粘土粒20%、FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3層　暗褐色土層　ローム粒10%、粘土粒30%、焼土粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4層　暗褐色土層　焼土ブロック（φ＝5～30mm）20%、ローム粒10%含む。粘性があり、締まりは弱い。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.37　H－51・52・55号住居跡



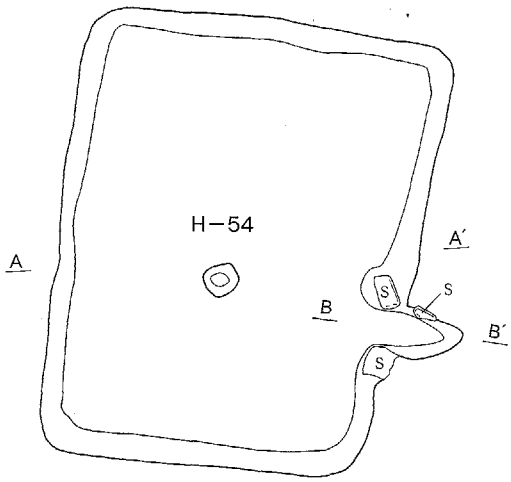



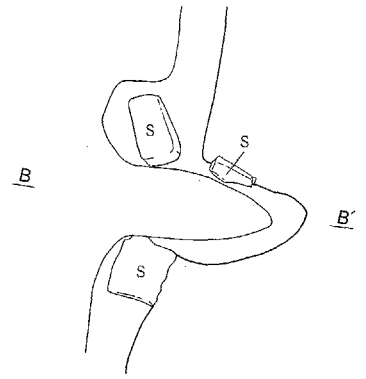

A 区
H−53号住居跡層序説明

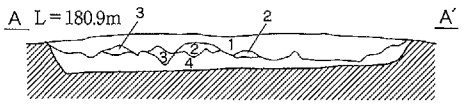
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | FP10%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | FP10%、ローム粒10%、ロームブロック（φ=3〜5mm）わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 灰褐色土層 | FP10%、ローム粒10%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | にぶい黄褐色土層 | FP10%、ローム粒5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 5層 | 暗黄褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずか、ロームブロック（φ=8〜10mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |

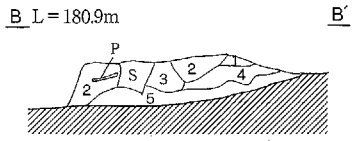
H−53号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP5%、ローム粒5%、焼土粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 褐色土層 | FPわずか、ローム粒わずか、焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | にぶい黄褐色土層 | 焼土ブロック（φ=2〜5mm）5%、ローム粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |




H−54号住居跡層序説明

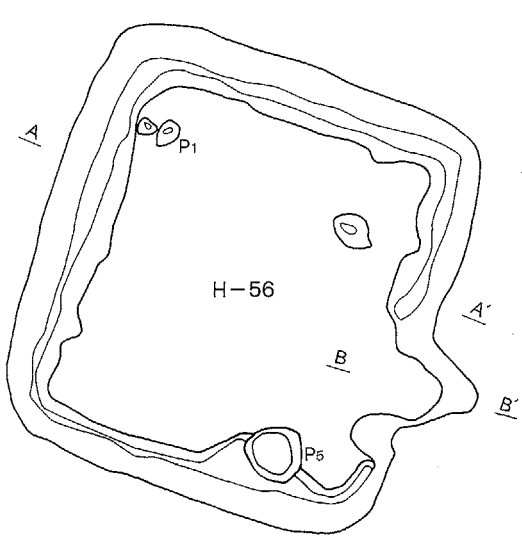
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP20%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 2層 | 黒褐色土層 | FP5%、炭化物わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 黄褐色土層 | FPわずか、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | 黄褐色土層 | ローム土（4層は床下の土層）。粘性が少しあり、締まりはある。 |

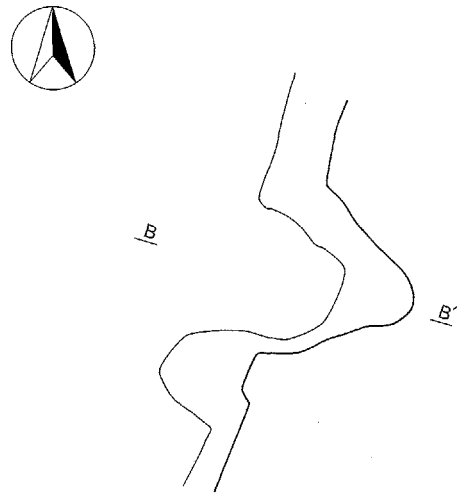
H−54号住居跡竈層序説明

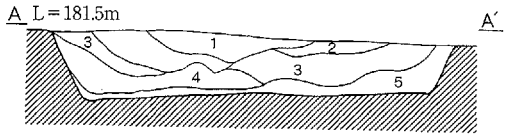
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 黒褐色土層 | 粘性・締まりともある。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | 焼土ブロック（φ=10〜20mm）30%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | 焼土粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | 褐色土層 | 粘性があり、締まりは弱い。 |
| 5層 | にぶい黄褐色土層 | 粘性・締まりともある。 |

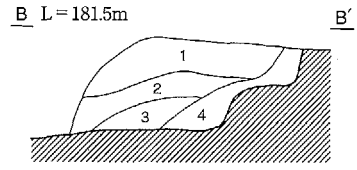
0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.38　H−53・54号住居跡



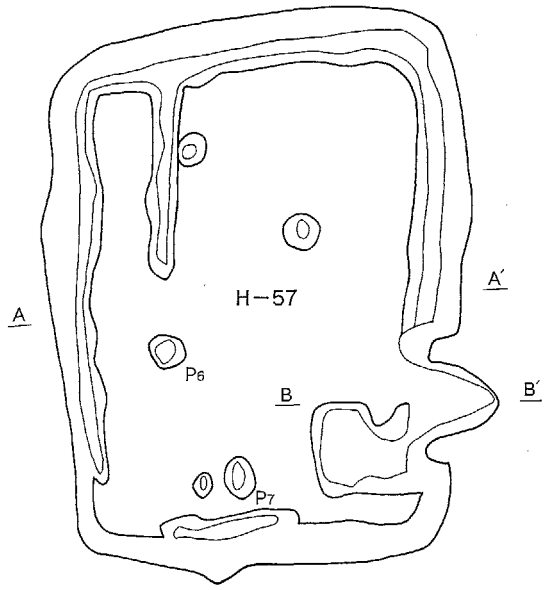



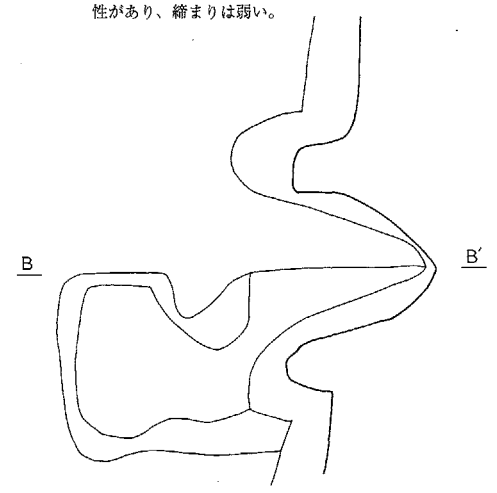

H－56号住居跡層序説明

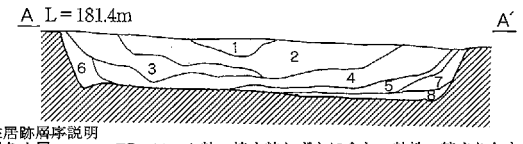
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP10%、ローム粒10%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 2層 | にぶい黄褐色土層 | ロームブロック（φ＝5～10mm）10%、ローム粒30%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 褐色土層 | FP5%、ローム粒5%、ロームブロック（φ＝3～8mm）わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 4層 | 黒褐色土層 | FPわずか、ローム粒5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 5層 | 暗褐色土層 | FPわずか、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝10～20mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |

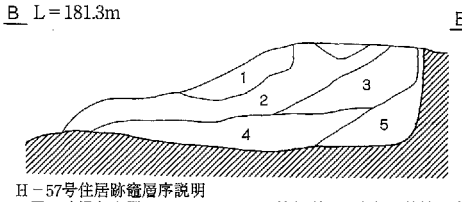
H－56号住居跡竈層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 褐色土層 | 黒褐土30%、焼土粒5%、ローム粒10%、粘土ブロックわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | 灰褐色土層 | 黒褐土20%、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 赤褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝3～5mm）10%、炭化物5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | にぶい黄褐色土層 | 焼土粒わずか、ロームブロック（φ＝5～10mm）20%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |




H－57号住居跡層序説明

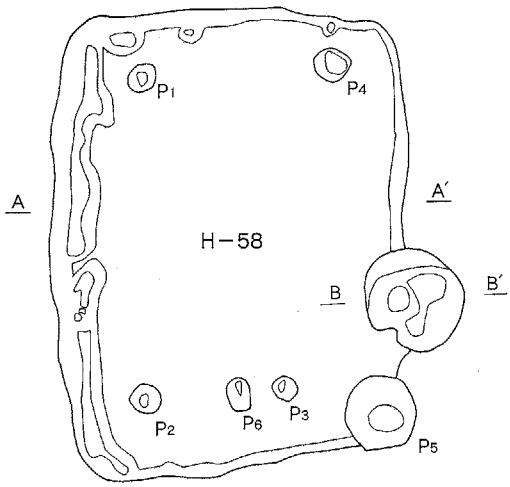
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP、ローム粒、焼土粒わずかに含む。粘性・締まりともある。 |
| 2層 | にぶい黄褐色土層 | FP20%、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝5～10mm）5%含む。粘性・締まりともある。 |
| 3層 | 褐色土層 | FP10%、ローム粒20%、ロームブロック（φ＝3～5mm）5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | 暗褐色土層 | FP10%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。 |
| 5層 | にぶい黄褐色土層 | ローム粒5%、焼土粒5%、炭化物10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 6層 | 褐色土層 | ロームブロック（φ＝5～10mm）10%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 7層 | 黒褐色土層 | FP5%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 8層 | 黄褐色土層 | ロームブロック主体層、7層土を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

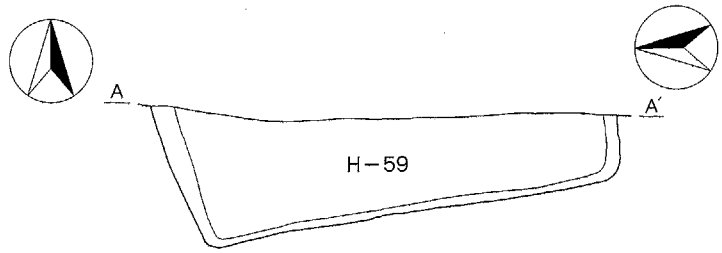
H－57号住居跡竈層序説明

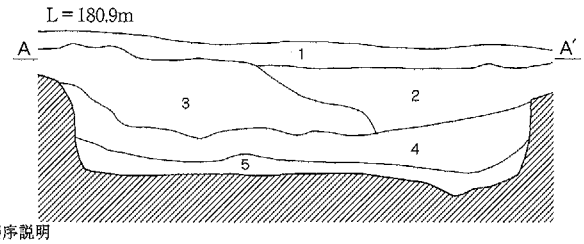
| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | FP、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | 褐色土層 | 暗赤褐色焼土20%、焼土粒5%、ローム粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 3層 | 褐色土層 | 焼土ブロック（φ＝3～5mm）10%、炭化物5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | にぶい褐色土層 | 焼土粒30%、FPの大粒（φ＝10～15mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 5層 | 褐色土層 | ローム粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.39　H－56・57住居跡




H－59号住居跡層序説明

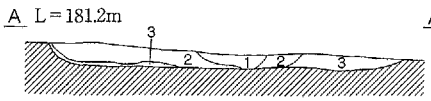
1層　表土（現耕作土）

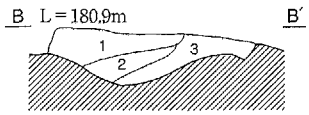
2層　黒褐色土層　Hr-FP15%、ローム粒15%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3層　黒褐色土層　Hr-FP10%（φ＝20～30mmのものは5%）、ローム粒20%含む。粘性・締まりともある。

4層　暗褐色土層　Hr-FP5%（φ＝10～20mmのものはわずか）、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝10～20mm）10%含む。粘性・締まりともある。

5層　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ＝20～30mm）30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。




H－58号住居跡層序説明

1層　黒褐色土層　Hr-FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2層　暗褐色土層　Hr-FPわずか、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝5～10mm）わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3層　褐色土層　ロームブロック（φ＝5～10mm）20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

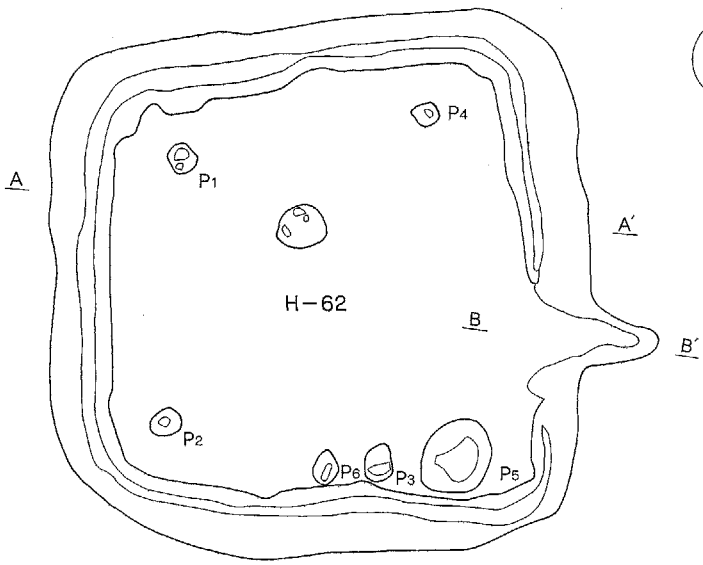
4層　褐色土層

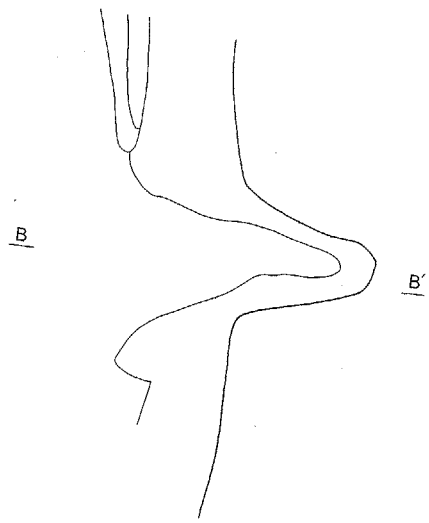
H－58号住居跡竈層序説明

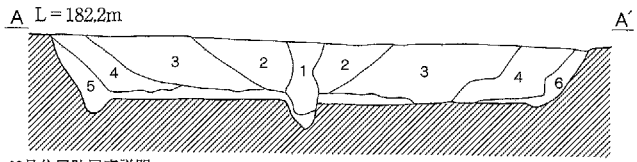
1層　にぶい黄褐色土層　粘性が少しあり、締まりは弱い。

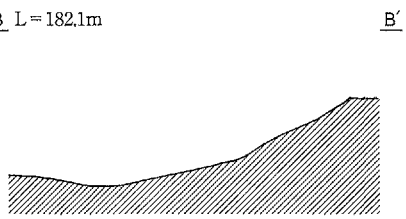
2層　黒褐色土層　粘性が少しあり、締まりはある。

3層　褐色土層　粘性が少しあり、締まりはある。




H－62号住居跡層序説明

1層　黒褐色土層　桑の根があり、上部にあった表土が入り込んだと思われる。粘性が少しあり、締まりはない。

2層　暗褐色土層　Hr-FP5%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3層　暗褐色土層　Hr-FP30%、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

4層　褐色土層　Hr-FP10%、ローム粒5%含む。粘性・締まりともある。

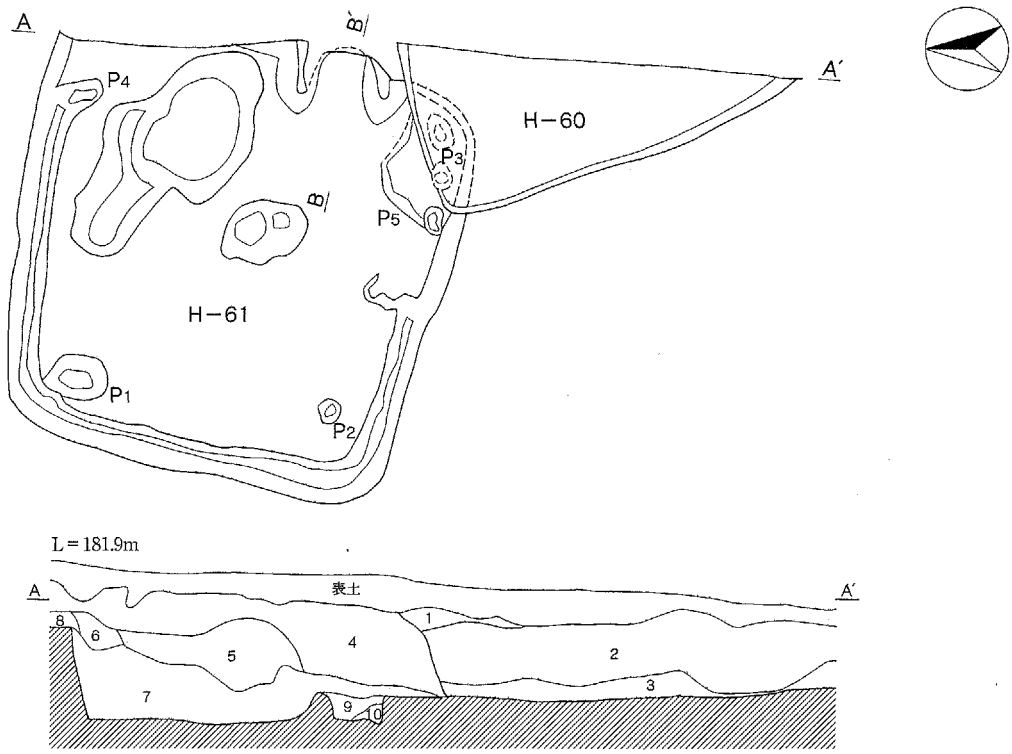
5層　にぶい黄褐色土層　ロームブロック（φ＝10mmほど）5%含む。粘性・締まりともある。

6層　黄褐色土層　ローム主体層。強い粘性があり、締まりは弱い。

0　1：60　2m

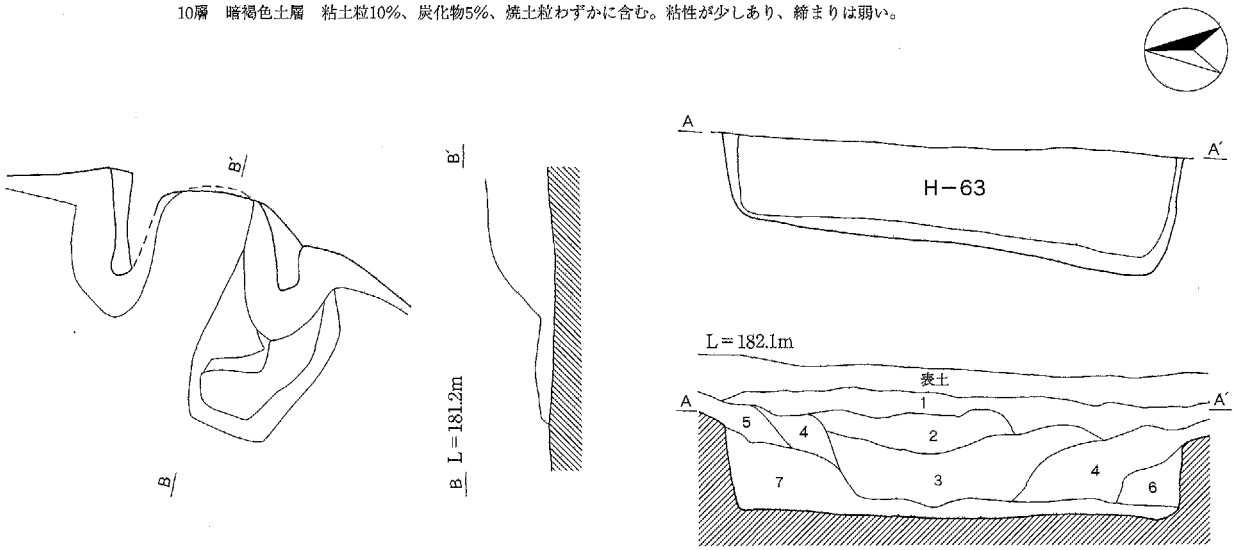
0　1：30　1m

Fig.40　H－58・59・62住居跡




H－60・61号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | 表土と2層の混土層 | |
| 2層 | 黒褐色土層 | Hr-FP30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 暗褐色土層 | Hr-FP5%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 4層 | 黒褐色土層 | Hr-FP30%、ローム粒、粘土粒をわずか含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 5層 | 暗褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝1～2mm）わずか、Hr-FPの大粒（$\phi$＝5～10mm）5%、Hr-FPわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 6層 | 暗褐色土層 | Hr-FPわずか、ローム粒10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 7層 | 黒褐色土層 | ロームブロック（$\phi$＝5～10mm）20%、Hr-FP10%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 8層 | 黄褐色土層 | 粘性があり、締まりは弱い。 |
| 9層 | 暗褐色土層 | 焼土粒20%、粘土ブロック（$\phi$＝5～10mm）10%、ローム粒5%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 10層 | 暗褐色土層 | 粘土粒10%、炭化物5%、焼土粒わずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |

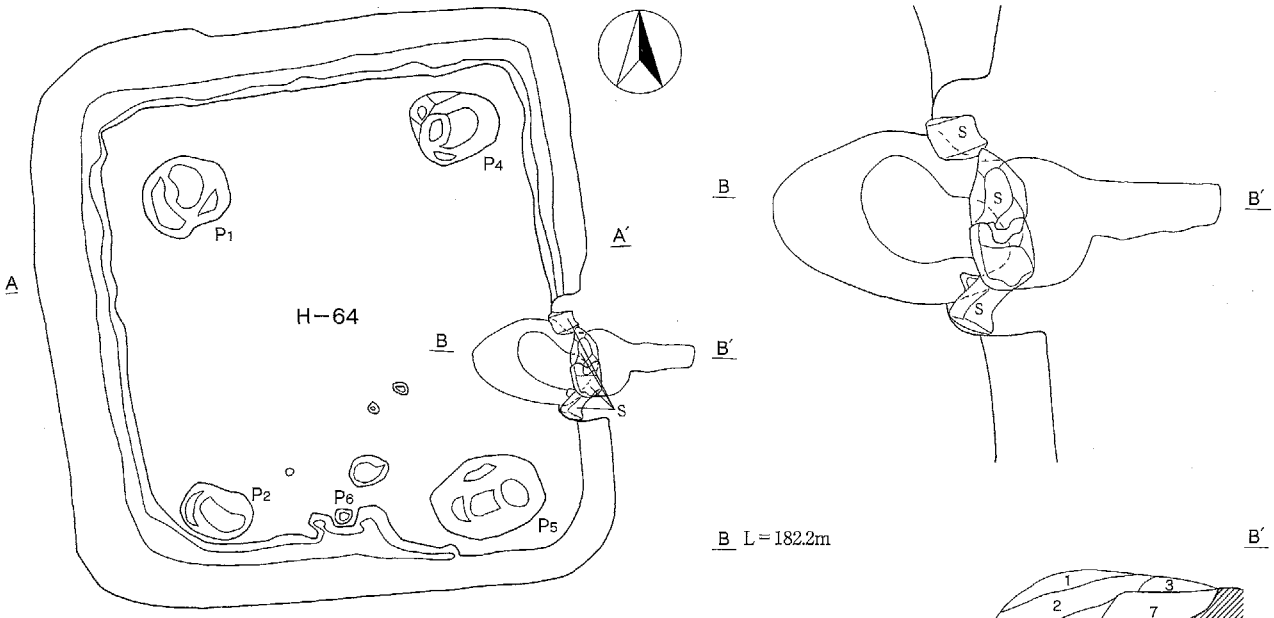


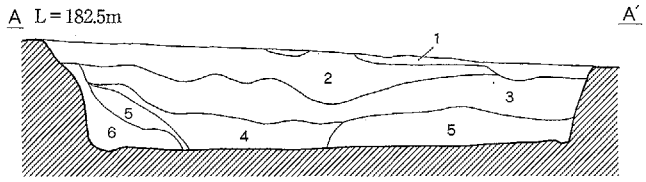

H－63号住居跡層序説明

| | | |
|---|---|---|
| 1層 | にぶい黄褐色土層 | Hr-FP5%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | Hr-FP20%、ロームブロック5%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 3層 | 黒褐色土層 | Hr-FP10%、ロームブロック5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 4層 | 褐色土層 | Hr-FP30%、ローム粒5%、黄褐色土5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。 |
| 5層 | 褐色土層 | Hr-FP5%、ローム粒5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。 |
| 6層 | 黒褐色土層 | Hr-FP10%、ローム粒20%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |
| 7層 | 褐色土層 | ローム粒30%含む。粘性があり、締まりは弱い。 |

0　1：30　1m　　0　1：60　2m

Fig.41　H－60・61・63住居跡



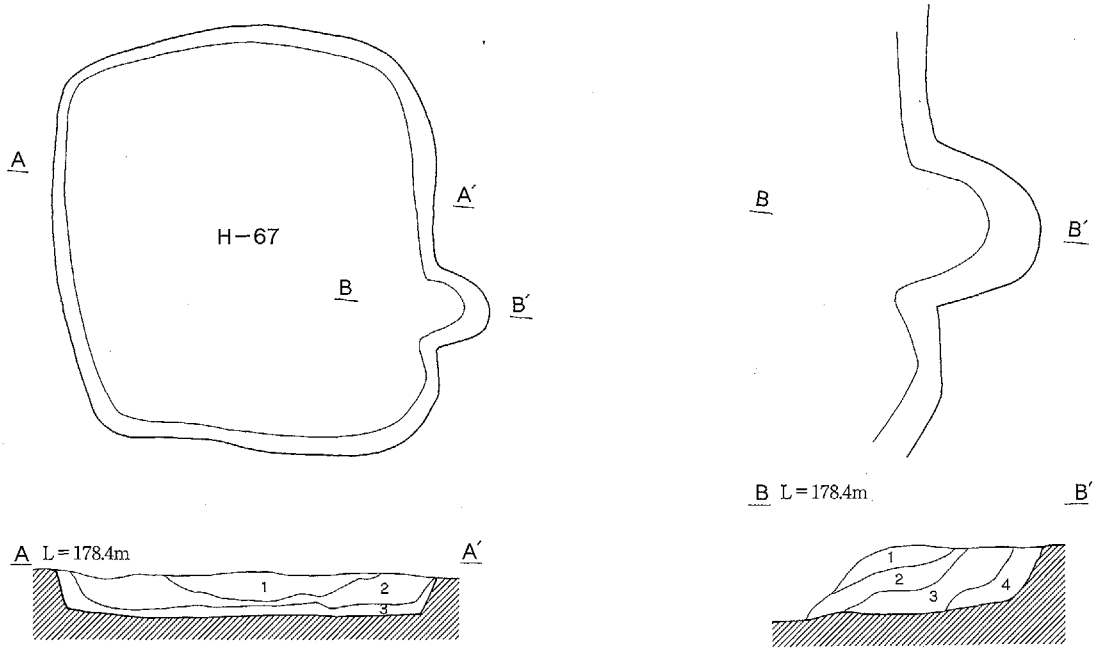




H－64号住居跡層序説明

1層　黒褐色土層　炭化物を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2層　褐色土層　Hr-FP20%、ローム粒20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3層　暗褐色土層　Hr-FP20%、ローム粒20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4層　暗褐色土層　Hr-FPわずか、ローム粒20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5層　黒褐色土層　Hr-FP20%、ローム粒20%、焼土粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
6層　暗黄褐色土層　ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－64号住居跡竈層序説明

1層　暗褐色土層　炭化物、土器片を含む。
2層　明黄褐色土層　ローム土主体層。
3層　赤褐色土層　焼土ブロックを含む。煙道天井の崩落部分か。
4層　暗黄褐色土層　粘性は弱い。
5層　灰色土層　粘性がある。
6層　灰白色土層　炭化物、灰を含む。強い粘性がある。
7層　灰褐色土層　粘性がある。
8層　暗灰色土層　炭化物、灰を含む。
9層　暗褐色土層　焼土粒、炭化物を含む。




C区

H－67号住居跡層序説明

1層　黒褐色土層　FP5%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。
2層　暗褐色土層　FPわずか、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝5～10mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3層　褐色土層　ロームブロック（φ＝10～30mm）10%含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－67号住居跡竈層序説明

1層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒10%、焼土粒わずかに含む。粘性があり、硬く締まる。
2層　暗褐色土層　焼土ブロック（φ＝3～20mm）5%含む。粘性・締まりともある。
3層　暗褐色土層　褐色粘土5%、焼土ブロック（φ＝3～30mm）10%、粘土ブロック（φ＝5mmほど）5%、炭化物わずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4層　暗褐色土層　明赤褐色焼土30%。粘性が少しあり、締まりは弱い。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.42　H－64・67号住居跡

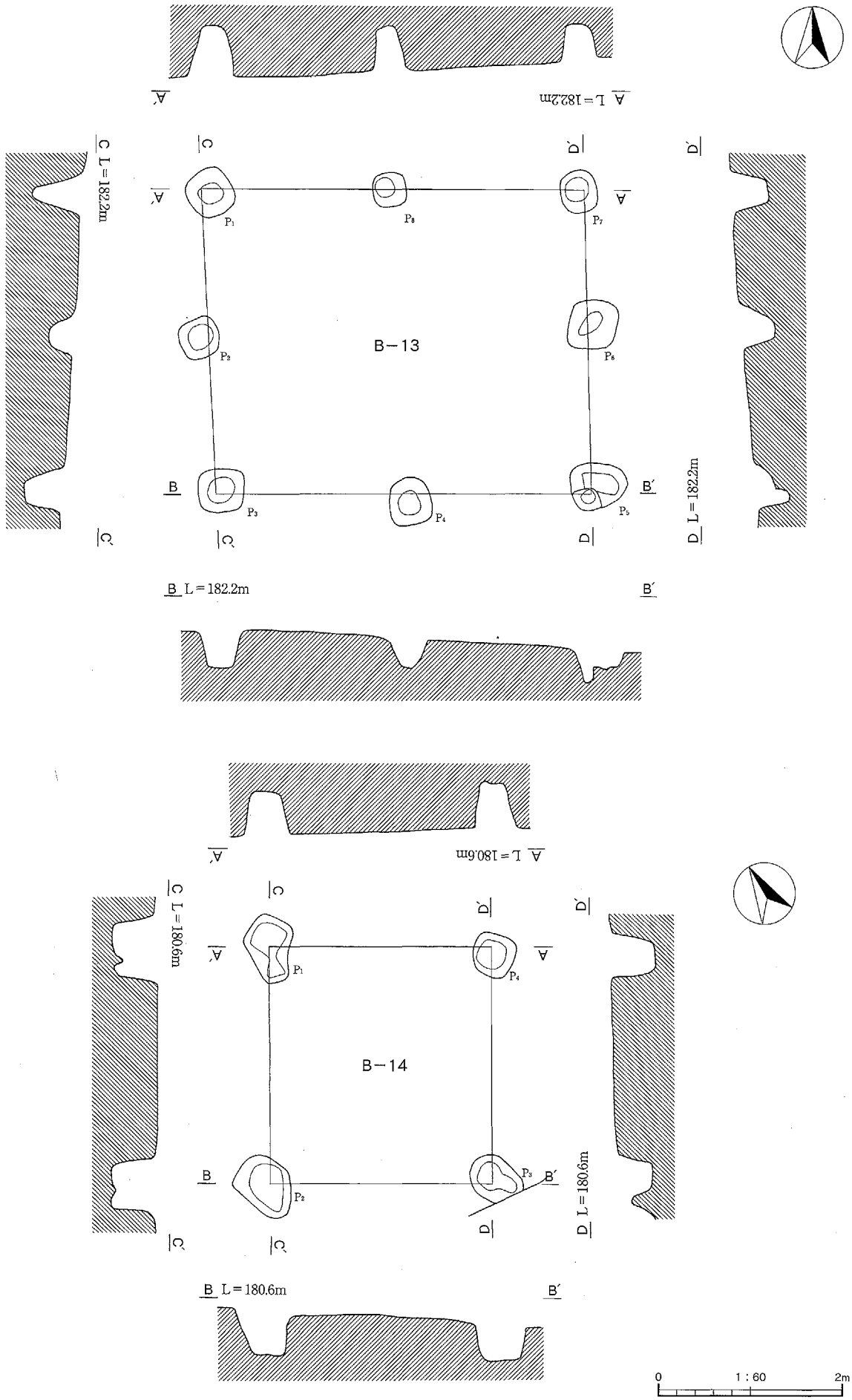
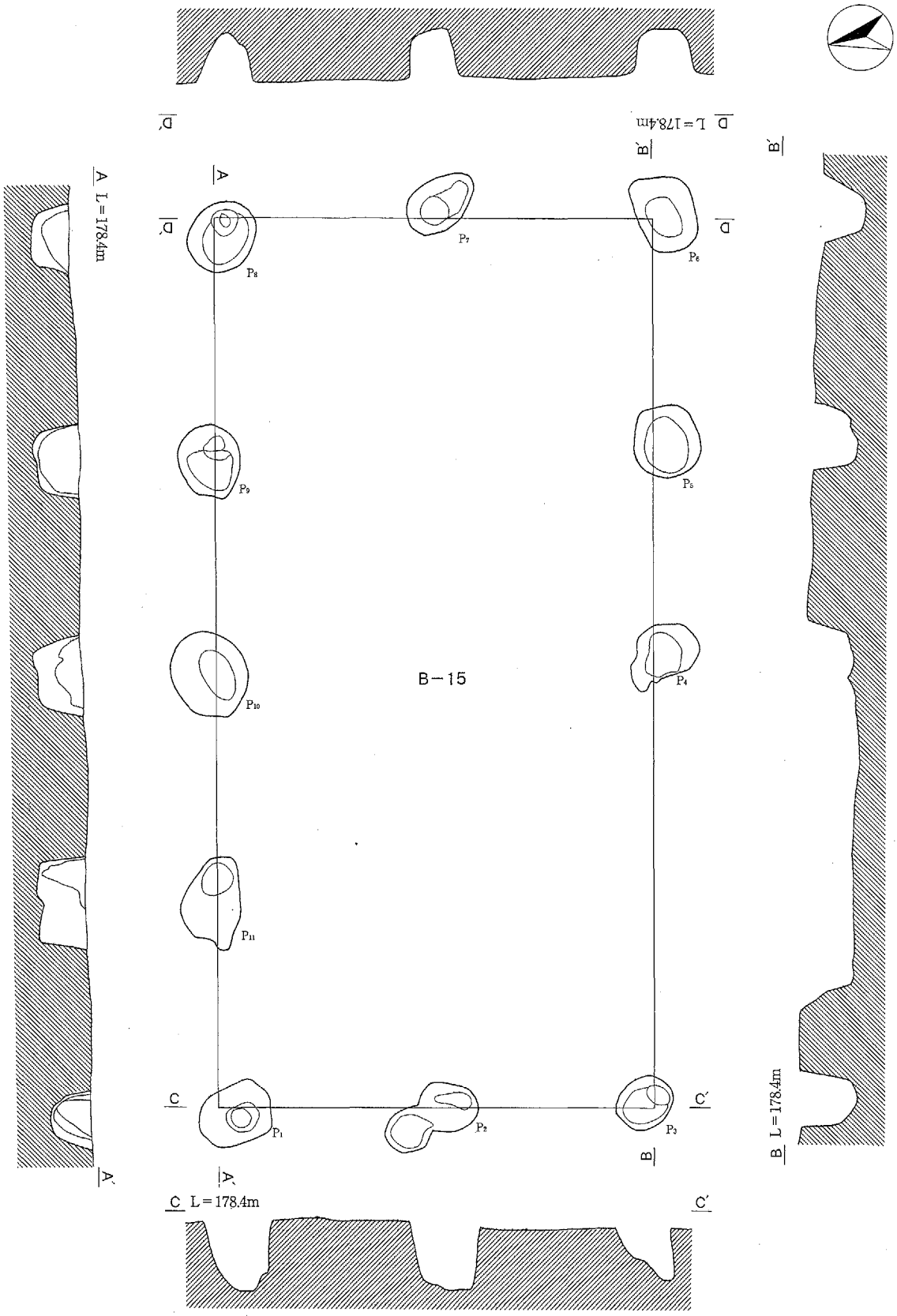


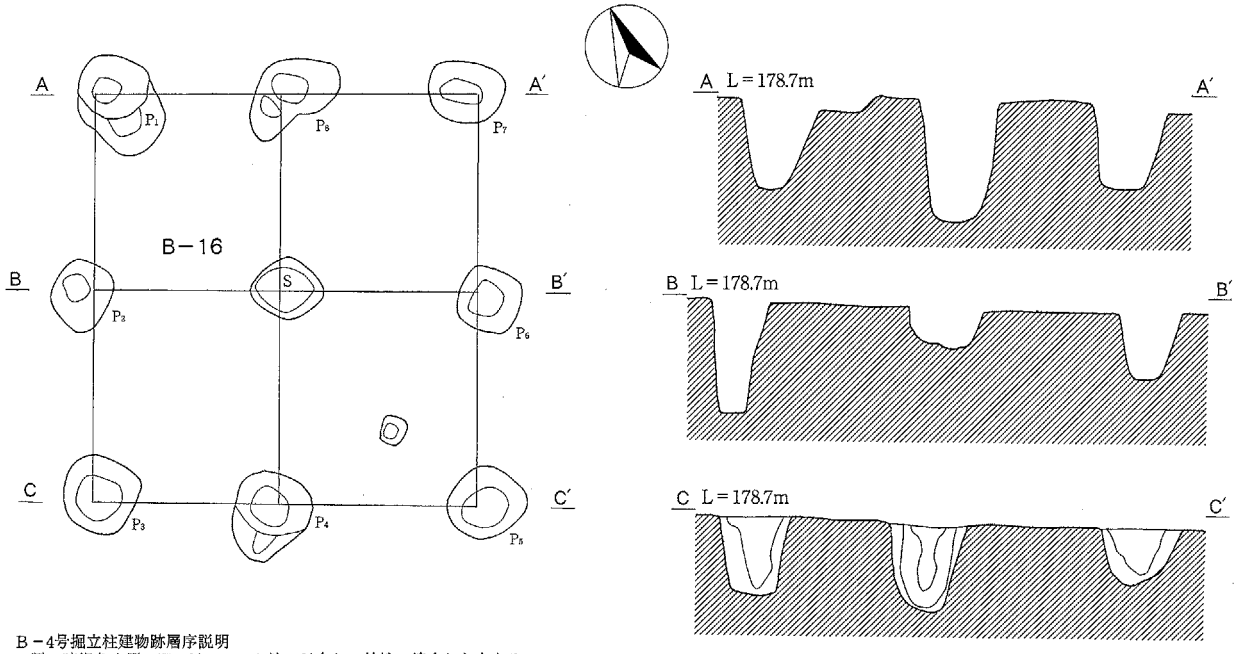

Fig.43　B−13・14号掘立柱建物跡




B－3号掘立柱建物跡層序説明
1層　黒褐色土層　FP5%、ローム粒10%、ロームブロック（φ＝10～50mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2層　暗褐色土層　ローム粒20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3層　褐色土層　　ローム主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。

0　1：60　2m

Fig.44　B－15号掘立柱建物跡




B−4号掘立柱建物跡層序説明
1層　暗褐色土層　FP5%、ローム粒10%含む。粘性・締まりともある。
2層　黒褐色土層　FP10%、ローム粒5%、ロームブロック（φ=10〜30mm）10%含む。粘性・締まりともある。
3層　褐色土層　ロームブロック（φ=5〜10mm）5%含む。粘性があり、締まりは弱い。

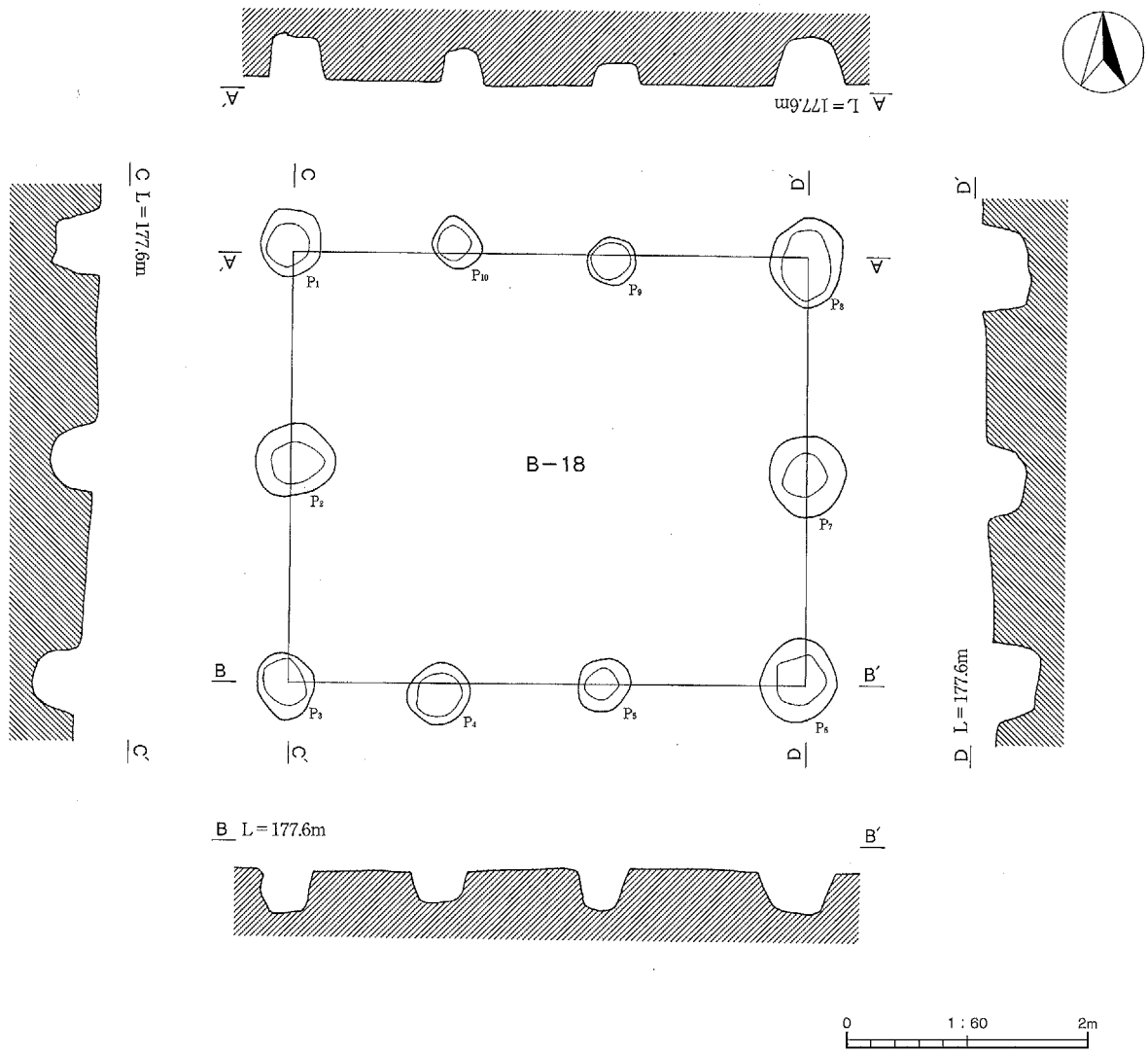
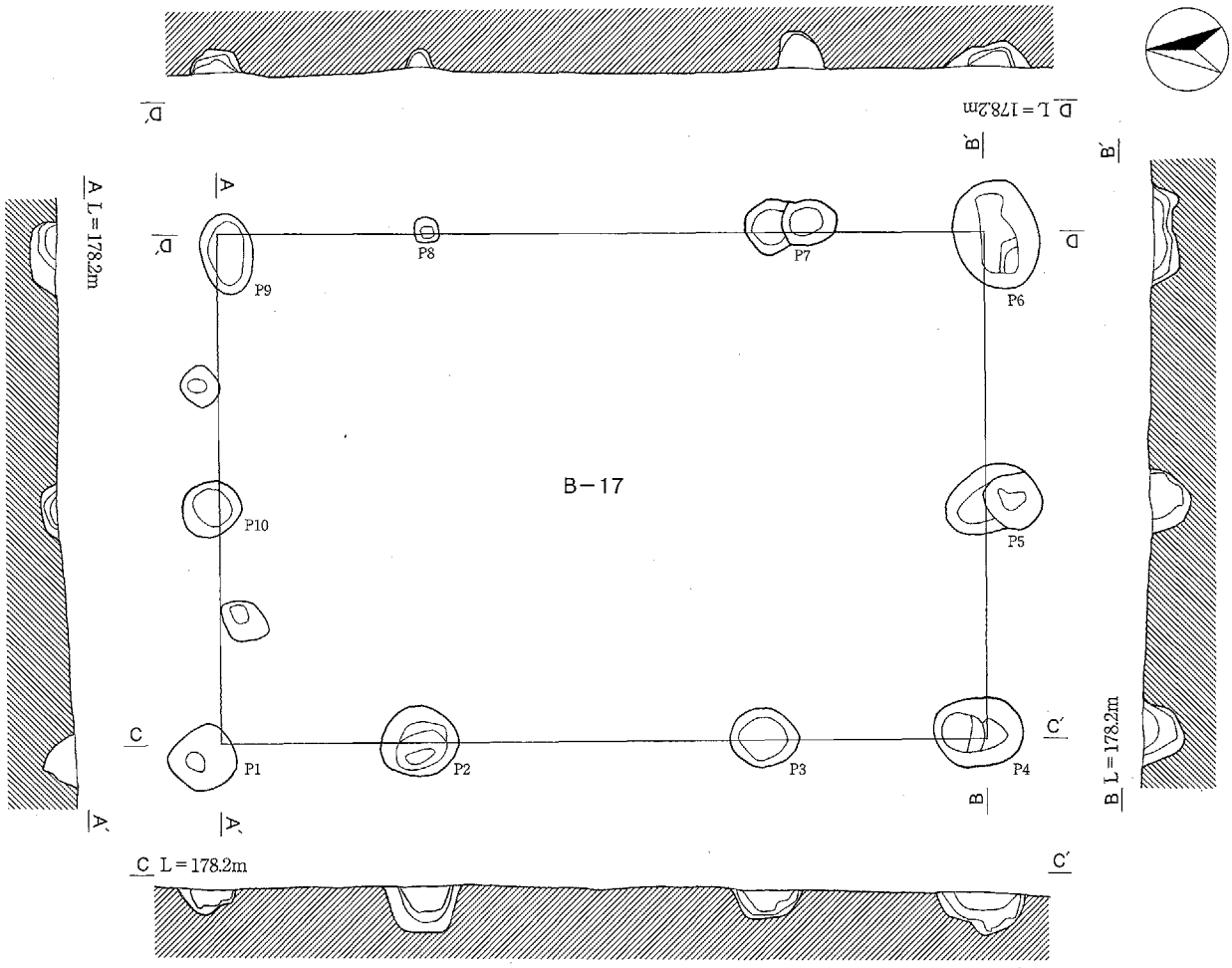



Fig.45　B−16・18号掘立柱建物跡




B－5号掘立柱建物跡層序説明
1　黒褐色土層　FP5%、ローム粒わずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2　暗褐色土層　ロームブロック（φ＝5～20mm）5%、FPわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3　褐色土層　ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

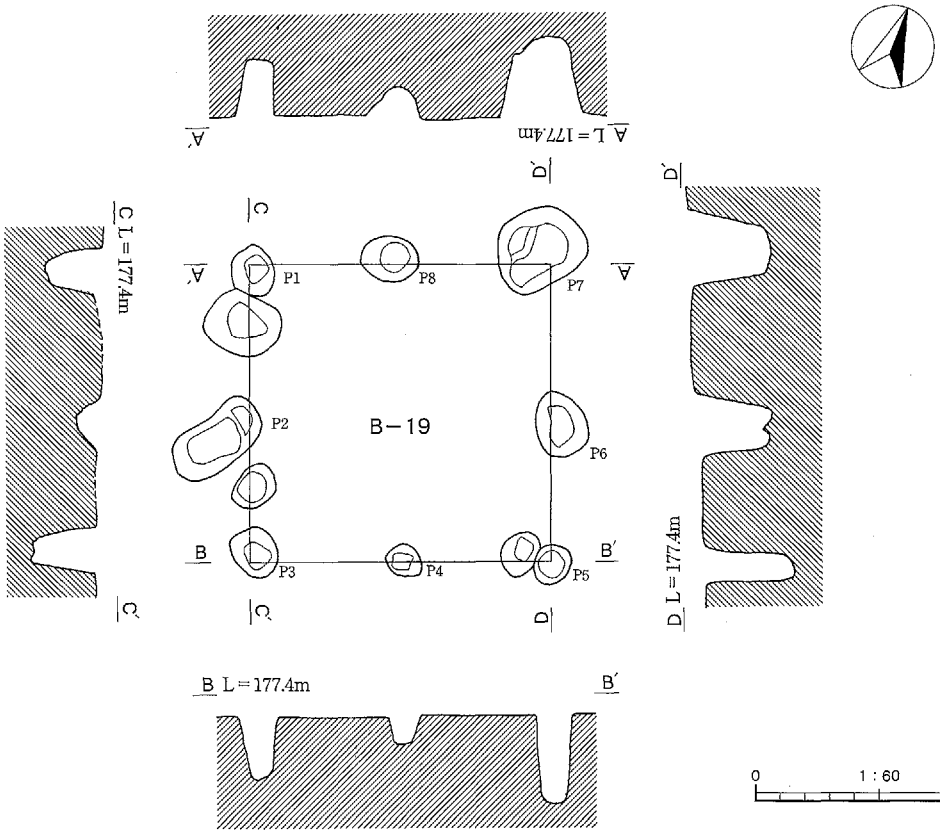



Fig.46　B－17・19号掘立柱建物跡

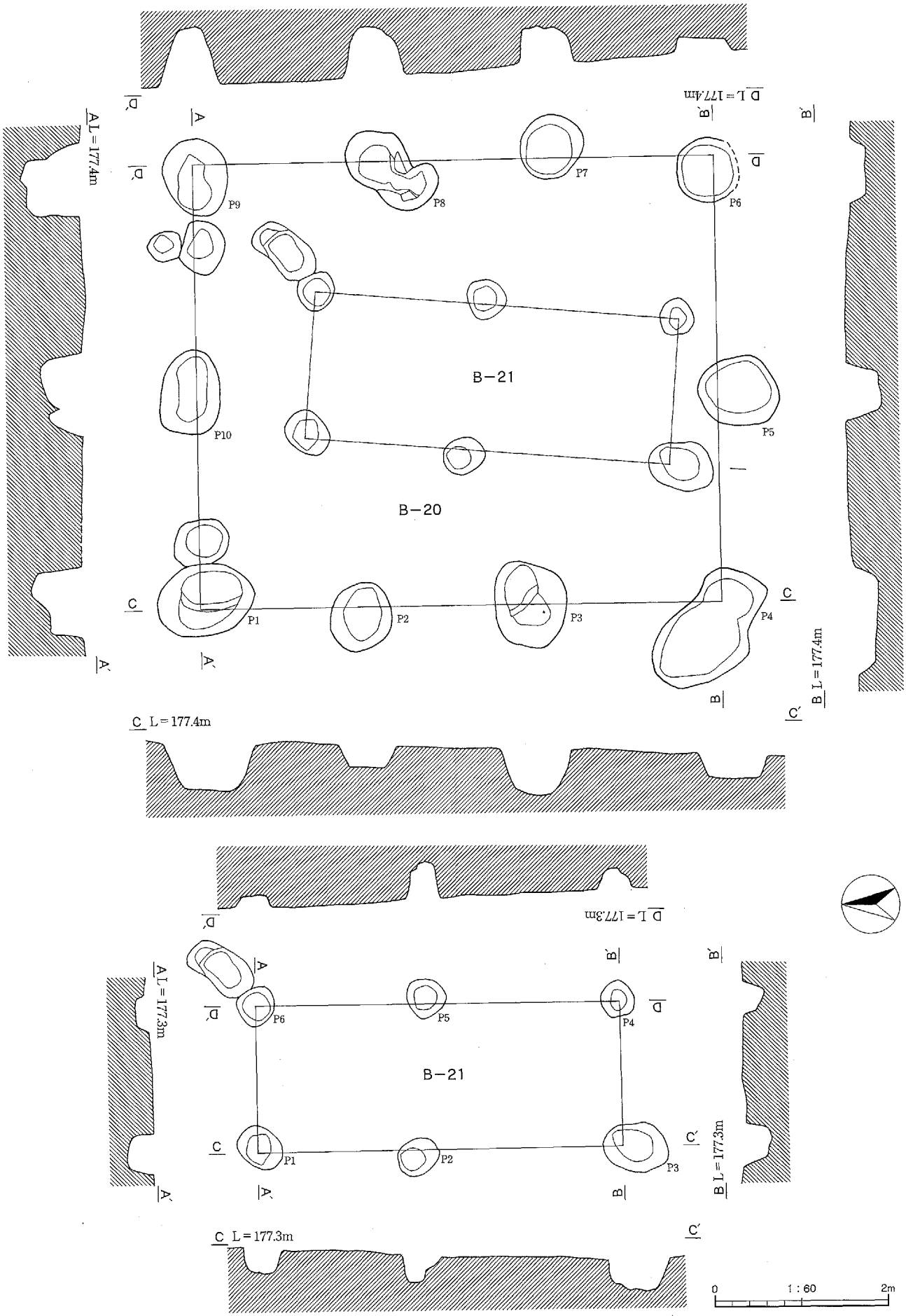



Fig.47　B−20・21号掘立柱建物跡

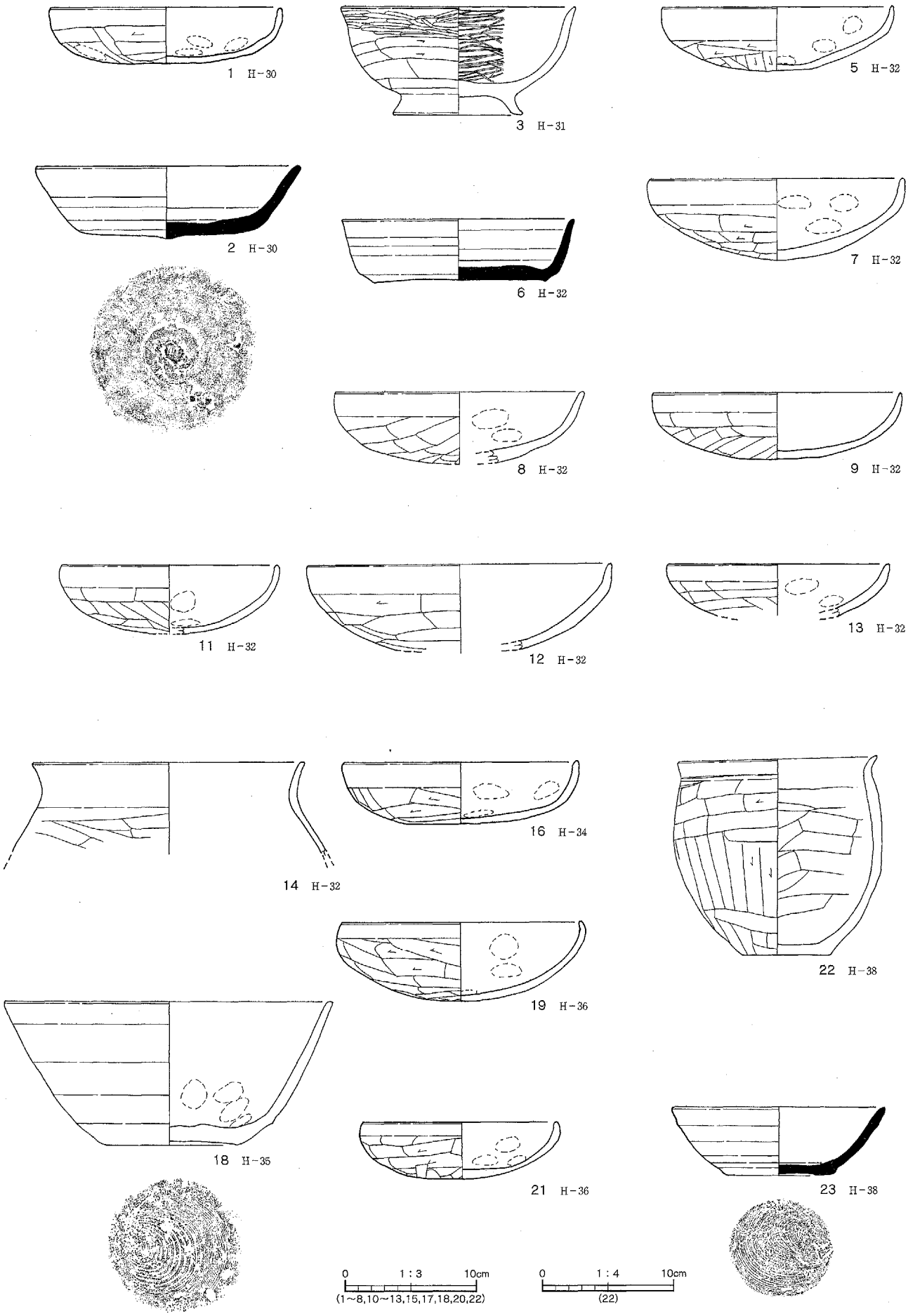



Fig.48 H－30～32・34～36・38号住居跡出土遺物

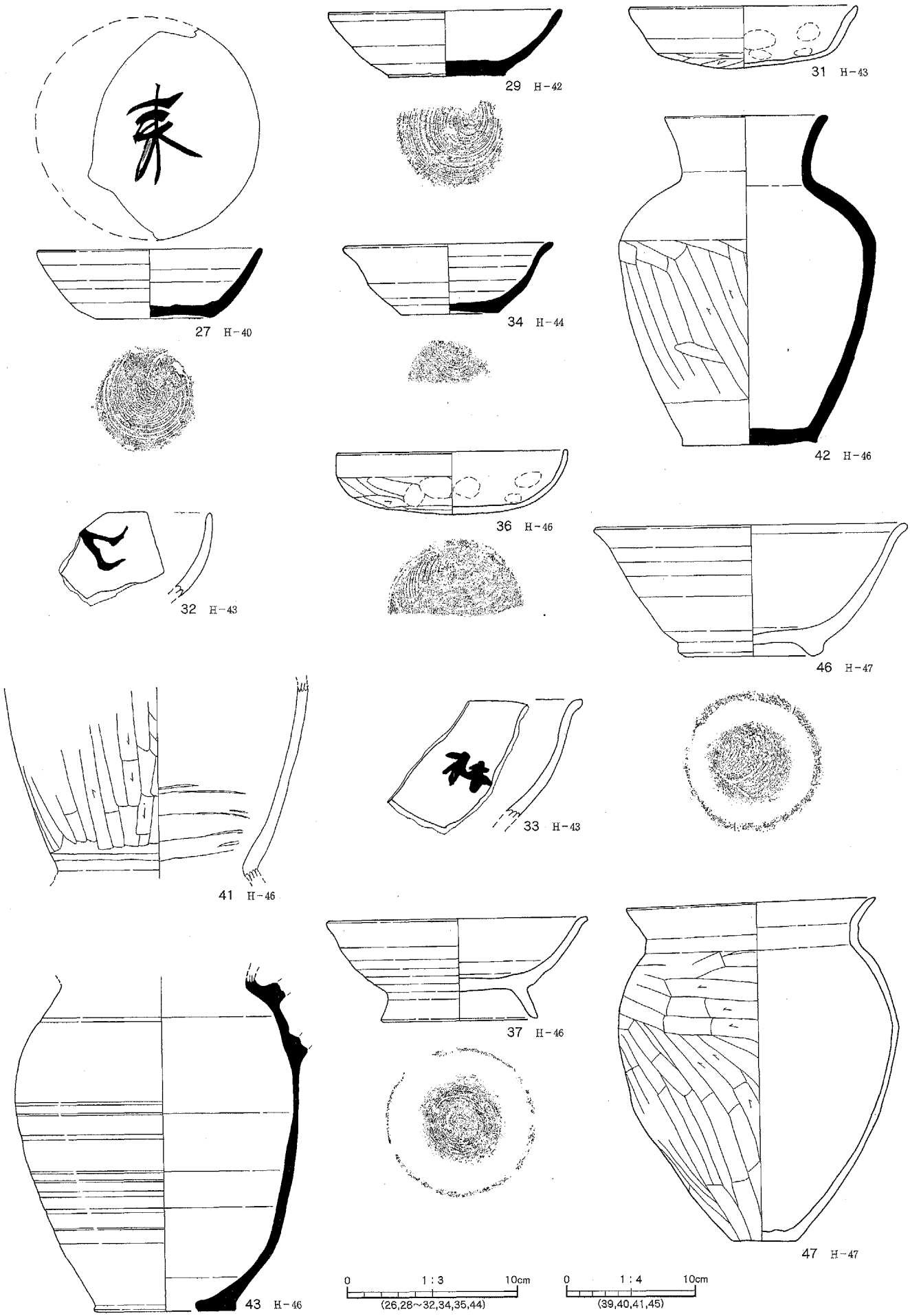



Fig.49 H－40・42～44・46・47号住居跡出土遺物

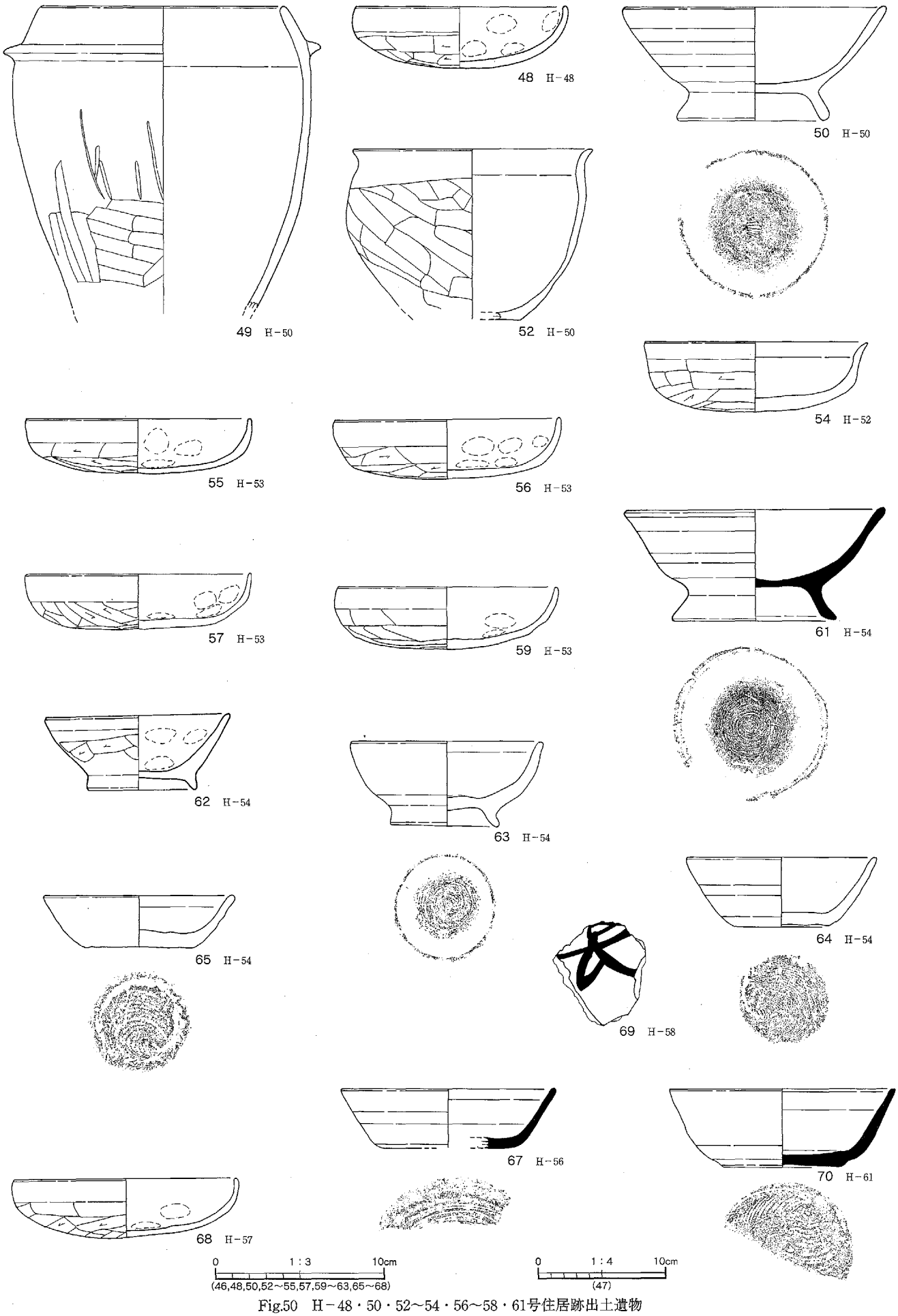



Fig.50 H－48・50・52～54・56～58・61号住居跡出土遺物

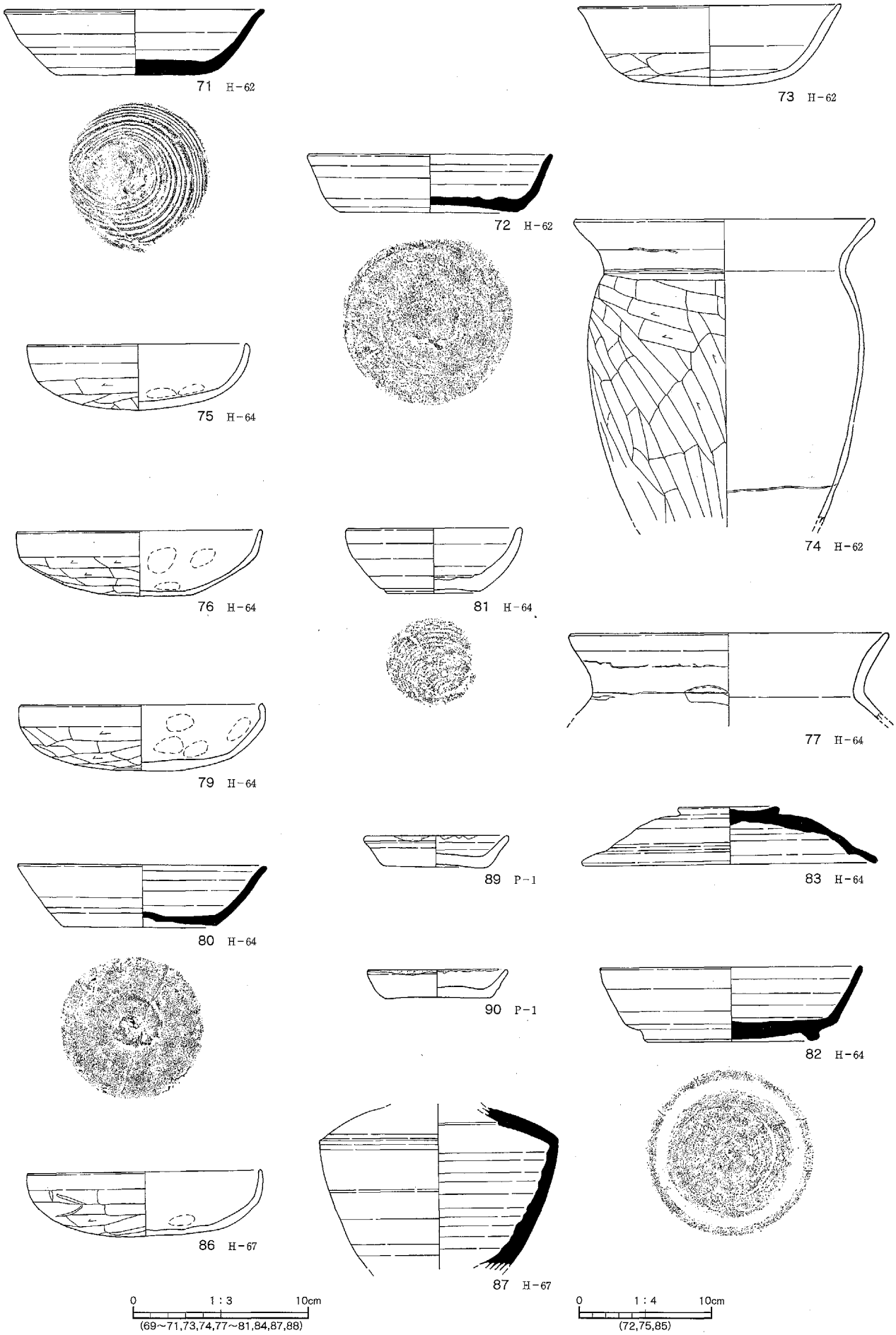



Fig.51 H－62・64・67号住居跡,P－1号ピット出土遺物

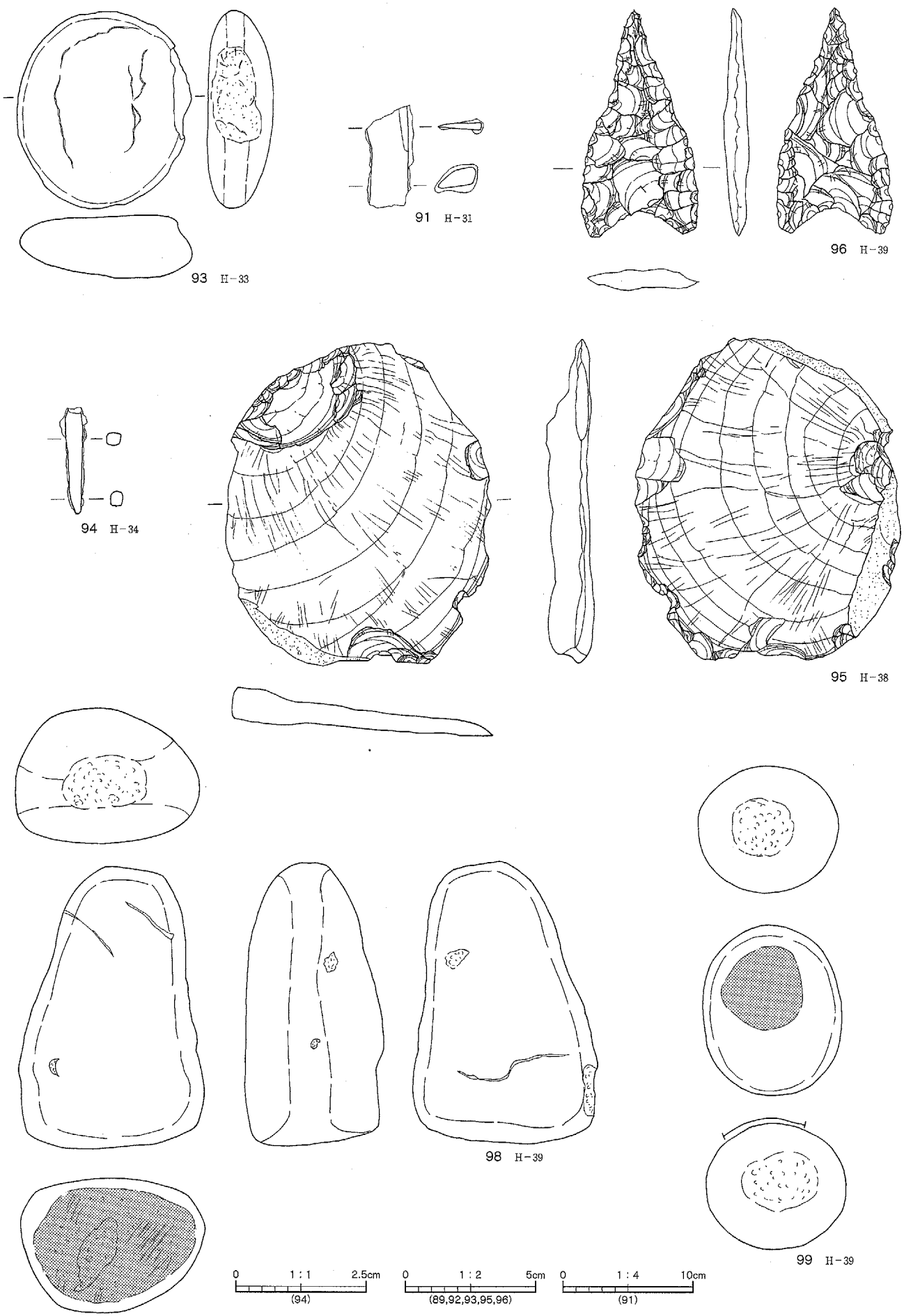



Fig.52 H－31・33・34・38・39号住居跡出土遺物

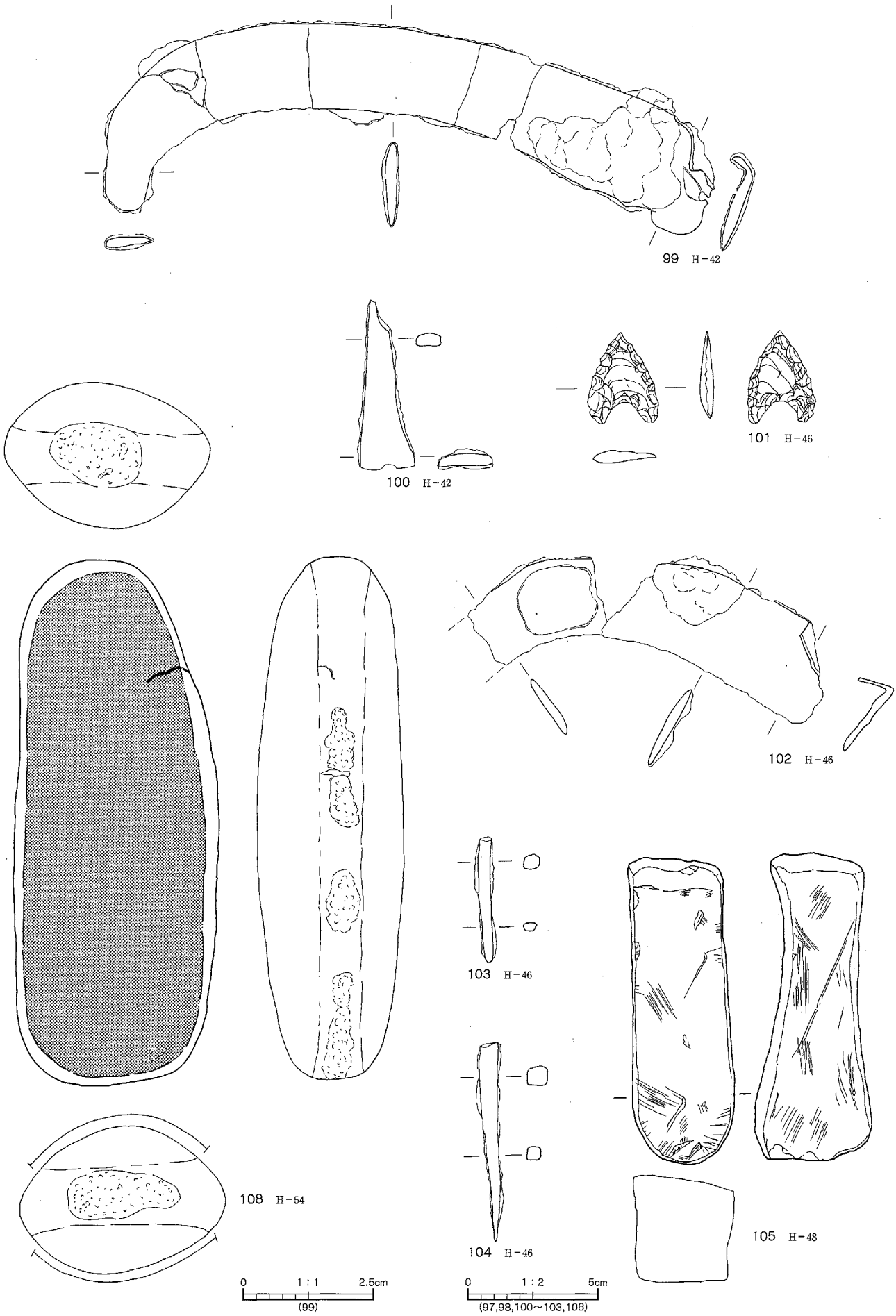



Fig.53 H－42・46・48・54号住居跡出土遺物

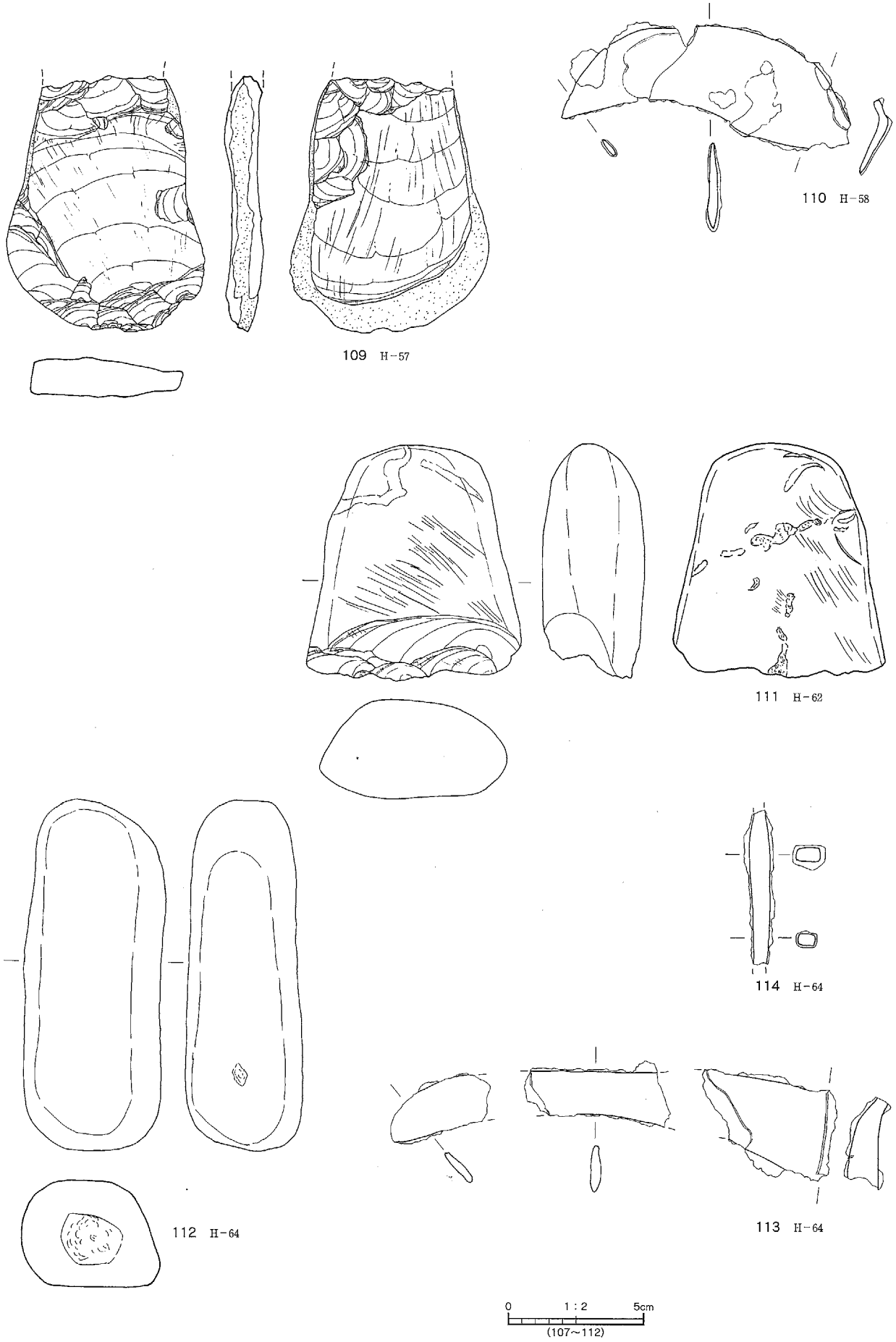
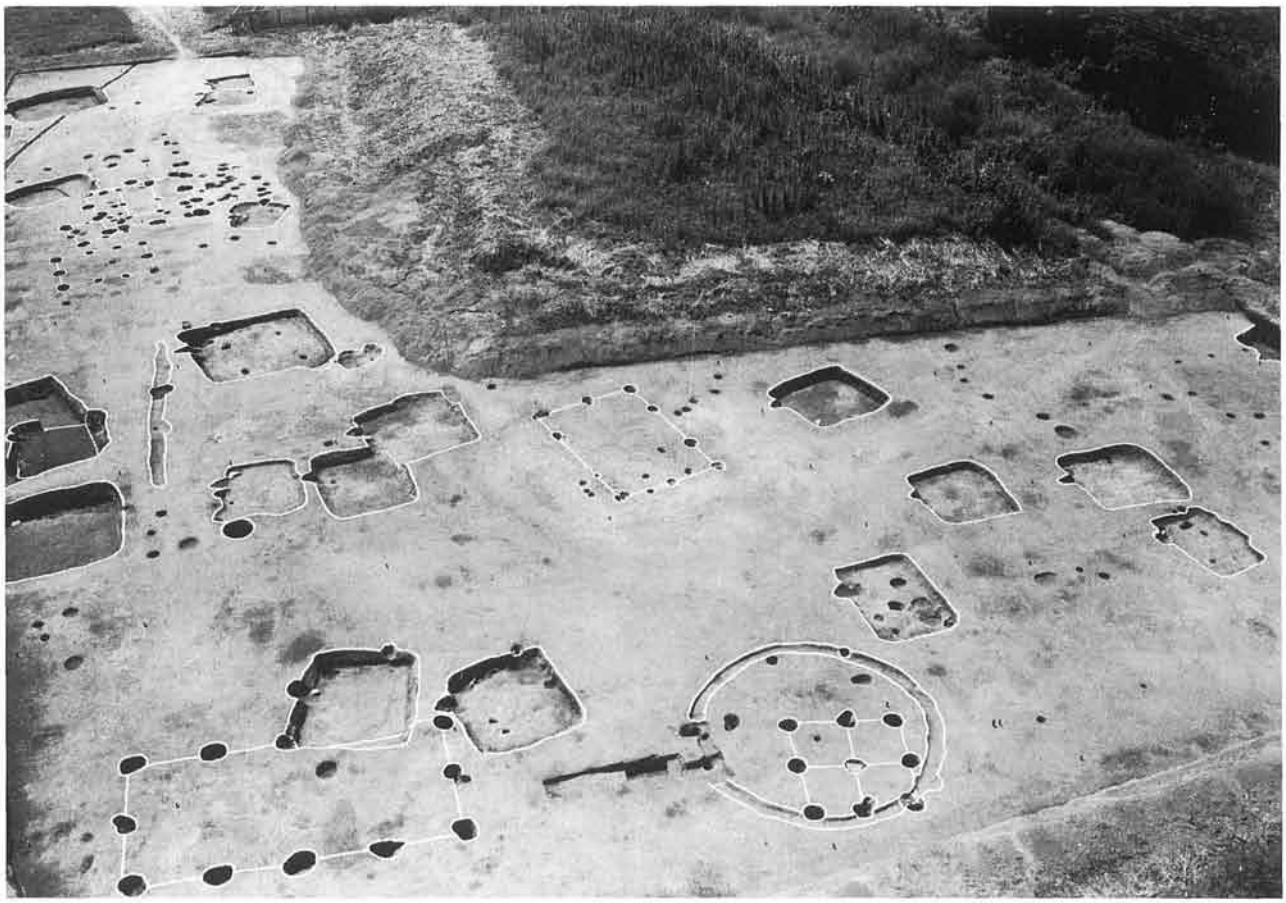
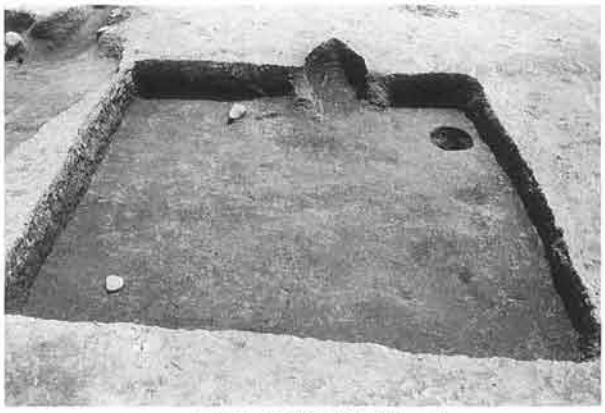



Fig.54 H－57・58・62・64号住居跡出土遺物

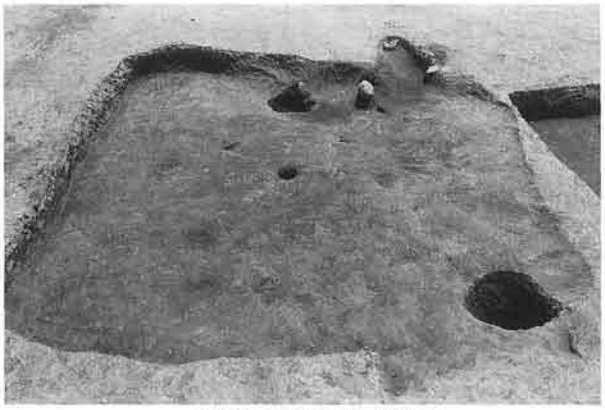


荻窪倉兼Ⅱ遺跡B区（北から）



B区H－30号住居跡（西から）

B区H－30号住居跡竈（西から）



B区H－31号住居跡（西から）

B区H－31号住居跡竈（西から）

B区H－32号住居跡（西から）

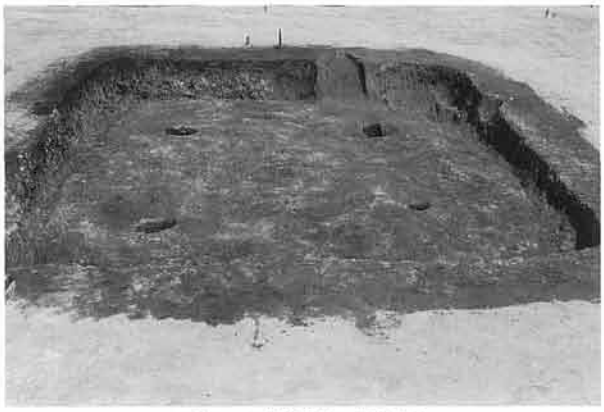
B区H－32号住居跡竈（西から）

B区H－34・66号住居跡重複状態（西から）

B区H－35号住居跡（西から）

B区H－35号住居跡竈（西から）

B区H－35号住居跡竈遺物出土状態（南から）



B区H－36号住居跡（西から）

B区H－36号住居跡竈（西から）

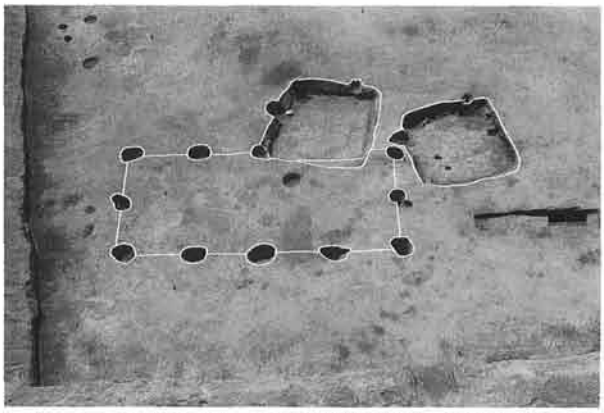
B区H－38号住居跡（西から）

B区H－38号住居跡竈遺物出土状態（西から）

B区H－40号住居跡（西から）

B区H－40号住居跡竈（西から）

B区H－41・42号住居跡重複状態（西から）



B区H－43・44号住居跡B－3号掘立柱建物遺構跡重複状態（北から）

B区H－43号住居跡竈（西から）

B区H－44号住居跡竈（西から）

B区H－46号住居跡（西から）

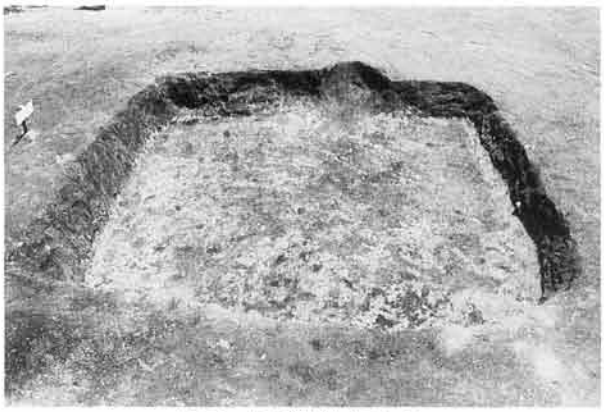
B区H－46号住居跡竈（西から）

B区H－46号住居跡遺物出土状態（東から）

B区H－46号住居跡遺物出土状態（北東から）

B区H－46号住居跡竈遺物出土状態（北から）

B区H－46号住居跡竈遺物出土状態（南から）

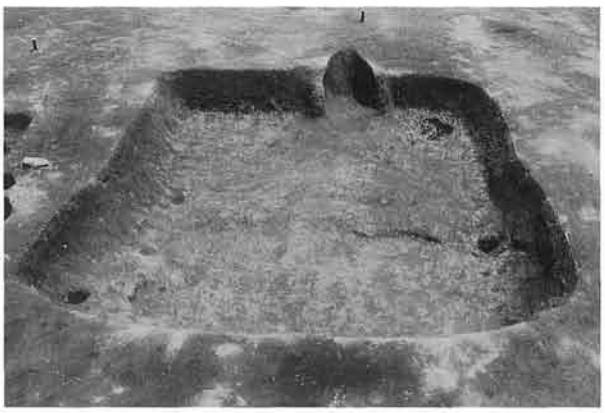


B区H－47号住居跡（西から）

B区H－47号住居跡遺物出土状態（南東から）

B区H－48号住居跡（西から）

B区H－48号住居跡竈（西から）

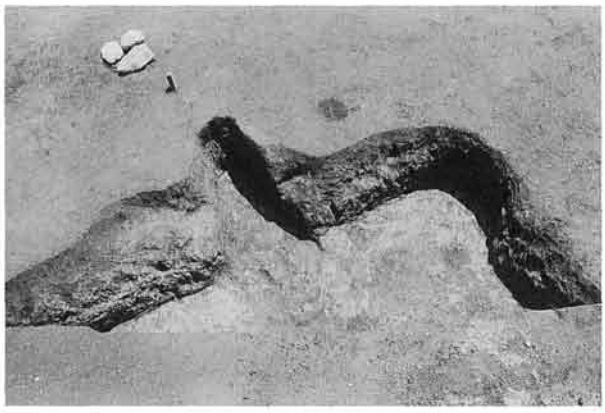


B区H－49号住居跡（西から）

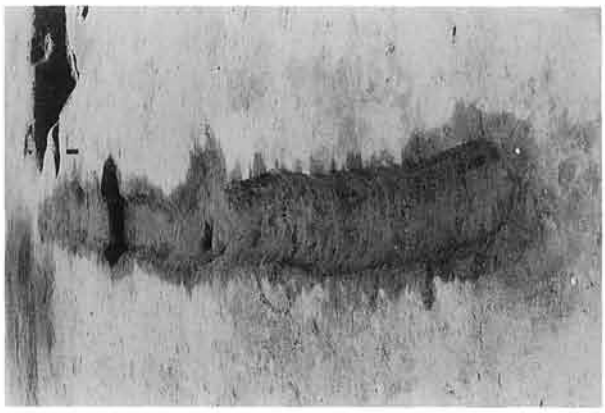
B区H－49号住居跡竈（西から）

B区H－50号住居跡（西から）

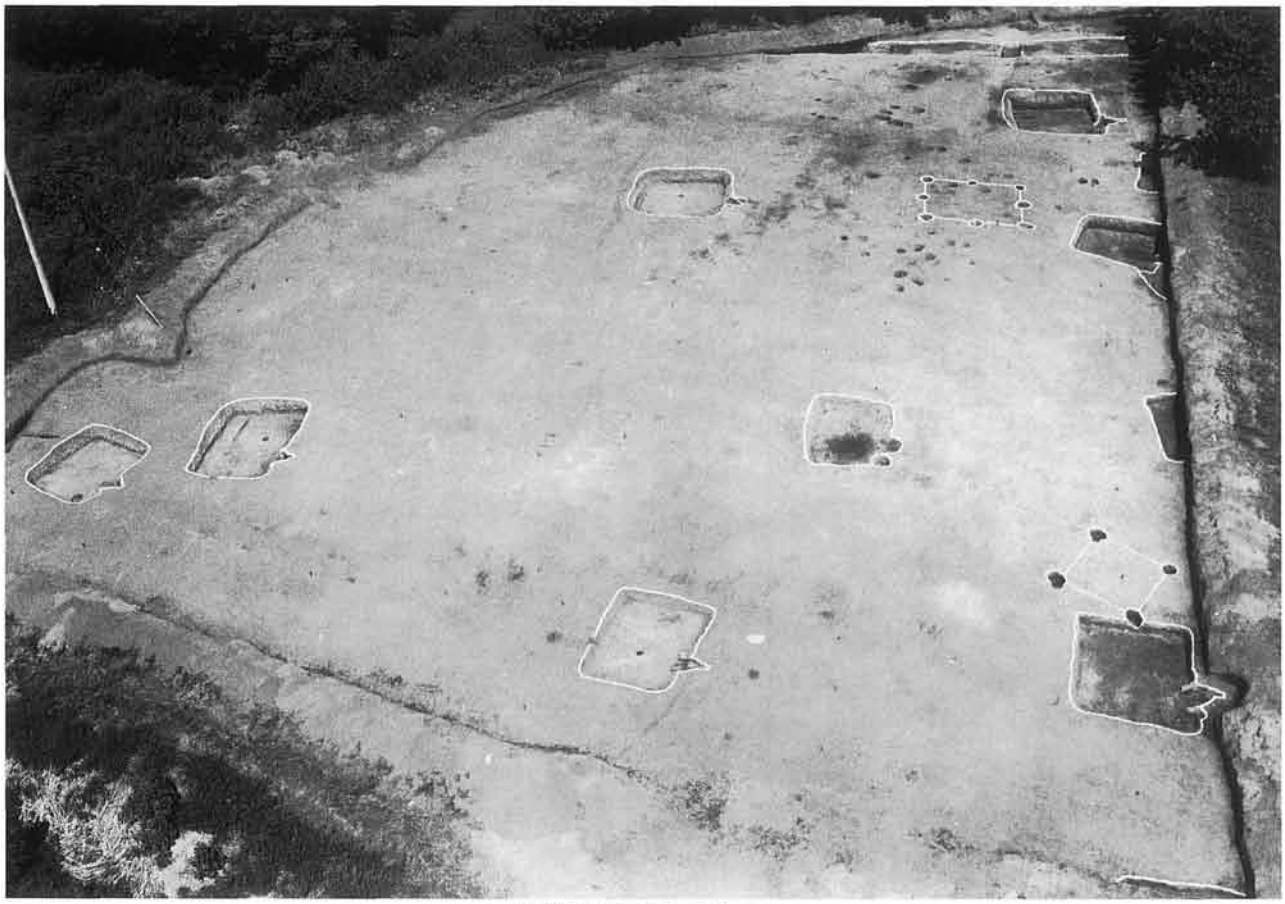
B区H－50号住居跡竈（西から）



B区H－52号住居跡（南西から）



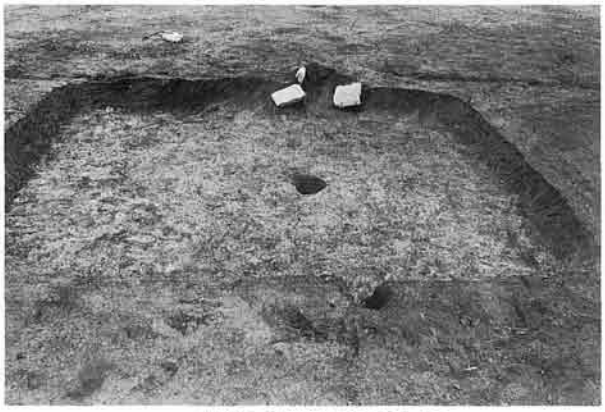
B区W－3溝跡（北から）



荻窪倉兼Ⅱ遺跡A区（南から）

A区Ｈ－53号住居跡（西から）

A区Ｈ－53号住居跡竈（西から）

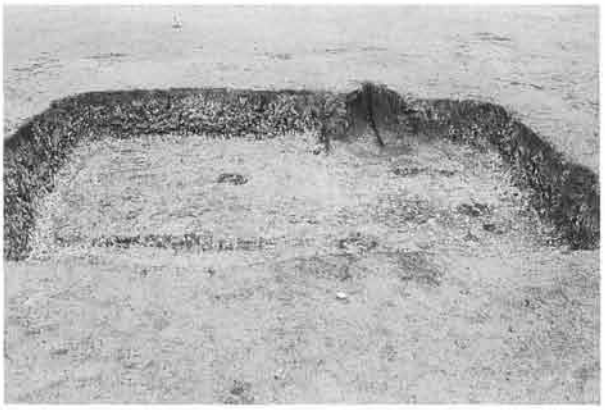


A区Ｈ－54号住居跡（西から）

A区Ｈ－54号住居跡竈（西から）

A区H－56号住居跡（西から）

A区H－56号住居跡竈（西から）



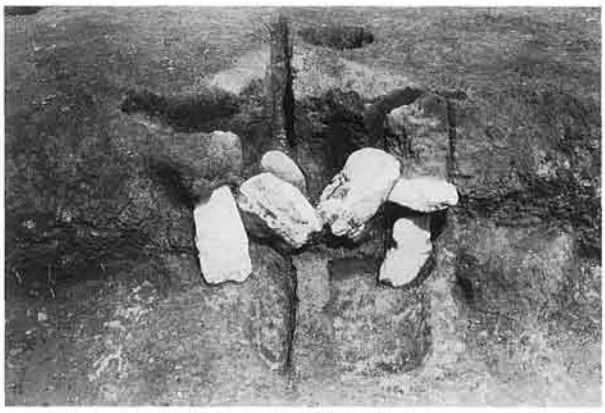
A区H－57号住居跡（西から）

A区H－57号住居跡竈（西から）

A区H－62号住居跡貯蔵穴内遺物出土状態（西から）

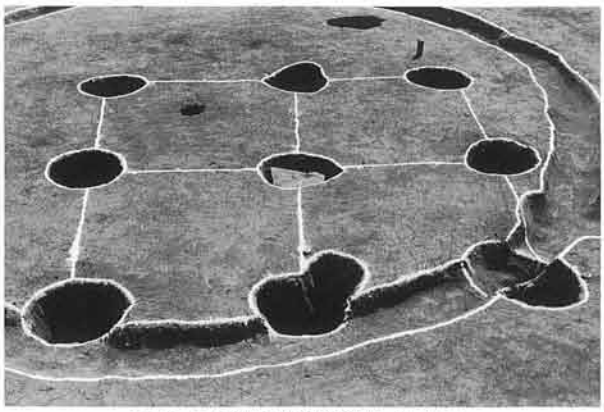
A区H－64号住居跡遺物出土状態（南から）

A区H－64号住居跡（西から）

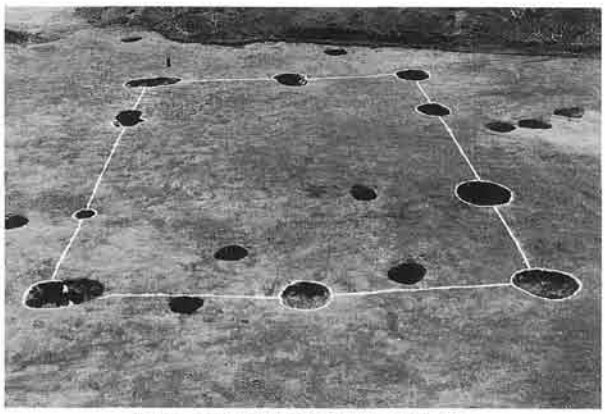


A区H－64号住居跡竈（西から）

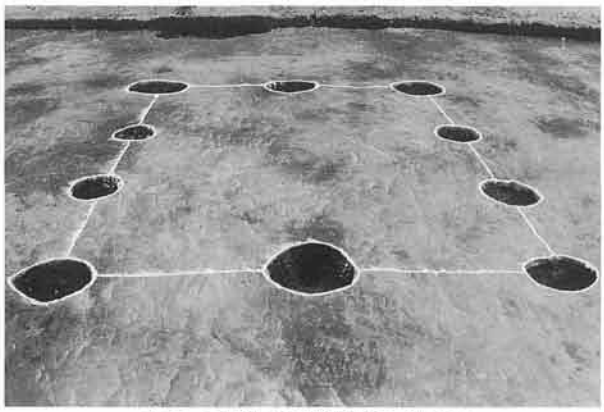
B区B－15号掘立柱建物遺構跡（西から）



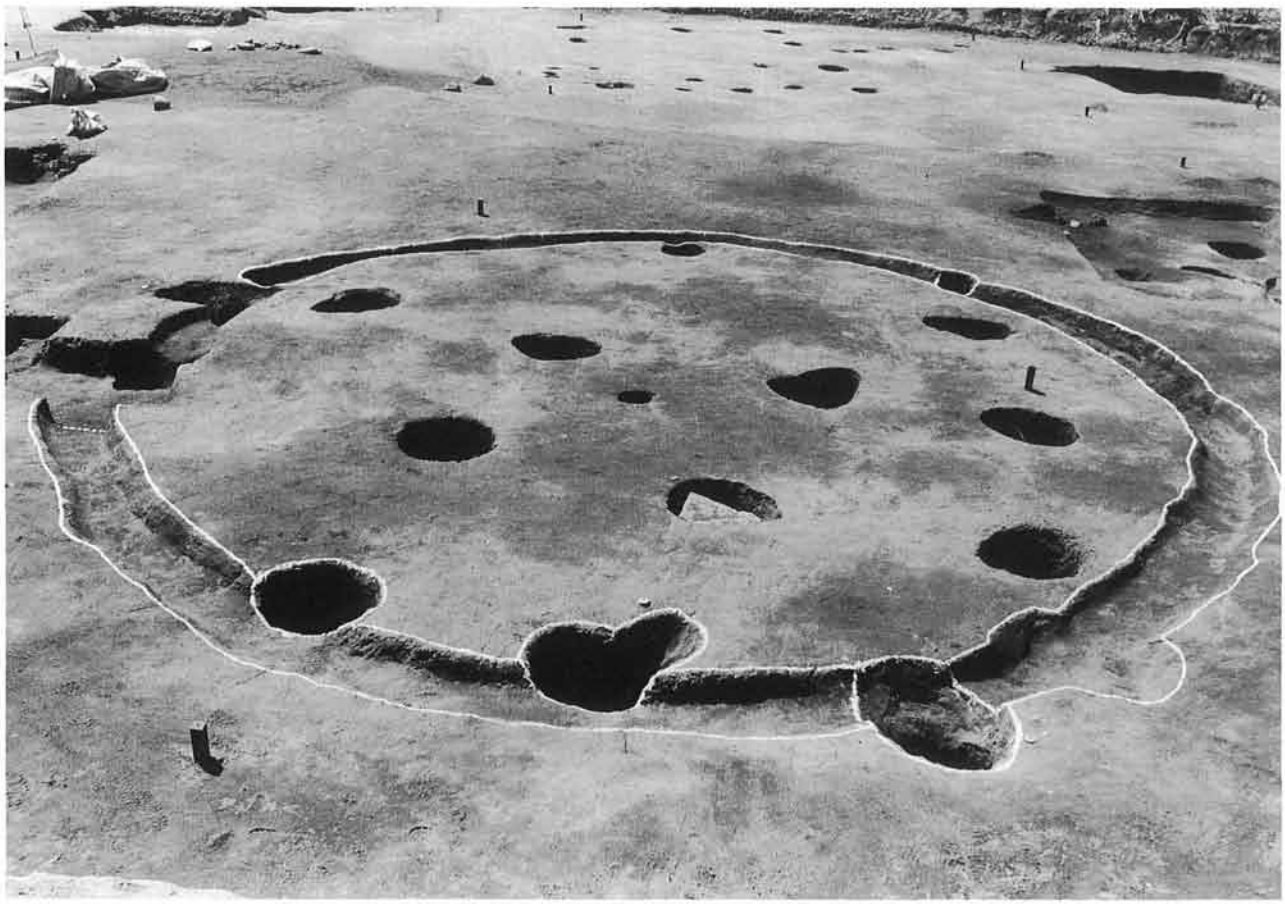
B区B－16号掘立柱建物遺構跡（北から）



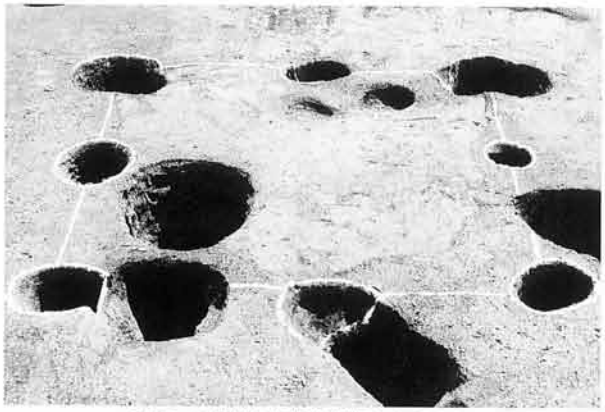
B区B－17号掘立柱建物遺構跡（北から）



B区B－18号掘立柱建物遺構跡（西から）

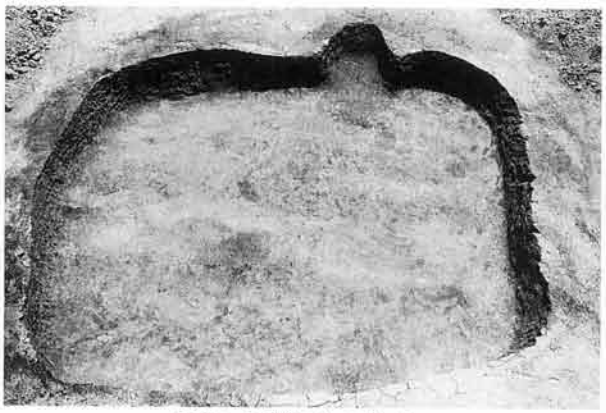


B区B－16号掘立柱建物遺構跡・W－2溝跡重複状態（北から）



B区B－19号掘立柱建物遺構跡（西から）

B区B－20号掘立柱建物遺構跡（西から）



C区H－67号住居跡（西から）

荻窪倉兼Ⅱ遺跡B区（北から）

荻窪倉兼Ⅱ遺跡B区（南から）

1
H－30

2
H－30

3
H－31

4
H－31

5
H－32

7
H－32

15
H－32

16
H－34

17
H－34

18
H－35

19
H－36

22
H－38

20
H－36

21
H－36

23
H－38

26
H－38

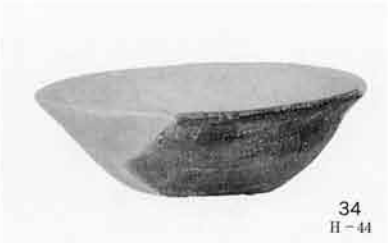
27
H－40

28
H－42

27
H－40

30
H－43

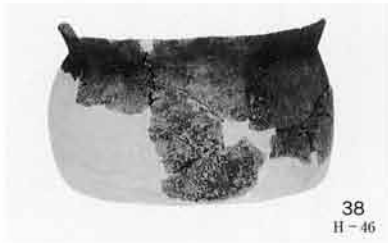
31
H－43


34
H－44

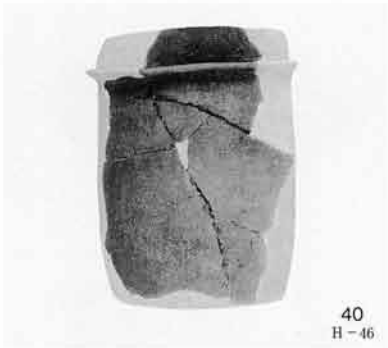
35
H－44

36
H－46

37
H－46


38
H－46

39
H－46


40
H－46

42
H－46

43
H－46

48
H－48

44
H－47

47
H－47

49
H－50

45
H－47

46
H－47

50
H－50

51
H－50

52
H－50

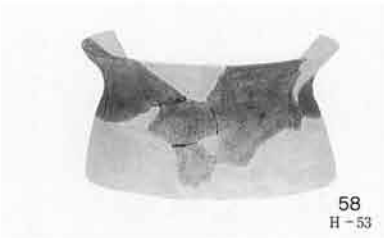
53
H－52

54
H－52

55
H－53

56
H－53

57
H－53

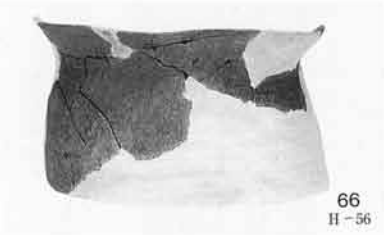

58
H－53

60
H－53

61
H－54

63
H－54

64
H－54


66
H－56

68
H－57

70
H－61

71
H－62

72
H－62

74
H－62

73
H－62

75
H－64

76
H－64

78
H－64

79
H－64

80
H－64

83
H－64

83
H－64

82
H－64

84
H－67

85
H－67

87
H－67

89
P－1

90
P－1

墨書土器

鉄製品

石器・石製品

# 《主要参考文献および引用文献》


群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第5輯『上毛古墳綜覧』 1938 群馬県

『勢多郡誌』 1958 勢多郡誌編纂委員会

『前橋市史』第1巻 1971 前橋市史編さん委員会

陶磁大系4『須恵』 1975 平凡社

『大胡町誌』 1976 大胡町役場

「群馬県下の歴史時代の土器」『群馬県史研究』第8号 1978 群馬県史編さん委員会

『群馬県史』資料編3 1981 群馬県

『檜峯遺跡発掘調査報告書』 1982 前橋市教育委員会

『小神明遺跡群』 1983 前橋市教育委員会

『小神明遺跡群』Ⅱ 1984 前橋市教育委員会

『小角田前遺跡』 1986 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

『芳賀団地遺跡群』第1巻 1986 前橋市教育委員会

『小神明遺跡群』Ⅳ 1986 前橋市教育委員会

『小神明遺跡群』Ⅴ 1987 前橋市教育委員会

「土器の分類」『芳賀団地遺跡群』第2巻 1987 前橋市教育委員会

「土器の分類と時期設定」『国分僧寺・尼寺中間地域』(2) 1988 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

「足高高台を有する土器について」『国分僧寺・尼寺中間地域』(2) 1988 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

『芳賀団地遺跡群』第2巻 1988 前橋市教育委員会

「古代集落の検討」『芳賀団地遺跡群』第2巻 1988 前橋市教育委員会

『芳賀団地遺跡群』第3巻 1990 前橋市教育委員会

『国分僧寺・尼寺中間地域』(4) 1990 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

『芳賀北曲輪遺跡』 1990 前橋市教育委員

『芳賀団地遺跡群』第4巻 1991 前橋市教育委員会

『芳賀北原遺跡』 1991 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『芳賀団地遺跡群』第5巻 1994 前橋市教育委員会

『乙西尾引遺跡・西天神遺跡・芝崎遺跡』 1994 大胡町教育委員会

『小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡』 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『横川大林遺跡・横川萩の反遺跡・原遺跡・西野牧小山平遺跡』 1997 山武考古学研究所

『横沢新屋敷遺跡』 1997 大胡町教育委員会

『五代檜峯Ⅱ遺跡』 1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『鳥取東原遺跡』 1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『鳥取福蔵寺遺跡』 1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『川白田遺跡』 1998 川白田遺跡調査会

『横沢向田遺跡・堀越丁二本松・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』 1998 大胡町教育委員会

『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』 1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『五代江戸屋敷遺跡』 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

# 抄　　録

| | |
|---|---|
| フ リ ガ ナ | オギクボクラカネイセキ・オギクボクラカネニイセキ |
| 書　　名 | 荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡 |
| 副 書 名 | 荻窪地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 編 著 者 名 | 小峰　篤・平野　岳志・横澤　真一・小林　和美 |
| 編 集 機 関 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 編集機関所在地 | 〒371-0018　前橋市三俣町二丁目10－2 |
| 発 行 年 月 日 | 平成15年3月15日 |

| フリガナ<br>所収遺跡名 | フリガナ<br>所在地 | コード | | 位置 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡 | 北緯 | 東経 | | | |
| オギクボイクラカネイセキ<br>荻窪倉兼遺跡 | マエバシシオギクボマチ<br>前橋市荻窪町<br>731 | 10201 | 13D19 | 36°25′15″ | 139°07′55″ | 20010912<br>から<br>20011220 | 2141㎡ | 荻窪地区開発整備事業 |
| オギクボクラカネニイセキ<br>荻窪倉兼Ⅱ遺跡 | マエバシシオギクボマチ<br>前橋市荻窪町<br>731他 | 10201 | 14D19 | 36°25′04″ | 139°08′03″ | 20020515<br>から<br>20020904 | 2982㎡ | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|
| オギクボイクラカネイセキ<br>荻窪倉兼遺跡 | 集落跡 | 奈良・平安時代 | 住居跡29軒、掘立柱建物跡12棟 | 墨書土器 |
| オギクボクラカネニイセキ<br>荻窪倉兼Ⅱ遺跡 | 集落跡 | 奈良・平安時代 | 住居跡36軒、掘立柱建物跡10棟、溝跡4条 | 土師器、須恵器、石器、石製品、鉄製品 |
| 特記事項 | | | | |


**荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡**

平成15年3月15日　印刷
平成15年3月15日　発行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－2
Tel　027－231－9531

印　　刷　上毎印刷工業株式会社